

平成30年2月1日発行
文部科学省認可通信教育補助教材

平成30年度
教材要綱

2018

日本大学通信教育部

『教材要綱』の利用方法

はじめに

この『教材要綱』は、通信授業（印刷教材）で学ぶ際の補助教材として作成されたもので、印刷教材の概要、学修計画のポイント等が要約されています。面接授業（スクーリング）のみで履修可能な科目（教材未刊行科目、演習科目等）は掲載されていません。

利用に当たっては、以下の事項に留意の上、有効に活用し、学修効果を高めてください。

なお、本要綱は入学時のみ配布します。以後、教材が改訂され、内容等に変更が生じた場合には、ホームページ内のポータルサイトで告知します。

I 履修科目の選択

履修科目の選択にあたっては、『学修要覧』、『コース履修の手引』を熟読してください。

II 教材要綱の見方

- 1 科目コード：平成 27 年度から使用している当該科目固有のコード（英数字 6 桁）です。
- 2 旧科目コード：平成 26 年度までの当該科目固有のコード（数字 4 桁）です。教材によっては（目次に掲載）旧科目コードで表示されるものがありますので、目次に掲載の新旧科目コードで確認してください。
- 3 科目名：科目名には「・・・概論」、「・・・概説」等類似した科目名がありますので、注意してください。なお、複数科目で同一の教材を使用しているものがありますので、後掲「IV 同一科目として扱う名称の異なる科目の表記について」で確認してください。
- 4 単位数：当該科目の所定単位数を記載しています。
- 5 教材コード：当該教材固有のコードです。
- 6 教材名：教材には、市販されているものを通信教育教材としているものもあり、その場合には、教材名に二重括弧（『 』）で書籍のタイトルを記載しています。なお、大学が作成した教材の名称は科目名と同一です。
- 7 著者名等：教材の執筆者等を記載しています。
- 8 出版社名：市販されている教材の出版社等を記載しています。

III 留意点

- 1 学修上の留意点：教材での学修上並びにレポート作成上の留意点を記載しています。
- 2 参考文献：参考文献を記載しています。なお、※印を付してあるものは、入手が困難な場合がありますので、図書館等で閲覧してください。

【表記の統一について】

平成 27 年度から、『学習』の表記を『学修』に改めることになりました。教材要綱においても、『学修』に変更をしておりますが、「■教材の概要」、「■学修計画のポイント」、「■学修上の留意点」などの本文中に、その特性上『学習』の文字を使用している場合があります。また教材別冊の『学修指導書』についても順次『学修』に置き換えておりますが、一部『学習指導書』と表記する場合がありますので予めご容赦願います。

Ⅳ 同一科目として扱う名称の異なる科目の表記について

授業内容（印刷教材）は同一ですが、学部によって名称が異なる科目があります。これらの科目は自学部で一度単位修得すると他学部の科目名称で履修することはできません。

本要綱における表記及び該当科目は以下のとおりです。

＜本要綱での表記例＞

科目コード	科目名	単位数
L30200	国際政治学	4 単位
R32700	国際政治論	4 単位
S33200	国際政治学概論	4 単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

＜同一科目として扱う名称の異なる科目一覧＞

法学部		文理学部		経済学部		商学部	
科目コード	科目名	科目コード	科目名	科目コード	科目名	科目コード	科目名
L30200	国際政治学	L30200	国際政治学	R32700	国際政治論	S33200	国際政治学概論
K32200	日本史概論	Q30200	日本史概説	Q30200	日本史概説	Q30200	日本史概説
K32300	東洋史概論	Q30300	東洋史概説	Q30300	東洋史概説	Q30300	東洋史概説
K32400	西洋史概論	Q30400	西洋史概説	Q30400	西洋史概説	Q30400	西洋史概説
—		—		R32800	外国史概説	S33300	外国史
L20200	経済学原論	R20100	経済原論	R20100	経済原論	R20100	経済原論
L31300	経済学説史	R30100	経済学史	R30100	経済学史	R30100	経済学史
L31500	経済政策	R30700	経済政策総論	R30700	経済政策総論	R30700	経済政策総論
L31400	財政学	R31500	財政学総論	R31500	財政学総論	R31500	財政学総論
L31600	社会政策	R32100	社会政策論	R32100	社会政策論	R32100	社会政策論
T22000	地誌学概論	T21900	地誌学*	T21900	地誌学	T22100	地理学概論 (地誌を含む)
R32600	経済地理学	R32600	経済地理学	R32600	経済地理学	S32200	経済地理
—		T22600	法学通論*	T22700	法律学概論 (国際法を含む)	T22700	法律学概論 (国際法を含む)

※ 文理学部で「T21900 地誌学」及び「T22600 法学通論」を履修できるのは、哲学専攻及び史学専攻のみです。

通信教育教材『市販教材』

これまで、通信教育教材の『市販教材』には、大学専用のオリジナルカバーを掛けて配本してきましたが、平成 26 年度からはカバー掛けを廃止しました。

V 2冊組の教材について

以下の教材は、2冊の教材を使用します。

配本申請時はセットコードで申請してください。教材購入時は、それぞれ単体の教材コードで購入します。

科目 コード	科目名	使用教材			
		配本申請時 (セットコード)	教材購入時 (教材コード)	教材名	出版社等
C10600	英語基礎	200004	000294	Welcome to College English コミュニケーションのための 大学英語入門	南雲堂
			000313	Welcome to College English コミュニケーションのための 大学英語入門 (学習用ガイド)	南雲堂
M30700	国文学講義Ⅲ (中世)	200001	000091	国文学講義Ⅲ (中世)	開発教材
			000370	源氏物語の世界	岩波書店
T22400	漢字書法	200002	000237	漢字書法手本	開発教材
			000238	漢字書法教本 (学修指導書)	開発教材
T22500	かな書法	200003	000239	かな書法手本	開発教材
			000240	かな書法教本 (学修指導書)	開発教材

目次

Contents

※目次は、科目コード順で配列しています。

総合教育科目・外国語科目・保健体育科目

ページ	科目コード	旧科目コード	教材コード	科目名
1 ▶	B10700	0011	000404	哲学
2 ▶	B10800	0012	000002	論理学
3 ▶	B10900	0013	000405	倫理学
4 ▶	B11000	0014	000004	宗教学
5 ▶	B11100	0015	000393	歴史学
6 ▶	B11200	0016	000308	文化史
7 ▶	B11300	0017	000406	文学
8 ▶	B11400	0019	000310	美術史
9 ▶	B11500	0021	000515	法学（日本国憲法 2 単位を含む）
10 ▶	B11600	0022	000433	社会学
11 ▶	B11700	0023	000279	政治学
12 ▶	B11800	0024	000450	経済学
13 ▶	B11900	0031	000339	数学
14 ▶	B12000	0034	000434	生物学
15 ▶	B12100	0035	000483	心理学
16 ▶	B12200	0036	000018	統計学
17 ▶	B12300	0037	000398	科学史
18 ▶	C10100	0041	000019	英語Ⅰ
19 ▶	C10200	0042	000020	英語Ⅱ
20 ▶	C10300	0043	000021	英語Ⅲ
21 ▶	C10400	0044	000371	英語Ⅳ
22 ▶	C10500	0045	000023	英語Ⅴ
23 ▶	C10600	0046	000294/000313	英語基礎
24 ▶	D10100	0051	000024	ドイツ語Ⅰ
25 ▶	D10200	0052	000441	ドイツ語Ⅱ
26 ▶	D10300	0053	000547	ドイツ語Ⅲ
27 ▶	D10400	0054	000442	ドイツ語Ⅳ
28 ▶	E10100	0056	000372	フランス語Ⅰ
29 ▶	E10200	0057	000373	フランス語Ⅱ
30 ▶	E10300	0058	000374	フランス語Ⅲ
31 ▶	E10400	0059	000347	フランス語Ⅳ
32 ▶	F10100	0061	000456	中国語Ⅰ
33 ▶	F10200	0062	000457	中国語Ⅱ
34 ▶	F10300	0063	000517	中国語Ⅲ

ページ	科目コード	旧科目コード	教材コード	科目名
35 ▶	F10400	0064	000549	中国語Ⅳ
36 ▶	G10100	0066	000295	日本語Ⅰ
37 ▶	G10200	0067	000460	日本語Ⅱ
38 ▶	G10300	0068	000504	日本語Ⅲ
39 ▶	G10400	0069	000461	日本語Ⅳ
40 ▶	H10100	0074	000395	保健体育講義Ⅰ
41 ▶	H10200	0075	000037	保健体育講義Ⅱ

専門教育科目

ページ	科目コード	旧科目コード	教材コード	科目名
42 ▶	K20100	0121	000261	憲法
43 ▶	K20200	0131	000407	民法Ⅰ
44 ▶	K20300	0151	000066	刑法Ⅰ
45 ▶	K30100	0132	000408	民法Ⅱ
46 ▶	K30200	0134	000354	民法Ⅲ
47 ▶	K30300	0135	000355	民法Ⅳ
48 ▶	K30400	0137	000059	民法Ⅴ
49 ▶	K30500	0141	000551	商法Ⅰ
50 ▶	K30600	0143	000379	商法Ⅱ
51 ▶	K30700	0144	000314	商法Ⅲ
52 ▶	K30800	0152	000396	刑法Ⅱ
53 ▶	K30900	0122	000051	行政法Ⅰ
54 ▶	K31000	0123	000262	行政法Ⅱ
55 ▶	K31100	0124	000462	国際法
56 ▶	K31200	0147	000064	国際私法
57 ▶	K31300	0171	000381	労働法
58 ▶	K31400	0172	000463	知的財産権法
59 ▶	K31500	0173	000410	税法
60 ▶	K31600	0160	000494	民事訴訟法
61 ▶	K31700	0163	000409	刑事訴訟法
62 ▶	K31900	0112	000049	日本法制史
63 ▶	K32200	0620	000382	日本史概論
64 ▶	K32300	0627	000523	東洋史概論
65 ▶	K32400	0628	000147	西洋史概論
66 ▶	L20100	0210	000353	政治学原論
67 ▶	L20200	0712	000159	経済学原論
68 ▶	L30100	0221	000084	行政学
69 ▶	L30200	0224	000501	国際政治学
70 ▶	L30300	0220	000082	政治思想史
71 ▶	L30400	0213	000452	日本政治史

ページ	科目コード	旧科目コード	教材コード	科目名
72 ▶	L30500	0214	000503	西洋政治史
73 ▶	L30600	0215	000495	東洋政治史
74 ▶	L30700	0222	000085	外交史
75 ▶	L30800	0226	000496	地方自治論
76 ▶	L31300	0714	000160	経済学説史
77 ▶	L31400	0742	000487	財政学
78 ▶	L31500	0731	000527	経済政策
79 ▶	L31600	0762	000532	社会政策
80 ▶	M20100	0081	000519	国文学基礎講義
81 ▶	M20200	0321	000089	国文学概論
82 ▶	M20300	0351	000412	国語学概論
83 ▶	M30100	0311	000553	国文学史Ⅰ
84 ▶	M30200	0312	000553	国文学史Ⅱ
85 ▶	M30300	0355	000101	国文法
86 ▶	M30400	0314	000088	国語学講義
87 ▶	M30500	0331	000090	国文学講義Ⅰ（上代）
88 ▶	M30700	0334	000091/000370	国文学講義Ⅲ（中世）
89 ▶	M30800	0336	000093	国文学講義Ⅳ（近世）
90 ▶	M30900	0338	000094	国文学講義Ⅴ（近代）
91 ▶	M31000	0339	000361	国文学講義Ⅵ（現代）
92 ▶	M31400	0356	000266	国語音声学
93 ▶	M31500	0371	000437	漢文学Ⅰ
94 ▶	M31600	0372	000108	漢文学Ⅱ
95 ▶	M31900	0379	000534	文章表現法
96 ▶	N20100	0411	000111	イギリス文学史Ⅰ
97 ▶	N20200	0445	000270	英文法
98 ▶	N20300	0086	000041	英米文学概説
99 ▶	N30100	0412	000112	イギリス文学史Ⅱ
100 ▶	N30200	0414	000536	アメリカ文学史
101 ▶	N30300	0441	000117	英語史
102 ▶	N30400	0447	000120	英作文Ⅰ
103 ▶	N30500	0448	000121	英作文Ⅱ
104 ▶	N30600	0450	000413	英語音声学
105 ▶	N30700	0085	000400	英語学概説
106 ▶	N30900	0453	000123	スピーチコミュニケーションⅠ
107 ▶	N31000	0454	000124	スピーチコミュニケーションⅡ
108 ▶	N31200	0431	000116	英米文学特殊講義
109 ▶	N31300	0471	000128	放送英語
110 ▶	N31400	0472	000129	新聞英語
111 ▶	N31500	0476	000414	英米事情Ⅰ
112 ▶	N31600	0477	000521	英米事情Ⅱ
113 ▶	N31700	0478	000415	異文化間コミュニケーション概論
114 ▶	P20100	0091	000042	哲学基礎講読

ページ	科目コード	旧科目コード	教材コード	科目名
115 ▶	P20200	0511	000133	西洋思想史 I
116 ▶	P20300	0516	000392	東洋思想史 I
117 ▶	P30100	0092	000044	宗教学基礎講読
118 ▶	P30200	0093	000337	倫理学基礎講読
119 ▶	P30300	0531	000138	哲学概論
120 ▶	P30400	0532	000139	宗教学概論
121 ▶	P30500	0533	000140	倫理学概論
122 ▶	P30600	0513	000134	西洋思想史 II
123 ▶	P30700	0518	000438	東洋思想史 II
124 ▶	P30800	0521	000137	日本思想史 I
125 ▶	P31000	0571	000345	哲学特殊講義
126 ▶	P31300	0575	000142	科学哲学
127 ▶	Q20100	0095	000484	日本史入門
128 ▶	Q20300	0097	000047	西洋史入門
129 ▶	Q20400	0098	000509	考古学入門
130 ▶	Q30100	0611	000144	史学概論
63 ▶	Q30200	0621	000382	日本史概説
64 ▶	Q30300	0623	000523	東洋史概説
65 ▶	Q30400	0624	000147	西洋史概説
131 ▶	Q30500	0679	000510	考古学概説
132 ▶	Q30600	0651	000149	考古学特講 I
133 ▶	Q30800	0661	000151	日本史特講 I
134 ▶	Q30900	0662	000152	日本史特講 II
135 ▶	Q31000	0665	000507	東洋史特講 I
136 ▶	Q31100	0666	000508	東洋史特講 II
137 ▶	Q31200	0669	000156	西洋史特講 I
138 ▶	Q31700	0674	000502	古文書学
67 ▶	R20100	0711	000159	経済原論
139 ▶	R20200	0720	000161	経済史総論
140 ▶	R20300	0986	000244	経済学概論
76 ▶	R30100	0713	000160	経済学史
141 ▶	R30300	0716	000352	価格理論
142 ▶	R30500	0722	000416	日本経済史
143 ▶	R30600	0724	000163	西洋経済史
78 ▶	R30700	0730	000527	経済政策総論
144 ▶	R30800	0732	000486	農業経済論
145 ▶	R30900	0734	000166	工業経済論
146 ▶	R31000	0736	000499	日本経済論
147 ▶	R31100	0737	000281	国際経済論
148 ▶	R31400	0740	000350	経済開発論
77 ▶	R31500	0741	000487	財政学総論
149 ▶	R31600	0743	000525	地方財政論
150 ▶	R31700	0744	000467	租税論

ページ	科目コード	旧科目コード	教材コード	科目名
151 ▶	R31800	0746	000540	金融論
152 ▶	R31900	0747	000440	貨幣経済論
153 ▶	R32000	0752	000174	経済統計学
79 ▶	R32100	0761	000532	社会政策論
154 ▶	R32200	0763	000500	労働経済論
155 ▶	R32300	0773	000453	情報概論
156 ▶	R32600	0974	000233	経済地理学
69 ▶	R32700	0223	000501	国際政治論
157 ▶	R32800	0626	000148	外国史概説
158 ▶	S20100	0811	000356	商学総論
159 ▶	S20200	0841	000497	経営学
160 ▶	S20300	0854	000454	簿記論 I
161 ▶	S30200	0140	000451	商法
162 ▶	S30300	0821	000401	商品学
163 ▶	S30400	0822	000439	貿易論
164 ▶	S30500	0823	000182	マーケティング
165 ▶	S30600	0825	000183	保険総論
166 ▶	S30700	0827	000184	交通論
167 ▶	S30800	0829	000185	証券市場論
168 ▶	S30900	0830	000538	広告論
169 ▶	S31000	0831	000187	商業政策
170 ▶	S31200	0833	000432	国際金融論
171 ▶	S31300	0835	000190	商業英語 I
172 ▶	S31400	0836	000191	商業英語 II
173 ▶	S32000	0897	000417	観光事業論
174 ▶	S32100	0898	000555	商業史
156 ▶	S32200	0973	000233	経済地理
175 ▶	S32700	0848	000488	中小企業論
176 ▶	S32800	0851	000482	会計学
69 ▶	S33200	0225	000501	国際政治学概論
157 ▶	S33300	0625	000148	外国史
177 ▶	T10100	0903	000541	現代教職論
178 ▶	T10200	0901	000199	教育原論
179 ▶	T10400	0905	000419	教育の歴史
180 ▶	T10500	0906	000420	発達と学習
181 ▶	T20100	0907	000421	教育の社会学
182 ▶	T20200	0912	000285	教育制度論
183 ▶	T20300	0931	000469	国語科教育法 I
184 ▶	T20400	0992	000444	国語科教育法 II
185 ▶	T20500	0957	000221	社会科・地理歴史科教育法 I
186 ▶	T20600	0958	000388	社会科・地理歴史科教育法 II
187 ▶	T20700	0959	000290	社会科・公民科教育法 I
188 ▶	T20800	0960	000278	社会科・公民科教育法 II

ページ	科目コード	旧科目コード	教材コード	科目名
189 ▶	T20900	0996	000257	英語科教育法Ⅰ
190 ▶	T21000	0997	000490	英語科教育法Ⅱ
191 ▶	T21100	0933	000470	商業科教育法Ⅰ
192 ▶	T21200	0994	000472	商業科教育法Ⅱ
193 ▶	T21300	0940	000543	道德教育の理論と方法
194 ▶	T21500	0943	000443	特別活動論
195 ▶	T21700	0925	000341	教育の方法・技術論
196 ▶	T21800	0964	000529	地理学概論
197 ▶	T21900	0967	000557	地誌学
197 ▶	T22000	0968	000557	地誌学概論
197 ▶	T22100	0969	000557	地理学概論（地誌を含む）
198 ▶	T22200	0975	000422	人文地理学概論
199 ▶	T22300	0977	000236	自然地理学概論
200 ▶	T22400	0980	000237/000238	漢字書法
201 ▶	T22500	0981	000239/000240	かな書法
202 ▶	T22600	0983	000241	法学通論
202 ▶	T22700	0984	000241	法律学概論（国際法を含む）
203 ▶	T22800	0985	000243	政治学概論
204 ▶	T22900	0988	000455	職業指導
205 ▶	T23000	0989	000247	心理学概論
206 ▶	T30100	0955	000545	国語科教育法Ⅲ
207 ▶	T30200	0956	000446	国語科教育法Ⅳ
208 ▶	T30300	0961	000225	英語科教育法Ⅲ
209 ▶	T30400	0962	000227	英語科教育法Ⅳ
210 ▶	T30500	0944	000397	生徒指導・進路指導論
211 ▶	T30600	0937	000498	教育相談
212 ▶	U20100	1001	000299	学校経営と学校図書館
213 ▶	U20200	1002	000389	学校図書館メディアの構成
214 ▶	U20300	1003	000448	学習指導と学校図書館
215 ▶	U20400	1004	000302	読書と豊かな人間性
216 ▶	U20500	1005	000473	情報メディアの活用
217 ▶	Y20100	2001	000436	生涯学習論
218 ▶	Y20300	2010	000492	博物館概論
219 ▶	Y20400	2011	000475	博物館経営論
220 ▶	Y20600	2012	000493	博物館資料論
221 ▶	Y20700	2013	000477	博物館資料保存論
222 ▶	Y20800	2014	000479	博物館展示論
223 ▶	Y20900	2015	000479	博物館教育論
224 ▶	Y21000	2016	000480	博物館情報・メディア論
225 ▶	Y21200	2008	000491	民俗学
226 ▶	Y21300	2009	000424	文化人類学

科目コード	科目名	単位数
B10700	哲学	4単位

教材コード 000404

教材名 『西洋思想の要諦周覧』

(学修指導書別冊)

著者名等 嘉吉 純夫・齋藤 隆

出版社名 北樹出版

■教材の概要

この教材は、哲学的思考の類型によるカテゴリーと、その本質的諸部門とを融合させて西洋思想史の流れを古代ギリシャから現代の科学哲学まで論じられている。従って、この教材を通読すれば、大学における総合科目「哲学」で講じられている問題を考える上で不自由しないものであろう。教材の詳細な内容に就いては、「はじめに」に記載されているので参照してください。

■学修計画のポイント

ページ 10～92

「課題」のテーマから明らかなように第1章を中心に学修する事。

ページ 93～251

認識論を考察するので、第2章を中心に学修する事。

■学修上の留意点

大学の学修は、与えられた教材のみを用いて書けば良いものではない。多くの本を読むことで、自分の考えと同じものや、対立するものもある事を知るのも本当の勉強である。それらを参照しながら書く努力も必要である。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
B10800	論理学	4単位

教材コード 000002

教材名 論理学

著者名等 曾田 範治

■教材の概要

論理学とは、議論の進め方についての規則を求めるものである。議論の進め方を推理というが、推理を内容に即して考えるのではなく、論理形式に直して（形式論理学）その正誤を判定する。推理をいろいろな形に分類し、推理の種類ごとに規則をつくるが、各推理の正しい定義を正確に理解しなければならない。また論理学としての特有な用語が数多く出てくるから、それらにも注意する必要がある。論理形式（推理）を記号で表現する。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 154

1 ～ 94 ページ

論理学の目的は推理の規則であるが、推理は判断より成立し、その判断は概念により成立する。序説～第2章では概念と判断を学修する。とくに判断について1つ1つの用語を正確に理解してもらいたい。

95 ～ 154 ページ

推理を直接推理と間接推理に分け、直接推理には2種類、間接推理には5種類がある。それぞれ異なる規則が成立するから、混同しないように。概念と判断の知識が前提になることはいうまでもない。

ページ 155 ～ 246

155 ～ 200 ページ

帰納推理と類比推理を学修する。第3章～第9章の推理は論理形式によって推理したが、それらは経験的事実を土台にして推理する。これまでの推理とくらべながら学修するとよい。日常生活によく表れる。

201 ～ 246 ページ

学問に対する研究方法を学修する。因果関係、帰納的因果法、定義、分類、論証が中心である。それらの相互関係をしっかり理解しなければならない。第3章～第14章が土台になることはいうまでもない。

■学修上の留意点

- ① 各推理の定義を一覧表にする。
- ② 各推理の規則の一覧表をつくる。
- ③ 各推理の法則を実際の推理の中に適用する。

■参考文献

- 『論理学入門』（岩波全書）近藤洋逸・好並英司著（岩波書店）
『論理学』小林利裕・寺中平治・米沢克夫著（サンワ・コーポレーション）

科目コード	科目名	単位数
B10900	倫理学	4 単位

教材コード 000405

教材名 『21世紀の倫理』 (学修指導書別冊)

著者名等 笠松 幸一・和田 和行

出版社名 八千代出版

■教材の概要

本教材『21世紀の倫理』は、大きく捉えると、伝統的な倫理（第1章 倫理の歴史）と新興の応用倫理（第2章 生命倫理、第4章 メディア社会の倫理、第5章 グローバル化時代の倫理）から成り立っております。特に本教材は、生命や環境や情報に関する諸問題を取り扱う応用倫理（学）について重点的に学んでいただくことを趣旨としております。

倫理・倫理学の目的とは、伝統的倫理であれ応用倫理であれ、人間（私たち・私）の行いの正邪善悪を究明するとともに、その正なる、善なる行いを実践するところにあります。

■学修計画のポイント

ページ 1～144

- ① Ethics（倫理・倫理学）の語義、実践、変容性等について理解してください。
- ② なぜ現代社会において応用倫理が誕生したのか、その誕生の経緯を生命と環境に着目しつつ理解してください（第1章の4）。

ページ 145～246

- ① 電子メディア（コンピュータ）によって開かれてくるメディア社会、グローバル化時代、そこに生じてくる問題を把握してください。
- ② 電子メディアがもたらす問題を、活字メディア（新聞、書物、等）と比較する観点から把握してください。

■学修上の留意点

- ① 倫理・倫理学は、古代、中世、近代、現代それぞれの時代（社会）における要請とともに展開してきました。
- ② 近代の倫理は、人間の倫理的能力に信頼をおいて、従って人間中心主義の倫理として、また市民社会における「契約」を可能にする倫理として展開してきました。

■参考文献

各節の文末に指示される文献を参考にしてください。

科目コード	科目名	単位数
B11000	宗教学	4 単位

教材コード 000004

教材名 宗教学

著者名等 奈良 弘元

■教材の概要

宗教学は、宗教のあるがままの姿（事実）を明らかにし、宗教についての正確な知識の体系を築きあげようとする学問である。したがって、その学的性格から、テキストは、まず、宗教についての歴史的事実を正しく把握することにつとめた。テキストの構成は、「宗教は人類の歴史とともに始まる」、「私たちの生活と宗教とのかかわり」、「私たちをとりまく宗教の諸相」、「私たちのまわりから消えてしまった宗教」及び「私たちに身近な宗教の思想」からなる。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 104

1 ～ 55 ページ

各儀礼の特徴点の理解。宗教芸術、宗教文学についての具体的な作品の理解。世界宗教としてのキリスト教とイスラム教との歴史的事実の理解。両宗教の共通点と相違点との比較検討。キリスト教については、宗教の思想の項も参照されたい。

57 ～ 104 ページ

世界宗教としての仏教、民族宗教としての各宗教の歴史的事実の把握。特に、ヒンドゥ教・ジャイナ教・シク教と仏教の比較、ユダヤ教とキリスト教との比較、神道の歴史的展開と儒家・復古・教派の各神道の特徴の理解。

ページ 105 ～ 199

105 ～ 163 ページ

未開宗教の特徴点の理解と、その現代社会への影響の理解。古代宗教（消えてしまった宗教）のそれぞれの特徴点の理解。キリスト教思想の基礎的理解。特に、イエス、パウロ、ルターの比較検討。

165 ～ 199 ページ

初期仏教・部派仏教・大乘仏教の思想的相違点の理解。大乘仏教の諸思想の特徴の理解。神道思想の基礎的理解。特に「敬神生活の綱領」の内容理解。教派神道各派の思想的特徴の理解。

■学修上の留意点

「学修計画のポイント」をふまえて、その内容をしっかり把握し、理解しておくこと。

■参考文献

巻末の主要参考文献中、特に『世界の宗教』岸本英夫著（原書房）、『世界の宗教と経典 総解説』（自由国民社）、『宗教学辞典』（東京大学出版会）を参照のこと。

科目コード	科目名	単位数
B11100	歴史学	4 単位

教材コード 000393

教材名 歴史学

著者名等 高綱 博文・竹中 眞幸・藤井 信行・馬淵 彰・粕谷 元・渡邊 浩史・郡司 美枝・須江 隆・鍋本 由徳

■教材の概要

本教材は、古代から近代にいたる歴史を日本史・東洋史・西洋史の3分野から論述したものである。本教材の大きな特徴は、従来の「通史」とは異なり、人物の動向を中心にしながら歴史を考えることを目的としていることである。「第1単位」は日本中世・近世史、「第2単位」は日本近代史、「第3単位」は中国史・西洋中世史、「第4単位」はイスラーム史・西洋近代史である。本教材は人物を中心に編まれているが、これはいわゆる「伝記」ではない。彼らがどのような時代に生き、その時代の中でどのような理念を持って活動していたのかを考えてもらいたい。

これまでの通史的歴史学に馴れた人にとっては、つかみどころのないものを感じるかもしれないが、本教材を学修することによって、地域性・時代性を考えていくことが第一の目標となる。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 82

第1単位 (1～56 ページ 渡邊浩史・鍋本由徳)

第1部では、安倍晴明、一遍、道成寺縁起絵巻を扱い、日本中世における熊野を中心にした文化装置について考察する。信仰・伝説などから当時の政治・社会への影響を考えていく。

第2部の日本近世史では、徳川吉宗、大岡越前、田中休愚を扱い、日本近世の転換点である享保期について考察する。いわゆる「享保改革」の評価について多角的に考えていく。

第2単位 (57～82 ページ 郡司美枝)

第3部では、明治天皇、乃木希典、石田伝吉を扱い、明治時代の政治・社会の動向について考察する。彼らの日常生活から、日露戦争前後の人々の思いや暮らしを考えていく。

ページ 83 ～ 211

第3単位 (83～161 ページ 高綱博文・須江 隆・馬淵 彰)

第4部では、岸田吟香、荒尾精、内田完造、林京子などを扱い、19世紀中葉以降の上海日本人居留民の歴史を考察する。上海体験の証言などから、当時の人々の生き方を考えていく。

第5部では、蘇舜欽、方臘、林二十三娘を扱い、中国宋代の社会を考察する。唐宋変革期における官僚制度の実態や、反乱、言説などから、士大夫文化・庶民文化の融合などを考えていく。

第6部では、ウェスレー、アレヴィ、ステューブズを扱い、産業革命期のイギリスにおけるキリスト教と社会の展開について考察する。メソジスト派をキーとして、当時の社会問題を考えていく。

第4単位 (162～211 ページ 粕谷 元・藤井信行)

第7部では、アタテュルク、ヌルスィー、ベイを扱い、19世紀におけるトルコについて考察する。イスラーム文明からヨーロッパ文明への移行にともなうトルコの抱えた問題について考えていく。

第8部では、エーレンタール、ベルヒトルト、カイザー、グレイを扱い、第一次世界大戦期のヨーロッパを考察する。イギリス・ドイツ・オーストリアの外交政策から大戦勃発の要因を考えていく。

■学修上の留意点

本教材は「伝記」とは異なる。学修にあたっては、各章末に挙げられた参考文献などにも目を通すとともに、各国の通史を学修し、地域・時代の概略を併行して理解しておくことが望まれる。レポート課題作成にあたっては、その時代のあり方に着目することが重要である。

■参考文献

各章末に【参考文献】を記した。時代概観は、日本史であれば『日本の歴史』（中央公論新社・講談社、他）、外国史は『世界の歴史』（中央公論新社、他）などを参照してもらいたい。

科目コード	科目名	単位数
B11200	文化史	4 単位

教材コード 000308

教材名 『日本文化史（第二版）』

著者名等 家永 三郎

出版社名 岩波書店

■教材の概要

本書は、原始社会から封建社会解体期までの日本文化の歴史についての概説書である。「文化」という言葉の意味は非常に幅広く多様であるが、本書ではその点を踏まえつつも、「文化」という言葉から一般的に想起されるところの、学問・芸術・宗教・思想などの領域を論述の対象としている。もとより、本書は概説書であるので、上記の各分野についても詳細な内容が論じられているわけではないが、私たちの祖先が創造し、継承してきた日本文化の特質について通史的理解を得る上で利益な書といえよう。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 111

I 原始社会の文化～IV 貴族社会の文化の4章で構成されている。一般的な時代区分でいうと、先土器（旧石器）・縄文・弥生・古墳（大和）・飛鳥・奈良・平安の各時代であり、時代的には極めて長期にわたっている。したがって（後述にも共通していえることであるが）まず、日本史全般にわたる上記各時代の特質や、前・後代との関連性などを概説書・通史類を読んで把握しておくべきである。その上で本分冊を読めば、その記述内容に対する理解がよりいっそう深められよう。なお、本書冒頭の「はじめに 日本文化史の課題」についても熟読しておくように。

ページ 113 ～ 244

V 封建社会成長期の文化～VII 封建社会解体期の文化の3章で構成されている。一般的な時代区分でいうと、鎌倉・室町（戦国）・安土桃山・江戸の各時代である。前述が扱う時代に比較して、本分冊のそれは約700年と短いものの、文化の多様さと裾野の広がり（文化の作り手と受容者）や、文化史に関する遺物・文書・記録類の残存量などを考えると、学修すべき対象は非常に多いといえよう。したがって前述と同様、日本史全般にわたる概説書・通史とともに、文化史各分野（思想史・美術史・科学史など）の概説書・通史にも目を通して学修することが必要であろう。

■学修上の留意点

「教材の概要」の欄で記したように、本書は日本文化史に関する概説書であるから、各時代の文化や文化の各分野について詳細な記述はなされていない。したがって本書で文化史を学修する際には、まず全体を通読し、さらにその上で不明・疑問点や、より詳しく学ぶべき事項があれば、下記の参考文献他に目を通し、正確かつ詳細な知識を得るよう努力すべきである。

■参考文献

- 『国史大辞典 1～15 巻』（吉川弘文館）
- ※『日本通史 1～21 巻・別巻1～4』（岩波書店）
- 『日本文化の歴史』尾藤正英著（岩波書店）〈教材巻末の参考文献一覧も参照のこと〉
- 『体系日本史叢書 15～23 巻』（山川出版社）

科目コード	科目名	単位数
B11300	文学	4単位

教材コード 000406

教材名 『文学概論 吉田精一著作集 第24巻』 (学修指導書別冊)

著者名等 吉田 精一

出版社名 おうふう

■教材の概要

「文学とは何か」という問いに対して、本書は「詩」「小説」「戯曲」「評論」という各ジャンルについて「何か」「種類」「構成」「特性」「鑑賞」の視点で説明します。その上でそういった「文学」の「本質」について追求します。具体的な事例に即しながら展開されます。

■学修計画のポイント

ページ 7～160

各章において「詩とは何か」「小説とは何か」「戯曲とは何か」「評論とは何か」という問いかけから始まり、最終的に第2分冊の「文学とは何か」「文学の本質」に迫ろうとしています。

ここでは、各章ごとに種類を分類し、語と形、構成や構造の上から実証的に説明してあるので項目ごとにまとめることが大切です。

ページ 161～201

ここでは「文学の本質」が検討されています。そのために

- ① 文学とは何か
- ② ことばの思想
- ③ イメージと想像力
- ④ 文学と人生

の4項目が考察されています。それぞれの内容・要旨を把握して、全体の構成、展開から、さらに「文学の本質」とはどのようなものが著者の主張だったのかを理解するようにしてください。

■学修上の留意点

第1分冊では、さまざまな文芸用語や作家、作品が出てきますが、第一回目の読みは、あくまでも項目の見出しをキーワードに読み取ることが大切です。第二回目の読みからは、いろいろ調べて読んでみてください。

第2分冊では「文学（学習指導書）」を参考にしつつ巻末の「解説」もよく読んでください。

■参考文献

『文学入門』桑原武夫著（岩波新書）

『文学とは何か』加藤周一著（角川選書）

『小説の方法』伊藤整著（岩波書店）

※『文学入門』阿部知二著（市民文庫）他

科目コード	科目名	単位数
B 1 1 4 0 0	美術史	4 単位

教材コード 0 0 0 3 1 0

教材名 『カラー版 日本美術史』 (学修指導書別冊)

著者名等 辻 惟雄

出版社名 美術出版社

■教材の概要

本書は日本美術の流れを時代別にまとめた概説書で、彫刻、絵画、工芸といった美術のジャンルを総合的に扱っている。第Ⅰ章 先史・古墳時代からはじまり、第Ⅳ章 現代にまで及んでいる。また、巻末の年表及び付録もあわせて参照されたい。

■学修計画のポイント

ページ 5 ～ 52

縄文時代から奈良時代までを扱うが、特に第Ⅱ章と第Ⅲ章の飛鳥・白鳳・天平時代の仏教美術を重点的に学修すること。この時代は仏像が美術の中心的存在であるので、飛鳥・白鳳・天平の各時代の代表的仏像様式の特徴を理解し、その変遷を把握することが重要である。また絵画、工芸に関しては、教材で取り上げている作品について、その特色を把握してほしい。

ページ 53 ～ 100

平安・鎌倉・南北朝時代を扱う。彫刻については平安前期・平安後期・鎌倉の各時代の様式や技法上の特徴を理解し、その変遷を把握すること。絵画については、密教絵画や来迎図などの仏教関係の作品を重点的に学修し、あわせて絵巻物や肖像画など、この時代の代表的作品について幅広く学んでほしい。

■学修上の留意点

- ① 美術作品のみを見るのではなく、歴史的背景や特に中国様式の伝播の状況についても視野に入れることが美術史を理解する上で重要である。
- ② 代表的作品については図版を参照して、自分の目で確認しつつ様式を理解すること。

■参考文献

本書の付録の「参考文献」を参照。そのほか入手しやすいものとして以下のような概説書がある。

『日本仏像史』水野敬三郎 監修（美術出版社）

『目でみる仏像』星山晋也・田中義恭著（東京美術）

科目コード	科目名	単位数
B11500	法学（日本国憲法2単位を含む）	4単位

教材コード 000515

教材名 法学

著者名等 船山 泰範・川又 伸彦・小野 健太郎・松島 雪江

■教材の概要

物事の理解には「知識」と、それを活かすための「(思考)方法」の二つが揃うことが大切、という観点に立ち、法を学ぶために必要な「知識」と、法的な「見方、考え方(思考方法)」とを習得できるように、本書は構成されている。

「そもそも法とは何か」「法を勉強するとはどういうことか」「法全体でどのような構成や関係性があるのか」「法はその他の社会規範とどう違う(同じ)か」といった概説がはじめにある。

次に、法律の勉強に不可欠な法的知識を示し、基本的な情報を提示している。ここでは憲法(法学2で扱う)、刑法、民法といった、とりわけ重要な法律領域を取り上げている。そしてその法的知識に基づき、法学に特有な法的方法論を提示して、法的知識を自分自身の事柄として考えられるように工夫されている。

本書は、これから専門的に法律を学ぼうとする人に対しては、全法律科目に通底する基盤になると共に、教養として学ぼうとする人に対しては、社会科学的な物の見方を提示するものである。

■学修計画のポイント

法学1

法とは何であり、どのような特徴があるかといった総論部分と、刑法のしくみ、刑事裁判の流れ、民法のしくみ、民事裁判の流れといった各論部分で構成されている。まず総論となる部分を読み、基本的な事柄を理解してから、各論へ読み進めることが望ましいであろう。テキストを読む際に脚注や条文が示されているときは、厭わず参照して欲しい。

法学2

憲法とはそもそもどのような法であるかを論じた総論部分、基本的人権を論じた部分、国家機関のしくみを論じた統治機構の部分で構成されている。まず、なぜ憲法が必要なのかを総論で把握してから基本的人権や統治機構に進むのが望ましい。ただ、身近な問題を扱った基本的人権の部分を読んで憲法への関心を深めてから、他の部分に進むことで憲法の全体像をみてもよい。

■学修上の留意点

法律用語をきちんと理解すること。提示されたトピックが他の領域や現実問題とどう関連しているかを常に意識しながら読み進めて欲しい。1章ごとに、その概要をノートにまとめる作業を行うことを勧める。また、言及されている判例については、論点の理解を深めるため、どのような問題に対して裁判所がどう判断したのか、それに対して自分はどうかを考えるかを整理するとよい。

■参考文献

- 『新法学入門』山川一陽、船山泰範編著（弘文堂）
- 『法学入門』田中成明著（有斐閣）
- 『有斐閣法律用語辞典』法令用語研究会編（有斐閣）
- 『憲法判例 インデックス』工藤達朗編（商事法務）

科目コード	科目名	単位数
B11600	社会学	4単位

教材コード 000433

教材名 『社会学講義—人と社会の学—』

著者名等 富永 健一

出版社名 中央公論新社

■教材の概要

社会学の世界を基礎理論から領域社会学まで、体系的に理解することを目的としている。

社会学的方法論・思考を明らかにし、社会的に考えることを本教材はめざしている。

社会学とは何か、社会学の基礎理論、概念規定を理解してもらう。基礎理論として、社会的行為、社会関係、集団など、社会を構成する基礎をまなぶ。さらに、家族、農村・都市、産業など領域社会学をとおり、より具体的な問題解決を導き出している。

■学修計画のポイント

ページ 4～155

- ① 社会学の考え方を学修する。社会学の基礎理論を考える前提となる。
- ② 理論社会学として、行為・相互行為、集団などの過程を人びとの身近な環境からみる。
- ③ ミクロからマクロ、社会学の広がる世界を理解していく。

ページ 158～258

- ④ 基礎理論から領域社会学へと進み、今日の社会において生じる、さまざまな問題の解決方法考える。
- ⑤ 日常生活にかかわる問題点、疑問点をカテゴリー化し、領域社会学に該当させてみる。
- ⑥ 領域社会学の成果から、学生個人の研究テーマや関心などを広げていく。

■学修上の留意点

- ① 社会学とは何か、社会との関係、社会学の概念を理解する。
- ② 行為の視点から広がる世界を考える。
- ③ 日常おかれている状況のなかで研究テーマを考える。
- ④ 自らの研究領域を確立し、社会学的方法論によって分析を試みる。

■参考文献

教材の参考文献からみつけてください。

科目コード	科目名	単位数
B11700	政治学	4単位

教材コード 000279

教材名 政治学

著者名等 阿部 竹松・秋山 和宏・関根 二三夫

■教材の概要

本教材は、受講生が民主主義国家における政治制度についての理解と教養を高めるために役立つのみならず、政治についての実践的な知識を深めるためにも役立つように企画されている。本教材の特徴は、政治理論に関する解説を簡素化して、実学として政治を理解できるように、議会、内閣、裁判所、その他の行政機構などの政治組織や国民が直接政治に関与する選挙、政党、压力団体などの政治過程に重点を置いて解説を試みている点である。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 101

① 政治と政治社会

政治現象を生み出し、特徴づけているものは、社会、人間、紛争、権力である。政治権力という高度に組織された強制力、制裁力で危機を回避し、社会を安定的に保持しようとする働きが政治である。特に権力との密接な不可分性に着目して、政治を権力の形成・行使・維持に関わる現象を学ぶことである。また、政治現象は、国家と社会との関連において生ずる。特に近代市民社会以降の社会現象の推移と国家との関連を理解していただきたい。

② 近代の政治思想

近代ヨーロッパの政治思想家を中心に彼らの政治哲学の諸原理について簡明に解説してある。それらの理論を社会背景を念頭において考察することが肝要である。

③ 現代の政治過程

選挙、政党、压力団体を研究対象とする政治過程論は、政治を実施するために設けられた政治制度やその枠外で作用している政治慣行や利害関係を研究対象としている。そして、政治の実態を科学的かつ実験的に捉えている。科学的・実験的とは、仮説を立て、対象を客観的に観察し、仮説を検証する法則を設定することである。この点を肝に銘じて勉強して欲しい。

ページ 105 ～ 208

① 立憲民主制の統治形態

民主政治制度では、例外なく、統治権が分散されている。立法、行政、司法の三権がどのように分散され、三権がどのような抑制関係にあるかによって、政治形態が分類されている。アメリカの大統領制や日本の議院内閣制を皮切りに各国の政治形態を権力の分散の尺度で検証することを推奨する。

② 国家の統治機構

わが国の政治機構を国会、内閣、裁判所に分けて、各々の組織と権限について解説してある。しかし、上記の三機関の権限は、相互に関連している。アメリカ連邦政治機構の下での権力の配分や抑制関係と比較して検討すると、わが国の政治を理解するのに役立つ。

■学修上の留意点

政治学の研究課題は、相互に関連しているので、関連分野の課題についても検討することが求められる。例えば、内閣の権限について検討するときは、同時に国会の権限にも目を通すことが肝要である。

■参考文献

教材に記載されている参考文献を参照されたい。

科目コード	科目名	単位数
B11800	経済学	4 単位

教材コード 000450

教材名 経済学

著者名等 藤本 訓利・植木 恒夫・塚本 隆夫

■教材の概要

この教材は、経済学に興味を抱き、初めて経済学を履修しようとする学生諸君のために書かれたものである。現実の経済がグローバル化し、また複雑化しているため、このような現象を理解するためには幅広い経済学の知識が必要となる。しかし、この教材では、経済学とはどのような学問であるか、経済学の考え方や歴史などの経済学の導入部分、消費者や生産者（企業）の行動を理解するための基本的な理論（ミクロ経済学）、一国経済の動きを理解するための基本的な考え方や理論、そして財政・金融策の効果など（マクロ経済学）が説明されている。

■学修計画のポイント

- 第1部：社会科学としての経済学は、どのような科学・学問であるかを理解する。経済学者たちがどのような世界を捉え、希少性に対処しようとしているのかを理解する。この視点から、①何をどれだけ生産するのか、②どのようにして生産するのか、③誰のために生産するのか、という経済の基本問題に対する考察がなされる。
- 第2部：消費行動では最適消費計画を、生産者行動では利潤最大化（費用最小化）を理解し、経済主体の選択が需要や供給を決めている点を理解する。完全競争市場、不完全競争市場における価格決定と資源配分が社会的総余剰と関わることを理解する。市場メカニズムと市場の失敗や政府の介入の意味を理解する。
- 第3部：マクロ経済学の特徴や分析方法やマクロ経済変数について理解したうえで、国民所得の諸概念や三面等価の原則などマクロ経済学の基礎的な概念について理解する。これらの概念を用いて展開される国民所得の決定理論や投資の乗数効果を理解する。さらに、貨幣の役割や貨幣とマクロ経済との関係について理解する。財政政策や金融政策が、一国の総需要や総供給を管理するための重要な手段であること、IS = LM モデルを使って財政・金融政策の効果を理解すること。

■学修上の留意点

- 第1部：経済学の基本的な考え方である希少性の法則、効率的な生産、市場メカニズムの基本的な機能をめぐるグラフと数式を用いた論理展開になれること。
- 第2部：消費者行動と効用の最大化、生産者行動と利潤の最大化によって需要曲線や供給曲線が導出されている。効用最大化と消費者余剰、利潤最大化と生産者余剰の関係を整理し、社会的総需要の観点から様々な市場形態や政府の活動を理解する。
- 第3部：国民所得の諸概念や三面等価の原則など一国の付加価値を算出する際の基本的な考え方や、一国の生産水準が決定される理論的メカニズム、公共投資の経済的効果（乗数理論）などのマクロ経済学の基礎理論を理解する。また、貨幣の役割や貨幣とマクロ経済との関係や、財政政策・金融政策のマクロ経済的効果を伝統的なマクロ経済学の分析手法を用いて理解する。

■参考文献

教材の「学習指導書」を参照して下さい。

科目コード	科目名	単位数
B11900	数学	4 単位

教材コード 000339

教材名 『教養の数学（改訂版）』

著者名等 矢野 健太郎

出版社名 裳華房

■教材の概要

現代社会において活用されている数学は大別して2つあるといってよい。それは、解析幾何学と微分積分学が発見された17世紀の伝統をひいた古典数学と、この範ちゅうにはまらない現代数学である。勿論、これらはどちらも重要であるが、この教科書は現代数学に焦点をあてて書かれたものである。したがって、いかにも数学といった感じのする微分積分学の解説は殆んどなく、専ら、身近な問題を定式化し発展させる事項が多く解説されている。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 116

1 命題, 2 集合, 3 ベクトルと行列, 4 群。各章において現代数学を記述する言葉と事実が解説されている。特に命題と行列の項はよく勉強することが望ましい。

ページ 117 ～ 197

5 線型計画法, 6 確率, 7 ゲームの理論が解説されている。私達の日常生活の中で線型計画法を用いて解決できる問題は数多くある。例題を読んで、よく理解して欲しい。また非常に多くの応用をもつ確率というものを学んでいく。7 ゲームの理論は余力があり、興味があれば読み進めるという程度で良い。

■学修上の留意点

レポート課題に真剣にとりくみ、納得できるまで教科書を読むことです。また教科書の演習問題にあたることは事柄の理解の上で不可欠なことです。

■参考文献

特にありません。教科書をよく読むことが第一です。

科目コード	科目名	単位数
B12000	生物学	4 単位

教材コード 000434

教材名 『人の生命科学（第3版）』

著者名等 佐々木 史江・堀口 毅・岸 邦和・西川 純雄

出版社名 医歯薬出版

■教材の概要

21世紀にはいつヒトゲノムの解読がほとんど終了するという現在、生命科学、医学、医療の研究や技術の開発は、急速な発展をとげている今日、生物学の目標は科学的、論理的思考力を育て、人間性を磨き、自由で主体的な判断と行動の基礎を教育の目標に、生命倫理や人の尊厳を幅広く理解して、さらに国際化および情報化社会に対応出来る能力を要請することである。これらをふまえて、科学的思考の基礎や人間生活へのかかわりをこの教科の目標として地球生物圏の生物集団から生命の単位としての細胞の構造と機能、個体の構成と機能、生命活動とエネルギー、遺伝情報（DNA）の働き、化学進化・原始生命の誕生、生態系の仕組みにおける人間活動と地球環境問題等環境問題までさぐりつつ環境問題の全体像として、思考力を高め具体的に明日の環境と人間、地球を守る科学的知恵とし、こうした認識の基にライフサイエンス（Life Science）「生命科学・生活科学」を含めて生命の基本的理解を深めて、環境問題を政治・経済・社会・文化の影響も考えて『安全性』という科学的判断基準だけでなく『安心感』という心理的な側面を同時に考え持続可能な発展が広くキーワードになるように日常生活との関連を重視しながら生物学という学問の性格を理解して学修してほしい。

■学修計画のポイント

- ① 教材の各章の研究課題とコラムを理解しておくことと良い。
- ② リポート課題は参考文献を利用してまとめることが必要である。

■学修上の留意点

特になし。

■参考文献

- 『基礎から学ぶ「生物学・細胞生物学」』和田勝著（羊土社）
 『「生命科学」改訂3版』浅島誠監修 東京大学生命科学教科書編集委員会（羊土社）
 『「明日の環境と人間」地球をまもる科学の知恵 改訂3版』河合信一郎・山本義和共著（化学同人）

科目コード	科目名	単位数
B12100	心理学	4 単位

教材コード 000483

教材名 『新しい心理学ゼミナール―基礎から応用まで―』

著者名等 藤田 主一・板垣 文彦

出版社名 福村出版

■教材の概要

心理学は、広く心や行動を対象にする大変魅力的な学問です。心を追究し解明したいという願いは、私たちに共通したテーマです。それでは心とは一体何でしょうか。心はどこまで明らかになっているのでしょうか。今日、さまざまな分野において科学の力を結集し神秘的な心の世界に迫ろうとしています。心理学はその中心です。

この教科書は、最新の研究成果を取り入れた心理学の書物です。本書のサブタイトルは「基礎から応用まで」です。心の世界を基礎と応用に分けること自体が奇妙な印象を受けるかもしれませんが、基礎と応用が相まって心の解明に結びつくのです。本書は全部で12章から構成され、各章は今日の心理学が対象とする領域を体系づけて取りあげています。学生の皆さんが1人で読破することができるようにわかりやすく説明されています。

■学修計画のポイント

心理学の領域は多岐にわたっていますので、本書のどの章からでも学修することができます。まずは読み進んでください。なお、本書の巻末には参考文献が掲載されていますので、さらに発展的な学修を希望する方は挑戦してください。各章の最後には話題性豊かなトピックスも挿入されています。

1章～3章（9～51ページ）

ここでは発達・知覚・性格の心理学を取りあげています。まずは発達の流れを理解してください。それぞれの発達段階には特徴があります。知覚の心理学では、私たちの外界のとらえ方を実験的に確認することができます。性格の心理学では、性格形成の要因などを説明しています。

4章～6章（52～94ページ）

ここでは、認知・学習・感情と欲求の心理学を取りあげています。認知の心理学は少しハードな内容ですが、脳の働きを解明するうえで重要です。学習の心理学では、なぜその行動が身につくのかを解説しています。感情と欲求の心理学では、情動の表出や適応の問題を説明しています。

7章～9章（95～140ページ）

ここでは、臨床・社会・犯罪の心理学を取りあげています。応用的な内容は、関心を持つ方が多いと思います。健康の課題や心理療法にどのようなものがあるのか、社会の中で人間はどのようにかわり合っているのか、犯罪はどのようにして起こるのかなどについて、具体的な観点から説明しています。

10章～12章（141～183ページ）

ここでは、環境・スポーツの心理学、心理学史を取りあげています。私たちと生活環境とは大変密接な関係があります。環境との調和と言ってもよいでしょう。スポーツの心理学では、スポーツと健康、メンタルトレーニングなどを解説しています。心理学の歴史は、心理学が現代にいたるまでの経緯を説明しています。

■学修上の留意点

心理学には多くの理論があります。また、その理論に関係する多くの学者の名前が登場します。最初は戸惑うこともあると思いますが、心理学に興味を持つ方はなんなくクリアできます。教科書には、現代心理学のエッセンスが網羅されています。ひとつひとつのテーマには、きちんとした科学的な根拠が内包されていますので、科学的な視点で人間をとらえる方法を学んでください。教科書の内容では十分に満足できない方、もっともっと専門的な勉強に取り組みたい方、心理学の研究に挑戦したい方は、各領域の専門書や研究書へ進んでください。また、辞典や事典で確認することもできます。

■参考文献

- 『心理学辞典』中島義明他編（有斐閣）
- 『応用心理学事典』日本応用心理学会編（丸善）
- 『社会心理学事典』日本社会心理学会編（丸善）
- 『産業・組織心理学ハンドブック』産業・組織心理学会編（丸善）
- 『パーソナリティ心理学ハンドブック』日本パーソナリティ心理学会企画（福村出版）
- 『心理学総合事典』海保博之他編（朝倉書店）

科目コード	科目名	単位数
B12200	統計学	4 単位

教材コード 000018

教材名 『新統計入門』

著者名等 小寺 平治

出版社名 裳華房

■教材の概要

統計学を難しく考えるのではなく、統計学の基本を十分に理解し役に立つ学修も目指します。理論を詳しく述べるよりは、例題を通じて統計学を利用することで、何が理解できるかを重視します。問題が解けるようにならなければ統計学の理論は理解できませんが、問題解決の実力を養うには、定理や公式を記憶するのではなく、多くの問題を考えることが大切です。本教材は、統計学を大きく分けて、収集されたデータ分析を目的とした記述統計と少ないデータから問題を統計する近代統計学と言われる推計学とに分かれています。本教科では、楽しい統計学を学ぶことが目的です。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 71

1 ～ 31 ページ

統計学の基本となる記述統計学として必要な諸統計量として、度数分布、代表値・散布度、平均・分散そして相関係数の意味を理解し、練習問題を通じて具体的な統計学の利用方法を学修します。

33 ～ 71 ページ

近代統計学の基礎は、いわゆる推計学と言われ、統計データをどのような性質を有しているかを推測することになります。つまり、起き得ること（確率）を推測し起き得るデータの集団はどのような形をしているかを知る必要があります。そのためには確率変数、2次元確率変数、二項分布・正規分布等を学修する必要があります。

ページ 73 ～ 131

いわゆるサンプリングと言われる分野です。つまりデータの一部から全体を知る方法を学びます。次に、平均あるいはデータのバラツキから全体を推計するための区間推定とは何か。更に、「もしかしたらそうかもしれない」と言う仮説が正しいか否かを検定する方法を学びます。

近代統計学の極意を知る最も興味のある領域です。

例えば寿命をある区間で推計する場合に用いる母平均・母分散、実際に計ったデータと推計された値とのズレあるいは適合度などについて学びます。

■学修上の留意点

統計学は実際に利用して役に立たなければ意味がありません。そのためには、理論を通じてセンスを磨き、問題を解くことで利用する方法を確立することが大切です。教科書を自身で理解し、例題を自身で解き、課題に挑むことになります。他に、コンピュータを利用した統計解析のためのソフトウェアとしてよく知られている Excel についても自身で機会を見つけて挑んでください。

■参考文献

難しい数式を追いかけるのではなく、問題を通じて利用方法を学ぶことが目的です。参考文献は、例題が多く出ている統計学の本を参考にしてください。

『はじめての統計学』鳥居泰彦著（日本経済新聞出版社）

※『詳解確率と統計演習』鈴木七緒著（共立出版）

※『Excel でわかる統計入門』清水理著（ナツメ社）

科目コード	科目名	単位数
B12300	科学史	4 単位

教材コード 000398

教材名 『改訂新版 思想史のなかの科学』 (学修指導書別冊)

著者名等 伊東 俊太郎・広重 徹・村上 陽一郎

出版社名 平凡社

■教材の概要

本書は科学史を5つの大きな変革期にわけ、それぞれの特徴をわかりやすく解説している。特に古代オリエント科学から始まり、哲学革命を経て近代科学をつくりあげた科学革命、さらにその科学が発展し現代科学に至るまで、各時代の科学思想や方法・手段に触れて説明している。科学現象の説明には数式はほとんど用いず、代わりにその科学現象が発見された経緯や後世に与えた影響について説明している。また、本書のプロローグおよびエピローグは座談会および討論会形式で書かれている。ここでは三名の著者の科学に対する考えを知ることができ、本書の内容を理解する上でも大変役立つ。

■学修計画のポイント

ページ 11 ～ 164

古代オリエント科学は数学や医学、天文学など発展させたが多分に宗教的な要素を含んでいたが、ギリシャ科学において世界を統一的な原理によって合理的・体系的に説明する科学思想へと変化していった。さらにこのギリシャ科学は発展し西欧へと伝わり、近代の科学技術の発展の推進力になったと考えられる。ここでは後の科学革命を生起させた過程を理解する。

また、近代科学を創出した科学革命の特質を考え、それらを生み出した思想を理解し、西欧においてのみ近代科学が成立した要因を考察する。

ページ 165 ～ 331

産業革命の推進力となった蒸気機関の発明により19世紀の物理学において熱と動力に関する科学的考察が促進された。同時にそれは近代国家形成に影響を与え、さらには産業革命の反動として反科学主義やロマン主義なども生み出された。ここではこの時代の社会的状況と科学との関係を理解する。物理学では熱力学が発展しエネルギー概念が成立するとともに電磁気学の基礎理論が完成するという新しい動きがあった。その後20世紀には科学はさらに飛躍的に発展し、数々の新技術が生み出された。現在、科学技術は社会・経済・政治のなかで重要な役割を果たす。後半部は現代科学の内容と社会的あり方について考察する。

■学修上の留意点

それぞれの科学史変革期における時代背景や社会的環境、思想や知識を十分把握し、科学の内容と発展へ至る経緯を調べ理解することである。

■参考文献

『近代科学の源流』伊東俊太郎著（中公文庫）

『西欧近代科学〈新版〉』村上陽一郎著（新曜社）

『科学の発見はいかになされたか』福澤義晴著（郁朋社）

科目コード	科目名	単位数
C10100	英語 I	2 単位

教材コード 000019

教材名 英語 I

著者名等 小川 睦子

■教材の概要

大学生の英語教本としてそれなりの内容を持ち、平常な英語で書かれた米小説, J.Cheever の Goodbye, My Brother と英小説, F.Towers の The Little Willow を取り上げました。読んで鑑賞してほしいと思いますが、それには文の構造を知って正確に読むことが大切です。英語は語順によって語句の機能が決まる言語です。『英語 I』ではこの2編の小説を使って文中における語句の位置と機能を理解する練習を第一に考え、注釈では複雑な構文をできるだけ詳しく説明しました。

■学修計画のポイント

文法書を参照して注釈の初めのページにまとめてある基本事項を復習してください。実際の英文は基本文型の中に分詞構文の句や関係代名詞の節が一見複雑に挿入されていますが、基本事項の繰り返しです。基本さえ押さえれば解釈できます。時々英文を写して構文を分析する練習が効果的です。辞書はこまめに引いてください。意味はその単語の文中の機能によって選択し、決して勘で訳さないこと。新しい単語は発音記号にも注目が必要です。

■学修上の留意点

- ① 基本の8品詞の働きをよく理解すること。
- ② 動詞を中心とした、5つの文型と日本語との関係を理解すること。
- ③ 以上の事を単語レベルで理解するだけでなく、句、節のレベルで理解すること。
- ④ 時には和訳を書いて、筋の通った解釈をしているかどうか確かめてみる。

■参考文献

今持っている文法書、新たに買うなら『英文法解説（改訂3版）』江川泰一郎著（金子書房）など。

科目コード	科目名	単位数
C10200	英語Ⅱ	2単位

教材コード 000020

教材名 英語Ⅱ

著者名等 高橋 公雄

■教材の概要

現代英語の理解のために、イギリス、カナダ、アメリカの三人の作家の短編小説で教材を編んである。現代の作家の書く英文はひと昔前のものに比べ、素直な構文で、それでいて美しい。そうした特徴を楽しみながら、英文を読み解く喜びを味わうように、注釈も親切に書かれている。内容理解のためには基礎的な文法、単語、熟語の知識を修得の必要性はいうまでもない。その上に、美しい日本語の書ける努力を忘れないでほしい。

■学修計画のポイント

とにかく辞書を引きつつ、意味をとみましょう。英語は頭から読み下すものです。後ろから訳し上げようとせず、前から出て来た単語順に意味をとってください。まず、主語と動詞をつかみ、次に目的語・補語、そして修飾語の順に英文を把握していきましょう。さらに大切なことは、テキストの文脈をしっかりとさえながら読むということです。がんばりましょう！

■学修上の留意点

- ① verbals（準動詞）をしっかりとやっておこう。文構造の知識を再認識しておきたい。
- ②（複合）接続詞－ほとんど熟語に近いもの－を勉強しよう。

■参考文献（主として文法取得のために）

『英文法解説（改訂3版）』江川泰一郎著（金子書房）

科目コード	科 目 名	単位数
C10300	英語Ⅲ	2単位

教材コード 000021

教 材 名 英語Ⅲ

著 者 名 等 真野 一雄・金子 利雄

■教材の概要

本教材は Lynd と Russell の随筆と、Tolkien の小説をとりあげています。随筆と小説という形式の違った読物に慣れ親しんでいただくことが第一目標です。次に、注釈の相違からわかるように、前半では正確な構文解釈ができるように文法事項の説明に力点が置かれており、後半では行間の意味を取ることと英語で意味を解釈することをねらいとしています。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 10

英文を日本語に訳す際に、正しい意味の通った日本語になっているかどうかを確認すること。正確に文構造を理解するために、注釈の説明と練習問題を試みることは効果的です。それでも理解し難い人は、基礎的文法書を参照してください。

ページ 11 ～ 33

この単位では、先程の文構造を正しくとらえるだけでは文の意味を正確に理解できません。注釈に基づいて、語句の二重意味構造を文脈から、あるいはイマジネーションからつかむようにしてください。

■学修上の留意点

- ① 英文和訳ができること。
- ② 8品詞の働きを理解すること。
- ③ 5文型と動詞の種類を理解すること。
- ④ 指示語の理解すること。

■参考文献

『英文法解説（改訂3版）』江川泰一郎著（金子書房）

科目コード	科目名	単位数
C10400	英語Ⅳ	2単位

教材コード 000371

教材名 『Get It Write コーパス活用英文ライティング入門』

著者名等 市川 泰弘・Peter Serafin

出版社名 金星堂

■教材の概要

英語の技能には Reading, Writing, Listening, Speaking の4技能がある。その中で Writing に関して多くの学生は英語の日本語に「訳す」作業を行い、英語のニュアンスを理解しようすることはまれである。この教材は Non-native Speaker が間違いやすい表現を選び、どのようにすれば英語らしい英語を書くことが出来るかを理解するために作られた教材である。さらに日本人が苦手とするパラグラフライティングの基礎を理解するセクションも加えられている。さまざまな表現が項目ごとにまとめられ、また使い方については Passage によって具体例がしめされている。

■学修計画のポイント

最初に Passage が示されているので、太字 (bold) になっている表現を注意しながら、どのようなことを伝えているのかを理解する。2～3ページは Exercise になっている。Exercise A はどちらがより適切な表現の英文なのかを理解する。わからない場合は日本語訳をつけてみて、どこが問題なのかを考えてみる。Exercise B はどこが英文として誤りであるかを見つける。誤りがある場合とない場合があるので注意する。どこが間違いかわからない場合は日本語訳をつけてみるとよいであろう。どうしてもわからない場合は Common Errors を参照しても良い。Exercise C はできるだけ日本語の直訳はさけ、英語らしい表現を意識しながら作文してみると良い。Paragraph Writing では Passage の英文を参考に、Paragraph Writing の基本を理解し、練習問題を行ってもらいたい。

■学修上の留意点

すぐにヒントや答えに頼るのではなく、出来る限り自分の力で英文を完成させたり、間違いを指摘してほしい。また、調べなくてもわかった部分と調べてわかった部分、調べてもわからなかった部分をちゃんとまとめて、さらに定着するように努力をしてもらいたい。

■参考文献

Collins COBUILD for Advanced Learner's English Dictionary Longman Dictionary of Common Errors

科目コード	科目名	単位数
C10500	英語V	2単位

教材コード 000023

教材名 英語V

著者名等 田室 邦彦

■教材の概要

Xenophobe's Guides「外国人恐怖症の人のために書かれた、(外国人についての)ガイドブック」と銘打たれた叢書の一冊である本書は、鏡の中の鏡に映っているようなイギリス人自身の外国人恐怖症も含めて、イギリス人の思想・言動及びイギリスの社会制度の、多少なりとひねこびた側面の戯画である。外国人がイギリス人の言語表現に触れるとき、その言語表現の前提となっていて従って明示されていない、イギリス人が共有している思想や相互についての知識などを、その解釈に織り込めないために、理解に苦しむ場合が少なくない。その意味での言語の背景的知識を得るのに本書は益するところが多いであろう。また、一瞬の油断もできないイギリス流のユーモアで一ひねりした文体は、イギリス英語のユーモアの修辞法あるいは論理を知るためのいい素材となると思われる。

■学修計画のポイント

上に記したような文体であるために、言葉と言葉との歯車がかちっと噛み合わないで焦ることが多いと思われる。そういうときには、だまし絵を眺めるように、暫く時をおいて改めて眺めていただきたい。ジグソーパズルのすべてのピースがピッタリ合う喜びを得られるであろう。

■学修上の留意点

語注はすべて English-English の学習辞典からの引用である。英英辞典の常として、その定義から、それぞれの語句に、それを他の語句から区別するどのような意味要素が含まれているかがよく判るはずである。その用例から、その語句が用いられる典型的な文脈や連語関係 (collocation) が見える。しかし語句が本当に理解できるのは、現実の使用の中からである。こう使うのかと頷きながら語句をものにしていただきたい。

■参考文献

テキスト編纂から数年の間にインターネットで得られる情報量は格段に増大してきた。Oxford Advanced Learner's Dictionary (<http://www.loup.co.uk/elt/oald/>) も Cambridge International Dictionary of English (<http://www.longmanwebdict.com/>) など今では online で引くことができる。活用していただきたい。

科目コード	科 目 名	単位数
C10600	英語基礎	2単位

※この科目は文理学部文学専攻（英文学）は不配当です。

教材コード	000294／000313	配本申請時セットコード200004
教 材 名	『Welcome to College English コミュニケーションのための大学英語入門』 『Welcome to College English コミュニケーションのための大学英語入門』(学修用ガイド) ※2冊組み	
著 者 名 等	大島 眞・加藤 忠明・菊地 圭子・竹前 文夫・松本 理一郎・W.F.O'Connor	
出 版 社 名	南雲堂	

■教材の概要

高等学校で学ぶべき英語の復習を目標に作成されており、また学び直すのにも役立つ生涯学習用の教材でもあります。各 Unit は Point 解説、日米の異文化理解に役立つ英文（Culture Note）、3つのレベルの演習問題で構成されています。別冊「学習用ガイド」では詳しい解説、演習問題の解答、訳例等が記されています。

■学修計画のポイント

各 Unit の Point にある例文、Culture Note の英文をノートに何回も書き写しましょう。そして一人でも必ず声を出して読んでください。声を出して読むことが大切です（Culture Note の英文は CD に収録されています）。英語のリズムと正しい発音を覚えてください。

レベル1～3の演習問題の答えは教材に書き込まないで、ノートに書きましょう。正しいか誤りか、誤りならどこが誤りか、なぜ誤りか「学習用ガイド」で確認します。自分で考えることが重要です。いきなり「学習用ガイド」を見てはいけません。こちらの英文も声を出して読んでください。

■学修上の留意点

英語と日本語の発音は異なります。「学修計画のポイント」でも記したように正しい発音・リズムを習得することも大切です。教材 Unit 6 で発音とアクセントを学修してください。個々の発音について、さらに学修したい人は下記の参考文献の CD を聞いて、英語の発音に耳を馴らし、同じように言えるように練習を積み重ねてください。

■参考文献

『英語の発音がよくなる本 CD 2枚付』巽一郎（中経出版）

他にも同様な CD 付の本が数社から出版されています。いくつか書店に常備されているでしょう。

科目コード	科目名	単位数
D10100	ドイツ語Ⅰ	2単位

教材コード 000024

教材名 『あなたのドイツ語―授業のための文法講義ノート』

著者名等 佐々木 稔・金成 陽一

出版社名 大学書林

■教材の概要

ドイツ語の文章構造を基本から平易・詳細に説明し、複雑だといわれる変化詞の語形変化についても、理解しやすいように表示されている。ドイツ語文法の要といわれる「格」の用法の理解から、配語法に基づく文章構造の分析にいたるまで、ドイツ語文に関する全体の知識が無理なく修得できるよう配慮されている。文法の説明文も丁寧に付されており、例文にはすべて訳文がつけられているので、初心者の方の独習用教科書としては最適なものだと考えられる。

■学修計画のポイント

ページ1～23

ドイツ語の文法構造を支える一方の柱ともいべき「格」の用法について、平易な例文をあげながら詳細に説明し、初心者がドイツ語の学修に無理なく入っていけるよう記述されているので、ゆっくり丁寧に学修してほしい。

ページ24～41

「再帰動詞」と「非人称動詞」という新しい動詞の用法や「形容詞」や「副詞」の用法という、ドイツ語文の意味構造の微妙なニュアンスを規定する品詞の特性について学ぶ。「接続詞」の用法も含めて新しい文法の特徴について学修する。

ページ42～55

ドイツ語の文章構造を特色づける「時称」、とりわけ助動詞と本動詞の組み合わせによって表現される「複合時称」、未来形や完了形の文法構造について学ぶ。

ページ56～74

時称の助動詞と共に、文章のニュアンスを表わす「話法」、文章の形態を表わす「受動」の助動詞、基本動詞がさまざまな前綴字と結合して形成される「複合動詞」、動詞の意味の微妙なニュアンスを添える「接続法」について学修する。

■学修上の留意点

- ① 格の用法に基づく「冠詞類」の格変化。動詞の現在人称変化。
- ② 形容詞の格変化、比較変化。再帰動詞・非人称動詞の用法。接続詞の用法。
- ③ 動詞の時称形態、とくに複合時称の形態。
- ④ 話法の助動詞の用法。受動文の構造。複合動詞の種類。接続法の用法。

■参考文献

- 『はじめて学ぶドイツ語（新装版）』榎本重男著（東洋出版）
 ※『ひとりで学べるドイツ語』榎本重男著（東洋出版）
 『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』中島・平尾・朝倉著（白水社）

科目コード	科目名	単位数
D10200	ドイツ語Ⅱ	2単位

教材コード 000441

教材名 『ハンブルグの風 ドイツ語文法読本』

著者名等 川嶋 正幸・中村 憲治・Klaus Schlichtmann

出版社名 朝日出版社

■教材の概要

「ドイツ語Ⅰ」で学んだドイツ語文法の基本的な知識を復習し、ドイツの文化・生活・歴史に触れる文章を辞書の助けを借りながら読み、さらにテキストに即した練習問題を解くことによって、内容の理解と文法的基礎の確立ができるように配慮されています。また添付されているCDをよく聞き、自分の口で発音し、それを自分でしっかり聞き取ることによって、単語の発音やアクセントのみならず、文章のイントネーションまでもマスターすることができます。文章を覚えてしまうくらい何度も発音して下さい。

■学修計画のポイント

ページ iii ～ 33

- ① 単語の発音をしっかり復習し、主語の人称によって変化する定動詞の人称変化形、人称代名詞や所有冠詞、名詞の性・数・格によって変化する冠詞類の格変化をしっかり復習して、ドイツ語の基本構造の核となる部分に関する知識を整理してください。
- ② (ページ18より) 前置詞、話法の助動詞、分離動詞や非分離動詞、再帰動詞、非人称動詞、形容詞の用法や形容詞の比較変化といった、ドイツ語の基本構造を補完する部分を復習してゆきます。これ以降に復習してゆく、時制、関係文、態、接続法なども、これまでの部分がしっかり理解できていれば容易に理解できるはずですが、基礎をしっかりと固めないと結局空中分解してしまうことになりますので、あわてずにじっくりと理解するようにしてください。

ページ 34 ～ 51

- ③ 動詞の三基本形(不定詞、過去基本形、過去分詞)の構造と時制をここでしっかりと学び直します。動詞を運用するためには不規則動詞の三基本形をしっかりと覚えておく必要がありますので、教科書の52ページから57ページの主要不規則動詞変化表にある動詞を覚えるようにしてください。
- ④ (ページ42より) 関係文と受動文、そして接続法の構造を復習します。接続法は、日本語の尊敬語や謙譲語のように難しいと敬遠されがちです。しかし尊敬語や謙譲語でも、それが尊敬語や謙譲語であることが解れば、あとはどのような使い方が考えればよいはずで、接続法の構造は規則的で、接続法であることを見抜くことは易いからです、あとは何のためにこの接続法が使われているか、一つ一つ理解してゆけばよいのです。是非文法書を手がかりにじっくり復習してください。

■学修上の留意点

- ① 単語の発音。動詞の現在人称変化。冠詞類の格変化。
- ② 前置詞の格支配。話法の助動詞の用法。複合動詞や再帰動詞、非人称動詞の用法。形容詞の用法。
- ③ 動詞の三基本形。時称の形態。
- ④ 受動文の形態。関係文の構造。接続法の用法。

■参考文献

- 『よくわかるドイツ文法』大岩信太郎著(朝日出版社)
『必携ドイツ文法総合まとめ(改訂版)』中島・平尾・朝倉著(白水社)
『自習ドイツ語問題集』尾崎盛景 高木実 共著(白水社)

科目コード	科目名	単位数
D10300	ドイツ語Ⅲ	2単位

教材コード 000547

教材名 『私たちと環境問題（新訂版）』

（学修指導書別冊）

著者名等 Herman Troll／大串紀代子

出版社名 郁文堂

■教材の概要

教科書『私たちと環境問題（新訂版）』（Denk an die Umwelt!）は、11の章で環境問題とは何かを、その発生から実際の環境被害を具体的に描写し、あるべき環境への具体的な提案や将来への展望を、初級のドイツ語文法を理解している学生諸君なら十分に理解が可能な平易な文章で綴っているものです。環境問題は日本にとっても決して過去の問題ではありませんから、環境先進国といわれるドイツの環境への取り組みはとても興味深いものであり、参考となるものです。

■学修計画のポイント

テキスト全体が11の章からできていますから、それぞれ3つの章を一つの段階と考えてください。最後の段階は2つの章と全体のまとめです。ドイツ語Ⅰ、Ⅱで学んだ初級ドイツ語の文法知識があれば基本は十分ですので、その復習をかねて、テキストを最初からゆっくり読んでいってください。分からない語や言い回しがあれば、ていねいに「独和辞典」を引いて、構造が把握できない言い回しや文章に出会った時は、文法の教科書（「ドイツ語Ⅰ」）を手掛かりに、日本語としてこなれた訳を目指すのではなく、日本語として意味が通ればカナ釘流の直訳でも構いませんので、あきらめずにがんばって訳してみてください。一文毎にノートに書き写して、一文ずつ訳をつけてゆく方法をお勧めします。

■学修上の留意点

ドイツ語Ⅲでは、文章の文法的な構造を再確認しながら、文章の意味を把握するコツを身に付けることを目的としますから、一文一文を、ドイツ語Ⅰ、Ⅱで学んだ文法を常に意識して、分からない点があれば復習しながら訳してゆくことになります。文章に現れてくる文法事項でまだ身に付いていないと思うものがあれば、ドイツ語Ⅰ、Ⅱのテキストの文法篇や可能であれば任意のドイツ語文法の参考書を参考にして、該当の事項をしっかりと補っておきませんと、単語の意味に引きずられて誤った解釈をしてしまうことになりかねません。あくまでも文章の形から意味を把握しようとしてください。

なおテキストの内容をきちんと理解するためには、文章の文法的な構造を把握するとともに、内容として語られている問題についても、基礎的な知識を知っていることが重要です。新聞などの記事に日頃から親しんでいる場合は、環境問題についても常識程度の知識は持ち合わせているはずですから、わざわざ図書を探して読む必要はありません。しかし扱われている問題について全く知らないと自覚している場合や、それについてもっと詳しく知りたいと思う場合は、図書館に行きますと自分が調べたい問題について書かれた図書は色々見つかるはずですので、それらの図書に目を通しておくことをお勧めします。例えばドイツの環境問題について書かれた図書も、図書館では容易に見つかると思います。

■参考文献

科目コード	科 目 名	単位数
D10400	ドイツ語Ⅳ	2 単位

教材コード 000442

教 材 名 『フリーダ伯母さん Tante Frieda』

著 者 名 等 ルードヴィヒ トーマ・長谷川 つとむ・川嶋 正幸

出 版 社 名 行人社

■教材の概要

教科書の『フリーダ伯母さん』は、ドイツのマーク・トゥウェインと称せられたルートヴィヒ・トーマ（1867 - 1921）が、20 世紀初頭、代表作『悪童物語』に続いて執筆した小品です。この作品でも、前作で描かれたトーマの分身ともいべきいたずらっ子が、ドイツのハックルベリー・フィンさながらに大活躍します。決して難しい文章ではありませんし、巻末に詳細な注解が添えてありますので、一文一文噛みしめながら読んで下さい。

■学修計画のポイント

教科書に書かれている文章の中には、最初は分かりにくいと感じる文章もあるかもしれません。模範的な文章でのみ構成されている「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の教科書の文章とは異なり、日常会話の文章では省略が行われたり、本来副文になるべきところが主文の形になったりすることがあります。このような文も少し読んでゆけば直ぐに慣れますし、判りにくい箇所も注解を参考にすれば難しいものではありません。すでに習得したドイツ語の文法の知識を基礎に、ゆっくりと読解の学修を続けてください。原文と訳文をノートに書き、文の構造を文法的に理解しながら、文意を把握できる意味の通った訳文を書くように努めてください。

■学修上の留意点

百年前の日本語は現代語とは随分違いますが、ドイツ語の場合、昔は存在しなかった言葉や、現在では無くなってしまった言葉、そして正書法を別にとすると、百年前のドイツ語と現在のドイツ語にそれほど大きな違いはありません。したがって基礎の文法力があれば、ゲーテでもトーマでも読むことができます。なお文学作品を訳す場合、例えばこの場合、トーマの文章にある生き生きとしたリズムを活かした日本語に訳したくなります。できればそれに越したことはありませんが、うっかりすると日本語に拘って原文から離れた訳を作りがちになります。そのような訳は困りますし、そのような訳には誤訳が隠れている場合が多いのです。直訳で全く構いませんので、読む人が主語や目的語をはっきり理解できるような訳を心掛けてください。

■参考文献

- 『中級ドイツ語の研究』信岡資生 藤井啓行 共著（朝日出版社）
『中級ドイツ語のしくみ』清野智昭著（白水社）

科目コード	科目名	単位数
E10100	フランス語Ⅰ	2単位

教材コード 000372

教材名 『新ゼフィール（フランス語文法の基礎） Nouverau Zephyr』

著者名等 E.E.F.L.E.U.K.

出版社名 早美出版社

■教材の概要

初級フランス語の習得に必要な文法事項が丁寧にかつ分かりやすく解説された教材です。しかも例文のすべてと練習問題の大半が付属のCDに収められているので、学修者は文法事項を頭で理解したなら、今度はCDを聞きながらそれを何回（何十回）と自分で発音して、フランス語を「音」として身に付けることが可能です（外国語は頭と口を使って覚えるものです）。

■学修計画のポイント

- ① 『フランス語Ⅰ』の「報告課題」の範囲対象は、文法面に関しては本教材の第1課から第6課前半（8～27ページ）ですが、基本的な単語に関しては『フランス語Ⅱ』をフルに活用してください。『フランス語Ⅰ』と『フランス語Ⅱ』の違いはレベルの違いではなく、前者が文法面での理解を目的としたもの、後者が基本的な語彙の習得を目的としたものです。
- ② また、『フランス語Ⅰ』の「報告課題」の範囲内には〈第1群規則動詞〉と呼ばれるものがいくつも出てきますが、それらもすべて『フランス語Ⅱ』に収められています。学修者は、フランス語Ⅰ・Ⅱの段階では、この2冊のテキストに全面的に依拠す形で学修を進めることが可能です。

■学修上の留意点

「報告課題」は全問が《発音記号の文字化》とその上での和訳です。また「報告課題」の内容を多少応用・変形して出題する「科目修得試験」にあっても、70%は同じ形式を取ります。したがって日頃の学修ではまず、「音」をしっかり身に付ける姿勢を心がけてください。

■参考文献

『フランス語Ⅰ』『フランス語Ⅱ』ともに、それぞれ文法面と基本的な語彙面では通信教育に最も適していると思われるものを選びましたので、これ以外に参考書は不要でしょう。ただし新しく始める外国語ですから、信頼できる仏和辞典が絶対に1冊は必要です。既に辞書をお持ちの方は構いませんが、まだお持ちでない方には「白水社」の『ディコ仏和辞典』がおすすめです。

科目コード	科目名	単位数
E10200	フランス語Ⅱ	2単位

教材コード 000373

教材名 『CD・イラストで覚えるフランス語基本 500 語』

著者名等 フランス語教育振興協会

出版社名 財)フランス語教育振興協会

■教材の概要

『フランス語Ⅰ』が主として文法面の理解と把握を目指しているのに対して、この教材は端的に基本単語の習得を目的としています。ここに収められている約 500 語は、英語にすればいずれも中学 1 年・2 年生レベルのものばかりですし、学修者が今後フランス語の学修を進めていく上で必要不可欠なものばかりです（逆に言えば、フランス語は英語ほど語彙が多くないので、実用フランス語検定試験の 5 級から 3 級くらいまでは、この中の 500 語で十分対応が可能です）。当然すべての例文が付属の CD に収録されていますし、また可愛らしい（＝微笑ましい）イラストが描かれているのも大きな魅力です。

■学修計画のポイント

- ① 『フランス語Ⅱ』の「報告課題」の直接的な対象範囲となるのは、文法面に関しては『フランス語Ⅰ』の第 6 課後半から第 8 課まで（27～37 ページ）ですが、それ以外に数（1～31）・曜日・月・季節などが含まれます。これらに関してはこの教材を使ってしっかり覚えてください。
- ② さらに『フランス語Ⅰ』の「報告課題」の中で出題されている〈第 1 群規則動詞〉や、報告課題フランス語Ⅲの中で出題されている〈不規則動詞〉の活用もすべて音声化されて収録されています。フランス語の学修は常に動詞の活用（人称変化）を覚えることが中心となります。ひとつひとつの単語を覚えるのは無論ですが、動詞の活用さえマスターしてしまえばあとは基本的に中学の英語と同じです。動詞の「現在形」の活用を覚えるという点でも、この教材は最適です。

■学修上の留意点

「報告課題」は全問が《発音記号の文字化》とその上での和訳ですし、また「報告課題」の内容を多少応用・変形する形で出題する「科目修得試験」にあっても 50% は同じ形式を取ります。したがって日頃の学修ではまず、「音」をしっかりと身に付ける姿勢を心がけてください。

■参考文献

『フランス語Ⅰ』『フランス語Ⅱ』ともに初級フランス語としては通信教育に最適と思われるものをチョイスしてありますので、これ以外に参考書は不要でしょう。内容的には中学 1 年生の英語と同じですから、〈分かる〉〈分からない〉ということはないはずです。あとは時間と労力を割いて〈覚える〉だけです。外国語の習得にあっては、〈分かる〉と〈覚える〉は完璧にイコールです。

科目コード	科目名	単位数
E10300	フランス語Ⅲ	2単位

教材コード 000374

教材名 『アルモニ』

著者名等 渡辺 公子

出版社名 駿河台出版社

■教材の概要

初級フランス語も後半部分になると次第に複雑になってきます。そこで『フランス語Ⅲ』用の教材としては文法上の説明が丁寧な1冊を選びました。『フランス語Ⅰ』『フランス語Ⅱ』と異なり、付属のCDは付いていませんが、音声面は『フランス語Ⅰ』の同じ個所の例文を参考にして補ってください。またこの上の『フランス語Ⅳ』で必要とされる文法事項（「半過去形」「未来形」「条件法」や「接続法」など）の基礎的な理解を助ける上でも役立つことでしょう。

■学修計画のポイント

- ① 『フランス語Ⅲ』の「報告課題」の直接的な対象範囲となるのは、本教材の第7課から第8課まで（32～39ページ）ですが、〈不規則動詞〉の現在形の活用に関しては『フランス語Ⅱ』が大いに参考になるはずです。
- ② また『フランス語Ⅲ』が対象とする「複合過去形」や「人称代名詞の語順」（本教材第7課）、さらには「代名動詞の用法」（本教材第8課）などは、いずれもフランス語を習得する上で非常に大切なものです。したがってそれらの文法規則を本教材を使って頭で理解したなら、今度は『フランス語Ⅰ』の当該個所の例文や練習問題のCDを何度となく聴き自分でも発音して、「音」として覚えてください（『フランス語Ⅰ』でも述べましたが、外国語の習得は頭と口を使って行なうものです）。

■学修上の留意点

「報告課題」は全問が《発音記号の文字化》とその上での和訳ですし、「報告課題」の内容を多少応用・変形する形で出題する「科目修得試験」にあっても50%は同じ形式です。したがって日頃の学修ではまず「音」をしっかりと身に付ける姿勢を心がけてください。

■参考文献

上述のように、〈不規則動詞〉の人称変化に関しては『フランス語Ⅱ』が大いに役立つでしょうし、文法事項の理解と把握という点では『フランス語Ⅰ』と『フランス語Ⅲ』で十分なはずです。前にも述べましたように、外国語習得にあっては、〈覚えた〉ことだけが初めて〈分かった〉ことになります。

科目コード	科目名	単位数
E10400	フランス語Ⅳ	2単位

教材コード 000347

教材名 『Voilà! ヴワラ』

著者名等 伊勢 晃・谷口 千賀子

出版社名 早美出版社

■教材の概要

初級フランス語も最終段階になるとかなり複雑になります。とりわけ最後の「条件法」や「接続法」などはもう中級の領域といってもいいくらいです。そこでフランス語Ⅳでは、文法上の説明が分かりやすく、かつCD化された例文の豊富なテキストを選びました。無論たんにフランス語Ⅳの範囲内の学修にとどまらず、フランス語ⅠからⅢまでの範囲内の復習をする上でも大いに役立つでしょう（フランス語は1度や2度の学修で習得できるほど容易ではありませんし、またすぐに口を突いて出てくる例文が多ければ多いに越したことはありません）。

■学修計画のポイント

- ① 『フランス語Ⅳ』の「報告課題」の直接的な対象範囲となるのは、第13課「半過去形／大過去形」から第20課「接続法」（52～83ページ）までです。中でも中心となるのは、第13課「半過去形」、第17課「単純未来形」、第18課「ジェロンディフ」、第19課「条件法」、第20課「接続法」と、いずれも動詞の《時制変化》《法変化》です。つまりフランス語の学修は、つねに「動詞の活用」が中心になります。この「動詞の活用」さえクリアしてしまえば、あとは基本的に英語と同じです。
- ② またCDこそ付いていませんが、『フランス語Ⅲ』にも分かりやすい説明が載っているので（第9課～第12課）そちらも是非参考にしてください。

■学修上の留意点

「報告課題」は全問が《発音記号の文字化》とその上での和訳ですし、また「報告課題」の内容を多少応用・変形する形で出題する「科目修得試験」も40%は同じ形式を取ります。したがって日頃の学修では、まず「音」をしっかりと身に付ける姿勢を心がけてください（「音」を伴わない学修は「語学」ではなく「考古学」＝「象形文字の解説」です）。

■参考文献

「参考文献」という訳ではありませんが、「報告課題」と「科目修得試験」のそれぞれⅠ～Ⅳに合格された方ならば、《実用フランス語技能検定試験》（通称、仏検）の4級合格は間違いありませんし、熟語や慣用表現をもう少し身に付ければ3級合格も十分に可能です。是非積極的にチャレンジしてみてください。

科目コード	科目名	単位数
F10100	中国語Ⅰ	2単位

教材コード 000456

教材名 『中国語キャンパス会話編（改訂版）』

著者名等 関中研

出版社名 朝日出版社

■教材の概要

本教材は会話に重点を置いた中国語入門教材である。各課は基本的に会話体の例文及びヒアリング・和文中訳を中心とした練習問題から構成されており、またそれぞれの課は易から難へ段階を踏みながら進むように配列されている。日常シーンで用いられる会話がほぼ網羅されている。必ず辞書を引いて意味を確認すること。なお、外国語学修においては実際の発音に触れることが不可欠であるが、教材のみでの学修ではなかなか難しい。幸い本教材にはCDが付属しているので、よく聞いて少しでもその欠を補っていただきたい。

■学修計画のポイント

1課以前は発音編であるが、説明のみに頼らず、付属CDを聞きながら何度も練習すること。練習問題については、形式の如何にかかわらず、全てについて日本語⇔中国語、中国語⇔日本語の訳ができるようにしておく。ピンインもすべて書けるようにしておく。また、バリエーションや会話に出てくる中国語についても、すべて日本語⇔中国語、中国語⇔日本語の両方の訳ができるようにしておく。新出単語には簡単な訳語が付されているが、これのみでは不十分である。参考文献として挙げた辞書等でより詳しく調べておくこと。

■学修上の留意点

- ①教材すべてを暗記するつもりで、繰り返し音読すること。
- ②和文中訳や中文和訳においてはレポートのポイントで挙げた点に注意されたい。

■参考文献

『中日辞典（第2版）』（小学館）

当面は小型の辞書で間に合わないことはないが、いずれは中型以上の辞書が必要となる。なお、電子辞書は初・中級の外国語学修には不適當であると心得られたい。

科目コード	科 目 名	単位数
F10200	中国語Ⅱ	2単位

教材コード 000457

教 材 名 『中国語キャンパス基礎編（改訂版）』

著 者 名 等 関中研

出 版 社 名 朝日出版社

■教材の概要

本教材は文法に重点を置いた中国語初級～中級教材で、中国語Ⅰで使用する教材の続編である。各課は基本的に散文と、それに対するキーワード・補充例文及びポイント（発展的文法）で構成されており、またそれぞれの課は易から難へ段階を踏みながら進むように配列されている。文法は説明を読むだけでは理解できない。練習問題をやることによって始めて理解し定着させることができるのであるから、必ず巻末のドリルを解かなければならない。なお、外国語学修においては実際の発音に触れることが不可欠であるが、教材のみでの学修ではなかなか難しい。幸い本教材にはCDが付属しているので、よく聞いて少しでもその欠を補っていただきたい。

■学修計画のポイント

練習問題については、形式の如何にかかわらず、すべてについて日本語⇔中国語、中国語⇔日本語の訳ができるようにしておく。ピンインも全て書けるようにしておく。また、本文・キーワード・ポイントなどに出てくる中国語についても、すべて日本語⇔中国語、中国語⇔日本語の両方の訳ができるようにしておく。新出語句には簡単な訳語が付されているが、これのみでは不十分である。参考文献として挙げた辞書等で詳しく調べておくこと。

■学修上の留意点

- ①教材すべてを暗記するつもりで、繰り返し音読すること。
- ②和文中訳や中文和訳においては、レポートのポイントで挙げた点に注意されたい。

■参考文献

『中日辞典（第2版）』（小学館）

中型以上の辞書が必要である。電子辞書は初・中級の外国語学修者には不適當であると心得られたい。

科目コード	科目名	単位数
F10300	中国語Ⅲ	2単位

教材コード 000517

教材名 『話す中国語 北京篇3』

(学修指導書別冊)

著者名等 董 燕・遠藤 光暁

出版社名 朝日出版社

■教材の概要

本テキストは、初級からの発展学修を通して中級レベルへのステップアップを目指し、より高度な領域に繋げていく内容となっている。『話す中国語 北京篇』シリーズは、北京に留学した主人公の日常生活を通して、段階的に中国語を学んでいくストーリー仕立ての教材である。こちらはシリーズ4冊中の第3冊目にあたるが、前2冊を見ずとも、この『北京篇3』単体での学修が十分可能である。テキストには日本語訳は載っていない。別冊の「学修指導書」を参考にしつつ、辞書を駆使することで学修を進めてほしい。

■学修計画のポイント

ページ2～43

テキストは、1課の学修に1日90～120分、2日間程度かけ、1ユニット（5課）学ぶごとに復習する。

ユニット1 北京のノミの市（第1課～第5課）“因为～所以～”“既然～就～”等

ユニット2 北京映画学院あれこれ（第6課～第10課）“虽然～但是～”“不管～都～”等

前半部分の復習。各ユニットと前・後半の復習には、巻末の「会話一覧」や各課の練習問題、CDを用いる。

ページ46～89

後半の学修も前半同様、1課に2日間程度かけ、1ユニット（5課）学ぶごとに復習をする。

ユニット3 「茶館」でおしゃべり（第11課～第15課）“非～不可”“不是～而是～”等

ユニット4 武術学校を訪問する（第16課～第20課）“以为～”“怎么个～法儿呢？”等

後半部分を復習した後、すべての課について総復習を行い、「会話一覧」やCDで本文の暗唱を目指す。

■学修上の留意点

各課の学修は以下の順で進めるとよい。

1日目 ①予備知識無しに音声（CD）を聴く。②黙読しつつ頭の中でざっと訳す。③単語を書き出し辞書で調べる。④文法例文を書き出して調べ「学修指導書」で訳を確認。⑤「応用会話」を訳し「学修指導書」で訳を確認。⑥本文を書き写し下訳を行う。

2日目 ⑦じっくり音声を聴く。⑧「表現練習」からヒントを得る。⑨本文の翻訳を完成させる。⑩「置き換え練習」⑪「応用会話」を書き写し日訳・中訳の練習。⑫音読・筆写・聴解を繰り返し行い、再度練習問題で定着度を確認。

■参考文献

『中日辞典（第2版）』依藤醇他編（小学館・北京商務印書館）等

※同程度（2000ページクラス書籍版）の中日辞典であれば他のものでもよい

『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂他著（同学社）

科目コード	科目名	単位数
F10400	中国語Ⅳ	2単位

教材コード 000549

教材名 『話す中国語 北京篇4』

(学修指導書別冊)

著者名等 董 燕・遠藤 光暁

出版社名 朝日出版社

■教材の概要

本テキストは、中国語中級レベルから、より高度な領域へのステップアップを目指す内容となっている。『話す中国語 北京篇』シリーズは、北京に留学した主人公の日常生活を通して、段階的に中国語を学んでいくストーリー仕立ての教材である。『北京篇1』で始まった主人公の留学生活は、この『北京篇4』において完結する。こちらはシリーズ4冊中の第4冊目にあたるが、前3作を見ずとも、この『北京篇4』単体での学習が十分可能である。テキストには日本語訳が載っていないため、別冊の「学修指導書」に一部日本語訳例を紹介している。それらを参考にしつつ、残りは辞書を駆使する等して学修を進めてほしい。

■学修計画のポイント

ページ2～43

1つの課の学修に1日90～120分、2日間ほどかけ、1ユニット学ぶごとに復習する。

ユニット1（第1課～第4課）バドミントンをする 会話文 “来着” “够～的” “不见得” 等

ユニット1（第5課）格格さんのはなし 講読文 読解練習

ユニット2（第6課～第9課）万里の長城に遊ぶ 会話文 “要不然～就～” “何况” 等

ユニット2（第10課）居庸関 講読文 読解練習

巻末の「会話一覧」や各課の練習問題、CDを適宜用いて学修をすすめること。

ページ46～89

前半同様、1つの課に2日間程度かけ、1つのユニットを学ぶごとに復習をする。

ユニット3（第11課～第14課）アニメ科をたずねる 会話文 “只是～罢了” “肯” 等

ユニット3（第15課）アニメーションの制作過程 講読文 読解練習

ユニット4（第16課～第19課）送別宴 会話文 “顺便” “～得不得了” “不比” 等

ユニット4（第20課）お別れのことば 講読文 読解練習

後半を終えた後、全課について総復習を行い、CD等を活用して本文の暗唱を目指す。

■学修上の留意点

各課の学習手順 [1日目] ①予備知識無しに音声（CD）を聴く ②黙読しつつ頭の中で意味をとる ③単語を書き出し辞書で調べる ④文法例文を「学修指導書」で確認 ⑤「応用会話」を訳し「学修指導書」で確認 ⑥本文を書き写して下訳を行う [2日目] ⑦じっくり音声聴く ⑧「表現練習」からヒントを得る ⑨本文の翻訳を完成させる ⑩「置き換え練習」 ⑪再度「応用会話」 ⑫定着度確認 ※課によっては④⑤⑧⑩⑪はない

■参考文献

『中日辞典（第3版）』小学館・北京商務印書館 編（小学館）

※同程度（2000ページクラス書籍版）の中日辞典であれば他のものでもよい

『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』相原茂他著（同学社）

科目コード	科目名	単位数
G10100	日本語 I	2 単位

教材コード 000295

教材名 『どんなときどう使う日本語表現文型 200 初・中級』（学修指導書別冊）

著者名等 友松 悦子・宮本 淳・和栗 雅子

出版社名 アルク

■教材の概要

『どんなときどう使う日本語表現文型 200』を教材にして、どういうときに（どんな場面で、どんなことばを使えばいいかを学修します。

教材には各課のはじめに「知っていますか」「使えますか」という“うでだめし”のコーナーがありますから、自分がどのくらい文型を知っているか、正しい使い方をしているかがチェックできます。学修内容についての理解確認は練習のコーナーで行ないます。

■学修計画のポイント

本課は「時間関係」「比較・対比」というような文型別に 20 課に整理されています。各項目は基礎と発展に分かれているので、基礎をしっかり理解してから、発展の文型に進みます。

“うでだめし”で自分の知識を知る→「本文」で文型の使い方を学修する→「練習」で学修した内容を確認するという順番に学ぶことをすすめます。教材の中にコラム欄が設けられていますが、文法を理解する上で重要な項目ですから、時間をかけて取り組んでください。

話しことば的な表現・書きことば的な表現など、図式された項目名を参考に、使用方法を理解してください。

■学修上の留意点

日本語能力の「書く」「読む」「話す」力は、この教材で養えます。文型がある程度理解できるようになったら、ニュースを聞くなどして「聞く」力の向上も心がけてください。聞いている内容を把握するには、語彙力が必要になりますから、教材で十分な語彙力を身につけることが大切です。

聞き手に意思を伝える「話す」力には、筋道のたった正しい文型理解とその使用が必要です。教材ではその理解力を養い、実践で発音に関する能力を養うよう、心がけてください。

■参考文献

『なめらか日本語会話（新装版）』富阪容子著（アルク）

※『読む聞く ニュースの日本語』片山朝雄著（アルク）

科目コード	科 目 名	単位数
G10200	日本語Ⅱ	2単位

教材コード 000460

教 材 名 『にほんご作文の方法（改訂版）』

著 者 名 等 佐藤 政光・戸村 佳代・池上 摩希子

出 版 社 名 第三書房

■教材の概要

教材として『にほんご作文の方法』を取り上げる。中級を対象とした教材だが、テーマや内容の掘り下げによって上級者にも活用できる教材である。1課から16課までさまざまな表現が「物の形」「前後関係」「因果関係」のようにテーマ別に項目だてられているので、目的に合った作文の技術を習得できる。作文力の向上は全体的な日本語力のアップにつながるので必須の学修項目である。また各課に作文の技術と重要表現が付されているので、具体的な使用法を自習し、練習問題で実力を養成できるよう構成されている。

■学修計画のポイント

本教材は作文に必要な表現を1回から2回に分けて、学修できるように構成されている。まずは作文技術を理解して使えるようになること、そののちこれらの表現が各課配当の文中にどのように使われているか確認して欲しい。短い語句を知るのではなく、文の中での使われ方を理解することが学修のポイントになる。練習を進めていくことで表現力が身につくので段階的に計画を立てて進めることが重要である。

■学修上の留意点

作文技術に取り上げられている文型を使って作例することが最も効果的な学修方法である。分からないことばや漢字は辞書で調べて正しく理解し、語彙量を増やすことにも留意すること。

■参考文献

- 『なめらかな日本語会話（新装版）』富阪容子著（アルク）
- 『にほんごよむよむ文庫 [レベル2]』vol.3（アスク出版）
- 『言語学とは何か』田中克彦（岩波新書）

科目コード	科目名	単位数
G10300	日本語Ⅲ	2単位

教材コード 000504

教材名 『改訂版 トピックによる日本語総合演習 ―テーマ探しから発表へ― 上級』（学修指導書別冊）

著者名等 安藤 節子・佐々木 薫・赤木 浩文・坂本 まり子・田口 典子

出版社名 スリーエーネットワーク

■教材の概要

このテキストは総合的な日本語の運用力を身につけるために作られている。本書は1～5の五つの単元に分かれているが、どれも現代日本を知る上に必要な情報をもとに①考えのもとになる発想 ②グラフを読む力 ③読み物を読んで理解する力 ④表現上重要な語句 ⑤アクティビティの順に構成される。「1 食文化」を通して日本の食事と文化を知る。「2 仕事」を通して日本人の就労意識を知る。「3 生活習慣と宗教」から日本人が大切にしていることを知る。「4 リサイクル」から循環社会について理解する。「5 ジェンダー」から日本社会の男女の領域意識を知る事ができる。各単元の項目にしたがって学修すると表現上必要な文法項目、読解の力など日本語を運用する上で必要な技能が身につくよう工夫が施されている。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 49

単元「1. 食文化」～単元「3. 生活習慣と宗教」

まずはその単元のテーマを意識して各質問に答えることが必要である。話し合うことは本教育システム上難しいので自身で考え短い文章を作成する。例えば「1 絶対食べたくないものは何か」一言でもいいからメモし理由も探ってみることを勧める。次に「食事をするときに大切だと思うこと」にも答えを書くこと。グラフを見てそのグラフから分かることをこれも書き出すことが大切である。そののち「読み物」を読んで読解の問題を解き、文法項目に挑戦してほしい。文法項目には例文が数例ずつ挙げられているから、単に与えられている問題だけではなくその項目をつかって短文を作成すること。アクティビティにも必ず答えること。たとえば単元「3 生活習慣と宗教」ではアンケートと口頭発表が課せられている。周囲の34人で良いので日本語でアンケートを行い、発表原稿を作ってみること。

ページ 51 ～ 82

単元「4. リサイクル」から単元「5. ジェンダー」

前半と同様に各項目に従って応答していくこと。単元4のアクティビティーとして文献調査と冊子作成が求められている。流れに沿って「文献調査」→「原稿作成」を進める事。冊子の作成は随意原稿作成の注意と表現は「手引き」テキスト106頁に書き方が載っている。①書き出しのことば→順序と展開のことば→引用と要約（例えば「によると」）→説明（「以上が文献からの内容である」などのことば）→考察（「と考える」「のではないだろうか」など）考察には主張や反論、結論、展望もある。短くても良いので原稿を書く練習をしてほしい。

■学修上の留意点

出来る限り「読み物」の引用元である原文を読んでもらいたい。読解の訓練、表現について多くを学ぶことができる。また単元は前後してもかまわないが、「はじめに」から「調査発表」までは段階を踏んで学修することが望ましい。教育システム上「発表」は困難だが発表原稿を作成して自分の考えを他者に伝える技術を身に付けて頂きたい。

■参考文献

各項目の「読み物」に引用した文献が記載されている。出来る限り原文を読んで新出語彙や表現を知ることが重要である。

科目コード	科目名	単位数
G10400	日本語Ⅳ	2単位

教材コード 000461

教材名 『日本への招待（第2版）テキスト』

著者名等 近藤 安月子・丸山 千歌

出版社名 東京大学出版会

■教材の概要

本教材は東大教養学部 of 短期交換留学生用テキスト（中・上級）として開発されたもので、短期間に効率よく学修できるよう配分されている。上級者にとっては日本語の習得と日本社会の理解は不可分だが、本教材ではこの観点から、意識の喚起—資料の提供—考察の整理（書く、読む、話す）が組織的に構成されている。漢字圏・非漢字圏出身のレベルに合わせ振り仮名の有無が分けられているので、自身の目的意識と能力に合わせて学修していただきたい。

■学修計画のポイント

教材の構成と流れは意図的に順序だてられている。意識の喚起と活性化をねらいとした「知っていることを話そう」では、簡単な作文を試みるのもよいであろう。資料は新聞、雑誌、随筆、グラフ、イラストなど多方面からのアプローチがなされているので丁寧に読解してほしい。テーマは独立しているので初めから順番に行く必要はないが、広範な資料に触れられるメリットを生かして、全テーマにあたること。「知っていることを話そう」—「ここから考えよう」と学修を進めながら語彙・文型を習得していくことが効率のよい学修計画ポイントである。

■学修上の留意点

はじめから振り仮名付を読むのではなく、出来る限り振り仮名のない文に挑戦していただきたい。本教材では資料としてイラストやグラフ、図が多用されている。これらをていねいに読んで理解すること。設問だけを解答していく学修とはまた違った確実な実力養成につながる。

■参考文献

教材の終わりに各課で参考として読むべき「参考図書」リストが付してある。各テーマ最低1冊から2冊は読破してほしい。

科目コード	科目名	単位数
H10100	保健体育講義Ⅰ	1 単位

教材コード 000395

教材名 保健体育講義Ⅰ

著者名等 吉本 俊明

■教材の概要

本書は体育の役割，文化としてのスポーツ，体育・スポーツの歴史，運動・スポーツと健康，我々を取り巻く環境の5章で構成されているが，いずれも健康という我々にとって最も基本的な権利に直接的・間接的に関わる知識をまとめたものである。

■学修計画のポイント

- ① 教育の中に体育が位置づけられているかを，我々個人個人が持っている欲求，社会が我々に何を望んでいるか，そして実際に体育ではどのようなことが経験できるのかについて理解し，体育の必要性についての認識を高める。
- ② 体育活動で中心的な位置にあるスポーツとはどのような特徴を持って，我々の文化として位置づけられてきたかについて理解することによって，スポーツに接する楽しさの認識を高める。
- ③ 体育が歴史の中でどのように位置づけられてきたかについて理解することは，体育の教育的価値を認識してもらうために必要な知識といえる。
- ④ 運動は我々にとって必要な活動であるが，多くの効果が期待されるとともに，無知な行動がむしろマイナスに働くこともある。適度な運動，健康管理とはどのようなことに気をつける必要があるかを理解することは，人生のどの時点でも必要な運動についての正しい認識を持つことが前提となる。
- ⑤ よりよい環境で健康的な生活を行うことは，誰もが望むところである。我々を取り巻く環境についての理解を深め，対応の仕方を学ぶことは不可欠である。特に文明の恩恵にあずかっている現代だからこそ，ますます必要となってきた知識といえる。

■学修上の留意点

5つの章が目指すことは，単なる知識に留まらず，それらの知識を土台とした運動の実践，健康の管理であることを強調しておく。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
H10200	保健体育講義Ⅱ	1 単位

教材コード 000037
 教材名 保健体育講義Ⅱ
 著者名等 吉本 俊明

■教材の概要

本書は、健康が生涯のテーマであるという観点に立って、レジャー・レクリエーション、体力づくり運動とスポーツ振興、体力の維持・増進とトレーニング、運動技能の向上という内容でまとめている。

いずれも、生涯にわたって、どのように運動・スポーツと関わっていくべきかという立場からまとめたもので、実践をともなう知識となることを期待したものである。

■学修計画のポイント

- ① 労働時間の短縮によってできた「ゆとりの時間」をいかに有効に過ごすべきかという観点から、広い視野に立った自由時間の過ごし方について理解する必要がある。
- ② 恵まれた物質文明の中で問題となってきた身体運動の必要性について、国の内外の公的機関が、どのような働きかけをしているかについて理解する必要がある。
- ③ 体力の維持・増進は、健康的な日常生活を過ごすために重要であることを理解し、実践に結びつける必要がある。
- ④ 得意なものは、興味もわき、自主的な行動に結びつくという観点に立って、運動技能の上達法を理解する必要がある。

■学修上の留意点

健康的な生活は、規則正しい生活を基盤とした上で、適度な運動をすることによって、形成される。したがって、知識を実践に結びつけて理解する努力をして欲しい。

■参考文献

- ※『国民の健康・体力づくりの現況』体力づくり国民会議事務局，総務庁青少年対策本部編（大蔵省印刷局）
- 『レクリエーション活動の実際』池田勝他編（杏林書院）
- ※『トレーニングの科学的基礎』宮下充正著（ブックハウス・エイテディ）

科目コード	科目名	単位数
K20100	憲法	4 単位

教材コード 000261

教材名 憲法

著者名等 廣田 健次

■教材の概要

我々が社会生活を営むうえで、必ず知っておかなくてはならないもの、それは社会秩序を維持するための規範であり、また根本組織に関する法律である。そして、無数の法律のなかでその礎をなしているのが憲法であり、それが法学を学ぶ者にとって一番はじめに接すべき重要な基礎科目といえる。本教材では、一般理論を体系的に解説するとともに、憲法解釈論も織りまぜ、日本国憲法全体を論理的・体系的に把握できるような構成を心がけている。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 115

1 ～ 65 ページ

憲法全体の総論ともいえる基礎理論（国家論、立憲主義等）、日本憲法史について学修する。憲法とは何か、に直結する問題である。また、国民主権と天皇制についても学ぶ。

36 ～ 115 ページ

日本国憲法の基本原理について、個々の文言を正確に理解し、その条文の解釈をする。また、基本的人権（国民の権利）を体系的に、その内容を明らかにしたい。その際、「公共の福祉」による制約をどう考えるかがポイントとなる。

ページ 117 ～ 228

117 ～ 188 ページ

国会と内閣について取り扱う。実際の政治に関連づけて考察するとよいだろう。統治機構に関する規定は、ただ文言上のものではなく、社会のなかで生きているのだということを実感してほしい。

190 ～ 228 ページ

裁判所（司法制度）について学修する。特に、司法権の概念を正しく理解することが肝要である。さらに、財政、地方自治の問題、また、憲法の改正、そして憲法の最高法規性（42 ～ 43 ページ）についての考察を行う。

■学修上の留意点

- ① 基礎理論と日本憲法史。
- ② 基本的人権の解釈と公共の福祉。
- ③ 国会の憲法的地位、内閣の組織。
- ④ 司法権の概念と違憲審査制、財政の意義、地方自治の本旨、憲法の改正の限界、最高法規性の意味。

■参考文献

- 『憲法—体系と争点』榎原猛著（法律文化社）
『憲法講義（上）・※（下）〔新版〕』小林直樹著（東京大学出版会）
※『憲法Ⅰ・Ⅱ』杉原泰雄著（有斐閣）
※『憲法（第3版）』佐藤幸治著（青林書院）
『憲法（第3版）』樋口陽一著（創文社）
『日本国憲法』名雪健二著（有信堂高文社）

科目コード	科目名	単位数
K20200	民法Ⅰ	4単位

教材コード 000407

教材名 民法Ⅰ

著者名等 山川 一陽

■教材の概要

- ① 本文は、いわゆる制限能力者である未成年者の行為に伴う未成年者の保護という問題とその保護をどこまで及ぼすのが妥当かという観点から一定の限度を超えた場合には未成年者を保護するよりもその取引の相手方を保護すべき場合が出てくることから、そのバランスを民法がどのように取っているのかについて検討して欲しいということから出題されたものである。
- ② ここでは民法総則のうちの法律行為論の中での重要問題である代理制度、特に表見代理制度が問題とされている。代理制度は資本主義社会にあっていわゆる私的自治という問題についてその拡張と補充という側面を持っている。そして、そのような機能がいわば代理制度についての生理的機能ということができよう。そして、その反面として代理権無く代理行為がされた場合、つまり代理制度の病理的現象が現れた場合にそれを制度的に安定したものとして処理することが要請される。ここに表見代理制度がある。本問はその表見代理制度について比較的複雑な二類型の表見代理制度の規定をどのように用いて事案を解決するべきなのかが問題とされている。各表見代理制度の必要とされている要件が何かということをはっきりと把握した上でその応用問題として検討して欲しい。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 152

制限能力者については青年被後見人、被保佐人、被補助人、未成年者があるが、ここでは未成年者について問題とされている。そこで、取りあえず制限能力者とは何か、制限能力者がどのような保護を与えられているかについて全般的な勉強をしていただきたい。

そして、制限能力者の保護ということはその取引の相手方の犠牲において成り立っているということを認識し、制限能力者の保護の限界ということを考えて欲しい。そのような理解のもとに、教科書の第一章の第二節部分にしっかりと目を通してほしい。そして、その上で、第三節を読んで理解して報告をまとめていただきたい。

ページ 153 ～ 360

代理制度及び無権代理制度についての全般的な勉強をし、その上で無権代理制度、とりわけ表見代理制度についての勉強をすることが必要となる。その意味では教科書第四節の代理制度以降について目を通して頂きたい。しかる後に無権代理制度とりわけ表見代理制度について集中的な勉強をすることが必要となる。表見代理については三類型があるが、ここではそのうちの代理権消滅後の表見代理と権限踰越の表見代理規定が問題となりそうである。そこで、この両者について必要とされる要件論をしっかりとみていただきたい。その上で教科書に書かれている表見代理権規定の競合という部分を勉強し書き上げて欲しい。

■学修上の留意点

- ① 未成年者に限定して質問されているが、とりあえず制限能力者制度の全般について理解をし、その上で未成年者の場合に限定して制度的な問題と解釈上の問題とについて触れたい。
- ② この問題についてはかなり複雑な議論が要求されるところから、法律関係について十分に整理をしてレポートを作成することが必要となろう。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
K20300	刑法 I	4 単位

教材コード 000066

教材名 刑法 I

著者名等 板倉 宏・設楽 裕文・南部 篤

■教材の概要

人間の社会が、犯罪という現象に対処するためにつくりだしたシステムが刑罰制度（刑事司法制度）であるが、その中心に位置するルールが刑法である。本書は、この、犯罪と刑罰の実体を定める法＝刑法の総論を扱う。

刑罰とはなにか、なぜ犯人の自由や生命を奪うことが正当化されるのか、刑法を支配する基本原則はなにか、どのような場合に犯罪は成立するか、こうした問題を、知的関心を研ぎ澄まして、自らの頭で考えていくための手がかりとなるよう編まれたのが本教材である。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 110

刑法総論を学ぶにあたり、はじめに、刑法の意義と機能を理解しなければならない（1章）。続いて、刑罰についての考え方や死刑の問題など、古くから議論され、今日でも鋭い理念的対立のある根本問題＝刑罰論を考えていく（2章）。

次いで、刑法を支配する二つの基本原則（3章）と、刑法という法の適用（4章）をめぐる問題、さらに、学説史にあらわれた刑法理論の発展過程（5章）へと考察をすすめる。

そして犯罪はいかなる場合に成立するかという犯罪論こそ、刑法総論の骨格をなす重要部分である（6・7章）。ここでは、犯罪論体系の諸問題を中心に、行為論・構成要件理論・法人処罰・不作為犯・因果関係などについて学ぶ。

ページ 111 ～ 202

犯罪論の実質・内容をなすのが、違法性（8章）と責任（9章）である。ここでは、違法性の本質をめぐる理論問題と違法性阻却事由について学び、責任の本質をふまえ、責任能力・故意・過失へとすすむ。次に、犯罪が完成に至るプロセスを刑法はどのように捉えるか、そして、予備・実行の着手・中止犯等、未遂をめぐる諸問題（10章）を検討する。

一個の犯罪に複数の者が関与する場合、どう扱うかという共犯（11章）と、逆に一人が複数の犯罪に関わるときの処理という罪数（12章）を考察し、総論最後のテーマとして刑罰適用の問題（13章）を扱う。

■学修上の留意点

刑法は一とくに総論は一理論的・抽象的なアプローチが多くを占める分野である。ともすれば、体系的整合性のみに目を奪われがちにもなる。しかし、犯罪が人間の営為であり、リアルな現実の問題であることと、刑罰が人々の社会生活を左右する制度だという、現実感覚を忘れてはならない。

■参考文献

『刑法総論（補訂版）』板倉宏著（勁草書房）

科目コード	科目名	単位数
K30100	民法Ⅱ	4単位

教材コード 000408

教材名 民法Ⅱ

著者名等 堀切 忠和・清水 恵介

■教材の概要

本教科書は、民法第2編「物権」に関する概説書であり、一般には物権法及び担保物権法と呼ばれる領域を扱っている。物権法は、堀切が執筆を担当し、基本事項についての丁寧な説明を心掛けた。担保物権法は清水が執筆を担当し、複雑な担保法制の体系の理解を促すことに配慮した。

■学修計画のポイント

ページ1～182

- ① 本科目履修前に民法Ⅰ（民法総則）を習得していることが好ましいが、民法Ⅰを未履修もしくはこれと並行して履修している学生の便宜のため、民法全体の総論的記述を設けた。
- ② 財産法は物権法と債権法とに大別されるので、その両者の違いについて確認して欲しい。その際、物権の支配権性、排他性、物権法定主義、優先的効力などの物権の基本的な特質を意識して覚えて欲しい。
- ③ 物権の効力として最も重要なものは、物権的請求権である。特に費用負担との関係が問題となる。
- ④ 不動産物権変動については、どこまで登記を厳格に求めるか、調査官解説（下記参考文献③）を参考に判例の立場について批判的に且深く考察するように。
- ⑤ 動産物権変動については、占有に公信力があること（即時取得制度）を中心に勉強して欲しい。
- ⑥ 所有権については、相隣関係と共有が重要である。
- ⑦ その他の用益物権については、地役権が重要である。

ページ183～330

- ① いわゆる担保物権と言われる領域は、債権総論（民法Ⅲ）と重なる領域が多いので、合わせて勉強されることを勧めます。
- ② 担保物権の通有性については、各担保物権の基本的な効力と照らし合わせながら、それぞれ確認して欲しい。
- ③ 留置権については、同時履行の抗弁権（533条）との違いに配慮して欲しい。
- ④ 先取特権については、それぞれの先取特権が認められる根拠の他、物上代位について、特に丁寧に教科書を読んで欲しい。
- ⑤ 質権については、抵当権との違い及び転質について、丁寧に勉強して欲しい。
- ⑥ 抵当権が、担保物権の中で、最も重要な部分である。全体について、判例集と照らし合わせながら教科書を読み進めて欲しい。
- ⑦ 非典型担保については、譲渡担保が最も重要である。特に、動産譲渡登記制度が出来たことに配慮して、勉強して欲しい。

■学修上の留意点

物権法の領域については、まず物権と債権の違いを学んで欲しい。そのうえで物権変動における基礎理論、特に公示の原則と公信の原則の違いについて丁寧に教科書を読んで欲しい。そのうえで、参考文献等を手がかりに、不動産については177条を巡る諸問題、動産については即時取得制度（192条～194条）について、十分に検討されることを望む。

担保物権法の領域については、担保の特質・通有性について把握した上で、各担保物権の役割・効力の違いに配慮して教科書を読み進めて欲しい。特に現在重要な役割を営む抵当権と譲渡担保制度については、参考文献等を手がかりに深い学修を求める。

■参考文献

- ① 『別冊ジュリスト 民法判例百選Ⅰ（第6版）』（有斐閣）
- ② 『別冊ジュリスト 家族法判例百選Ⅰ（第7版）』（有斐閣）
- ③ ※最高裁判所判例解説民事篇・法曹会（いわゆる「調査官解説」と呼ばれる文献である。）
なお最高裁判所のホームページで判例の検索が出来るので、事例の検討の素材として欲しい。
- ④ 『別冊法学セミナー 基本法コンメンタール 物権（第5版）新条文対照補訂版』（日本評論社）

科目コード	科目名	単位数
K30200	民法Ⅲ	4単位

教材コード 000354

教材名 民法Ⅲ

著者名等 水辺 芳郎

■教材の概要

民法Ⅲ（債権法総論）は、債権はどういう権利であるか。どういう効力をもつか。債権者・債務者がそれぞれ複数の場合（例えば、保証債務・連帯債務）、関係者の関係はどうなるのか。債権・債務それ自体を取引の対象にできるのか。どういう事実が債権を消滅させるのかなどについて取り扱うことになる。債権の多様化に伴い講述すべき内容が広範囲に及ぶため説明は抽象的になる傾向をもつ。そこで講述に当たっては具体的事例を多く引用して対処している。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 264

1 ～ 49 ページ

- ① 債権の意義と性質を物権と対比し、債権法の特徴を法制度的に把握すること。
- ② 債権の内容と債権の分類。特に分類する意味は何か。各債権の内容と責任の限界は。特に種類債権・選択債権の特定と効果。利息制限の限度などに注意。

50 ～ 126 ページ

- ① 任意履行のない場合の債権者の取りうる手段は。強制履行の手段とその相互関係は。
- ② 債務及び履行と履行障害との関係。債務不履行における債務の概念は。
- ③ 債務不履行の三分類は必要か。債務不履行の要件と損害賠償の範囲はどこまでか。

127 ～ 176 ページ

- ① 債務者代位権の要件と効用・拡張との関係。債権者取消権の性質と訴訟の形式・要件・効果について関連づけての整理。
- ② 債権の相対性・非公示性と第三者の債権侵害の限界。

177 ～ 264 ページ

- ① 多数当時者の債権関係を担保制度として位置づけ、分割主義への対応を検討。
- ② 不可分債務・連帯債務・保証債務を比較し、それぞれの特徴を把握し、関係者相互の関係を検討。不真正連帯債務の制度は必要か。

ページ 265 ～ 415

265 ～ 306 ページ

- ① 財産権として債権・債務の取引の必要性。
- ② 債権・債務の移転の分類と各効力。契約の当事者はどうなるか。

307 ～ 415 ページ

- ① 債権消滅の原因と性質を明確に。
- ② 弁済しうる者、弁済受領権者、弁済の場所・提供の制度はどうあるべきか。受領遅滞は債務不履行か。
- ③ 代物弁済と更改の比較、機能について検討
- ④ 相殺の機能と相殺の要件。特に債権の二重譲渡・差押と相殺との関係。

■学修上の留意点

- ① 契約によって発生した債権では、解釈上は当事者の意思を基本的に重視し、それ法制度的にどこまで認められるかに配慮し、その接点に留意すること。
- ② 民法Ⅲの内容は抽象的なため理解しにくいだが、引用した具体的事例、あるいは不良債権の後始末はどうなるのかといった現代的課題と関係づけて学ばれると興味が湧くし、理解が深まるであろう。
- ③ 特に学修計画のポイントで指摘した事項につき留意。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
K30300	民法Ⅳ	4単位

教材コード 000355

教材名 民法Ⅳ

著者名等 水辺 芳郎

■教材の概要

教材の当初に書いてあるように、債権法各論は基本的には債権の発生原因についてまとめたものである。大別すると当事者が欲したことに対応する法制度の部分（契約法）と、当事者が欲したが故にではなく、法秩序維持の観点から、法定の条件を充足したならば、債権を発生させる部分（事務管理以下）とからなる。この基本的見方から前者と後者とを区分して講述している。また、講述の内容は、法律行為論、物権変動論、債権法総論とも関連するのでこの点に配慮している。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 274

契約総論と契約各論の一部が、第1分冊の対象である。前者は、契約各論にわたる総則である。①契約にはどんなものがあるか。それぞれの契約の制度趣旨やその内容について特徴を知るとともに、②契約としてどのような共通点があるか、共通点がどのように整理統一的に把握できるか、という観点から勉強すると興味がわいてくる。①が契約各論において示されており、②が契約総論における内容となっている。また、契約は、法律行為の一内容であるから、法律行為一般と関連する事項は、「民法Ⅰ」の教材と対照しながら研究を進めることが必要であり、理解を深めることとなる。

ページ 275 ～ 451

事務管理・不当利得・不法行為は、法が定めた一定の要件を充足すると当然に債権が発生することになる。法定債権法においては、なぜ事務管理上の債権・債務、不当利得に基づく返還請求権、不法行為による損害賠償請求権・差止請求権が発生するのか、どのような要件が必要か、その内容はどのようなものか、どのような者が債権関係の当事者になるのか、といった視点で勉強するとよい。この関係は、原則的には法制度の設定した基準によって決定されるので、ことにそれぞれの権利の成立要件、立証責任の配分などに十分注意を払わなければならない。

■学修上の留意点

- ① 契約総論の部分では契約の成立要件、有効要件、双務契約における相互の関係、契約解除の要件と効果。
- ② 契約各論では売買・賃貸借・消費貸借・請負・和解などの特徴と債権・債務の内容。
- ③ 不当利得・不法行為の成立要件と権利の内容。

■参考文献

『別冊ジュリスト 民法判例百選Ⅱ 債権（第6版）』（有斐閣）

科目コード	科目名	単位数
K30400	民法V	4単位

教材コード 000059

教材名 民法V

著者名等 山川 一陽

■教材の概要

本教材は、三部構成によってできあがっている。一部は親族相続法を学ぶに当たってどうしても必要な基礎的知識が提示してあります。これを前提に二部においては親族法、三部においては相続法が述べられております。基本となるところは二部と三部ということになります。以下に従ってこれを勉強して行くこととなります。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 209

二部にあつては、親族関係の発生とその効果および親族関係の消滅などの諸問題が議論されております。ここにあつては親族法上において採用されている各種の制度についてしっかりとおぼえなければなりません。それと同時にその制度が具体的にどのように運用されているのかなどというところにまで配慮が行き届いた勉強をして欲しいところです。本教材にあつては、手続き法としての戸籍法などについての配慮もかなりされております。戸籍上の届け出の書式や戸籍の見本などを見て実際の親族法の動きを勉強してください。

ページ 211 ～ 381

三部にあつては、相続法が扱われます。相続法は、身分法とはいいながら、一種の財産法的な色彩が強く親族法とはいささか異なった色合いがあります。応用物権法とでも言っていのような感じがします。従って、当然のように物権法の基本的知識（もちろん、債権法があればもっといいのですが）が絶対に必要です。その意味では、先にその領域のものをこなしておいて欲しいと考えます。

■学修上の留意点

教材を丹念に読むこと。六法を正確にこまめに引くこと。具体的な事案を頭に置きながら勉強をすること（図解などを自分で工夫して作ってみたりすることが必要）。

■参考文献

『注釈民法（新版）』（有斐閣）は、大きなものですが、参考とするには詳しくて便利です。

科目コード	科目名	単位数
K30500	商法Ⅰ	4単位

教材コード 000551

教材名 『現代商取引法』

(学修指導書別冊)

著者名等 藤田 勝利 ・ 工藤 聡

出版社名 弘文堂

■教材の概要

本書は、商取引に関する法律関係について、講学上、商法総則及び商行為法と呼ばれる分野について述べるものである。商取引法においては、「商人」や「商行為」という概念が中心的な機能を有しており、商取引の主体である商人とはどのような者であるのか、そして、商法という法律が定める商行為にはどのような行為が含まれ、どのような権利義務関係が生じるのか、が重要になる。本書は、前半部分において商取引の主体である商人について、後半部分において商取引の各論的な内容を扱っている。商取引は、私人経済取引と異なり、継続性、迅速性、大量性という特徴を有しており、民法とは異なった特有の法規制を有している。本書でも、そのような商取引の特徴を踏まえた上で、商法総則及び商行為法について説明を行っている。

■学修計画のポイント

ページ 4 ～ 33

まず、この部分においては商取引の意義やその特質等について書かれている。そもそも本書が扱う「商法」という法律は、どのような特徴を有し、民法等他法令とはどのような点において異なっているのかについて述べている。この箇所では、商法がどのような法律で、どのような取引等に適用されるのかを概観する。

ページ 36 ～ 84

次に、この部分においては、商取引の主体である「商人」概念と、商人情報の開示、そして、商人の人的設備の拡張について説明をする。商取引法においては「商人」及び「商行為」がその基礎的概念とされている。そこで、この箇所では、その商人とはどのような存在なのか、ということについて扱う。加えて、商取引を行うに当たり、取引当事者間における情報開示（disclosure）が重要となることから、商人情報の開示制度（商業帳簿、商業登記制度）について述べる。更に、商人は単独で取引を行うだけでなく、他の者を雇用するなどして、人的設備を拡張して大量に取引を行うことから、商業使用人の権限等に関する規定について述べる。

ページ 100 ～ 279

そして、本書の大部分を占めるこの部分においては、商法が定めている商取引（商行為）の各論的な規定について述べている。商法が定める商行為には、商人同士の売買のほか、企業組織の一種である匿名組合、企業金融の一種である交互計算契約、他人間の売買等の仲介取引（仲立営業・問屋営業）、商品や人を輸送する運送取引（陸上運送・海上運送・航空運送）、そして、客等に場所を使用させ、サービス等を提供する施設取引（倉庫営業・場屋営業）がある。商取引法と呼ばれる分野においては、これら各種取引形態で生じる権利義務関係を適切に把握することが重要である。

■学修上の留意点

- ① 商法の意義、商法の特徴。
- ② 商人概念、商人情報の開示制度、商業使用人制度。
- ③ 商法が定める商行為（営業）の特徴、取引当事者間における権利義務関係。
- ④ 陸上運送・海上運送・航空運送といった運送形態毎の法規制の違い。

■参考文献

落合誠一ほか『商法Ⅰ—総則・商行為（第5版）』（有斐閣、2013年）

稲田俊信ほか編『演習ノート 商法総則・商行為法・保険法・海商法（第4版）』（法学書院、2016年）

科目コード	科目名	単位数
K30600	商法Ⅱ	4単位

教材コード 000379

教材名 『会社法』

著者名等 神田 秀樹

出版社名 弘文堂

※版の変更でページ数等が異なる場合があります。

■教材の概要

新しい会社法が、平成17年6月に成立し、平成18年5月1日から施行された。これ以前にも会社に関する法規制が商法中に設けられてきたが、その内容を高度な経済社会に適応できるように現代化したのが、会社法である。会社法の編別は次のとおりであり、条文数が979条と大部な法典である。

「第1編 総則」(1～24条),「第2編 株式会社」(25～574条),「第3編 持分会社」(575～675条),「第4編 社債」(676～742条),「第5編 組織変更,合併,会社分割,株式交換及び株式移転」(743～816条),「第6編 外国会社」(817～823条),「第7編 雑則」(824～959条),「第8編 罰則」(960～979条)。
本教材は、会社法全体を概説し、随所に図解を入れる等わかりやすく解説したものである。

■学修計画のポイント

ページ1～163

会社制度の全体像を示すとともに、株式会社に関する規律を取り扱っている。

まず、会社法上の会社は株式会社と、持分会社（合名会社、合資会社および平成17年の会社法制定により新設された合同会社）であるが、これに共通する法的な特徴を論じている。

次に、本書では特に株式会社について詳細に扱っている。株式会社の特質は何か、株式会社の規模や企業グループに関する規整はどのように定められているのか、株式会社の設立や株式についてはどのような制度を設けているのか、等である。

上記について注意深く学修して欲しい。

ページ164～366

株式会社の規律に加えて、持分会社や企業グループについても取り扱っている。

まず、株式会社の機関の概要を述べている（株主総会、取締役（会）、監査役（会）、会計監査人等）。平成14年に導入された委員会設置会社や、平成17年に導入された会計参与等、新しい制度についても説明している。株式会社の計算については詳細な規制が設けられているが、その内容をコンパクトにまとめて説明している。

次に、持分会社（合名会社・合資会社・合同会社）、社債、企業グループの編成に関わる組織再編の規制等についても詳細に扱っている。

上記について注意深く学修して欲しい。

■学修上の留意点

- ① テキストを十分に読み込む。
- ② 必ず最新の六法で条文に当たりながら読む。
- ③ 会社法上の重要な判例・学説を理解しながら読む。参考文献に挙げた『会社批判判例百選』を参照するほか、さらに図書館等で探して読むことが望ましい。
- ④ 会社法の改正に注意しながら読む。他の法律の改正に関連して会社法が改正されることもあるので、注意が必要である。

■参考文献

- 『株式会社法（第2版）』江頭憲治郎著（有斐閣）
『リーガルマインド会社法（12版）』弥永真生著（有斐閣）
『よくわかる会社法（第2版）』永井和之編著（ミネルヴァ書房）
『別冊ジュリスト180号 会社法判例百選』江頭憲治郎著（有斐閣）

科目コード	科目名	単位数
K30700	商法Ⅲ	4単位

教材コード 000314

教材名 商法Ⅲ

著者名等 丹羽 重博

■教材の概要

本教材は、大学における教材としてのみではなく、実務的な解釈の手掛かりとして利用されることを目的として、手形・小切手法を体系的に概説したものである。記述は、出来る限り判例・通説の立場に立ち、平易簡明を心がけた。そして、抽象的解説にならない様に具体的事例をあげ、図解・書式例・各種約款を掲記して、手形取引の実態面についての理解ができるように配慮した。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 200

手形・小切手は、初めから（当座預金の開設・手形用紙の交付）、終りまで（手形交換所における呈示・支払）銀行取引を抜きにしては機能しないものである。このことを考慮して、先ず手形・小切手の経済的機能や銀行実務の知識を備える必要がある。次に、有価証券の意義、手形行為の性質、手形理論などの、手形・小切手に関する基本的な理論や論争点を理解することが大切である。

手形・小切手法を理解するためには、法律的思考方法が要求されるが、その基本的な仕組みを理解したら論理的に解決することのできる学問分野である。

ページ 201 ～ 430

第2分冊の説明順序は、近時の多くの教材と同じく仕組みの比較的単純な約束手形から入っており、為替手形・小切手は、約束手形と異なる部分についてのみ記述している。そして、ここでは、前述での銀行実務、基本理論および論争点が、個別的・具体的な条文・内容とどの様に関連しているかを知ることが重要である。

手形法・小切手法の全体の体系を理解するうえでも、個別的・具体的な問題を1つずつ解釈し解決していかなければならない。そのためには、事例が出てくる度ごとに、自分なりに図式を書いていくことが近道である。

■学修上の留意点

教材や体系書を通しての学修は、法律学の勉強の第一段階にすぎない。そして、手形法・小切手法は、実際に流通・決済されている手形・小切手の存在を前提として体系化されている学問である以上、現実の問題を処理することが要求される。従って、図解や資料を多用して理論と実際との関係を具体的な形で示している本教材を通じて、実際問題を処理できるようにすることが大切である。

■参考文献

※『特別講義商法』丹羽重博・丸山秀平著（法学書院）

『別冊ジュリスト 手形小切手判例百選（第6版）』落合誠一・神田秀樹著（有斐閣）

『手形・小切手法概論（第3版）』丹羽重博著（法学書院）

科目コード	科目名	単位数
K30800	刑法Ⅱ	4単位

教材コード 000396

教材名 刑法Ⅱ

著者名等 船山 泰範

■教材の概要

刑法の中心は犯罪の成立要件である。そのうち、主に構成要件該当性にかかわるのが刑法各論である。一つひとつの構成要件には解釈論上、激論のあるものもあるが、それは、犯罪とそうでないものの区別に役立つ。

本書は、「個人的法益に対する罪」に力点が置かれているが、「公務に関する犯罪」についても国民の視点から位置づけている。なお、刑法各論の焦点は事例による理解である。本書は、その点で「事例を学ぶ」ことに力点を置いている。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 170

第1編では、刑法総論との関係で犯罪の成立要件を確かめる。

第2編では、「個人的法益に対する罪」であり、とくに、第3章生命・身体を害する罪と第7章財産犯罪に重点が置かれている。これは、実際上の社会生活でも重要である。財産犯罪については各罪の相違点に着目したい。第6章性犯罪に関しては、従来の捉え方に疑問を呈している。刑法各論に必要な視点は、単にどのような犯罪があるかを言うだけでなく、刑法が誰を守るためにあるのかというところにある。

ページ 171 ～ 286

第3編は、放火罪、往来妨害罪、偽造犯罪、風俗犯罪など「社会的法益に対する罪」を並べている。社会的法益については何を保護法益とするかによって、犯罪の正否が分かれるので注意が必要である。

第4編は、「公務に関する犯罪」として、公務員による罪と公務を害する罪を並べている。

第5編は、国家の存立を危うくする罪をとり扱う。

■学修上の留意点

さまざまな犯罪現象に対して、刑法がどのような視点から犯罪類型として捉えているのかを考えたい。その場合、何が法益かが大切である。本書は、刑法第2編の順序に捉われず「個人的法益に対する罪」から叙述されているので、法律用語も個人の視点から捉えることに注意したい。

■参考文献

『刑法（全）（第3版補訂2版）』（有斐閣双書）藤木英雄著、船山泰範補訂（有斐閣）

『刑法がわかった（改訂第4版）』船山泰範著（法学書院）

『裁判員のための刑法入門』船山泰範・平野節子著（ミネルヴァ書房）

科目コード	科目名	単位数
K30900	行政法Ⅰ	4単位

教材コード 000051

教材名 行政法Ⅰ

著者名等 関 哲夫

■教材の概要

行政法の総論部分をわかりやすく解説した。全体の構成は、①行政とは何か、②行政の仕事は誰がするのか（国・公共団体、行政組織、公務員）、③行政に必要な物と金、④行政活動の手段（行政立法・行政処分など）、⑤国民を行政活動に服従させるにはどうするのか、⑥まちがった行政が行われないように予防する手続き、⑦まちがった行政を国民の側からは正させ、または損害の賠償を求める手続き、を内容としている。民法の基本は一応理解した学生を対象として想定した。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 190

民法と行政法とは、いかなる点がちがうか。公法と私法・行政行為と法律行為との比較を頭において学修してほしい。そして、民法と行政法との理論的な差異が、なぜ生じたのかを考える。前者は対等の国民間の利害調整のルールであるのに対し、後者は国または公共団体が、公益的な立場から、必要な場合には公権力を行使して一方的に国民に命令・強制する作用を含んでいる。

ページ 191 ～ 396

第四章は、前半部の続きをして、行政主体が国民に対して強制力を行使したり、処罰を行って行政活動の実効性を確保する作用を取扱っている。第五章以下は、一転して、国または公共団体の違法または不当な行政活動によって国民が迷惑や損害をこうむらないよう予防し、または国民を救済する手続きが述べられている。事前救済制度と事後救済制度の2種があり、後者は行政争訟と国家補償に分類される。

■学修上の留意点

教材を1回読んだだけで全部理解できる者は、まず皆無であろう。十分理解できなくてもよいから、まず全体を読みとおすこと。途中でつかえたり、投出してはならない。3回通読すると、不思議にほとんど理解できるようになる。どうしても理解できない箇所は、参考文献に当たって調べる。

■参考文献

『行政法 上・中・※下巻 全訂第2版（新版）』田中二郎著（弘文堂）

なお知識を整理したり、または公務員試験に備えるためには、※『ベーシック行政法』関哲夫著（学陽書房）が適当であろう。

更に勉強したい人は『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ（第5版）』（有斐閣）を読んでほしい。

科目コード	科 目 名	単位数
K31000	行政法Ⅱ	4 単位

教材コード 000262

教 材 名 行政法Ⅱ

著 者 名 等 関 哲夫

■教材の概要

行政法理論は、具体的な事件の適切な解決のために存在する。行政法総論で学んだ理論は、抽象的なものであって、これを学んだだけでは実際に社会で起っている紛争事件を適切に解決する能力を身につけることは困難である。本教材は、このような見地から、典型的な紛争事例又は判例を選び、総論で学んだ理論を適用して解決に至る道すじ、考え方を示したものである。各事例・判例には、総論参照個所を指示しているので、必ず該当個所を参照していただきたい。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 163

比較的簡単な事例・判例をえらび、その内容をわかり易く解説してある。行政の各分野について、理論を実施に適用する能力が養われるよう配慮してある。

ページ 165 ～ 320

上記よりも複雑困難な事例について、考え方の筋道をわかり易く解説してある。前述と同じく、総論の指示されたページをつねに参照すること。それでも理解困難な個所は、講師に質問して解決されたい。

■学修上の留意点

現在、行政の制度は大きな改革の波のなかにあり、実定法も、ついで理論も、緩やかに、時には急速に変化する。つねに最新の情報・理論を習得するよう心がける必要がある。

■参考文献

『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ（第5版）』（有斐閣）

科目コード	科目名	単位数
K31100	国際法	4 単位

教材コード 000462

教材名 『国際法（第2版）』

著者名等 渡部 茂己・喜多 義人

出版社名 弘文堂

■教材の概要

本書は、初学者や法学部以外の学生が読むことを考慮して、国際法の基本事項をひと通りわかりやすく解説した教科書である。解説はなるべく簡潔にし、最新の情報を提供するように心がけている。また、重要な条約や国際機構の決議、国際判例をできる限り取り上げている。巻末には参考文献と詳細な索引が、各章末には練習問題が収録されており、それらは学修や理解度を確認するうえで役立つだろう。国際法を学ぶ学生諸君は、本書を熟読することにより、国際社会における国際法の機能を理解し、さまざまな国際問題を法的に理解する眼を養ってほしい。

■学修計画のポイント

とくに以下の事項に重点を置いて学修すること。

第1分冊（1～128頁）

第1章「国際法の基本原理」—国際法の特質、近代国際法の成立と発展、国際法の主体、国際法と国内法の関係

第2章「国際法の法源」—条約、国際慣習法、法の一般原則、国際機構の決議

第3章「国際法と国家」—国家承認、政府承認、国家の権利義務（とくに自衛権）

第4章「国家の国際交渉機関」—外交使節の特権免除、領事機関の特権免除、外交使節と領事機関の差異

第5章「国家の国際責任」—国際違法行為の成立要件、国家責任の解除方式

第6章「国家の領域」—領域主権、領土・領海・領空の法的地位、領域取得の方式、日本の領土問題

第7章「海洋法」—海洋法の形成と発展、領海、公海、排他的経済水域、大陸棚、深海底の法的地位、大陸棚の境界画定の基準

第8章「国際公域」—国際河川、国際運河、極地、宇宙空間

第9章「国際法と個人」—人権に関する主要な国際文書・条約の概要、国連の人権保障制度、難民の保護

第2分冊（128～256頁）

第10章「国際法と地球環境」—国際環境法の発展と特徴、大気汚染・気候変動の防止に関する条約、生物の保護に関する条約

第11章「国際法と国際経済」—GATTとWTO、EU、FTA／EPA

第12章「国際法と国際機構」—国際機構の内部機関、意思決定方式

第13章「条約法」—条約の締結手続、条約の効力、条約の終了・運用停止原因

第14章「国際紛争の平和的解決」—非裁判手続、国際裁判の類型、国際裁判の特質

第15章「国際安全保障」—国際連盟と国連の集団安全保障制度、国連の平和維持活動

第16章「武力紛争と国際法」—戦闘方法・手段の規制、武力紛争の犠牲者保護に関する条約

■学修上の留意点

国際法も法であるが、国内法とはかなり性質が異なる。それは、国際社会には国家社会のような法を定立・適用・執行するための中央集権的機関が存在しないことに起因する。学生諸君は、まず国際法の特異性を理解することからはじめてほしい。教材で引用されている条約や判例は、国際条約集や国際判例集によって確認することが必要である。

■参考文献

さらに知識を深めるためには、以下の文献を読むことをお勧めする。

『国際条約集』奥脇直也編集代表（有斐閣）

『判例国際法』（第2版）松井芳郎編集代表（東信堂）

『国際法判例百選』（第2版）小寺彰・森川幸一、西村弓編（有斐閣）

『現代国際法講義』（第4版）杉原高嶺ほか著（有斐閣）

『講義国際法』（第2版）小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編（有斐閣）

『国際法学講義』杉原高嶺（有斐閣）

『プラクティス国際法講義』柳原正治・森川幸一・兼原敦子編（信山社）

科目コード	科目名	単位数
K31200	国際私法	4 単位

教材コード 000064

教材名 国際私法

(補遺別冊)

著者名等 北脇 敏一

■教材の概要

国際私法という学問を理解するために、その意義、必要性、定義、性質および適用範囲について言及し、その国内法としての法源である「法例」の解釈、適用、ならびに運用について説明するものである。特に、外国法との抵触の問題やその場合に適用される法の選択、指定の問題は、法律行為によって生じた問題の解決に欠かすことのできない概念である。本書は各論的問題にもふれているが、国際紛争解決のための裁判管轄権の問題は重要な意義をもつものである。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 197

1 ～ 109 ページ

国際私法とはどのような学問であり、また、その必要性を理解しなければならない。そのために国際私法の性質を理解すべきである。すなわち、渉外的私法関係に基づく紛争に対して、内外いずれの法を選択指定するかの問題である。

111 ～ 197 ページ

3章において自然人、および法人の問題について検討する。すなわち、権利能力、失踪宣告、能力、ならびに法人の設立、法律行為である。4章においては、物権、および債権に関する問題を検討するが民法との関連に注意されたい。

ページ 199 ～ 345

199 ～ 277 ページ

国際結婚、および離婚、国際養子縁組などは重要な問題となっている。この場合、特にいずれかの国の法を適用するかは重要な問題である。また、相続や遺言の準拠法について、学説が分れるので注意を要する問題である。

279 ～ 345 ページ

国際的な紛争の解決は重要な問題であり、特に、管轄権、準拠法の決定について留意されたい。また、国際的な商事取引は、近年、種々の問題を有する領域であり、その取り扱い範囲も広大であるので、一応の理解を得るための勉学を望む。

■学修上の留意点

- ① 概念および定義の理解。
- ② 学説・判例の理解。
- ③ 準拠法の決定過程の理解。
- ④ 法の適用による解決過程の精査。

■参考文献

- 『国際私法入門（第6版）』（有斐閣双書）沢木敬郎著（有斐閣）
 ※『国際私法（新版）』石黒一憲著（有斐閣）
 『国際私法概論〔第5版〕』木棚照一・松岡博・渡辺惺之著（有斐閣）

科目コード	科目名	単位数
K31300	労働法	4 単位

教材コード 000381

教材名 労働法

著者名等 原田 賢司

■教材の概要

現代社会において、労働法は経営者・労働組合にとり必須の学修である。本書の特徴は、労働法の中心の問題を論点主義的に取り上げ、教科書としては、必要最小限の構成になっている。

第1編では、労働法の意味と市民法の差異、労働法の生成と発展を日本、イギリス、アメリカを中心として論述している。そして憲法28条についても論述している。各論では、労働基準法を中心とする個別的労使関係のそれぞれの論点と集団的労使関係におけるそれぞれの論点を解説している。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 32

労働法という法律の意味とその目的はなにか、そして市民法修正としての労働法、この労働法の生成と発展を日本、アメリカ、イギリスを中心に論述している。

労働法の根本たる憲法27条勤労の権利と義務と28条労働三権について解説している。憲法27条の趣旨と解釈上の対立点。憲法28条の団結権、団体交渉権、団体行動権のそれぞれの意味と沿革について述べている。

ページ 33 ～ 182

近時の労働法の中心的課題である労働基準法の中心的論点として個別的労働関係における基本原理、労働契約、採用内定試用機関、賃金、労働時間等々を挙示し、その解説をしている。使用者と労働組合との関係すなわち集団的労使関係、特に労働組合法を中心として書かれている。労働者概念、不当労働行為、争議行為、労働協約などを中心に論述がなされている。

■学修上の留意点

- ① 出問題の意図を把握すること。
- ② 問われている問題の意義・要件などをきちんと理解するよう努めること。
- ③ 教科書はポイント中心主義なので、参考文献などでよく理解するよう努めること。
- ④ 教科書を良く読み理解すること。

■参考文献

- 『労働法（第8版）』菅野和夫著（弘文堂）
『別冊ジュリスト 労働判例百選 労働法の争点』（有斐閣）など
※『現代労働法講座 1巻～15巻』（総合労働研究所）

科目コード	科目名	単位数
K31400	知的財産権法	4単位

教材コード 000463

教材名 『標準 特許法（第5版）』

著者名等 高林 龍

出版社名 有斐閣

■教材の概要

知的財産権法は、特許法を初めとして、商標法・不正競争防止法・著作権法など広いカバー範囲を持つ法域分野である。したがって、本来的には、知的財産権法全般を扱う教材が適切かも知れない。しかしながら、知的財産権法全般を扱う教材は、概略的な説明に終始するものが多く、深い理解を得るためには、重要判例にも言及するこの教材が適切と考える。

■学修計画のポイント

この教材は、まず初めに大きな文字の本文部分のみを読み終え、さらに、次には、細かな文字で記述される注釈等まで読み進めば、特許法の適切な理解が得られるものと思料する。

その上で、他の商標法、著作権法等の以下の教材を読み進めば、知的財産権法全般についての理解が得られると考える。

各法とも、保護の対象は何か、そして、保護の手段はどのようなになっているか、特に、所定の手続を踏まなければ適確な保護を受けられないことに考えを及ぼすべきである。

これは、特許法だけに留まらず、他の知的財産権法分野でも同じである。

これを踏まえて、少なくとも他の商標法、不正競争防止法、著作権法領域まで踏む込んだ学修を希望する。

■学修上の留意点

特許法のみならず、商標法、不正競争防止法、著作権法も学修範囲であることを前提として、レポート課題は、これらの分野からも出題することとする。

■参考文献

『著作権法第3版』 齊藤博著（有斐閣）

『著作権法』 中山信弘著（有斐閣）

『工業所有権法（産業財産権法）逐条解説第17版（編集／特許庁）』 社団法人発明協会

『パリ条約講話』 後藤晴男著 編集／特許庁／社団法人発明協会

『逐条解説不正競争防止法』 経済産業省知的財産政策室著（有斐閣）

科目コード	科目名	単位数
K31500	税法	4単位

教材コード 000410

教材名 『税法学原論【第七版】』

(学修のしおり別冊)

著者名等 北野 弘久

出版社名 勁草書房

■教材の概要

税法学の基礎理論を具体的諸問題を素材として解明する。これによって、各人が租税問題に法的にアプローチする手法を理解してほしい。税法学という学問はどういう学問か、またどうあるべきか、に力点をおいている。税法学の特質、方法にかなりのペースを充て、税法学の基本原理を具体的に展開している。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 237

税法学の特質と課題、税法の法的概念、税法の体系、納税者基本権などの基礎的コンセプトをまず理解するように努力してください。そのうえで、つぎに税法解釈学（実体法学としての税法学）の基本原理として租税法律主義の原則とそれをめぐる諸問題を理解するようにしてください。地方税については、この場合の「法律」を「条例」におきかえて本来の租税条例主義の原則の法的意味を理解するようにしてください。さらに、租税法律主義・租税条例主義とは対立する税法固有の基本原理ともいわれる実質課税の原則の「正体」を把握するようにしてください。

ページ 238 ～ 542

租税法律関係の性質、納税義務の成立と確定をめぐる法理、連帯納税義務制度、第二次納税義務制度、税務行政処分の特性にみあった瑕疵、納税・延納・納期限の延長等の法理論上の区別、源泉徴収制度における法律関係の二元性、サラリーマンの法的地位、憲法の地方自治と地方財政権との関係、前半で学修した本来の租税条例主義の憲法的意味など理解するようにしてください。そのうえで、実務でも必要な税務調査権の法理、税理士制度、税務争訟制度の特質、租税犯の構造などを具体的に理解するようにしてください。

■学修上の留意点

日本国憲法についての学修が大切、日本国憲法は租税国家（財政収入のほとんどを租税に依存する体制）を前提。その使途面を含む租税のあり方はすべての憲法の理念に適合するものでなければならない。その意味でも憲法典を参照にしながら学修を深めてください。

■参考文献

- 『日本税制の総点検』北野弘久・谷山活雄編（勁草書房）
- 『納税者の権利』（岩波新書）北野弘久著（岩波書店）
- ※『納税者基本権利の展開・現代法学者著作選集』北野弘久著（三省堂）
- 『現代税法の構造』北野弘久著（勁草書房）
- ※『サラリーマン税金訴訟』北野弘久著（税務経理協会）
- 『税理士制度の研究・増補版』北野弘久著（税務経理協会）
- 『5%消費税のここが問題だ』北野弘久著（岩波ブックレット）
- 『質問検査権の法理』北野弘久著（成文堂）など

科目コード	科目名	単位数
K31600	民事訴訟法	4 単位

教材コード 000494

教材名 民事訴訟法

著者名等 松本 幸一

■教材の概要

民事訴訟法の学修は難しいといわれていますが、民事裁判手続の特徴をおさえながら、なるべく平易に、判決手続の流れ全般を理解できるように心がけました。民事訴訟法の学修が難しい理由のひとつは、法文上に必ずしも民事訴訟の諸原則が明記されていないことです。本教材で、初学者に民事訴訟法の基本的な原則・主義・概念をしっかりと学んでもらいたいと望んでいます。なお、本書は初学者・中級者向きなので、総合的な法的知識が前提である複雑な要件事実論および国際民事訴訟法については触れていません。重要なことは、裁判手続の流れをひとつと理解することです。執筆にあたっては、最近の数年間に改正された点を踏まえて、改訂版として加筆訂正しました。なお、新教材の最後には、自習できるような学修課題を載せておきました。

■学修計画のポイント

1

民事訴訟法概念・法源・歴史、民事訴訟法と裁判外紛争解決制度（ADR）、裁判所、当事者とその代理、通常の判決手続の流れ、訴え、処分権主義、訴えの種類と訴えの提起の効果、請求権競合と訴訟物論争、訴訟要件、訴えの利益と当事者適格、債権者代位訴訟、民事裁判手続の基本原則、弁論主義、訴訟資料と証拠資料、釈明権の行使、口頭弁論とその準備手続、原告・被告の攻撃防御方法、否認と抗弁、裁判上の自白、公開主義と秘密保護、証拠調べ、自由心証主義、主張責任と証明責任、文書提出義務。

2

訴訟手続進行の停止、終局判決による訴訟の終了、訴えの取り下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解、終局判決による訴訟の終了、裁判の種類、判決の対象、判決の効力、既判力、一部請求の取扱い、既判力の客観的・主観的範囲、争点効、執行力、形成力、共同訴訟、通常共同訴訟、必要的共同訴訟、同時審判申出共同訴訟、選定当事者、当事者参加、独立当事者参加、補助参加、訴訟告知、当事者の変更、当然承継、参加承継・引受承継、少額訴訟手続、督促手続、控訴審の訴訟手続、上告審の訴訟手続、抗告、再審、以上の基本的な事項を十分に理解してください。

■学修上の留意点

学修予定者は、最新のポケット六法を持参してください。本講義は、初学者にも民事訴訟法をわかりやすく理解してもらえように行いますが、ここ数年間に改正された条文を頻繁に参照しますので、最新の六法は必携です。また、学修者はテキストと並行して条文を必ず参照してください。

■参考文献

『最高裁判所判例解説民事編』（法曹界）

『民事訴訟法判例百選（第4版）』高橋宏志編著（有斐閣）

『民事訴訟法（第4版）』梅本吉彦（信山社）※現在の民事訴訟法学を完璧に網羅した基本書である。

科目コード	科目名	単位数
K31700	刑事訴訟法	4単位

教材コード 000409

教材名 刑事訴訟法

著者名等 板倉 宏・南部 篤・設楽 裕之・船山 泰範・関 正晴・尾田 清貴・沼野 輝彦

■教材の概要

本教材は、これから刑事訴訟法を学ぶ者のために、刑事手続の全体像の理解と刑事訴訟を構成する各制度の理解を促す目的で執筆されている。そのため平易な解説に努めているので、さらに詳しく学ぶためには、他の教材によって補充することが必要となる。そこで、判例集、演習書等を参考書にして、本教材を補いつつ勉強することを勧めます。

■学修計画のポイント

ページ 1～143

①刑事訴訟法の特徴 ②捜査 (1) 任意捜査と強制捜査 (2) 身柄保全と証拠収集 (3) 科学的捜査 ③被疑者の地位 ④刑事弁護人制度 ⑤検察官の役割 ⑥別件逮捕と余罪捜査 ⑦再逮捕・再勾留の可否 ⑧検察官の訴追裁量権 ⑨起訴状一本主義 ⑩訴因制度及びこれをめぐる諸問題

上記のテーマは、刑事訴訟法を理解するための基本的な事項なので、十分に理解しておく必要がある。

ページ 145～296

①第一審公判手続の諸原則 ②第一審公判手続の概要 ③証拠法総論(1)証拠裁判主義(2)自由心証主義(3)挙証責任 ④自白法則 ⑤補強法則 ⑥伝聞法則 ⑦違法収集証拠の排除法則 ⑧裁判とその効力 ⑨上訴(控訴、上告、抗告)手続の概要 ⑩非常救済手続(再審、非常上告)の概要

いずれのテーマも、刑事訴訟法を理解するための基本的な事項なので、十分に理解しておく必要がある。

■学修上の留意点

以下に紹介する参考書以外のものでもよいですから、教材でとり扱ったテーマ等について、本教材とともにそれらの参考書に目をとおして学修することを希望します。

■参考文献

『刑事訴訟法(新版)』田宮裕著(有斐閣)

『別冊ジュリスト 刑事訴訟法判例百選(第8版)』(有斐閣)

科目コード	科目名	単位数
K31900	日本法制史	4単位

教材コード 000049

教材名 日本法制史

著者名等 佐藤 邦憲・斎川 真

■教材の概要

本書では、国家成立以後の法・法制度を国家と結びつけて理解できるよう、8世紀以降一律令法成立から、江戸幕府一天保改革と法までを中心に記述した。本書は、この時期の国家を、基本的に農業経済に依拠した農業国家段階に位置づけ、それを典型的にあらわすのが、土地制度一班田制・荘園公領制・守護領国制・戦国大名領国制・幕藩制と考え、主にこれに対応する法・法制度一々令法・荘園法・武家法・戦国家法・幕藩法を理解、学修できるよう論述した。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 170

1 ～ 81 ページ

まず、法史学（法制史）という学問の位置づけとその研究の視点を確認し、特に本書の記述における説明モデルやその構成方法・時代区分などを理解する。次に、律令編纂前史一々令法形式までの歴史の歩みを概観する。

83 ～ 170 ページ

律令国家体制を支えた政治のシステム一官制と律令法およびその財政システムなどを概観し特に、この時期の土地制度一班田制から荘園制へと、その法・法制度の在り方・変遷を考察する。

ページ 171 ～ 428

171 ～ 324 ページ

武士団・幕府機構の形成とその特徴、また、財政・租税システムなどを概観し、この時期の土地制度一守護および戦国大名領国制へと、法・法制度一式目法・武家法・分国法、裁判制度一犯罪と刑罰一などの在り方・変遷を考察する。

325 ～ 428 ページ

検地・刀狩令・身分統制令と江戸幕府の成立およびその官制・財政などを概観し、その土地制度一幕藩制（大名領国制）下の幕府法や裁判制度一犯罪と刑罰など、また、享保・寛政・天保の三大改革の法制史的意義などを考察する。

■学修上の留意点

- ① 本書をよく読む。特に、本文内容と提示の史料に注意し、その流れ・構図などを大きく俯瞰して、その単位における法・法制度の在り方・変遷などの特徴を丁寧にまとめる。
- ② 以下の「参考文献」などを利用する。

■参考文献

『法制史（体系日本史叢書4）』石井良助著（山川出版社）

『日本法制史概説（改訂版）』石井良助著（創文社）

『日本法制史』（青林法学叢書）牧英正他著（青林書院）

その他、「日本史」「日本歴史」の教科書・概説書・通史・全書・叢書・図説など。

科目コード	科目名	単位数
K32200	日本史概論	4 単位
Q30200	日本史概説	4 単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード 000382
 教材名 『概論 日本歴史』
 著者名等 佐々木 潤之介
 出版社名 吉川弘文館

■教材の概要

日本史を古代（含原始）・中世・近世・近代・現代〔1998（平成 10）年の小淵恵三内閣の成立まで〕に分けてのべている。1970 年代以降、日本史の各分野で研究がすすめられた成果をとりくんだものとなっていてきわめて内容が新しい。しかし現在の大学生が高校時代に日本史を学ばずに入学してくるという状況も考慮に入れた上で日本史概論をいかにあるべきかを考えてできあがったのが本書である。熟読してほしい。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 112

古代から中世までの内容である。中世は院政の成立から始めている。柱が 3 つあって、1 が院政の成立から鎌倉時代、2 が室町から戦国時代、3 が中世の文化を前期と後期にわけてのべている。

317 ページ以下にかなり詳しい天皇家系図・藤原氏系図・清和源氏系図・桓武平氏系図がのっているので本文を読みながら参考にしてほしい。

ページ 113 ～ 309

近世から近代・現代までの内容である。近世は 3 つからなり、1 が幕藩体制の確立、2 が動揺と解体、3 が文化を前期・中期・後期とわけて説明している。中世と同じ構成であるがこの構成は理解しやすいのではないと思う。近代と現代は両方とも 3 つの柱がたてられていて、特に文化を独立してのべることはない。

■学修上の留意点

大学に入学したばかりの学生でも読めるようにかなりの事物や人名に「ふりがな」が付されているので読みやすいと思うが、内容がこみいってわかりにくいと感じる時は、高校時代使用した日本史の教科書の同内容のページを開いてみてほしい。又日本史辞典もひんぱんに利用することが肝心である。あせらずにじっくり読むことをおすすめしたい。

■参考文献

本書 311 ～ 316 ページに掲載されている「日本史参考文献」を利用してほしい。

科目コード	科目名	単位数
K32300	東洋史概論	4単位
Q30300	東洋史概説	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード 000523

教材名 『中国の歴史』

(学修指導書別冊)

著者名等 岸本 美緒

出版社名 筑摩書房（ちくま学芸文庫）

■教材の概要

中国文明の成立から辛亥革命による中華民国の成立、さらに中華人民共和国の建国へて改革開放政策にいたるまでの中国の歴史をあつかう。中国文明の多元性、20世紀初頭までの歴代王朝の変遷、周辺諸国や諸地域との争いや文化交流、これらともに中国社会の特質にもふれてダイナミックな中国史の流れを概観する。

■学修計画のポイント

ページ 3 ～ 185

各地域で展開した中国文明から清朝の中国支配まで、中国の前近代史を学ぶ。テキストでは各章のはじめ（章名と本文の間）には、その章を簡潔に総括している。この指摘を参考に「学修指導書」のキーワードをすべてつかったりレポートを作成したい。

ページ 186 ～ 300

アヘン戦争から改革開放政策にいたるまでの、中国近現代史を学ぶ。アヘン戦争から中華人民共和国の建国までは、日本を含めた欧米列強の侵略とそれに対する抵抗の歴史であった。中華人民共和国建国後は、毛沢東時代と鄧小平時代に分けられる。先の学修計画を参考に具体的な内容のレポートに仕上げたい。

■学修上の留意点

基本的な歴史事実をしっかりおさえ、概念や歴史用語、中国社会に関する事項について正確に把握したい。テキストのより深い理解には、多数の参考文献にあたることが不可欠である。是非ともみずから学修して理解が深まったことを実感し、大学での学びの醍醐味を味わっていただきたい。

■参考文献

巻末に付されている参考文献のほかに、以下のものがあります。

- ※『アジアの歴史と文化1～5』竺沙雅章監修（同朋舎出版）
- 『データでみる中国近代史』〈有斐閣選書〉狭間直樹編著（有斐閣）
- 『概説 中国思想史』湯浅邦弘編著（ミネルヴァ書房）
- 『中国経済史』岡本隆司編（名古屋大学出版会）
- 『中華人民共和国史』〈岩波新書〉天児慧（岩波書店）
- 『近代中国史』〈ちくま新書〉岡本隆司（筑摩書房）
- 『中国歴史地図』朴漢濟編著 吉田光男訳（平凡社）

科目コード	科目名	単位数
K32400	西洋史概論	4単位
Q30400	西洋史概説	4単位
※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）		

教材コード 000147

教材名 西洋史概説／西洋史概論

著者名等 坂口 明・赤澤 計真・長沼 宗昭・中村 英勝・林 義勝・松浦 義弘・岸田 達也

■教材の概要

この教材は、古代ギリシアから東西冷戦末期までの広い範囲を扱っている。概説であるため、個々の問題をそれほど深く掘り下げて論じてはいない。むしろ歴史の流れに記述の重点が置かれている。個々の事件にせよ、歴史的な概念にせよ、その背景となるこうした歴史の流れを考えて理解してほしい。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 188

1 ～ 94 ページ

ギリシアにおけるポリス社会の成立とその変質、ローマ共和政から帝政へ、さらに帝政末期に至る政治的社会的変化、古代末期から中世に至る政治的社会的変化に留意しながら、個々の事件や概念を理解する。

95 ～ 188 ページ

中世後期から近代の絶対主義時代への移行という背景から、個々の事件や概念を理解する。

ページ 189 ～ 348

189 ～ 266 ページ

市民の台頭、工業化、ナショナリズムなどの展開に留意しながら、個々の事件や概念を理解する。

267 ～ 348 ページ

帝国主義によるヨーロッパ・アメリカの世界支配の背景、過程、結果を、ヨーロッパ・アメリカ内の国際関係や被支配地域側の対応などから理解する。また、第2次世界大戦後のアジア・アフリカの自立化の過程を、民族解放運動・東西の冷戦の中で把握する。冷戦後の世界については、この教材の中ではふれられていないので、各自参考文献を読んで理解しておこう。

■学修上の留意点

上記「学修計画のポイント」と同じ。

■参考文献

教材の各章末に付されている参考文献。

科目コード	科目名	単位数
L20100	政治学原論	4 単位

教材コード 000353

教材名 政治学原論

著者名等 藤原 孝・杉本 稔

■教材の概要

本テキストは政治学原論のテキストであり、政治学一般の知識があることを前提として執筆されている。その前半部（第1編）は政治学の中心的課題を扱い、「政治学とはいかなる学問であるか」という問に答えることを目的としている。一方、後半部（第2編）は議院内閣制をキーワードとして、現実の政治現象を政治理論を通して分析することを目的としている。

読者はこの第1編と第2編の目的の相違を十分に認識した上で、学修に取り組んでほしい。

■学修計画のポイント

ページ1～131

前半部は、「第1章 政治学の歴史と課題」と「第2章 政治学の基本命題」で構成されている。第1章の狙いは二つある。その1は第1章第1節から第3節までであり、そこでは政治学とはいかなる学問であるかが説かれている。とくに行動論革命および脱行動論革命の意義を検討することで、政治学研究の新しい状況を学ぶことができよう。

その2は第4節および第5節であり、政治現象が展開される場としての政治社会の問題を扱っている。ここで留意すべきは、われわれの現に暮らしている政治社会（大衆社会）の特性である。

そして第2章では政治現象の中核でもある政治権力の問題が検討されている。支配・服従・リーダーシップなどは政治学を学ぶ上でも重要な概念であるので、テキストを精読して正確な知識を身につけてほしい。

ページ133～220

後半部は、「第3章 議院内閣制の理念と実態」および「第4章 政党と選挙制度」から構成されている。第2編の表題（現代デモクラシーの統治構造）からも分かるように、分冊2では現代デモクラシーを実際に機能させている制度的諸条件を検討の対象としている。第3章と第4章に共通するキーワードは議院内閣制である。

第2編で取り扱う事項の最終目標は日本の政治である。しかしながらここではしばしばイギリスの事例が紹介されている。日本の政治を理解する上で、なぜイギリスの政治に言及するのか。その理由も含めてじっくりと考えてみてほしい。そして政治学の理論（政治学的知識）を通じて現実政治を検証することで、「政治をみる眼」を養ってほしい。

■学修上の留意点

政治学の学修にはさまざまな資質が要求されるが、とりわけ思想と歴史の知識は不可欠である。テキストを読んで十分に理解できない部分があれば、その都度、各章末に紹介されている参考文献などにより、確かな知識を身につけておくべきである。

■参考文献

個々の文献はテキストの各章末にある参考文献の項を参照して欲しい。ここではこのテキストと同じ業者の『現代政治へのアプローチ（増補版）』藤原・杉本編著（北樹出版）のみを紹介しておく。

科目コード	科目名	単位数
L20200	経済学原論	4単位
R20100	経済原論	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード 000159

教材名 経済原論／経済学原論

著者名等 中山 靖夫

■教材の概要

本書は、ミクロ経済学、マクロ経済学および貨幣理論の各領域を、理論水準の高さを失わずに、できるだけ平易に叙述しようとした概論書である。経済学は、そのエッセンスを捉えた単純なモデルに還元することによって、初級・中級の学生にその核心を伝達するというタイプの啓蒙性を持つ学問である。そのために、初学者にはとっつきにくい面もあるが、一旦、経済学の思考方法の性質とパターンに慣れれば、本書は独力で十分読み通すことができると確信している。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 172

1 ～ 82 ページ

経済体制と経済循環の見方。家計行動の効用理論。選択理論の分析ツールと最適消費計画。所得変化と消費者需要。価格変化と消費者需要。市場需要曲線とその性質。労働供給の理論。企業行動の限界生産力理論。

83 ～ 172 ページ

短期の費用理論。価格変化への企業の対応と短期供給曲線。長期費用曲線と長期供給曲線。完全競争市場の分析。不完全競争市場の分析。独占価格と寡占価格。厚生最大化と完全競争。市場機構のさまざまな限界。

ページ 173 ～ 352

173 ～ 260 ページ

経済活動水準の指標。国民所得水準の決定と変動。投資量の決定と変動。財政活動と国民所得。貨幣の本質と機能。マネー・サプライ、通貨乗数と信用創造乗数。流動性選好の理論。利子率決定の流動性選好説と貸付資金説。

261 ～ 352 ページ

IS・LM分析。財政政策と金融政策の効果。古典派・ケインズ・ケインジアン、フィリップス曲線、現代マネタリズム、新・古典経済学、景気循環の理論、投資関数・消費関数の拡充。経済成長の理論。

■学修上の留意点

- ① 専門用語を確実に理解する。
- ② 本書の項ごとに要約する。
- ③ 論旨を箇条書きに組立てる。
- ④ 結論は何かを明確に述べる。

■参考文献

- 『ファンダメンタル ミクロ経済学（第2版）』荒井一博著（中央経済社）
『入門マクロ経済学（第5版）』中谷巖著（日本評論社）
『経済学の考え方・学び方』岡村宗二著（同文館出版）

科目コード	科 目 名	単位数
L30100	行政学	4 単位

教材コード 000084

教 材 名 行政学

著 者 名 等 本田 弘

■教材の概要

本書は、現代行政の機能（はたらき）と制度（しくみ）を中心に、それらの特色を比較的平易に述べたものである。今日の国家や地方公共団体を実際に運営するには行政の機能が不可欠なのである。特に、行政における管理機能の重要性が増嵩する現代の状況にかんがみ、行政管理にかなりのページ数をさいたつもりである。行政が適切かつ円滑に運用されるためには、行政の諸局面が正しくマネジメントされていることが大切だからである。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 214

基本的なことを理解しようとする狙いをもっている。特に、第1章（行政と行政学）と第2章（現代国家と行政）では、行政の意義や行政学の発展、そして現代国家における行政の特色を理解しようとするものである。第3章から第6章までは、地方行政と自治制度、行政組織、官僚制、公務員制など行政の基本的であり、しかも具体的な問題を把握しようとするものである。そうした学修の狙い（ポイント）を先ず理解しておくことが肝要である。

ページ 215 ～ 433

第7章から第12章までは、いわば各論である。現代行政に関する重要なテーマを主に配列したが、行政のダイナミズムを理解するための狙いがある。すなわち、行政管理、意思決定、計画行政、情報公開、行政相談、オンブズマン制度などを重点的に理解しておきたい。これらの重要テーマを理解することによって、国の行政・地方の行政の実際の機能（はたらき）を、そして制度（しくみ）をも会得できるであろう。

■学修上の留意点

初学者は、先ず本書を読むことからスタートすべし。そして、重要と思うところは、自分なりのメモ帳でもよいからノートしておくこと。書きとめることは、理解力を倍加させるからである。レポート作成に当たって、このことが痛切に感ぜられるであろう。「書く」ことの大切さを忘れないこと。

■参考文献

『行政の活動』西尾勝著（有斐閣）

『行政学教科書（第2版）』村松岐夫著（有斐閣）

※『現代行政管理の論点』本田弘著（行政管理研究センター）

『現代の行政（改訂版）』森田朗著（放送大学教育振興会）

科目コード	科目名	単位数
L30200	国際政治学	4 単位
R32700	国際政治論	4 単位
S33200	国際政治学概論	4 単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード 000501

教材名 『国際関係論』

著者名等 佐渡友 哲・信夫 隆司

出版社名 弘文堂

■教材の概要

国際政治学の学修をはじめようとする人は、①国際社会がどのように形成されたのか：「歴史分析」、②現状をどう見るか：「現状分析」、③現象をどのように理論化するか：「理論分析」、④現在どのような課題があるのか：「課題分析」、という4つの視点から観察する視点を持ちましょう。教材『国際関係論』は、この4つの視点から構成されています。すなわち第Ⅰ編では学び方とともに国際社会の歴史の捉え方と20世紀の歴史、第Ⅱ編では現状分析をグローバリゼーション、安全保障、日本の周辺などを視点に取りあげています。第Ⅲ編は現実主義と理想主義、地域統合論、国際レジーム論など、世界の捉え方を説明してくれる理論分析です。第Ⅳ編では、現在私たちが抱えている課題として、南北問題、地球環境問題、紛争解決が取りあげられており、市民社会がどのような役割を果たすのかについて言及されている。

■学修計画のポイント

ページ 4 ～ 116

第Ⅰ編 序論と歴史分析（4 ～ 34 頁）

- ① 国際政治を学修するための基本的な態度や心構えを考えてみよう。
- ② 国際社会の原型である国際システムはいつ頃形成されたのでしょうか。
- ③ 現代の国際システムはウエストファリア体制（1648年～）の延長上にあるのか。
- ④ 冷戦時代（1947～89年）の米ソはどのような関係だったのだろうか。

第Ⅱ編 国際関係の現状分析（38 ～ 116 頁）

- ① オバマ外交が世界に与える影響は何でしょうか。
- ② 新自由主義的グローバリゼーションは世界をどのように変えていくのだろうか。
- ③ 伝統的安全保障と非伝統的安全保障とはどんな違いがあるのだろうか。
- ④ 世界の中の日本の外交や立ち位置について考えてみよう。

ページ 120 ～ 248

第Ⅲ編 国際関係の理論的分析（120 ～ 166 頁）

- ① 国際政治を見る現実主義と理想主義とはどのような視点なのでしょうか。
- ② 国際レジームという秩序はどのような原理で形成されるのだろうか。
- ③ 欧州はどのような理由と原理で統合が推進されているのだろうか。

第Ⅳ編 現代国際関係の課題（170 ～ 248 頁）

- ① 先進国と途上国の格差について分析し南北問題の本質について考えてみよう。
- ② 地球温暖化防止のためにどのような国際組織がどんな取決めに締結しているのか。
- ③ 非国家アクター（国際組織、NGO、企業など）や市民社会の役割を考えてみよう。

■学修上の留意点

- ① 近代500年の覇権国家（超大国）の交代劇（16～17頁）、ウエストファリア体制（1648年～）以降の国際システムの歴史（13～16頁）、20世紀の国際秩序（20～28頁）など、歴史を多様な視点から考えること。
- ② 9.11以後の国際政治（38～42頁）、グローバリゼーションが進展する現代社会（54～68頁）、東アジアの経済連携の中の日本の立ち位置（97～100頁/108～111頁）などを通して国際社会の現在を把握すること。

■参考文献

教材の巻末にある参考文献を参照すること。

科目コード	科目名	単位数
L30300	政治思想史	4 単位

教材コード 000082

教材名 政治思想史

著者名等 藤原 孝

■教材の概要

現代のデモクラシー理論はどこに問題があるのであるか。今日政治が十分に機能していないとすれば、それはどこに問題があるのであるか。そうした事がらを根源的に捉えるには、デモクラシー理論の源流を訪ね歩かねばならない。

この教材は、現代デモクラシーの思想的源流とみなされる思想家を取り上げ、彼（彼女）らの思想的特徴を解説している。300～400年前の思想を現代にどのうよに接合させて読み取るか、それが諸君たちの問題である。

■学修計画のポイント

ページ 1～48

ここでは思想史研究の方法と課題を取り上げ、以下近代自由主義思想の生成・発展に思想的に寄与した8名の思想家を取り上げている。政治を宗教的権威から解放し、現実的に捉えようとした、政治的リアリズム期の第1章。歴史的に自由主義は資本主義と接合しながら発展してきたのであるが、その思想的源流としてのジョン・ロック。激しい文明批判の中に経済的不平等の状態を見てとり、人間の平等と自由をその政治課題としたルソー、これが第2章である。第3章は自由主義の発展に寄与した思想家3名。彼らはいずれも今日の自由主義を考える上で避けて通れない思想家たちである。

ページ 49～119

ここでは主に保守主義思想と社会主義思想の源流が取り上げられている。政治思想史を考えるに当たってヨーロッパ市民革命は極めて大きな思想的影響を及ぼしている。第4章はフランス革命を思想的契機とする二つの潮流である保守主義とフランス初期社会主義が取り上げられているが、フランス革命の大まかな経緯は思想を理解する上での前提となろう。第5章では、単にマルクス主義だけではなく、その後の発展した民主主義国における社会主義への展望を示すいくつかの思想が論述されている。これからの社会主義のあり方を考える上では重要なポイントをさし示している。

■学修上の留意点

思想史研究の最良のテキストは、原典に触れることである。ここで取り上げた思想家たちの主要著作はいずれも中央公論社『世界の名著』や、岩波文庫などで容易に入手可能である。まずは翻訳で良いから手に取ってみることが思想史研究の最初の一步である。全部を理解できなくとも良いから、とにかく読み始めることである。

■参考文献

各章ごとに専門的な文献は掲げているが、入手可能な一般的概説書を以下に掲げておく。

『西欧政治思想史序説』藤原孝著（三和書籍）

『概説西洋政治思想史』中谷猛・足立幸男編著（ミネルヴァ書房）

※『政治思想史講義（新装版）』藤原保信他編（早稲田大学出版部）

『西洋政治思想史』佐々木毅他著（北樹出版）

科目コード	科 目 名	単位数
L30400	日本政治史	4 単位

教材コード 000452

教 材 名 日本政治史

著 者 名 等 黒川 貢三郎

■教材の概要

本書は、日本が西洋との出会いを通じて近代国家としてスタートした幕末から明治・大正、さらには、それまでの政治体制を大きく変えることになった第2次世界大戦を経て、経済大国として再生していった昭和時代までを取り上げている。

■学修計画のポイント

歴史は区切って学修すべきではないが、日本政治の発展過程を比較的容易に理解するために、おおよそ次の4つの期間に分けて、学修されることが良いかもしれない。

- ① 第1章～第4章 幕末の動乱から近代国家として形成されていく過程。
- ② 第5章～第6章 憲法の制定と議会の開設を経て対外戦争を経験する過程。
- ③ 第7章～第9章 政党政治の隆盛を経て軍部主導の政治が行われていった過程。
- ④ 第10章～第12章 新生日本の誕生から経済大国へと発展していった過程。

■学修上の留意点

歴史は、単なる事象の断片を繋ぎあわせたものではなく、ましたや区切りをつけることの出来るものではない。個々の年号などに囚われて、全体を見失いないようにしてもらいたい。歴史の大きなうねりを知ること、未来を見通す眼が養われると思う。

■参考文献

本書の巻末に多数の参考文献を掲載しているので、それを参照されたい。

科目コード	科目名	単位数
L30500	西洋政治史	4単位

教材コード 000503

教材名 『西洋政治史』

(学修指導書別冊)

著者名等 杉本 稔

出版社名 弘文堂

■教材の概要

本教材『西洋政治史』は「独習に適した初学者向けの大学テキスト」として執筆された。執筆者は、編者を除くと比較的若い気鋭の研究者であり、勤務先も固有の専門領域も同一ではない。そうした我々が心掛けた第一のことは、可能な限り平易な表現に努めることであり、かつ可能な限り偏りのないオーソドックスな内容とすることであった。

そこで具体的には、近代政治社会の出発点ともいえる「市民革命」から記述される。一般的に三大市民革命とは、イギリス革命・アメリカ独立革命・フランス革命を指すが、ここではこれらに加えて「未完の市民革命」としてドイツ三月革命が挙げられている。こうした市民革命を通じて形成されたのが市民社会である。それぞれの市民革命には当然、差異があるが、その差異がそれに続く市民社会の在り方を規定しているし、差異がいかにして生じてきたのを研究することも、政治史研究の重要なテーマである。

さて、続いて本テキストでは「現代」が扱われる。ここでは「第3章 現代政治の幕明け」として、第一次世界大戦が採り上げられる。第一次世界大戦以降、現代社会に特徴的な現象が顕著になってきたことに着目してほしい。たとえば、いわゆる大衆社会現象がそれであり、またかつてのヨーロッパ世界に代わってアメリカとソ連が世界政治の主役の座を占めるようになった。

読者はこうした記述から、歴史の大きな流れを把握してほしい。

■学修計画のポイント

ページ1～75

ここでは「近代政治史」が扱われる。まず「近代」の政治史的意義を把握して欲しいし、なぜ本書が市民革命から説き起こしているかを考えて欲しい。

そこで具体的にはイギリス・アメリカ・フランス・ドイツそれぞれの革命の特質を明確にし、それぞれの革命の特質がその後の各国の政治社会に及ぼした影響を考察する必要がある。

ページ77～180

ここで扱われているのは「現代政治史」である。

「第一次世界大戦」「第二次世界大戦」そしてそれに続く「冷戦」は一連の流れとして把握できる。こうした見方をすることによって、はじめて「冷戦の終焉」(冷戦後)の意味が浮かび上がってくるだろう。

■学修上の留意点

政治史の勉強とは決して個別的知識を頭に詰め込むことではなく、一つ一つの出来事をより大きな政治史的文脈のなかで位置づけることである。巻末および本文中の関連個所に年表が示されているが、これはあくまでも流れを概観して知識を整理するためのものであり、けっしてこれを記憶する、といったものではない。

また年表以外にも関連地図が示されているが、これも同様に立体的な理解の一助として活用して頂きたい。

■参考文献

テキストの各章末および巻末に掲載してあるので、それを参照してほしい。またこれ以外に、個々の事件や人名について確認するには、『世界史小辞典』(山川出版社)、『角川 世界史辞典』(角川書店)などを手元においておくとう便利であろう。

科目コード	科目名	単位数
L30600	東洋政治史	4 単位

教材コード 000495

教材名 東洋政治史

著者名等 孔 義植・松村 修一

■教材の概要

本書は、中国と韓国の現代政治史、政治制度、政治過程を総合的に理解することを目的として書かれた。中国編では、中国の現代政治を社会主義国家建設と改革開放政策という観点から説明して、これからの中国を展望している。

韓国編では、韓国の現代政治を軍部独裁と民主化という観点から分析して、韓国現代政治のダイナミックな変化の様子を明らかにしている。

■学修計画のポイント

1

第1章では、辛亥革命以後の中国国民党と共産党の対立と協力、国共内戦により誕生した中華人民共和国の社会主義国家の建設過程、毛沢東による一人支配体制と中国経済の破綻、その後の鄧小平の改革開放政策による経済成長に至る過程を、社会主義革命と改革開放という観点から論じ、さらに、鄧小平後の中国における課題や最近の外交についても論じている。

第2章では、中国の政治制度や過程を共産党や政府機関、それに非共産党の大衆機関に分けて説明した。また、中台関係の現状に触れ、最後には中国が抱えている様々な課題を取り上げることによって今後の中国を展望している。

2

第1章では、1945年に韓国が日本の植民地支配から解放されてから現在に至るまでの過程を軍部独裁と民主化という観点からその流れを政権別に分けて論じている。

第2章では、韓国の政治制度や過程を憲法、大統領と政府、国会、政党、選挙、地方自治、市民運動と利益集団、裁判制度に分けて説明し、最後に南北朝鮮関係を分断と統一という観点から論じて、南北関係の現状と今後の展開を予測している。

■学修上の留意点

政治史の全体的な流れを把握した上、様々な事件や出来事の関連性についてよく考えることが大事である。

■参考文献

『現代中国政治 第3版—グローバル・パワーの肖像—』毛利和子著（名古屋大学出版会）

『21世紀の中国 政治・社会篇』毛利和子・加藤千洋・美根慶樹著（朝日新聞出版）

『韓国現代政治を読む』孔義植・鄭俊坤著（芦書房）

『韓国政治と市民社会』清水敏行著（北海道大学出版会）

科目コード	科目名	単位数
L30700	外交史	4 単位

教材コード 000085

教材名 外交史

著者名等 深津 榮一・工藤 美知尋

■教材の概要

日本の近代から現代にいたる国際社会のなかでの外交の展開を学修の課題としている。それは、近代国家の成立による国際社会の成立から第2次世界大戦後の国際情勢の展開までを取り上げている。ここでは、日本が開国し国際社会へ参加し、同盟協商体制を選択したこと、第1次世界大戦とその結果としてのヴェルサイユ体制が確立したこと、第2次世界大戦に突入し、日本の敗戦となったこと、第2次世界大戦は超大国の冷戦外交に主導されたことが、論点としてとりあげられる。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 112

第1章と第2章では、外交とはどういうものを学ぶ。第3章では、日本の国際社会への参加とそこで日本の選択、すなわち日英同盟はどのようなものであったかについて、理解する。第4・5章では、第1次世界大戦の結果として成立したヴェルサイユ体制とはどういうものであったかを学ぶ。

ページ 113 ～ 254

第6章では、ヴェルサイユ体制以降、日本はどのような外交を展開し、中国大陆に関与していったかを考え、問題点を整理してみる。そして、第2次世界大戦はどのような経過で終結に向かったかを学ぶ。第7章では、超大国の出現と冷戦外交がどのようなものであったかを知ることが必要である。

■学修上の留意点

- ① 日本の国際社会への参加におけるその選択としての日英同盟が日本の外交においてどのような位置づけにあったかにつき特に留意すること。
- ② 第1次世界大戦に日本はどのような形で参加し、それはどのように評価されるものであったかを考えること。ドイツとの比較という点も配慮すること。
- ③ 戦間期を通じ日本の外交はどのようなものであったか、具体的に日本の中国大陆への関与はどうであったかを整理して見ること。
- ④ 第2次世界大戦の性格はどのようなもので、どのような経過を経て戦争の終結にいたったかを検討しておくこと。
- ⑤ 東西対立下の冷戦外交はどのような特徴があったかについて考えておくこと。

■参考文献

- 第1単位 『外交史提要』 入江啓四郎・大畑篤四郎著（成文堂）
『国際政治・外交史概説』 瀬川善信著（南窓社）
- 第2単位 『日本外交史概説（3訂）』 池井優著（慶応義塾大学出版会）
※『日本外交史2』 信夫清三郎著（毎日新聞社）
※『日本外交史』 大畑篤四郎著（東出版）
- 第3単位 ※『国際政治史』 岡義武著（岩波書店）
※『昭和外交史（3訂増補版）』 義井博著（南窓社）
※『中国をめぐる近代日本の外交』 臼井勝美著（筑摩書房）
※『戦間期国際政治史』 齊藤孝著（岩波書店）
※『戦間期の日本外交』 入江昭・有賀貞編（東京大学出版会）
※『日中外交六十年史 第4巻』 王芸生・長野勲著（龍溪書舎）
- 第4単位 ※『冷戦』（岩波新書）F.L. シューマン著、宮地健次郎訳（岩波書店）
『戦後国際政治史Ⅰ・Ⅱ』 柳沢英二郎著（現代ジャーナリズム出版会）
『戦後国際政治史Ⅲ』 柳沢英二郎著（拓植書房）
※『現代国際政治'40～'80（増補版）』 柳沢英二郎・加藤正男著（亜紀書房）

科目コード	科目名	単位数
L30800	地方自治論	4 単位

教材コード 000496

教材名 地方自治論

著者名等 外山 公美・福島 康仁

■教材の概要

私たちの生活は、地方自治体の事務事業なしには成り立たず、また、地方分権社会が進行する現代では地方自治体の役割はより大きくなっている。したがって、私たちが地方自治に関する基礎的理論を理解することは自治の主役である住民としての責務であり必須事項であろう。

本教材は、基礎編と応用編の2部構成である。前半部では地方自治に関する基礎理論と制度概要、後半部では応用編として、地域社会での現代的な諸問題に対する政策展開、海外での地方自治の展開についての検討という内容である。

本教材を通じて地方自治についての単なる知識だけでなく、自ら考える力を養うことを目的にしている。

■学修計画のポイント

1

前半部の基礎理論編は、2つの章で構成されている。

第Ⅰ章では、地方自治制度の基礎理論と制度について、地方自治の意義から日本の地方自治制度の史的展開も含めて説明している。

第Ⅱ章では、地方自治法の規定を用いて制度の現状について説明している。

学修のポイントは、それぞれの巻末の演習問題などを参考にしてほしい。

2

後半部の応用編も、同じく2つの章で構成されている。

第Ⅲ章では、地域社会の主要な諸課題を取り上げそれに対応する自治体の政策展開について検討をしている。

第Ⅳ章では、主要な国の地方制度について、自治制度改革の視点から検討する。

習のポイントは、それぞれの巻末の演習問題などを参考にしてほしい。

■学修上の留意点

今日、地方自治の改革の動きはとても早いので、古い参考書や古い条文は参考にならないことも多い。テキストを基調としながら新しい情報を積極的に入手するように努めること。新聞は毎日必ず読み、情報検索にはインターネットなどを使用するとよい。

古い参考書を使用する場合は、地方自治法が改正されている場合もあるので、十分注意するようにしてください。

■参考文献

参考文献は、各章末の【学習のための参考文献】として示しているので、参照してほしい。

科目コード	科目名	単位数
L31300	経済学説史	4 単位
R30100	経済学史	4 単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード 000160

教材名 経済学史／経済学説史

著者名等 戸田 正雄

■教材の概要

狭義の経済学説史は一般に古典学派に始まるが、教材では古代からの経済思想を概観した後に古典学派を、次いでその批判としての歴史学派と社会主義学説を、そして最後に近代経済学説を取り上げる。ところで偉大な経済学者は、すべて当時の経済的諸困難解決のために新たな経済学を構築したのである。故に経済学説史を学ぶ場合、まずその時代的背景を把握した上で各学説を、そしてそれら学説間の関連を見る必要がある。以上のことに十分留意して勉強されたい。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 152

第1単位では『経済学説』の成立前史が扱われる。ここで特に重要なのは『重商主義』である。この学派の代表者の思想と、全体の特徴を把握すること。スミスにより重商主義のどの点が受け継がれ、どの点が批判されたのかも併せて見よ。

『重農主義』は、スミスへの影響と、その代表者ケネーの経済表が経済循環を捉えた最初のものとして重要である。『古典学派』といえは自由主義経済学説であるが。その創始者スミスと完成者リカード、解体者ミルとの学説の相違に留意せよ。

ページ 153 ～ 299

第3単位は『古典学派』批判の学説を取り扱う。『歴史学派』が何故、特にドイツで生じたのか、どのように批判したのか、『社会主義学派』は何故資本主義体制を否定するのか、マルクス理論とはどのようなものか、これらの点を十分理解するよう努めよ。

近代経済学としての『限界効用学派』は、労働価値説に対し主観的価値説を主張したが、これ以後価値論は経済学の中心問題ではなくなる。『新古典学派』と併せ、特にケインズ理論が何故革命とまでいわれたのか、その点を含め良く勉強されたい。

■学修上の留意点

- ① 先述のように学説の時代的背景をよくつかんでおくこと。
- ② 各学説の特徴を、箇条書きにでもして、明確に理解しておくこと。
- ③ 学派の代表者が複数いるときは、それらの学説の相異を知っておくこと。
- ④ 一つの学説とそれに先立つ学説、その後に続く学説との関連をよく把握しておくこと。

■参考文献

教材の巻末と、各分冊ごとのレポート課題の後にも参考文献を掲げてあるので、参照されたい。なお以下のものをつけ加えておく。

※『経済学史—経済学の生誕から現代まで—』早坂忠編著（ミネルヴァ書房）

※『近代経済学の群像』（有斐閣ブックス）橋本昭一・上宮正一郎編（有斐閣）

※『経済学の歴史』J.K. ガルブレイス著（ダイヤモンド社）

科目コード	科目名	単位数
L31400	財政学	4単位
R31500	財政学総論	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード 000487

教材名 『基本財政学（第4版）』

著者名等 橋本 徹・山本 栄一・林 宣嗣・中野 英雄・高林 喜久生

出版社名 有斐閣

■教材の概要

この教材は、財政学の基礎的な性格（第1章）、日本の財政の現状と制度（第2章、第3章）、歳出と歳入の理論と現状の詳細（第4章、第5章、第6章、第7章）、社会保障、財政政策などの重要課題の詳細（第8章、第9章）、地方財政や都市などの観点からの解説（第10章、第11章）を、学部生向けにわかりやすく解説したものとなっています。丁寧な解説と図によって理解を進めることができます。ところどころで数式が出てきますが、数式の細かいところにこだわらずに解説されている内容と論理の把握に努めてください。また、現状の部分はやや古くなっているきらいもありますので、財務省や厚生労働省のホームページなどを併せて調べることで、教材の内容がどのように変化しているかも把握するようにしてください。

■学修計画のポイント

第1章：なぜ政府が必要か、財政の3機能を教材を丁寧に読み込むことで理解してください。第2章：日本財政のこれまでの歴史と現状について教材で理解を深めるとともに、財務省のホームページ（http://www.mof.go.jp/public_relations/publication/）などでより新しい情報の把握に努めてください。第3章：予算仕組みと制度を教材に従って学修してください。ただし財政投融资制度などは大きな変更が加えられていますので、財務省ホームページ（<http://www.mof.go.jp/filp/>）などで現在の制度の把握に努めてください。第4章：歳出の現状を把握するだけでなく、公共財の理論や歳出効率化のPPBSなどの取組について理解を深めてください。第5章及び第6章：租税の現状を把握するとともに、超過負担などの租税理論をしっかりと理解してください。第7章：公債の経済効果や負担論に関する理論をしっかりと学修してください。ドーマー法則のところで展開されている数式の細かい部分が理解できない場合は、内容とそのロジックを把握するようにしてください。現状は第1章と同様のホームページで最新の状況を把握するようにしてください。第8章：社会保障制度の現状と課題をテキストを中心に理解してください。第1章のホームページを援用して最新のデータを把握してください。第9章：ここで展開されているマクロの理論をしっかりと学修してください。第10章、第11章：地方財政、都市の現状をテキストを中心に理解するようにして下さい。

■学修上の留意点

教材が解説している概念、理論は基礎的で普遍的なものですが、現状と制度がややデータとして古いところがあります。最新のデータの入手先は学修のポイントで指示しましたが、それ以外にも市町村合併や三位一体改革などの教材執筆以降に起こったことを、総務省のホームページなどを援用することで把握するようにして下さい。

■参考文献

財務省ホームページ：<http://www.mof.go.jp/>

総務省ホームページ：<http://www.soumu.go.jp/>

厚生労働省ホームページ：<http://www.mhlw.go.jp/>

科目コード	科目名	単位数
L31500	経済政策	4 単位
R30700	経済政策総論	4 単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード 000527

教材名 『経済政策入門第2版』

(学修指導書別冊)

著者名等 酒井邦雄・村上亨・吉田雅彦・寺本博美著

出版社名 成文堂

■教材の概要

本書は、13 章で構成されています。第 1 章「経済政策」、第 2 章「個人と集団」、第 3 章「民主主義のパラドックス」、第 4 章「政策決定過程」、第 5 章「市場の効率性」、第 6 章「市場の失敗」、第 7 章「経済成長政策」、第 8 章「経済安定化政策」、第 9 章「競争政策」、第 10 章「所得分配と社会保障政策」、第 11 章「環境政策」、第 12 章「国際経済政策」、第 13 章「現代の経済政策課題」からなり、経済政策に関して体系的に理解を深めることができます。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 96

- 1 ～ 16 ページ 第 1 章では、総論として、経済政策の目的と手段について理解します。
- 17 ～ 30 ページ 第 2 章では、社会的厚生関数について理解します。
- 31 ～ 45 ページ 第 3 章では、民主主義的意思決定のパラドックスについて理解します。
- 47 ～ 60 ページ 第 4 章では、経済政策の意思決定のモデルと主体について理解します。
- 61 ～ 78 ページ 第 5 章では、市場メカニズムとパレート最適について理解します。
- 79 ～ 96 ページ 第 6 章では、市場の失敗の各類型について理解します。

ページ 97 ～ 255

- 97 ～ 112 ページ 第 7 章では、経済成長の要因と政策類型について理解します。
- 113 ～ 141 ページ 第 8 章では、景気循環、雇用、インフレについて理解します。
- 143 ～ 158 ページ 第 9 章では、規制緩和と競争政策について理解します。
- 159 ～ 182 ページ 第 10 章では、所得再分配の必要性和社会保障政策について理解します。
- 183 ～ 199 ページ 第 11 章では、環境政策の意義・目的・評価について理解します。
- 201 ～ 216 ページ 第 12 章では、貿易の理論、貿易制限、貿易摩擦について理解します。
- 217 ～ 234 ページ 第 13 章では、財政赤字の問題とデフレ問題について理解します。

■学修上の留意点

本書は、門的な概念についてわかりやすく説明しているので、経済学の基礎知識をマスターしていない人でも理解できると思いますが、なお、理解困難な箇所がある場合には、ミクロ経済学やマクロ経済学のベーシックな教科書を参照してください。

■参考文献

「経済白書」ほか各省庁の白書、各年版

また、本書の各章末に参考文献が掲げられているので、参照してください。

科目コード	科目名	単位数
L31600	社会政策	4単位
R32100	社会政策論	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード 000532

教材名 『増補改訂 総説現代社会政策』

著者名等 成瀬 龍夫

出版社名 桜井書店

■教材の概要

日本の社会政策研究の歴史を概観すると、労働力の創出（労働者政策）におもきが置かれてきた。しかし近年では労働者のみの政策だけではなく、国民全般の生活を保障する社会保障制度との連携が重要となってきた。

教材は、社会政策の概念、歴史、各種制度の仕組みや問題点を、雇用政策と社会保障をふくめて体系的に説明している。各章で取り上げられているテーマと用語をよく理解しながら、学修してもらいたい。

■学修計画のポイント

ページ 15 ～ 67

第1章～第3章

ここでは主に社会政策の原理や対象領域および社会政策形成の基準や原則について述べられている。さらに社会政策の歴史について諸外国と日本の歴史についても具体的に説明されている。社会政策の性質や歴史的な流れをおさえておくことが望ましい。

ページ 69 ～ 142

第4章～第6章

ここでは労働問題に関して、諸外国との比較をしながら日本の各種制度の特徴が説明されている。労働時間、賃金制度、労働市場といった各分野における歴史的整理と現状分析から見えてくる問題点についての指摘もされている。諸外国と日本の制度の違いなどもおさえておくことが望ましい。

ページ 111 ～ 225

第7章～第10章

第7章では、これまでの第4章から第6章までの内容と関係の深い社会保障制度について説明されている。第8章から第10章までは日本社会を取り巻く問題（少子・高齢化）や、福祉国家の限界など、従来のシステムの問題が指摘されている。これらの現状を踏まえて、今後、社会政策はどのように展開していくのかについて検討する。近年は制度改正が多くおこなわれているため、最近の動向をおさえておくことが重要である。また社会政策の将来展望などは、自分なりの考えをまとめておくことが望ましい。

■学修上の留意点

- ① 社会政策の原理および歴史的な流れをよく理解しておくこと。
- ② 日本と諸外国の違いを理解しておくこと。
- ③ 労働者政策だけでなく、国民生活に全般における社会保障制度の役割を理解しておくこと。

■参考文献

『はじめての社会保障』 椋野美智子・田中耕太郎著（有斐閣アルマ）

『よくわかる社会政策』 石畑良太郎・牧野富夫著（ミネルヴァ書房）

このほか、テキストの 227 ～ 230 ページに参考文献があげられているので、それを可能な限り読んでおくこと。

科目コード	科目名	単位数
M20100	国文学基礎講義	4 単位

教材コード 000519

教材名 『日本古典文学』

(学修指導書別冊)

著者名等 近藤 健史 編

出版社名 弘文堂

■教材の概要

本教材は、日本古典文学として、古代から近世までの文学の中から、各時代における散文と韻文の代表的な作品を取り上げ、いろいろな視点から作品を「読む」ということを中心にまとめた。また近代作家たちの古典評価を通して、古典文学を捉え直すという意味で近代における古典文学のゆくえも加えてある。

■学修計画のポイント

本教材は、日本文学を専攻する学生以外にも、大学の教養課程で学ぶ学生や一般の人々など、多くの日本古典文学を学ぶ人々のために、「分かり易さ」を心掛けた。また独習や予習ができるように学修の目標を「本章のポイント」としてまとめている。さらに学修を手助けするため「理解を深めるための参考文献」や「関連作品の案内」を付し、最新の研究から「トピック」を挙げてある。各章の最後には「知識を確認しよう」を付し、学修成果の確認ができるようにしてある。

■学修上の留意点

- ① 各章ごとにある引用作品の意味について理解しておくこと。
- ② 基本的には、作品の時代背景、成立事情、構成、内容、表現、特色などについて解説してあるので、よく理解してほしい。

■参考文献

本教材や「学修指導書」に、それぞれ示してある。

科目コード	科目名	単位数
M20200	国文学概論	4 単位

教材コード 000089

教材名 国文学概論

著者名等 高木 市之助

■教材の概要

古代から近代にいたるまでの日本文学の主要なジャンルについて、それぞれの文学形態の特質や発生・展開の様相を概観している。各分野とも執筆された時点からかなり時間が経過しているため、脚注その他に掲出された参考書等に入手困難なものがあり、その後の新しい研究成果を追加すべき点もある。この教材をステップとして、自分なりの「国文学」に対する考え方や興味・関心を持てるように各自で問題点を発見し、整理、発展させていくことが望まれる。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 140 「古代和歌」～「軍記物語」

1 ～ 78 ページ

「古代和歌」と「説話文学」の二分野で構成されており、和歌の諸形態と短歌形式の形成過程の問題、説話文学における「説話性」の問題がそれぞれ中心的課題となっている。記紀歌謡・和歌・物語と説話との関連性を考えることも重要。

79 ～ 140 ページ

「物語文学」と「軍記物語」の二分野からなる。物語文学の概念、種類、系統の問題、軍記物語の発生と史的展開、その特性の問題などが中心的課題である。特に「語り」「語りもの」としての軍記物語の特質を考えることが必要である。

ページ 3 ～ 286 「連歌」～「近代韻文」

3 ～ 135 ページ

「連歌」「俳諧」と「謡曲」「狂言」「浄瑠璃」「歌舞伎狂言」という中世から近世に及ぶ韻文と演劇の諸分野の展開が中心的課題である。それぞれの文芸形式と特質について、具体的な作品に即して理解を深めることが要求されよう。

139 ～ 286 ページ

「近代小説」と「近代韻文」の二分野で構成されている。小説、詩（短歌・俳句の短詩形を含む）における「近代性」とは何か、が重要な課題である。

■学修上の留意点

- ① 教材を要約するだけでなく、一つでも多くの原文を読むことが望ましい。
- ② 関連する研究書を読み、研究の動向、現状などにも留意するように努力してほしい。
- ③ 参考書の解説、見解はできるだけ批判的にとらえる姿勢も身につけるようにする。
- ④ 答えは、くれぐれも教材の単なる要約にならないように注意してほしい。

■参考文献

- ※『新日本古典文学大系』（岩波書店）所収の作品、解題、参考文献
- ※『別冊国文学 新・古典文学研究必携』（学燈社）などの『必携』シリーズ
- ※『国文学 解釈と教材の研究』（学燈社）、『国文学 解釈と鑑賞』（至文堂）などの国文学関係の雑誌により最新の研究情報を知ることができる。

科目コード	科 目 名	単位数
M20300	国語学概論	4 単位

教材コード 000412

教 材 名 『現代日本語学入門』

著 者 名 等 荻野 綱男

出 版 社 名 明治書院

■教材の概要

「国語学」は国語つまり日本語に関する研究の全体である。世界の言語を対象にする「言語学」のうち、特に日本語を対象とするものごとである。したがって、研究方法などは言語学に通じるものがある。

国語学は、その中の研究領域として、非常に多彩な内容を含んでいる。また、周辺領域とも密接な関連を持っている。学生諸君は、この教材を通じて、国語学とその周辺分野の幅広い側面について知識を持ってほしい。これは、その後のさまざまな研究の基礎となるものであるから、基礎力養成のために、どの分野も好き嫌いをいわず、食らいつくつむりで教材にぶつかってほしい。

この教材は、そのようなアプローチに適したものになっており、例を多く挙げられ、全体としてわかりやすく書かれている。ぜひ、全体を理解するよう、努力してほしい。

なお、この教材では、日本語の歴史的な変遷や古語に関する記述はほとんど省略されている。こちらの方面を別の書物で補っておくことが望ましい。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 111

(日本語とは) 国語(日本語)を広い視野からとらえる考え方を身に付けてほしい。日本語は単独で存在するものではなく、世界の諸言語の一つであり、その研究法としての国語学もまた周辺の諸学問と関連している。そういう見方を理解することが重要である。

(音声と音韻) 音声学と音韻学の違いは基本概念の一つである。二つの見方をしっかり区別してほしい。その上で、日本語が音声面でもどういう特徴を持っているかを全体として理解することが必要である。音声学は、本だけで理解することは困難である。身の回りで使われていることば(また自分のことば)を観察しながら実際の音声と教科書の記述を対応させることが重要である。音韻論は、ページ数の関係で簡略な記述しかないが、大切な概念・考え方が示されているところなので、無視できない。

(語彙) 語彙とは何か、どういう特徴があるのか、それを出自(語種)とともに理解し、たくさんの要素からなるものを全体として把握するということか、どうということか、巨視的に見る見方を身に付けてほしい。図表がたくさん出てくるが、それぞれが何を物語っているか、じっくり考えて読み込むことが必要である。

(意味) 語の意味はきわめて多様な側面を持つ。教科書には具体例が多く挙がっているが、それらの語の意味を自分で考えて確認しながら読み進めていくことが大事である。さっと読めば読めてはいますが、それでは内容が身に付かない。

(文法) 文法のとらえ方は、日本語のどのような面が明らかになるのかを身近な例で確認しておく必要がある。文法カテゴリーのところは、今までに学んだことのない概念が出てくるが、現在の国語学の常識なので、個々の専門用語の意味を確認しながら理解してほしい。

(文章と文体) 日本語のしくみの中ではやや周辺の話題を扱う。文を越える大きさの文章を対象にすると、どんな見方・考え方ができるのかを理解してほしい。この章で扱われる問題が「文を扱う(文のサイズの)文法」では扱えないことが理解できれば十分である。

ページ 112 ～ 246

(文字と表記) 日本語の文字の特色を踏まえるだけでなく、そのような特色があるからこそ、日本語を書き表すときにいろいろ考慮しなければならないという表記の多様性に目を向けてほしい。特に、漢字は複雑な文字体系である。教科書では、さまざまな観点から漢字を分類しているので、そのような複眼的な見方を身に付けてほしい。

(敬語) 敬語は、単に人を敬うものではない。その働きは実に複雑である。そのような複雑な働きの総体として日本語の敬語が存在しているということを理解することが大事である。敬語の体系(言語体系)とともに、敬語の使い方の体系(行動体系)があるので、敬語を両面からとらえるような見方を理解してほしい。

(方言と共通語) なぜ日本語の中に方言があるのか、これから方言はどうなっていくのか、大きな流れの中で方言について考えてほしい。東京から距離のある地域に住んでいる人は、自分の身近な話し言葉としての方言を、自分で再発見するつもりで観察することも意義がある。方言と共通語を分けてとらえるだけでなく、両者にまたがる問題がいろいろある。教科書ではそのような側面にも配慮しているのだから、自分の語感などと照らし合わせながら読み進めてほしい。

(日本語教育) 国語教育との違いはぜひ理解してほしい。日本語狂句は、初めての人には理解しにくい面があるかもしれないが、自分が受けた英語教育などと対比しながら読み進めると、分野の特徴や考えなど、納得が行くものと思う。日本語教育からとらえた日本語の特徴は、日本語を客観的に見ることにつながるので、「自分が使っている言語」(主観的なとらえ方)という見方と違っている点を理解することがポイントである。

(社会言語学) マクロな社会言語学とミクロな社会言語学がある。教科書ではミクロ(個人の言語行動という側面)が中心に記述してある。この章(および敬語)以外はことばのしくみ(言語体系)という観点から見ることができるが、ここでは言語行動、すなわちことばを使うという観点から見ることになる。

(コンピュータ言語) 普段から身の回りの電子機器(電子辞書やケータイ、パソコン)に興味を持って、実際に使うことが大事である。その上で、この章を読むと、身の回りに考えてみるとよい。

(心理言語学) 言語習得は、日本語学よりも心理言語学分野で研究されることが多い。母語の習得と第二言語の習得がどのように違うのか、自分の英語学習の経験などとも照らし合わせながら教科書を理解するとよい。言語習得以外にも、人間の心理と関連する日本語研究がいろいろあるので、その方面にも興味を広げてほしい。

(対照言語学) 日本語を知るための一つのプロセスとして、外国語と比べて違っているところを意識するということがある。対照言語学はそういう分野なので、英語を始めとする外国語を意識して、それらと日本語の違いを考えよう。外国語の知識がないと、対照言語学を理解するのはかなりむずかしい。

(文化人類学) ことばは文化と関連する。文化を扱う学問分野としての文化人類学の中には、ことばの研究と深く関わる分野がある。視野を広げて、「何でも見てやろう」的な態度で世界を眺め、その中で日本語の問題に考えをめぐらせるのがよい。

■学修上の留意点

どの部分も大事であるから、全体を理解してほしい。分野ごとに考え方の道筋がかなり異なる面もあるから、それぞれの分野ごとに発想を切り替えるつもりで(それぞれの章ごとに新たな気持ちで)学修するとよい。書いてあることの理解のためには、日常見聞きするものを例にして考え、自分なりに説明するような心がけが必要である。

■参考文献

教材の各章末に参考文献が挙げられているので、それを見てほしい。

もう少し深く学びたい人には、各種講座ものが便利である。『講座 日本語と日本語教育 全16巻』(明治書院)、『朝倉日本語講座 全10巻』(北原保雄監修(朝倉書店))、※『講座 日本語学 全12巻』(明治書院)。

また、日本語の歴史的な変遷については、『日本語の歴史』山口伸美著(岩波新書)がわかりやすい。

日本語教育から文化人類学までは、それぞれ学問領域が確立しているので、ぜひ、それぞれの入門書を読み進めることをお勧めする。

科目コード	科目名	単位数
M30100	国文学史Ⅰ	4単位

教材コード 000553

教材名 『日本文学史』 ※国文学史Ⅱと同じ教材です。 (学修指導書別冊)

著者名等 久保田 淳 編

出版社名 おうふう

■教材の概要

本教材は、時代別に部立てを設け、それぞれの時代に特徴的な文学史事項について解説している。上代・中古・中世・近世・近代（明治～平成）の5部構成であり、その各部が複数章を構成し、さらに各章において複数節を立てて説明の展開をするという形態である。

各部の冒頭において「概説」が置かれ、その時代の歴史観の説明が要領よくまとめられている。よって学修者は、具体的な文学史の展開に入る前に歴史事項の確認と時代の流れを把握できるようになっている。

また、古代から近代という明確な流れを示すことで、文学の流動的展開やそれぞれの文学の傾向と特色とを理解するのに適している。

■学修計画のポイント

『国文学史Ⅰ』は、日本文学史のうち、上代・中古・中世・近世を対象とする。それ以降は『国文学史Ⅱ』で扱う。各時代の各特徴を捉えることはもちろん重要であるが、全体を通した「文学史とは何か」ということを根底に据えた捉え方も必要なことである。まずは、文学史全体を概観し、整理することが重要である。

以下、各時代におけるポイントを列挙する。

上代においては、文学以前から『古事記』『日本書紀』といった文学の始まりを、巻数・編者・成立年代・内容・文体・特色などについて比較整理すること。『万葉集』の歌風の変遷と四期に分けた代表歌人の特色を関連づけて整理すること。

中古においては、漢詩文の興隆と、最初の勅撰和歌集である『古今和歌集』の成立について整理すること。その特徴と歌人たちの活動についても整理・把握すること。漢詩文に圧倒されていた和歌が再び興隆した事情も整理・把握すること。

物語の発生と展開についても整理すること。『源氏物語』に至る物語の系譜を把握すること。日記文学についての特質と成立の背景を把握すること。女性が文学の表舞台に立つということも含めて把握すること。随筆の『枕草子』もその系譜にあることを整理・把握すること。

中世においては、『新古今和歌集』の成立の背景を整理・把握すること。その後の武士階級の台頭と『平家物語』のような軍記物語がどのような時代背景と関連をもって成立するのかということ整理・把握すること。

随筆『方丈記』『徒然草』は、前時代の『枕草子』とあわせてどのような特徴があるのかということも整理・把握すること。

近世においては、江戸文学の重要背景として、町人階級の勃興や上方文化と江戸文化などが町人文学の誕生をうながしたこと。

■学修上の留意点

上代から近現代まで文学史を概観したうえで、各時代ごとの年表、本文、解説（作家、作品、その他の事項）など全体をよく読み、整理することが重要である。

■参考文献

『Next 教科書シリーズ 日本古典文学』近藤健史編 弘文堂

『新編日本古典文学全集』小学館

科目コード	科目名	単位数
M30200	国文学史Ⅱ	4 単位

教材コード 000553

教材名 『日本文学史』 ※国文学史Ⅰと同じ教材です。 (学修指導書別冊)

著者名等 久保田 淳 編

出版社名 おうふう

■教材の概要

「国文学史Ⅱ」は、日本文学史のうち、近代、現代を扱っている。しかし、本教材は前半部にある文学史以前、文学史の発足、上代・中古・中世・近世の文学史についても必ず通観する構成になっている。また、各ジャンルに分け説明が展開されているので、年代の流れにそって、すべてのジャンルを統括的に把握することができるようになっている。さらに、主義・主張ごとの展開や作品についての説明も充実しており、学修には好都合である。文学史という科目の性格上、時代の流れとして知識を得るとともに、実際に作品を読むこともできる。

■学修計画のポイント

各時代の各特徴を捉えることはもちろん重要であるが、全体を通した「文学史とは何か」ということを根拠にした捉え方も必要である。まずは文学史全体を概観し、整理することが重要である。本教材前半部にある、文学史以前、文学史の発足、上代・中古・中世・近世までの文学史を通観することも必要不可欠である。

テキストの分類項目では、「近代」とあるが実際は明治から「戦後～現在」とあり「現代」までの文学作品を対象範囲としている。

特色としては、近代文学における表現の変遷と〈私〉の位相に焦点をしばって文学史の流れを追い、文学表現と表現主体そのものの問題に着目し、文学の近代化の様相を内からの視点で記述しているところにある。それは近代的表現と〈私〉のあり方が、古典文学と近代文学を区切る重要な指標であり、近代文学史の大きな流れとそこに含まれる諸問題を浮き彫りにすると考えるからである。

学修計画の大きなポイントは、特色と方針を理解したうえでテキストを読むことである。

■学修上の留意点

西欧との接触による「近代化」が、日本の文学者や文学に与えた影響と近代文学の特質について留意すること。

文学史全体を概観したうえで、各ジャンルから作者及び作品の特色を学修し、積極的に作品と関わること。

■参考文献

教材を読み込むとともに、文学全集・文庫本等で、近代～現代における文学作品を一つでも多く読み込むことが肝要である。

『新編日本古典文学全集』小学館

科目コード	科目名	単位数
M30300	国文法	4単位

教材コード 000101

教材名 『日本語文法』

(学修指導書別冊)

著者名等 岩淵 匡

出版社名 白帝社

■教材の概要

本教材は、日本語の文法を体系的な面からその基本を概説している。文法は、その名称のごとく、文を構成している法則・きまりを明らかにするもので、本教材は、品詞論を基礎に構文論を主眼にまとめている。ここに従来の日本語文法の概説書との違いがあり、しかも現代語と古典語との両面から構文を考えるようにまとめたところに特徴がある。

■学修計画のポイント

ページ 11 ～ 100

11 ～ 20 ページ

「序説」では、文法の捉え方と内外の文法学者の構文論の流れをきちんと理解すること。

21 ～ 44 ページ

「文の構造と種類」を考える項目である。助動詞・助詞の相互承接による文構造を習得すること。

45 ～ 65 ページ

「格」は日本語の格を考える項目である。古典語と合わせて現代語の格の意味づけを考えること。

66 ～ 79 ページ

「連用修飾」の定義と構文上の位置づけを示している。連用修飾と被連用修飾との関係を考えること。

80 ～ 100 ページ

「連体修飾」は、連用修飾と対比しながら、連体修飾の役割を構文上から習得すること。

ページ 101 ～ 210

101 ～ 120 ページ

「活用」を理解し、活用の種類と活用形の種類とが構文上に及ぼす働きを理解すること。

121 ～ 142 ページ

「ヴォイス」は、日本語でどのように捉えているかを考え、構文上の位置づけを習得すること。

143 ～ 160 ページ

「テンス・アスペクト」の定義をしっかりと捉え、これらによる動詞の分類を考えること。

161 ～ 185 ページ

「モダリティ」の定義と種類を理解し、表現主体・心的態度・発話時点の及ぼす影響を考えること。

186 ～ 210 ページ

「は」の役割を考える項目。「が」と比較しながら、「は」の性格を理解すること。

■学修上の留意点

- ① 「文法」は、基本的に構文上の規則であることを知っておくこと。個別の品詞を理解するのではない。
- ② 教材の文法の捉え方は、新しい考え方に従っているので、その用語・考え方に慣れること。

■参考文献

- ※『国語法研究』橋本進吉著（岩波書店）
- ※『日本文法（文語篇・口語篇）』時枝誠記著（岩波書店）
- ※『改撰標準日本文法』松下大三郎著（勉誠社復刻）

科目コード	科目名	単位数
M30400	国語学講義	4 単位

教材コード 000088

教材名 国語学講義

著者名等 小久保 崇明

■教材の概要

国語学講義（国語史）とは、日本語の歴史をいう。本教材は、その日本語の歴史を明らかにするために記述した教材である。本来なら上代から現代までの日本語の変遷を説くことが望まれるが、都合により、上代から中世前期すなわち鎌倉時代までの日本語の歴史の概要を時代的に示した。なお、学修の便を考え、各時代とも、概説・文字表記・文章文体・音韻・語彙・文法・敬語・方言に分けて記述してみた。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 211

1 ～ 99 ページ

序で国語史の定義とその研究の目的を示している。また、日本語の系統についても記しているので、その概要を理解しておくこと。第2章では、特に上代特殊仮名遣いについて理解を深めておくように。

101 ～ 211 ページ

奈良時代の国語と平安時代の国語との差異の概要を理解すること。特に敬語について、正確な知識を身につけるように。

ページ 213 ～ 415

213 ～ 307 ページ

平安時代の国語と院政鎌倉時代の国語との差異の概要を理解すること。係り結びの変遷について考えてみることも大切である。

311 ～ 415 ページ

主要な作品を読んで、その中から、その時代の国語史上重要な現象を見出すよう努めること。

■学修上の留意点

- ① 学修計画のポイントで示したことを、よく記憶しておくこと。
- ② 重要な事項は、ゴシックで組んである。それらを理解しておくこと。

■参考文献

教材の参考文献目録を参照。

『日本語文法大辞典』山口明穂・秋本守英編（明治書院）

科目コード	科目名	単位数
M30500	国文学講義Ⅰ（上代）	4単位

教材コード 000090

教材名 国文学講義Ⅰ（上代）

著者名等 竹内 金治郎

■教材の概要

教材は、上代文学の中の歌謡と説話を主としている。歌謡は古事記、日本書紀と万葉集に収められているものを取り上げている。記紀歌謡では約90首についての表現の技巧面、とりわけ修辞法の見地に立って、形式的類型的な言及がなされている。万葉集では、「雑歌」「相聞」「挽歌」という万葉集の三大部位の外に、「羈旅歌」について考察している。説話では古事記、日本書紀ならびに風土記に収められた神話や伝説および説話を扱っている。説話では農耕説話に重点をおいて述べている。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 232

1 ～ 109 ページ

歌謡の概説によって、上代歌謡のあらましと、その特色（形態内容など）を理解するようにする。また各項ごとの修辞法を把握する。脚注の口語訳などを参考にし、その歌謡の意味、作歌事情などについても理解する。

111 ～ 232 ページ

万葉集中の相聞歌について、その特色を理解する。相聞歌の名義、編纂上の問題、表現の三様式などについても理解するようにする。また例に挙げてある相聞歌の意味、作歌背景などについても考えておく。

ページ 233 ～ 496

233 ～ 383 ページ

万葉集の羈旅歌の特色について把握しておく。「羈旅」の意義、羈旅歌のありかた（位置、形、数）、内容について把握する。内容上より六種に分類した羈旅歌の意味やその特徴についても理解しておく。

385 ～ 496 ページ

上代文学における農耕を背景とする説話について、その特色、説話の意義、類型、農耕習俗に関しても考えておく。

■学修上の留意点

例に挙げた歌謡や歌などについて、その意味内容、文学性、特色などについても理解するよう努力する。また文学はことばによる表現なので、ひとつひとつの語を大切にし、一語一語の品詞などについてもおろそかにしないよう、ことばの芸術としての文学を諸方面から考えるよう心掛けるようにする。

■参考文献

『万葉集 新潮古典文学アルバム2』森淳司著（新潮社）

『万葉集研究入門ハンドブック（第2版）』森淳司編（雄山閣）

科目コード	科目名	単位数
M30700	国文学講義Ⅲ（中世）	4 単位

教材コード 000091／000370 配本申請時セットコード 200001

教材名 国文学講義Ⅲ（中世）／『源氏物語の世界』 ※2冊組み

著者名等 岸上 慎二 ／日向 一雅

出版社名 ／岩波書店（『源氏物語の世界』）

■教材の概要

本教材は単位の4に対応すべく、四つの柱から成っている。第1単位が『枕草子』、第2単位が『新古今和歌集』、第3単位が『能・狂言』であり、第4単位の『源氏物語』を市販のテキストによっている。これらの四つの柱は、中世というよりは、平安朝（古代後期）と中世を代表する基本のジャンルを考えて構えられたのである。日記・随筆的な『枕草子』、勅撰和歌集と和歌への目配りをし『新古今和歌集』、演劇と文学を考える『能・狂言』、物語文学の頂点である『源氏物語』がそれだ。

■学修計画のポイント

『国文学講義Ⅲ（中世）』

ページ1～187

1～84 ページ

『枕草子』を概要として述べた部分から、その内実へと深化するように、教材は構成されている。多くの章段を考えることが教材では行いにくかったので、この分析を手掛りに、作品をじっくりと読むことが期待される。

85～187 ページ

『新古今和歌集』は、勅撰和歌集の中でも、特異な作品だと言える。だが、その特異さは、歌集の編纂を徹底的に考えることによって生まれている。『新古今』を手掛りとして八代集へ目を広げることが必要であろう。

ページ189～290

189～290 ページ

文学としての『能・狂言』を考えているのだ、ということを忘れないようにする。教材は概要から作品分析へと配されているように、その分析が主目標だということを忘れないこと。『隅田川』以外の作品もよく読んでほしい。

『源氏物語の世界』

テキストは、物語の概略を追う形になっているので、自分なりにポイントを見定めて原文を読むように発展させてほしい。そして、テキストに書かれてあることが相互に、どのように関連するのも考えるべき眼目となる。

■学修上の留意点

- ① 毎回、試験範囲のポイントが異なっているので注意すること。
- ② 教材を手掛りとして、さらに新しい情報に目配りするように心がけること。
- ③ 出題の意図を考えること。
- ④ 課題に対して、発展的に考え、解答することが望まれる。

■参考文献

研究状況は、常に発展している。

※『国文学 解釈と教材の研究』、『同 解釈と鑑賞』（至文堂）等の市販の雑誌に目配りすること。

※『別冊国文学』の必携シリーズ（学燈社）も手掛りになる。

科目コード	科目名	単位数
M30800	国文学講義Ⅳ（近世）	4 単位

教材コード 000093

教材名 国文学講義Ⅳ（近世）

著者名等 永井 啓夫・大澤 美夫・井草 利夫

■教材の概要

近世文学とは、ほぼ江戸時代に行なわれた日本の文学をさすが、教材は其中でも最も特色を持っていると思われる俳諧・小説・歌舞伎・浄瑠璃の四つをとり上げた。小説は種類や分量が多いので、前・後期と二つに分け、歌舞伎と浄瑠璃はお互いに関連性が強いので一つにまとめた。これらの文学は高校までは教材に大きく取上げられることは少ないが（芭蕉・西鶴は別として）、いずれも世界に誇ることの出来る日本独自の作品を有していることを忘れてはならない。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 175

1 ～ 75 ページ

教材は芭蕉以前と特に芭蕉について精しく叙述してあるが、芭蕉については教材以外の本文についても各種参考文献を利用して一応読んでおくことが必要。また、芭蕉以後の俳諧（蕪村・一茶その他）についても理解を進めた方がよい。

77 ～ 175 ページ

前期の小説は上方において盛んであったが、何と云っても西鶴の浮世草子が重要である。教材以外の西鶴の作品も出来るだけ読んでおくこと。また、仮名草子は文学史上における位置付けなどに留意しながら、教材に記載されている諸作品を读了しておくことが望ましい。

ページ 177 ～ 356

177 ～ 260 ページ

後期的小説では種類が多いので、それぞれの特色とどうして盛んになったかをよく理解しておきたい。また教材に本文が紹介されている有名作品は、全体を通して一度読んでおくこと、その面白さがいっそう深く理解出来るであろう。

261 ～ 356 ページ

浄瑠璃と歌舞伎とは教科書としての必要上二つに分けて叙述してあるが、両者は近松門左衛門以後各時期にわたって関連性が強いので、それを十分考慮して学修すること。事情が許せば、一度歌舞伎や文楽を観ておくことと理解が倍加される。

■学修上の留意点

- ① 芭蕉の俳諧の変遷と各時期の俳風の特徴。
- ② 西鶴の浮世草子を発表年代と種類に分けて考察すること。
- ③ 各種類の小説の特色と代表作・作者について学修する。
- ④ 浄瑠璃・歌舞伎の代表的作者と代表作について。

■参考文献

- 『新編日本古典文学全集 70, 71 松尾芭蕉集①②』（小学館）
 『新編日本古典文学全集 64 仮名草子集』（小学館）
 『新日本古典文学大系 74 仮名草子集』（岩波書店）
 『新日本古典文学大系 75 仮名草子集』（岩波書店）
 『新編日本古典文学全集 66 ～ 69 井原西鶴集①～④』（小学館）
 ※『鑑賞日本古典文学 第 35 巻 秋成・馬琴』（角川書店）
 ※『鑑賞日本古典文学 第 30 巻 浄瑠璃・歌舞伎』（角川書店）

科目コード	科目名	単位数
M30900	国文学講義Ⅴ（近代）	4単位

教材コード 000094

教材名 『現代日本文学のながれ』 (学修指導書別冊)

著者名等 金沢近代文芸研究会

出版社名 おうふう

■教材の概要

幕末から開化期・明治十年代・明治二十年代～大正期までの文学結社や文芸思潮がそれぞれの作家と作品に言及しながら解説されています。

■学修計画のポイント

ページ 7 ～ 84

第一章～第六章までが第一分冊です。

第一章 明治十年代・政治小説 第二章 「小説神髓」の時代 第三章 明治二十年代の文学

第四章 正岡子規の革新 第五章 自然主義文学－藤村と花袋－ 第六章 漱石と鴎外

ページ 85 ～ 148

第七章～第十一章までが第二分冊です。

第七章 荷風と潤一郎 第八章 白樺派の文学 第九章 芥川と「私小説」 第十章 「近代詩」の確立

第十一章 新感覚派と横光利一

■学修上の留意点

学修の留意点は別冊の『学習指導書』を参考にしてください。

■参考文献

『学習指導書』に記してありますので、参照してください。

科目コード	科目名	単位数
M31000	国文学講義Ⅵ（現代）	4 単位

教材コード 000361

教材名 『現代日本文学史』 (学修指導書別冊)

著者名等 大久保 典夫・高橋 春雄・保昌 正夫・薬師寺 章明

出版社名 笠間書院

■教材の概要

本教材は、日本の近代から現代に至る文学的特性と作家群像を把握するように執筆されている。それぞれの章立てが概説と具体的作品例から成り立っている。作品の主題や問題点の理解にはそれぞれの作品内容の概要を把握しておかないと不可能なので、用例を丹念に読み込み文学史的意義や特色を把握していただきたい。そのためには簡単な文学辞典などの参考書を座右に置いてほしい。

■学修計画のポイント

ページ 63 ～ 190

「昭和文学の出発」から「昭和 50 年の文学」までが範囲です。10 年単位の時代状況と文学との関わりが中心になっています。別冊の『学習指導書』を参考にしてください。

ページ 193 ～ 296

各ジャンル別の記述でまとめられています。
別冊の『学習指導書』を参考にしてください。

■学修上の留意点

作品名を覚えるのではなく、作品を実際に一つでも読み終えるようにしてください。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
M31400	国語音声学	4 単位

教材コード 000266

教材名 国語音声学

著者名等 栗林 均

■教材の概要

教科書は第1章から第6章までの6章によって構成される。これを、第1章から第4章までの前半と、第5章から第6章までの後半に分ける。

前半は国語音声学や音声学の基本的な理解と、母音・子音という分類に基づいて日本語に用いられている個々の音声を学ぶ。

後半はそれらの音声が結合する際に生じる現象、音声が結合して構成される日本語の音節、さらに音節にかぶさる形で存在しているアクセントについて学修する。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 97

第1章の「序論」は、音声学の基礎的な知識を学ぶ。具体的な学修の前提となるものである。

第2章の「音声器官」は、調音音声学の基礎として音声を発するのに関わっている口や喉の器官のしくみと働きを学ぶ。

第3章の「母音」では、母音分類の基準とそれに基づいた日本語の母音の特徴を学ぶ。8つの基本母音は、フランス語の8つの母音に近い。フランス語の録音教材を利用してもよい。

第4章の「子音」では、子音分類の基準と、それに基づいて日本語の具体的な子音を学ぶ。音声記号の表記が読め、またそれによって日本語を表記できるようになることを目指していただきたい。

ページ 99 ～ 164

第5章の「音節」では、外来語を表す新しいかな表記とそれに対応する発音についてまなび、さらに「母音の無声化」と「ガ行鼻濁音」について取り上げる。これで、日本語の標準的な発話は音声記号で表記することができるはずである。いろいろな発話や、文章を音声記号で表記してみるようにするとよい。

第6章の「アクセント」では国語音声学の中心柱のひとつであるアクセントの性質と表記方法について学ぶ。音声記号の学修と同様に、表記してあるアクセント表記を発音できるように、また実際の発話や文章の朗読を聞いてアクセントを記録できるようにすることを目標としていただきたい。

■学修上の留意点

国語音声学では、難しい発音を練習して習得するということはいらない。国語の音声は日常の生活にあふれており、私たちが普段耳にし、自分でも発しているものである。見慣れない発音記号は難しく思われるかも知れないが、実際の音と対応させながら学ぶようにすることが大切である。「実際の発音」「発音記号」「調音的な特徴」を切り離さずに学ぶと効率が上がる。アクセントの場合も、「実際のアクセント」「アクセント表記」「アクセントの型」の3つを1つとして、学修を進めていただきたい。

■参考文献

『日本語音声学（修正）』天沼寧著（くろしお出版）

※『日本語発声概説』川上葵著（おうふう）

『日本語音声学入門 改訂版』斉藤純男著（三省堂）

『日本語の音韻とアクセント』中条修著（勁草書房）

科目コード	科目名	単位数
M31500	漢文学Ⅰ	4単位

教材コード 000437

教材名 漢文学Ⅰ

著者名等 館野 正美

■教材の概要

本教材は、「基礎編」と「詩文編」とから成り、漢文学全般を網羅した内容となっている。いわゆる“漢文”の基礎を学び、少しずつ漢文が読めるようになるための、謂わば“トレーニング”の書である。しかし、実際のところ、内容を考えることなく、ただその字面だけを追うのは、大学で学問としての“漢文学”を修めることではない。中国の古典文献、すなわち“漢文”の持つ、深く豊かな内容に触れながら、そして、少しずつでもその内容を理解しながら“学問の力”をつけて頂きたい。

■学修計画のポイント

ページ1～114

「基礎編」では、まず漢文の基礎を概観し、実際の漢文を読んで行く。その際、漢字については、その起源である殷墟卜辞から、篆書・隸書等、さまざまな形態、そしてその三要素（形・音・義）、更にはいわゆる“六書”等について、各自しっかりと勉強して頂きたい。

「詩文編」では、春秋戦国時代の詩文について学ぶ。『詩経』に見える、中国古代の民衆の率直な心の内や、『楚辞』に見える屈原の精神的ジレンマ、そして『論語』・『孟子』・『荀子』等、いわゆる儒家の思想、そして最後に“運命の書”である『易経』の（単なる占いを超えた）深淵な内容に触れて頂きたい。

ページ115～262

「詩文編」のつづきとして、春秋戦国時代の文と秦代の文について学ぶ。まず『老子』と『莊子』という、いわゆる“道家”の思想家の文を読む。従来“難解だ”と言われ続けて来た彼らの文章ではあるが、“人間の真実”を語る、という意味では、むしろ単純明快な内容の記述である。大事な内容を明確に捉えるよう心掛けて頂きたい。

更に『韓非子』は、その人間理解に焦点を当てて、又、『呂氏春秋』では、我々人間の健康な生活という点に注目して、それぞれの内容をつかんで頂きたい。尚、『呂氏春秋』の最後の神話学については、漢文の多様な読み方の一例として、大いに参考にして頂きたい。

■学修上の留意点

既に述べた通り、漢文学の内容は、極めて広く深淵である。したがって、文学史全体を概観した上で、それぞれの詩文について学ぶことが重要である。単なる字面の解釈や丸暗記でなく、少しずつでも、その深く豊かな内容に、自分も参与する気持ちで取り組んで頂きたい。

■参考文献

テキストの該当箇所をご覧ください。

科目コード	科目名	単位数
M31600	漢文学Ⅱ	2単位

教材コード 000108

教材名 漢文学Ⅱ

著者名等 青山 宏

■教材の概要

本教材は、「詩編」と「文編」とから成り、漢文学全般を網羅した内容となっている。「詩編」では、各時代の詩の特徴を簡潔に述べた後、代表的な詩人と、その作品を紹介している。「文編」では、儒家の典籍から、我が国の文化習俗に関係深い晋・梁の文、並びに宋代以降の文までを扱っている。

なお「詩篇」と「文編」のいずれの詩文にも、訓読が付せられており、語釈と解説も充実している。これにより、漢文学の基礎知識の確認と、それぞれの詩文の、文学史上の位置づけを知ることができる。また、学習の便宜となり深い理解を図るために、参考書と研究問題とが付せられている。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 85

「詩編」の学習では、詩の解釈だけにとどまらず、その詩の文学史上の位置づけについても考えてみる。そのためには、例えば、宋詩の学習の際には、当然、唐詩の概要をも把握しておく必要がある。各章冒頭の解説、各詩に付した解説をよく読むとともに、紹介の参考書類を十分に利用して理解を深めること。

ページ 87 ～ 162

「文編」の学習では、各省毎にそこでの学習の目標がどこにあるのかをよく考えて学ぶこと。第1章「儒家の典籍」は内容がやや高度なので、得心のゆくまで繰り返して読むこと。文学史全体を概観した上で学習に取り組み、参考書類も十分に活用することが重要である。

■学修上の留意点

基本の理解が第一である。そのためには教材を繰り返し読み、不明な点を後に残さないこと。教材中の本文に付せられた語釈で足りないところは、漢和辞典や参考書を活用すること。

■参考文献

参考文献は教材の各単位の後に掲げてあるので、よく目を通すこと。また、『漢文学Ⅰ』に掲げられた参考書類や注意書きを参照のこと。

科目コード	科目名	単位数
M31900	文章表現法	4 単位

教材コード 000534

教材名 『テキスト 日本語表現』

(学修指導書別冊)

著者名等 中村 明 編著

出版社名 明治書院

■教材の概要

本教材は、日本語表現において、現代社会に生きる日本人の話し書く表現行動を総合的に考察し、日常の言語生活に役立つ基本的な情報を簡潔にまとめたテキストである。その構成は全六章からなり、第Ⅰ章と第Ⅱ章が総論にあたり、第Ⅲ章から第Ⅵ章までが各論に相当する。加えて、別冊の「ワークブック」が付属しており、各章末にある【課題】についての、解説・解答例などが示されてある。学修者は各章の理解と把握の末、【課題】に取り組み、別冊「ワークブック」を併読することにより、より理解を深めることができる。なお、ⅠとⅡの章（P1～P44）が総論にあたり、Ⅲ～Ⅵ（P45～P162）が各論に相当する。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 44

文章を書くための準備段階として、日本語の特性を体感する。表現というものが人間にとっていかに根源的な欲求であるかを実例で示し、人間らしい生活を支えることばの役割を語り、日本語らしい表現の奥にいる日本人を考えた前半の本質論と、視点・伝達・語感・表現法の基本を説いた後半の技術論とからなる（第Ⅰ章）。次に、話したり書いたりする人間の表現行動を総合的に考察する。ここでは表現の基本的な問題をあつかい、以下に展開する各章の論理的な背景をなしている（第Ⅱ章）。

ページ 45 ～ 162

以下、各論である。第Ⅲ章では、文章表現のプロセスに沿って、各段階での心構えと基本的な技術を解説する。第Ⅳ章では、話すことの基本的な心得と各種の談話場面での技術や留意事項について解説する。第Ⅴ章では、各ジャンルの文章をとりあげ、文章を書き分ける基本とコツを述べる。第Ⅵ章では、談話と文章の双方を対象にし、具体的な留意点を述べる。学修者は各章の主旨と展開を十分に把握し、そのプロセスに従って学ぶことである。

■学修上の留意点

箇条書きにして列挙している部分、それに伴う解説、【課題】および付随の「ワークブック」の解説などに留意。

■参考文献

特にないが、テキスト代表編者の中村明には、文章表現関係の著名が多い。参考にして欲しい。

科目コード	科目名	単位数
N20100	イギリス文学史Ⅰ	4単位

教材コード 000111

教材名 イギリス文学史Ⅰ

著者名等 岡崎 祥明・関谷 武史

■教材の概要

教科書の前半部では、英文学の起りから19世紀のロマン主義復興にいたるまでの変貌の姿を、社会的・思想的背景を視野に入れて説明してある。後半部では、前半部での説明をより確実に身につけるように、アンソロジーが編纂されている。重点主義を編纂の方針としてあるため、重要と思われる作品が厳選され、かなりの分量の引用がなされている。精読することによって作品への興味が自然に湧いてくる筈である。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 162

1 ～ 68 ページ

Anglo — Saxon England の文学からエリザベス朝の散文文学にいたる迄の、英文学の展開が説明されている。各章で、歴史的、思想的背景が説明され、具体的に作家・作品が取り挙げられている。

69 ～ 162 ページ

エリザベス朝の劇文学からロマン主義前衛の詩人たちにいたる迄の英文学の展開が説明されている。各章で、歴史的、思想的背景が説明され、具体的に作家・作品が取り挙げられている。

ページ 167 ～ 366

167 ～ 285 ページ

Geoffrcey Chaucer と William Shakespeare を、「第1単位」で扱った時期の最も重要な作家として取り上げられ、彼らの作品の中から最も重要と思われる作品が選ばれ、それに、説明と注釈が施されている。

289 ～ 366 ページ

「第2単位」で扱った時期の作家の中から、John Donne, Andrew Marvell, John Milton, Alexander Pope, Thomas Gray, William Blake が取り上げられ、彼らの作品の中から重要と思われる作品が選ばれ、それに、説明と注釈が施されている。

■学修上の留意点

- ① 上記の学修のポイントに沿って勉強すること。
- ② 引用されている作品を説明文と注釈を参考に精読すること。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
N20200	英文法	4 単位

教材コード 000270

教材名 英文法

著者名等 小川 睦子

■教材の概要

英文理解のための基本的な文法事項だけをまとめてあります。取り上げている主な事項は、英文の構造・文を構成する語の分類と文中での機能・語のグループである句および節の構造と機能・その他です。それぞれの事項について2～3の例文を挙げてありますが、例文については独りでも理解できるようにできるだけ詳しく説明してあります。所々に簡単な練習問題があり、巻末に回答と説明をあげてあります。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 133

第1章では文の構造は主部と述部から、しかもこの語順で成り立っていることを理解して下さい。英語と日本語の違いを知ることは英文理解の参考になるでしょう。

第2章では英文を構成している最小単位である語の分類すなわち品詞分類とその文中での機能を理解して下さい。英語では品詞によって文中での機能が決まりますので、品詞とその機能を理解することが英文法学修の基本中の基本といえます。繰り返し学修して下さい。

ページ 135 ～ 223

英文を構成する語は一列に等価で並んでいるのではなく、互いの結びつきの密接なものそうでないものが大小さまざまなグループを作っています。第3章ではそのうちの句、特に準動詞と呼ばれるものの構造と文中での機能を理解して下さい。そして第4章では文を構成する句に対する節のグループの構造および文中での機能を理解して下さい。

第5章には英文でよく使用される決まった構造をいくつか挙げてあります。いずれもこれまでに説明されたものですので、もう一度思い出してよく理解して下さい。

■学修上の留意点

英文法の基本は品詞とその機能です。これは語のレベルだけでなく句・節のレベルでも繰り返されますので、その繰り返しの気づき、覚えて下さい。

■参考文献

『英文法詳解』 杉山忠一著（学習研究社）

『英語の文法（英語学入門講座 第8巻）』（英潮社）

※『現代英文法辞典』 荒木一雄・安井稔編（三省堂）

『A Practical English Grammar（実例 英文法（第4版）』 A.J.Thomson&A.V.Martinet,Oxford

科目コード	科 目 名	単位数
N20300	英米文学概説	4 単位

教材コード 000041

教 材 名 『ENGLISH LITERATURE』

著 者 名 等 Laurence D.Lerner

出 版 社 名 英宝社

■教材の概要

教材『English Literature』は英語を母国語としない外国人学生のために、詩、小説、劇を通して英米文学の鑑賞に至る道を教えてくれている。学生諸君は、著者の言わんとしていることに耳を傾けると同時に、各章に引用されている例文を、一片の例証として済ましてしまうのではなく、繰り返し熟読して、真の文学の鑑賞の方法を身につけなければならない。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 128

1 ～ 66 ページ

Literature and Language の章では、優れた文学は言葉の適切な使用にあることを論じている。続く Literature and Society では文学作品はそれが生まれた社会の人々によってしか鑑賞され得ないのか否かを論じている。

67 ～ 128 ページ

Poetry の章では詩の言葉の特性を日常の言葉との比較において論じている。また、多くの例文を引用しつつ詩の法則を紹介している。最後に、結実したいいくつかの詩を例にそれが外国の読者に何を意味するかを多角的に論じている。

ページ 129 ～ 199

129 ～ 162 ページ

The Novel の章では、優れた小説とは何であるかを、「物語」、「性格描写」、「筋」、「雰囲気」の項目に沿って論じている。最初に読書目録を掲げて取り扱う作品を示した上で、論を進めている。

163 ～ 199 ページ

Drama: Shakespeare の章では、劇のねらいや特徴を論じている。小説の章と同じ、「物語」、「性格描写」、「筋」（もしくは構成）、「雰囲気」（もしくはカルチュア）の項目に沿って論を進めている、シェイクスピアからの引用が多い。

■学修上の留意点

上記の「学修計画のポイント」に沿って勉強すること。引用例文を疎かにしてはいけません。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
N30100	イギリス文学史Ⅱ	4 単位

教材コード 000112

教材名 イギリス文学史Ⅱ

著者名等 阪田 勝三・原 公章

■教材の概要

イギリス文学史Ⅰに続いて、前半は「ロマン主義の時代」・「ヴィクトリア時代」・「第一次大戦までの時代」及び「現代まで」の主要なイギリス文学史の流れを、時代背景、主要作家・作品を解説しながら略述している。短い言葉の中に豊富な内容が込められている。後半は主要作品のアンソロジーで、ここに挙げられたまとまった長さの抜粋を熟読し、付けられた Notes を参照することにより、前半部の解説の具体的な肉付けが可能となる。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 162

1 ～ 75 ページ

ロマン主義の時代では、ワーズワス、コールリッジを初めとする主要詩人を相互に比較しつつ理解しておくこと。ヴィクトリア時代では、スコット、オースティンから始まる小説の発達に目を向けること。文学史上の意義を常に見失わないよう。

76 ～ 162 ページ

20 世紀初頭、大戦の谷間、第二次大戦以降と大きく三つの時代に区分して、それぞれに固有の（共通の）傾向を看取すること。ハーディ、ジェイムズ、コンラッド、フォースター、ウルフ、ジョイス、ロレンス、エリオットには特に注意すること。

ページ 169 ～ 480

169 ～ 331 ページ

ロマン派の代表的詩人 5 人の代表作を、それぞれ一作ずつ挙げてある。第 1 単位での解説及び Notes を参考にしつつ、全体に目を通すこと。またワーズワスの詩論にも目を通すこと。テニスン、ブラウニングの作品と読み較べること。

335 ～ 480 ページ

19 世紀を代表する小説家 10 人の代表作 13 作より、それぞれ第 1 章を抜粋したアンソロジーである。テキストを一字一句理解することは、かなり困難であるかもしれないが、この時代の大作家理解への第一歩となることは疑いない。

■学修上の留意点

- ① ロマン主義詩人とヴィクトリア朝詩人の違い、また小説の発達という観点から流れを知る。
- ② 20 世紀は 19 世紀と根本的にどのように異なるかを考えること。
- ③ 何より、ここに挙げられた作品を十分に読むこと。
- ④ Notes を十分に活用して、大小説の第 1 章がどのように書かれているか、理解すること。

■参考文献

市販の各種「イギリス文学史」を参考にするのもよいが、教材を何よりまず十分理解することが先決。できれば英語で書かれた文学史を一読してほしい（これも数多く出ているので自分で調べてほしいが、初心者用にはロングマンや金星堂から出版されているものがよいだろう）。教材に挙げられている作品の中から興味を感じたものを少しずつ読んでいってほしい。

科目コード	科目名	単位数
N30200	アメリカ文学史	4 単位

教材コード 000536

教材名 『アメリカ小説入門』

(学修指導書別冊)

著者名等 井上 謙治

出版社名 研究社

■教材の概要

本教材は、アメリカ植民地時代から今日に至るまでのアメリカ文学の変遷を概観した書である。第1章の「独立から南北戦争まで」から第4章「第2次大戦以降」からなる。アメリカ合衆国は2世紀にわたりイギリスの植民地だったことにより、文学面にもイギリスの影響が多く見られる。しかしイギリスには無い広大な平原や、原住民との関係、そして歴史の浅さ故に新しい神話を築こうとする意志が、クーパーやメルヴィルやホーソンなどの多様な作品を生み出す動機となってることがわかりやすく書かれている。各章に各作家の英語原典からの引用ページが有り、作家の英語に直に触れることができる。

■学修計画のポイント

ページ 3 ～ 92

教材 Chapter 1 の「独立から南北戦争まで」から Chapter 2 の「南北戦争以後第1次大戦前まで」を、前半とする。学修者は、まず教材を読み、各章ごとにその内容をノートにまとめる作業をする。教材には原典からの英文作品引用が入っているの、引用作品名を調べて、図書館に行き翻訳書があるかどうか調べて、翻訳書を参考にして自分で単語を調べ訳してみる。教材の作品引用は有名な作品ばかりなので翻訳書はあるはずである。どの章の引用英文かわからない場合は、インターネットで教材の一部の英文を検索しても良いし、アメリカの電子テキストサイト Project Gutenberg に入り該当作品の英文テキストをダウンロードして、教材の英文引用の一部を検索すると該当箇所がわかるので、翻訳書と照らし合わせれば良い。有名作品は映画化されている場合が多いので、該当する DVD を図書館で借りれば良い。興味を覚えた作家は実際に英語原典を借りて、翻訳書と同時に読み進めれば良い。

ページ 93 ～ 175

教材 Chapter 3 の「二つの大戦の間」から Chapter 4 の「第二次大戦以降」を、後半とする。学修者は、まず教材を読み、各章ごとにその内容をノートにまとめる作業をする。そして教材の原典からの英文作品引用を前述のように訳してみる。興味を覚えた作家の作品は DVD を観たり、実際に英語原典を借りて、翻訳書と同時に読み進めれば良い。原典に直に触れることが大事である。

■学修上の留意点

科目修得試験については、『科目修得試験の手引』で学習上のアドバイスとして指示する場合があるが、教材内容の理解にとどまらず、平素から自らが数多くの作家・作品に直接触れることが何よりも大切である。それから英語の基本文法はしっかり身につけるように努力すること。

■参考文献

アメリカ文学に関する著書は、和書・洋書を問わず無数に出版されている。何よりも心がけていただきたいのは自らが作品そのものに直接触れるという点である。各作品にはどのような翻訳があるか、またどのような論文が書かれているかをまとめた辞書があるので、わからないときは図書館に行き司書の方に直接聞くこと。

科目コード	科目名	単位数
N30300	英語史	4 単位

教材コード 000117

教材名 『ブルック英語史 A HISTORY OF THE ENGLISH LANGUAGE』(学修指導書別冊)

著者名等 G.L.BROOK・石橋 幸太郎・中島 邦男

出版社名 南雲堂

■教材の概要

第1章「英語の発達」では英語の一般的な歴史的記述だけでなく、それ以前のインド・ヨーロッパ語、ゲルマン語にまで説き及んで英語の成り立ちを述べる。第2章以降は「音韻論」(音の変化)「綴り字」(語形論)(語の変化)「統語論」(語と語の組み合わせ、文の構造の変化)の各々について、古期英語時代、中期英語時代、現代英語時代と、各時代毎の変化について記述する。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 81

1 ～ 33 ページ

インド・ヨーロッパ語とは、どういう言語か、また、英語はどのような系統の言語か。英語はどのような歴史を経て、今日の姿になったのか、英語の成り立ちを捕える。特にノルマン人の征服が英語に及ぼした影響に注意する。

34 ～ 81 ページ

発音・綴り字がどのような変化をして今日のようになったのか、特に、発音では大母音推移、また、綴り字ではフランス語・印刷所の影響に注意する。

ページ 82 ～ 136

82 ～ 114 ページ

名詞の不規則な複数形変化、人称代名詞、特に二人称の場合、動詞の弱変化、強変化・その他の be 動詞・go などに注意する。弱変化・強変化動詞は今日の規則変化・不規則変化動詞とどう関係するのか、をも考えてもらいたい。

115 ～ 136 ページ

s 語順の変化、属格、Itismе、関係代名詞、非人称動詞(非人称構文)、動詞組織、特に未来の表し方・do の変遷、接続法(仮定法)、不定詞に注意する。

■学修上の留意点

- ① テキストの重要・キーポイントとなる部分の英文を理解する。
- ② 『学修指導書』を参考にする。
- ③ 『学修指導書』の問に答える。

■参考文献

『図説英語史入門』中尾俊夫・寺島勉子共著(大修館書店)他については『学修指導書』を参照。

科目コード	科 目 名	単位数
N30400	英作文 I	2 単位

教材コード 000120

教 材 名 英作文 I

著 者 名 等 上杉 明

■教材の概要

本教材は、与えられた日本語を英文に翻訳する技術を養うことを目的に、そのために必要な知識や練習問題から成り立っている。よい英文を書くための注意、アドバイスに始まり、英文で頻繁に使われる動詞に焦点を置いた練習、主語の工夫の仕方、イディオム中心の英作文の練習となっている。

■学修計画のポイント

まず、注意事項・解説をよく読み、英文はすべて繰り返し音読すること。「英語に飛び込もう」にでてくる8つの動詞を使って自分で英文を作ってみること。イディオムだけを暗記しようとせず、自分でイディオムを用いた短い文を作って覚えるようにすること。

■学修上の留意点

- ① 辞書をまめに引くこと。
- ② 提出する前に、よくチェックし、基本的な誤りがないようにすること。

■参考文献

英和辞典
英英辞典

科目コード	科目名	単位数
N30500	英作文Ⅱ	2単位

教材コード 000121

教材名 英作文Ⅱ

著者名等 上杉 明

■教材の概要

本教材は、様々なイディオムの学修を通して和文英訳の練習をする前半と、エッセイを書くためのステップを踏んだ解説と学修をする後半とで成り立っている。

■学修計画のポイント

ページ1～134

エクササイズの日本文を自分で英語に訳してみた後、解答と比べてみる。イディオムを暗記しようとするときは、必ず短い文として覚えること。英文は繰り返し音読すること。

ページ135～227

まず、解説、特にエッセイの形式についての説明を精読し、英文のエッセイの書き方を理解すること。エッセイを書く際には、必ず考えを整理し、全体の構成を決めてから書き始めること。

■学修上の留意点

- ① 辞書をまめに引くこと。
- ② 提出前に、よくチェックし、基本的な誤りがないようにすること。

■参考文献

英和辞典
英英辞典

科目コード	科目名	単位数
N30600	英語音声学	4 単位

教材コード 000413

教材名 『新装版 英語音声学入門』

著者名等 竹林 滋・斎藤 弘子

出版社名 大修館書店

■教材の概要

調音音声学の枠組みに基づき、英語音声の特徴が詳細かつ体系的に解説されているテキストです。付属の CD を利用して実際の音声を確認することができ、様々な発音練習と聴き取りの問題に取り組むことができます。このテキストは、私たちの学修目標を達成するための助けになります。私たちには、英語音声学の学修を進めていくにあたって、ふたつの目標があります。ひとつは「英語の音声・音韻体系の主要な特徴を理解すること」で、もうひとつは、「英語音声を実用的に運用するための音声学的視点を身につけること」です。これらの2つの目標を達成することを念頭において、学修を進めて下さい。テキストでは、日本語音声の解説が随所にありますから、身近なところから観察を始めて、英語音声の特徴を理解することに結びつけていくことができるでしょう。

■学修計画のポイント

英語音声の特徴を2つに大別して学修を進めます。前半は分節の特徴で、様々な母音や子音と呼ばれる個々の音を対象とします。後半は、音の連続とプロソディ（超分節的特徴）で、話しことばにおける発音の変化、アクセント、イントネーションを対象とします。

ページ 3 ～ 123

現代英語の標準発音と分節的特徴について学修します。次の点を中心にして、学修を進めて下さい。

- ① 英米における標準発音の特徴づけ。
- ② 発音のしくみと言語音の分類との関係。
- ③ 母音を記述するための音声学的基準とそれらに基づく英語母音の記述。
英語母音の分類や個々の母音の音質だけではなく、綴り字との対応についても理解を深めて下さい。
- ④ 子音を記述するための音声学的基準とそれらに基づく英語子音の記述。
英語子音の分類や個々の子音の音質だけではなく、綴り字との対応についても理解を深めて下さい。

ページ 125 ～ 224

英語における音の連続とプロソディについて学修します。次の点を中心にして、学修を進めて下さい。

- ⑤ 音節、子音連続とその発音の特徴、そして連続音声における発音の変化の種類。
単語や文を単位とした音声特徴の理解を深めて下さい。
- ⑥ 単語、複合語、句、そして文における強勢アクセントの特徴。
強勢アクセントの配置にみられる規則性と英語に独特の「強勢拍リズム」について理解を深めて下さい。
- ⑦ イントネーションの構造と様々な用法。
- ⑧ 音素は「音韻論」の基本的概念のひとつです。調音音声学とは異なる観点から、言語学がどのように特徴づけられるのかを考えてみましょう。
- ⑨ 綴り字と発音の関係について、フォニックス理論に基づいて考察を進めます。
英語発音を学修する上で、綴り字がどのように役に立つのかを考えてみましょう。

■学修上の留意点

付属 CD を利用して、必ず実際の音声を確認しながら学修を進めて下さい。CD をジッと聞いているだけでは英語音声を体験することはできません。皆さん自身がモデル・スピーカーの発音を再現することを目標に、ひとつひとつ注意深く観察しながら、大きな声で発音練習をしてみましょう。

また、テキストの内容を実践的に理解するために、発音練習で難しさを感じた（または、容易に感じた）英語発音や、英語発音を聴いていて気がついたことを「音声学の言葉」で表現（説明）してみましょう。

■参考文献

参考文献は、テキスト巻末に解説付きで紹介されています。ここでは、そこに紹介されていないものを挙げます。

【International Phonetic Association のホームページ】 <http://www.arts.gla.ac.uk/IPA/ipa.html>

【英語発音辞典】

- ・ Daniel Jones, Roach, Peter, James Hartman and Jane Setter. (2003) *English Pronouncing Dictionary*. 17th Edition. Cambridge : Cambridge University Press. (CD-ROM 付)
- ・ Wells, John. (2008) *Longman Pronunciation Dictionary*. Third Edition. Harlow : Pearson Education Ltd. (CD-ROM 付)

科目コード	科 目 名	単位数
N30700	英語学概説	4 単位

教材コード 000400

教 材 名 『英語学入門』

著 者 名 等 安藤 貞雄・澤田 治美

出 版 社 名 開拓社

■教材の概要

英語学を学ぶ上での重要項目を必要不可欠なものにしほり、体系的に纏めた入門書である。深い洞察に溢れる先行分析から得られた英語学の研究成果が、明確・簡潔に提示されている。英語研究の面白さに容易に触れることのできる初学者向けの教科書といえる。本書は、「英語学とは何か」「言語とは何か」を議論の出発点とし、音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論といった英語学の中核的な研究分野の説明に加え、英語のフォニックス、情報構造、日英語の比較といった、従来の入門書ではあまり論じられてこなかった項目も扱っている。

■学修計画のポイント

ページ 133 ～ 213

課題1：語の「多義性」「意味変化」は、メタファー、メトニミー、シネクドキがその要因になっていることが多い。教科書と参考書を熟読し、その要因について認知意味論の観点から考察すること。

課題2：教科書と参考書を熟読し、各専門用語の表す意味の理解を深めること。

ページ 72 ～ 88, 214 ～ 236

課題1：教科書と参考書を熟読し、各専門用語の表す意味の理解を深めること。

課題2：旧情報と新情報の配列が、各構文の容認性にどのように影響するのかを重点的に学修すること。

■学修上の留意点

Speechact は、日本語の文献によっては「発話行為」のほかに「言語行為」と翻訳する場合もある。レポート内では、教科書に従って用語を「発話行為」とすること。

■参考文献

※『現代英文法辞典』荒木一郎・安井稔編（三省堂）

『入門語用論研究』小泉保編（研究社）

『日英語対照による英語学概論（増補版）』西光義弘編（くろしお出版）

科目コード	科 目 名	単位数
N30900	スピーチコミュニケーション I	2 単位

教材コード 000123

教 材 名 Effective Communication I

著 者 名 等 Kenneth E. Williams

■教材の概要

Your text, "Effective Communication I ", is a task-based program. In this book you will move through an number of real life situations.

You will "meet people", "go shopping", "call friends on the telephone", and more. Try to do all of the conversations as well as you can! Have Fun!

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 44

Do not rush through the book! This part of your text is important because you must meet and "say hello" before you can communicate with people. Do not go on until you can do this section!

ページ 45 ～ 93

After you meet and start to communicate with people you will visit a foreign country.

Be sure you understand each part before you go on.

■学修上の留意点

Your test will relate to your text and I will look to see if you understand the book!

■参考文献

A good, simple English-English dictionary can help you.

科目コード	科 目 名	単位数
N31000	スピーチコミュニケーションⅡ	2単位

教材コード 000124

教 材 名 Effective Communication Ⅱ

著 者 名 等 Kenneth E. Williams

■教材の概要

This book is designed to help you understand and communicate in English. The fill in portions are designed to help you see how words and phrases are used to express what you want. You should spend time working on the parts in each unit and then see and use them in larger conversations.

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 49

First you will work in “requesting assistance”, then in ways to “control people’s speech”. Be sure that you understand the parts and practice the parts before you go on to the next section.

ページ 50 ～ 109

In the second part of your text you will practice “asking and giving opinions”, “comparing things” and “using numerals”. Do not rush through this section as it is a bit difficult.

■学修上の留意点

Your test will cover information from the text. Therefore, I will check to see if you understand the book.

■参考文献

A good, simple English-English dictionary will help you.

科目コード	科目名	単位数
N31200	英米文学特殊講義	4 単位

教材コード 000116

教材名 英米文学特殊講義

著者名等 関谷 武史・原 公章・當麻 一太郎・寺崎 隆行

■教材の概要

テキストは四人の執筆者がそれぞれ専門とする作品について論じた内容から成っています。各執筆者が長年に亘って研究してきた文学作品を論じたものであるだけに、内容はいずれも堅実かつ刺激的です。扱われている作品を読み、本テキストを読むという行為を繰り返して、文学作品の読みの力を身に付けてください。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 150

前半部では W.Shakespeare の 4 作品が取り上げられ、登場人物の心の探層が読解されています。また、現代思想との関連で、「主体性」「アイデンティティ」「他者性」、「無意識」等が問題とされ、Shakespeare 作品の今日的意、味が論じられています。後半部では N. Hawthorne の 2 作品が取り上げられ、人物像、登場人物の言動、庭園の象徴性が、作品のテーマとの関連において論じられています。また、「愛」、「闇の力」、「原罪」等の問題が作家の宗教観と思想との関連において論じられています。

ページ 151 ～ 284

前半部では G. Meredith の小説が Victoria 朝の精神風土との関連において論じられています。また、彼の作品に見られる「反逆精神」、彼が期待する「新しい読者」、彼が定義する「喜劇」または「喜劇精神」等の問題が論じられています。また処女作から中期迄の作品が青年の心を表現したものとして論じられています。

後半部では H. James の代表的作品が「自我」描写の変容の様を通して論じられています。初期から後期の作品に至る人物像の変遷、文体の変化、更には、「アイロニー」、「リアリティー」、「視点」、「語り手」等の問題が作品に即して論じられています。

■学修上の留意点

各執筆者が言わんとしている事を正確に把握するには、扱われている作品そのものの理解が必要です。作品とテキストの精読を繰り返し実行して下さい。学習指導書をも参考にして読み進めてください。

■参考文献

各論文の註または学習指導書に挙げられている文献を読んで下さい。更にそれらの文献の巻末に挙げられているものを読むといたようにして勉強の幅を広げていってください。

科目コード	科目名	単位数
N31300	放送英語	2 単位

教材コード 000128

教材名 放送英語

著者名等 真鍋 輝明

■教材の概要

衛星放送などにより世界中のできごとが、リアルタイムで茶の間に入ってくる今日、実社会で活躍するには TV & Radio の英語ニュースを直接理解することは極めて重要である。

この科目では、聴いて理解されることが目的である放送の SCRIPT はどのような特徴と要領をもって準備されるのか、また、放送送出の際、アンカーパーソン（キャスター、アナウンサー等）は、どのような要領でニュースを伝えていくのか、その技術面などについても研究し、ニュース理解に役立てる。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 135

ニュース SCRIPT の作成を中心に学修する。ニュースの即時制尊重から、“現在完了形”、“現在進行形”、“現在形”が多様されること、また、“時の不一致”など、“文章構成”の際の特徴、“耳”で理解されるということからくる数字、人名、肩書などの処理法をも学ぶ。

ページ 137 ～ 265

将来、放送関係の業務に就くかどうかにかかわらず、ニュース理解のためには、発音、発声、ニュースの pitch, speed, rhythm など、さらに articulation に慣れなければならない。

広く、放送英語ニュースのアナウンス技術を学んでいく。

■学修上の留意点

- ① ニュース SCRIPT 作成の基本（用語・文の特徴など）新聞英語との違いも。
- ② ニュースにおける即時性を重視したライティングの要領。
- ③ アナウンスに求められる自然な flow, clarity などの習得のコツ。
- ④ 口語表現の活用とインタビューの要領、およびニュース聴取の演習（反復聴取）。

■参考文献

※『The Latest NEWS in English』茅ヶ崎方式月刊英語教本 北山節郎著（茅ヶ崎出版）

テキストには勿論、CD もついているので、反復聴取練習し、さらに、VOA, BBC の“Special English”（1 分間 120 語程度の速さ）を努めて聴き、TV ニュースもできるだけ頻繁に視聴するように努めることが参考となる。

科目コード	科目名	単位数
N31400	新聞英語	2 単位

教材コード 000129

教材名 新聞英語

著者名等 那須 弘三郎

■教材の概要

この教材は第1単位〈1. News Story (a～e)〉, 第2単位〈同 (f～g)・2～5〉, 付録の〈学習指導書〉の3部より構成されています。重点度をもとにした学修順序としては, ① Headline の読み方 (201～208 ページ) ② Lead (書き出し) の語法と文法 (209～212 ページ) 続いて a. Social Life (社会面), e. Accidents (事故) Disasters (災害) Environment (環境), Weather (天気), f～g Politics (政治), Business, Economy, Money Market (企業, 経済, 市況) となっています。しかし広く学修する事を重視するならば, 各項目の中より5～6問を選び, 新聞記事らしく訳することを薦めます。

2～5の項目はレポート学修用としてかなり長時間をかけてください。

■学修計画のポイント

ページ1～81

a～eの各項目より最初の6問を練習用として訳してみる。次に各項目中で, 受講生が最も興味を持てる記事を精読し, 記事の製作者になったつもりで訳してみる。

ページ83～198

f～gの項目では, 各記事の第3パラグラフまで速読し, 各問題中より異種のもの1問を精読し訳してみる。2～5の各項目では, 記事の内容の時事性が現在まで継続し, また内容に最も興味を持てるものの1問を精読・和訳してみる。

■学修上の留意点

- ① ニュースストーリーは, 如何なる場合でも“見出し”と“書きだし”だけは絶対に正確に訳すること。
- ② コラム, レビュー, レターズは最小限, 全文の趣旨を把握しておくこと。
- ③ 新聞英語は Headline, Lead, Body という3つの構成部分から成っています。Headline は読者の注意を喚起するものであり, より簡潔な表現を求めて特有の表現法が試みられています。Lead は全文を要約するもので, その中には記事内容の要点が含まれており, その後の Body には補足説明が記されています。したがって, Lead 部を中心に5W1H (who, what, where, when, why や how) の要素を把握し, 全体の要旨を捉えるような読み方を心がけて下さい。

■参考文献

※『新聞英語の学び方—語法中心』安田哲夫著 (ジャパントイムズ) その他, ジャパントイムズ出版のものをもっとも Reliable でしょう。

科目コード	科目名	単位数
N31500	英米事情Ⅰ	2単位

教材コード 000414

教材名 『新装 アメリカ社会文化史 American Society』

著者名等 Robert H. Walker

出版社名 南雲堂

■教材の概要

英国・米国に内在する文化的、歴史的、さらには宗教的背景を知ること、両国の国民性や精神性への理解が深まり、それが異文化理解の発端ともなる。英米事情Ⅰでは、主に米国を扱う。

教材内容はアメリカ合衆国の成り立ちから現代へ移るアメリカ人の抱く基本的概念を紹介しながら、アメリカ人の自意識形成が説明されている。経済、工業、文化そしてアメリカ人精神などを、アメリカ社会の発展の中に描いている。特に、アメリカ社会の変容に注目して読むこと。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 48

学第1章から第4章までを読むことであるが、ここでは初期のアメリカ合衆国のさまざまな歴史的変遷を説明している。アメリカ人の精神的考え方や支えが生まれている。ヨーロッパ文化 vs アメリカ文化の対比などに注目して下さい。

ページ 49 ～ 98

後半の第5章から第8章までの内容であるが、これらの章は近代文化のアメリカ合衆国である。経済、工業、近代社会へのアメリカ都市などを論じているので、それぞれの年代に応じながらマトメてみるのが良いでしょう。

■学修上の留意点

初期のアメリカ合衆国も大切であるが、第7章、第8章を理解することにより、現代のアメリカ社会を分析しやすいと考えている。現代アメリカ社会と初期のアメリカ社会の比較した上で共通点などを見つけると良いでしょう。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
N31600	英米事情Ⅱ	2単位

教材コード 000521

教材名 『Welcome to Britain—英国の「いま」を知りたい』 (学修指導書別冊)

著者名等 Tim Knight 編著

出版社名 音羽書房鶴見書店

■教材の概要

英国・米国に内在する文化的、歴史的、さらには宗教的背景を知ることで、両国の国民性や精神性への理解が深まり、それが異文化理解の発端ともなる。英米事情Ⅱでは、主に英国を扱う。

このテキストは、特に英米文学／英語学を専攻する学習者にとって、その専門科目の背景として理解しておべき「イギリス」「英国」（と一般に呼ばれているもの）の現代の様相を多角的に紹介するものである。（無論、上記専攻以外の学習者にとっても一般常識として「イギリス」への興味・関心を喚起するものとなっている。）単に、テキスト上の情報の確認にとどまらず、個々の背景知識及び因果関係等を意識しながら読み進めてほしい。

■学修計画のポイント

まずは、目次（Table of CONTENTS）をご覧ください。すると、Chapter 1 ‘The United Kingdom?’ という nationality に関する問題、Chapter 9 ‘Multicultural Britain’ という多民族・多文化国家に関する問題、Chapter 3 ‘Social class’ 階級に関する問題、Chapter 13 ‘Language’ 言語に関する問題及び Chapter 8 ‘Politics and government’ 政治に関する問題と、「イギリス」「英国」の全体像を把握するのに必要不可欠な情報が紹介されていることにお気づきになるだろう。テキストの章（Chapter）立てに拘らず、この5 Chapter を「基本編」、その他の Chapter を「発展編」として、「基本編」から学習を開始する。本文（Part 1, 2 and 3）及び ‘Structure Practice’ ‘Listening Challenge’（学修指導書にて一部解答を紹介しているので参照のこと）を精読し、書かれている情報を整理（要約）する。（‘Vocabulary Focus’ ‘Reading Comprehension’ は各自で確認のこと。）更に、テキストだけでは不十分だと思われる情報（例えば、p. 8 ‘England is officially a Christian, Protestant Church of England country’ とあるが、「プロテスタントの、イングランド国教会の国」とはどういうことか等）については随時、他の文献等に当たり、事実関係・歴史的背景について調査し併せて文章化・記録に努める。

■学修上の留意点

上記にて区分した「基本編」の5つの chapter も「発展編」のものも全て相互に関連していることを踏まえて、内容把握に努めてほしい。学習者自身による理解の確認方法としては、例えば上記例示 p. 8 「（イングランドは）プロテスタントの、イングランド国教会の国」に関して言えば、「いつどのようにしてその現状に至ったのか」を第三者の納得・共感を得られるように因果関係を説明できるか意識して情報整理・調査をするとうい。勿論、他の事柄についても同様に行うこと。

■参考文献

特に指定はないが、「イギリス」「イギリス事情」「イギリス史」関連と分類されるもの、及びテキストで紹介されている個々の事項（例えば「紅茶とアメリカ独立」（Chapter 2 ‘Listening Challenge’ 参照）に関する書物・文献等全般を大いに参照されたい。但し、取り扱う情報は全て責任の所在の明確なものとする。（‘Wikipedia’ 等は参照対象から除外する。）

科目コード	科目名	単位数
N31700	異文化間コミュニケーション概論	2単位

教材コード 000415

教材名 『Exploring Hidden Culture 日本とアメリカ—深層文化へのアプローチ』

著者名等 Paul Stapleton

出版社名 金星堂

■教材の概要

この教材は日米の文化論であり、異文化間コミュニケーション（北米 vs 日本）の内容を Topic ごとに分けて、理解しやすい説明となっている。それぞれの Topic を読み、マトメてみると、共通した考え方がそれぞれの文化の底流に流れていることに気付くはず。受講者の方々も日本文化を理解したり、再認識する場面が出て来ると同時に、北米文化の合理性を持つ特徴などを学ぶことが出来るはず。

■学修計画のポイント

ページ 2 ～ 38

平易な文体で、読みやすい英語であります。教材の前半は基本的な文化を比較しているので注意しながら用語を理解して欲しい。特に、文化論に加えて、国民の持っている価値観や意識に注目していくと良い。

ページ 39 ～ 85

教材の後半は若者が日米の社会の動きに注目して、現在、未来のそれぞれ国の文化の変動・変化に目を向けている。社会の地殻変動がどのようにそれぞれの国民（民族）意識を変えて行くのか理解して欲しい。

■学修上の留意点

教材のみに捕らわれず、種々参考文献を読むことにより、さらに異文化間コミュニケーション論を深めることができます。教材の中に示されているキリスト教 vs 仏教・神道あるいはキリスト教 vs 仏教・神道・儒教の比較なども頭に入れて置く必要あり。

■参考文献

特になし。参考文献は日本とアメリカに触れている本であれば必ず参考となる idea が生まれるはず。

科目コード	科目名	単位数
P20100	哲学基礎講読	4 単位

教材コード 000042

教材名 哲学基礎講読

著者名等 宮原 琢磨

■教材の概要

『論理学，別名思考の技法』（1662）は，19 世紀後半まで，西欧各地の大学で用いられた古典的名著である。本書はデカルトとパスカルの影響下で書かれたこともあって両人の合理的思考法を一般に広める役目を果たした。だが，それだけでなく，著者独自の思想にもとづき，人間探求の書として書かれているので，人びとに親しく読みつがれてきた。本書は西欧近代の思考法を理解するうえで，また，人間とは何かを考えるうえで大切な本書である。因に，17 世紀のバロック的知識が色濃く投影した作品としても興味深い。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 262

本書の第 1 部観念についてと，第 2 部判断についてを学修する。第 1 部は，観念の全般にわたる考察である。デカルトの影響下で書かれたものであるから，デカルトの『方法序説』『省察』などと比較して読むとよい。第二部は，判断のありかたと，正しい判断の諸規則について論じたものである。これもデカルトの上記の作品と比較しながら学修することが望まれる。この第 2 部は 18 世紀のカントの認識論にも影響を与えたと思われる。いずれにせよ，後の哲学の展開に影響するところ大であるから，よく考えながら学修することが肝要である

ページ 267 ～ 527

本書の第 3 部推理についてと，第 4 部方法についてを学修する。第 3 部の推理論は中世の伝統的論理学の推理の格式に加えて，古代のストアの論理学の推論も含まれている。とくに興味深いのは，第 19 ～ 20 章で，日常生活の談話のなかで犯される誤謬推理や詭弁にまで考察が及んでいるところである。第 4 部の方法論は，本書のもっとも重要な部分であり，歴史的にも高く評価されるべき部分である。第 4 部は学的知識の方法と，蓋然的知識の方法とに分けて論じられている。学的知識の方法論はデカルトとパスカルとにもとづいているので，デカルトの『精神指導の規則』とパスカルの『幾何学的精神』とを併せて読むとよい。蓋然的知識の論考は哲学史上最重要である。

■学修上の留意点

この授業の目的は，西欧の近代人の思考の「指導書」として，大きな意義をもつ本書を精読し，理解することである。理解の手助けとして，『論理学，別名思考の技法』研究序説（1 ～ 77 ページ）を付け加えておいた。研究序説を参考にしながら本書を読み進めるとよい。

■参考文献

- ※『世界の名著 27 ルネ・デカルト』（中央公論新社）
- ※『デカルト著作集 I，II，III（増補版）』（白水社）
- ※『パスカル』アルベール・ベガン著，平岡昇・安井源治訳（白水社）など

科目コード	科目名	単位数
P20200	西洋思想史Ⅰ	4単位

教材コード 000133

教材名 西洋思想史Ⅰ

著者名等 小林 利裕・荻原 欒

■教材の概要

『西洋思想史Ⅰ』は、西洋古代・中世哲学史を内容にした講義である。思想には政治思想、社会思想、文芸思想などいろいろあるが、それらの基本は哲学である。古代哲学はギリシア哲学を、中世哲学はキリスト教を中心にしており、いずれもヨーロッパ思想の源流をなしている。それを知らなければヨーロッパ思想は理解できない。ソクラテス、プラトン、アリストテレス、アウグスティヌス、トーマスなど、馴染み深い人の哲学を講述する。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 224

1 ～ 110 ページ

ソクラテス以前の哲学を学修する。自然に対する考察が中心で、ヘラクレイトスとエレア学派の前期、多元論と原子論の後期に分かれ、それはソフィストに帰結する。全体の流れを理解することが大切である。

111 ～ 224 ページ

ソクラテス、プラトン、アリストテレスの哲学を学修するが、ギリシア哲学の中核をなす。一つのテーマ(普遍)を追って展開されるから、理論に気をつけるように。それらの出発はソフィストである。

ページ 225 ～ 428

225 ～ 301 ページ

ギリシア哲学とキリスト教哲学の中間に位置する哲学を学修する。プラトンまたはアリストテレスを根拠にしているので、その点をとくに注意してもらいたい。ギリシア哲学を宗教の方向に深めたのがプロティノスである。

303 ～ 428 ページ

中世哲学の中心であるキリスト教哲学を学修する。アウグスティヌスとトーマスが中心であるが、キリスト教そのものの思想をまず正しく理解する必要がある。またギリシア哲学との関連も忘れてはならない。

■学修上の留意点

- ① ソフィストとソクラテスとの関連。
- ② イデアについてのプラトンとアリストテレスの関連。
- ③ アウグスティヌスの神についての考え。
- ④ トーマスの神の存在証明。

■参考文献

- ※『西洋哲学史』ラッセル著(みすず書房)
『西洋哲学史』(講談社学術文庫) 今道友信著(講談社)
『哲学－哲学史から学ぶ－』小林利裕著(法律文化社)

科目コード	科目名	単位数
P20300	東洋思想史Ⅰ	4単位

教材コード 000392

教材名 東洋思想史Ⅰ

著者名等 舘野 正美

■教材の概要

この『東洋思想史Ⅰ』では、中国古代の春秋戦国時代から秦に至る年代の哲学思想が述べられています。具体的なポイントについては下の記述を参照して載くこととして、このような哲学思想は、いずれも東洋哲学の最も基本的な内容を今に伝えるものであると考えられます。

従って、それぞれに独自の内容を理解すると共に、それらを一貫して流れている基本的な考え方にも十分に注意を払って勉強してください。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 126

孔子の思想については、断片的ながら、その背景にある深い思索に思いをいたしつつ理解を深めてください。孟子にも人間の真実についての深淵な考察があります。その哲学的思惟の実際をつかみ取るように努めてみてください。墨子については、殷周革命のことをもう一度おさらいしながら勉強してください。荀子は理論家です。『易経』の思想は、人間の真実としての「運命」という課題について考えながら勉強を進めてください。

老子と莊子については、やはりまずその〈道〉について理解するよう努めてください。その理解を基礎にそれぞれの主張点をトレースすれば分かりやすいでしょう。

ページ 127 ～ 278

韓非子は、荀子と同様に明晰な理論家です。その理論の展開と限界をつかみ取ってください。『呂氏春秋』に見える様々な哲学思想は、文字通り百花繚乱の様相です。それぞれ違った観点から様々な思想を楽しむ気持ちで勉強してください。

■学修上の留意点

それぞれの深い哲学的思惟のポイントを押さえて理解し、頭の中で明確に把握できるように務めてください。

■参考文献

教材を参照してください。

科目コード	科目名	単位数
P30100	宗教学基礎講読	4 単位

教材コード 000044

教材名 『世界の宗教』

著者名等 岸本 英夫

出版社名 原書房

■教材の概要

わが国の宗教学を代表し得る執筆者たちが、客観的立場から世界の諸宗教について、その特徴と歴史とを記述したテキストです。個々の宗教について一応独立にあつかわれていますが、「インド人の宗教」と「仏教」、「ユダヤ教」と「キリスト教」「イスラム教」のように深い結びつきのあるものもあります。そういった結びつきにはよく注意して全体を読むように心がけて下さい。

■学修計画のポイント

ページ 39 ～ 62

第4章は、「特徴」と「歴史」について記すことを求めています。「特徴」については全体を読んだうえで39～41ページの記述をもとにまとめるよう学修して下さい。「特徴」は「歴史」の中に具体的に表れているはずで、「歴史」についてはテキストの時代区分に従って大きな流れをまとめられるように学修して下さい。年代をおぼえるといった必要はありません。ユダヤ教はキリスト教、イスラム教を通じて世界に大きな影響を与えた宗教です。キリスト教、イスラム教とのかかわりについては注意しましょう。両宗教に関する部分もあわせて読むと良いでしょう。

ページ 135 ～ 170

第8章は「特徴」と「歴史」について記すことを求めています。「特徴」については「シャカの一生とその教説」部分を読んだうえで、168～170ページの記述をもとにまとめるよう学修して下さい。仏教の特徴はとりわけシャカの教説の中に具体的に表われています。「歴史」についてはテキストの時代区分に従って大きな流れをまとめられるように学修して下さい。年代をおぼえるといった必要はありません。仏教は「インド人の宗教」と密接な関係にあります。あわせて学修しておくとい良いでしょう。

■学修上の留意点

宗教学は客観的な知識を問う学問です。あなたがどう思うか、とか信仰の深い理解とかを求めるものではありません。客観的知識を得たことを示すのがリポートでも試験でも求められます。そのつもりで学修して下さい。

■参考文献

テキストに文献目録があります。さらに勉強したい人は参照するとよいでしょう。街の書店にある信仰の立場にたつものや、あまりに大きなテーマのものはすすめられません。あわせてつかうなら、通信教育教材の『宗教学』や『宗教学概論』がよいでしょう。

科目コード	科目名	単位数
P30200	倫理学基礎講読	4 単位

教材コード 000337

教材名 『ソクラテスの弁明ほか』

(学修指導書別冊)

著者名等 田中 美知太郎・藤澤 令夫 訳

出版社名 中央公論新社

■教材の概要

テキストには、プラトンの『ソクラテスの弁明』『クリトン』（以上二篇、第一分冊）『ゴルギアス』（第二分冊）が収められています。『ソクラテスの弁明』と『クリトン』では、ソクラテス裁判とその後の出来事が取り上げられていますが、それらを通じて、ソクラテスの生き方（そして、死に方）が描かれ、私たち人間にとって「よく生きる」とはどういうことなのかという問題が考察されています。『ゴルギアス』では、「弁論術とは何か」という問題を出発点としながらも、善、幸福、正義などの倫理的な問題が考察されていきます。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 136

『ソクラテスの弁明』では、哲学にもとづく自分の行き方を披瀝していますが、その「哲学にもとづく生き方」とはどのようなものなのでしょうか。また、彼は『クリトン』では、たとえ不当な判決であっても、それに従わねばならないと主張していますが、それはどのような考えにもとづいたものなのでしょうか。この二作品をじっくり読むことによって、ソクラテスの考え方と彼の選んだ生き方がどのようなものであったのかということをよく理解してください。そして、その理解を踏まえた上で、私たちの選ぶべき生き方とはどのようなものであるのかという問題について、自分でもじっくりと考えてみてください。

ページ 137 ～ 477

『ゴルギアス』では、ゴルギアス、ポロス、カリクレスの三人とソクラテスとの対話を通じて、弁論術が善や幸福に寄与できるものであるかどうかを検討され、その検討を通じて、「善（善い生き方）とは何か」「幸福とは何か」という問題が追求されていきます。そして、その追求の中で、その善や幸福と正義との関係に議論の焦点が当てられていきます。そこで、まず、これらの議論の展開をできる限り正確にたどってみてください。そして、この『ゴルギアス』での議論をしっかりと踏まえた上で、善い生き方とは何か、幸福とは何か、正義の人が必ず幸福であるのかという問題について、自分でもじっくり考えてみてください。

■学修上の留意点

この「倫理学基礎講読」の学修にあたっては、まず、何よりもテキストに取り上げられている三作品をじっくり読み、それらの作品中の議論の筋を正確に捉えるように心がけてください。そして、その作品の議論の展開やその結論について、それが自分に納得できるものかどうかをじっくり考えてみてください。そして、もしそれが納得できないものであったなら、自分にとってはどの点がどういう理由で納得できないのかをよく考え、その疑問の中身を明らかにしてください。

■参考文献

テキストを自分の力で読み解くことが最も大切なことですが、あえて参考文献を上げるとすれば以下のものです。

『ソクラテス』岩田靖夫著（勁草書房）

『プラトーン 哲学者とは何か』納富信留著（日本放送出版協会）

その他に、プラトンの作品で、『プロタゴラス』（岩波文庫）、『ラケス』（講談社学術文庫）、『メノン』（岩波文庫）、『饗宴』（新潮文庫）、『パイドン』（岩波文庫）なども参考になるでしょう。

科目コード	科目名	単位数
P30300	哲学概論	4 単位

教材コード 000138

教材名 哲学概論

著者名等 藤平 武雄

■教材の概要

哲学概論を定義することは難しく、概論の著者の数程の定義があると思う。通信教育教材の『哲学概論』は近世哲学の出発から現代哲学までを論述し、東洋哲学と西洋哲学との比較を結びとしている。したがって、近世以降の西洋哲学史の流れが本書の中心をなしており、現代哲学とその前史を学ぶためには格好の教材である。また「哲学と民族性」の章で東西哲学の比較も論じられているので、読者は東洋哲学に目を向ける機会に恵まれるかもしれない。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 95

39 ～ 45 ページ

エネルギー不滅則、ダーウィンの進化論等の自然科学的思惟の優勢な時代になって、哲学時代が形而上学的思弁哲学から自然科学的哲学へとその方向及び方法を転換した点に注目すること。

75 ～ 79 ページ

新カント派の哲学は、リープマンの「故に我々はカントに復帰せざるべからず」という言葉によって表される様に、カント哲学の再解釈にその出発点がある。マールブルグ学派ではコーエン、西南ドイツ学派ではリッケルトを中心にする。

ページ 96 ～ 224

96 ～ 109 ページ

フォイエルバッハの哲学はヘーゲル批判を出発点としているので、ヘーゲルの汎理主義に対するフォイエルバッハの感性的人間解釈に注目することが大切である。

145 ～ 151 ページ

「実存主義」は広義の哲学であり、芸術、文学等人間の生活全般にかかわっている。本書では4名の実存主義者が論じられているが、1人の思想家を選んで論じた方がまとめやすい。

■学修上の留意点

特になし。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
P30400	宗教学概論	4 単位

教材コード 000139

教材名 宗教学概論

著者名等 奈良 弘元

■教材の概要

個々の宗教流派や宗派、教派などを対象とするのではなく、宗教全般を対象として、その事実を明らかにすることによって、宗教について正確な知識を得る、ということを目指している。歴史的な諸宗教を概観すると、宗教を構成している主たる要素は、思想・行動・集団・体験の四つである。これらの四つの構成要素を考察することによって、宗教についての全体像が明らかとなり、その基礎的知識が得られるものと考えられる。

■学修計画のポイント

ページ 9 ～ 76

「宗教学の立場と分野」の章は、「宗教学」の学問としての性格と特徴とを明らかにすることを目指している。「宗教の諸類型」の章は、過去から現在にいたる諸宗教について概観するとともに、それらの分類を通して、その類似性と特異性とを理解することを目指す。

「宗教の構成要素」の章は、「宗教思想の諸相」以降の各章への序章に相当し、「宗教思想の諸相」の章は、信仰の対象としての宗教的実在についての考えかたや、人間観・世界観を考察することによって、宗教的なものの見かた、考えかたを理解する。

ページ 79 ～ 157

「宗教行動」の章は、信仰の表出としての行動形態の理解を目指し、「宗教集団」の章は宗教集団の特徴、ならびに経済や政治との関係について考察し、宗教の理解を深めることを目指している。

「宗教体験」の章は、個人の内面で展開される、宗教体験の特徴、宗教体験を通して形成される宗教的人格、などへの理解が目標となる。

「宗教の機能」の章は、宗教と政治・経済・その他の文化とを比較しながら、宗教の果たす役割について考える。

■学修上の留意点

教材を熟読吟味するとともに、その内容を自分の言葉で、正しく説明できるように心がけること。そのためには、具体的な事例を列挙できるように努め、また、説明のための論拠を持つように努めること。あいまいな言葉、意味不明な言葉は、必ず、辞書などで確かめること。全体的に、地道な学修が要求される。

■参考文献

教材の主要参考文献（175 ～ 182 ページ）に示してあるとおりである。

科目コード	科目名	単位数
P30500	倫理学概論	4単位

教材コード 000140

教材名 倫理学概論

著者名等 小林 利裕

■教材の概要

倫理学について、従来までの学説を紹介しつつ、体系的な統一論を講述するのが「倫理学概論」である。倫理学に関する根本的原理を考え、その原理を倫理的事実である習俗と人倫の中に適用する。習俗は一般に反論理的性格が強く、人倫（政治と経済が中心）によってそれが克服される。倫理学を狭い道德から解放して、政治倫理や経済倫理などとして考えるわけであるが、さいごに政治倫理・経済倫理と家族倫理との関係を取り扱う。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 148

1 ～ 76 ページ

倫理学の定義から始め、倫理学研究の基本的立場が講述されている。倫理的事実と主体的自覚の関係、従来までの倫理学の欠陥（倫理的事実を無視している）などが学修の中心になる。

77 ～ 148 ページ

倫理学の根本的原理が講述されている。主体的自覚とヒューマニズムが原理であるが、それに関係して他人と組織の問題を考える。他人を、主体疎外をする他人と、ヒューマニズム実現を補助する他人（組織内他人）とに分ける。

ページ 149 ～ 294

149 ～ 220 ページ

倫理的事実としての習俗が講述されている。習俗をいろいろな点から分類し、それぞれ主体疎外の実態を明らかにする。この上に立って、習俗による主体疎外を克服する方法を考える。

221 ～ 294 ページ

倫理的事実としての人倫が講述されている。政治と経済を中心にして、それぞれ政治倫理や経済倫理を考えるが、もちろん2つは内的に密接に関係している。習俗克服の方法との関係も注意する必要がある。

■学修上の留意点

- ① ヒューマニズム（疎外）と他人（組織）との関係。
- ② 倫理学からみた理想的な政治・経済像。
- ③ 習俗による主体疎外を克服する具体的な方法。

■参考文献

- 『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）和辻哲郎著（岩波書店）
 ※『倫理学概論』金子武蔵著（岩波書店）
 ※『実存主義をめぐる』小林利裕著（近代文芸社）

科目コード	科目名	単位数
P30600	西洋思想史Ⅱ	4単位

教材コード 000134

教材名 西洋思想史Ⅱ

著者名等 藤平 武雄

■教材の概要

本教材はカントを軸としながら、第一篇において、大陸の合理論の哲学（デカルト、スピノザ、ライプニッツなど）とイギリスの経験論の哲学（ロック、バークリー、ヒュームなど）との展開が記述され、第二篇において、カントならびにカント以降のドイツ哲学の展開が記述されている。したがって本授業では、下記のとおり、①大陸合理論の展開、②イギリス経験論の展開、③カントの批判哲学、④カント以降のドイツ哲学の展開等を学修する。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 91

1 ～ 61 ページ

テーマ：大陸合理論の哲学

デカルトの方法と彼の二元論的世界観を中心にすえて学修し、そのあとで、デカルトの哲学を批判的に展開しながら、それぞれ独自の世界観を創造したスピノザとライプニッツの哲学を学修する。

62 ～ 91 ページ

テーマ：イギリス経験論の哲学

イギリス経験論の展開を全体的に、また系譜的に学修する。そのなかで、とくに力をいれて学修すべき哲学者はベーコンとロックとヒュームである。

ページ 92 ～ 229

92 ～ 123 ページ

テーマ：カントの批判哲学

近世の大陸合理論の哲学とイギリス経験論の哲学とをともに批判しながら、近代ヒューマニズムの哲学を確立したといわれるカント哲学について、(1)その認識論の特徴、ならびに、(2)道徳論の特徴を理解する。

124 ～ 229 ページ

テーマ：カント以降のドイツ哲学の展開

ドイツ観念論の哲学を系譜的に学修する。フィヒテとシェリングとヘーゲルの哲学の特色を理解するとともに、ヘーゲル以降の哲学の展開を学修する。

■学修上の留意点

- ① デカルトとスピノザとライプニッツの世界観をそれぞれ理解する。
- ② ロックの認識論の特色を理解する。
- ③ カントの認識論と道徳論との特色を理解する。
- ④ ヘーゲルの弁証法の哲学を理解する。

■参考文献

- 『方法序説』（岩波文庫）デカルト著（岩波書店）
 ※『知性改善論』（岩波文庫）スピノザ著（岩波書店）
 『モナドロジー／形而上学叙説』ゴットフリート・ヴィルヘルム・ライプニッツ著（中央公論新社）
 ※『人間知性論』ロック著
 ※『人性論』ヒューム著
 ※『プロレゴメナ』カント著（一穂社）
 『プロレゴメナ／人倫の形而上学の基礎づけ』（中公クラシックス）カント著（中央公論新社）
 『歴史哲学講義』（岩波文庫）ヘーゲル著（岩波書店）

科目コード	科目名	単位数
P30700	東洋思想史Ⅱ	4単位

教材コード 000438

教材名 東洋思想史Ⅱ

著者名等 舘野 正美

■教材の概要

この『東洋思想史Ⅱ』では、中国の漢の時代（B.C.3C.～A.D.3C.）と、それに続く魏晉六朝の時代の思想史が取り扱われている。具体的なポイントについては、下記を参照して頂くとして、それぞれの哲学思想の有機的な連関についても論及されているので、ただ単に時代順に記述を追うのではなく、それぞれの内容的な連関、いわば“ヨコのつながり”にも十分に留意して勉強して頂きたい。

■学修計画のポイント

ページ1～109

ここではまず漢から魏晉にかけての、かなり長い期間にわたる思想史が論述される。曹操と諸葛亮の思想については、やはり韓非子に代表される法家思想がポイントとなるであろう。又、それに続く、いわゆる“竹林の七賢”の思想においては、老子や荘子の道家思想がポイントとなる。いずれも『東洋思想史Ⅰ』において詳述されている重要な哲学思想である。それらについての十分な学修が必要であろう。

ページ111～191

続いて何晏と王弼の哲学思想が取り扱われる。いずれも中国思想史上に名高い論客であり、その言葉や論理は、いささか複雑で分かり難い点もあろうかと思われるが、ポイントは、老子・荘子の道家思想と易哲学である。従って、まずはそれらの哲学思想を明確に押さえ、その上でポイントを押さえながら読み進めば、必ずや、その内容も理解することができるであろう。

■学修上の留意点

既に触れた通り、常に通信教育教材『東洋思想史Ⅰ』を座右に置いて、それを参照しつつ勉強されたい。

■参考文献

テキストの該当箇所をご覧ください。

科目コード	科目名	単位数
P30800	日本思想史Ⅰ	4単位

教材コード 000137

教材名 『日本思想論争史』

著者名等 今井 淳・小澤 富夫

出版社名 ペリカン社

■教材の概要

日本人の思想の歴史をみると、神道・仏教・儒教・キリスト教などの諸思想が複雑に交渉し合い、あるときは対立し、またあるときは融合しながら展開している。ある時代の新しい思想と思われるものも、何らかの意味で前時代の思想と関連し、また次代の思想に影響している。こうした日本思想史の流れを考察し、日本人の思惟方法の特色を明らかにするのが本教材のねらいである。具体的な概要と問題については、教材の『序章』の箇所を精読してほしい。

■学修計画のポイント

ページ 22 ～ 118

22 ～ 68 ページ

日本における仏教受容後に発生した思想上の諸問題について、最澄と徳一の対立点、鎌倉新仏教と神仏関係、仏教側の主張する習合論の内容、それに抵抗して成立した諸神道の主張などの思想史的意義を理解すること。

70 ～ 118 ページ

中世における種々の歴史書にあらわれた歴史哲学、すなわち歴史推移の根本原理と諸書の政治理想としての政道論の意義、次に歌論・連歌論・能楽論・茶の湯論において展開された日本人の美的価値論の特色を理解すること。

ページ 120 ～ 379

120 ～ 294 ページ

日本の伝統諸思想とキリスト教の対立点、儒教と仏教の関係、儒教内部の種々の思想論争と国学との関係、武士の在り方をめぐる対立点、中世と関連しての近世文芸論の特色などを整理し、近世諸思想の近代以降に与えた影響の意義を理解すること。

296 ～ 379 ページ

幕末の国家論、明六社に参加した思想家たちが提起した諸問題、第1単位の習合論との関係をふまえての神仏分離と廃仏毀釈論、「国民道德」とはなにかをめぐる対立点について、現代の思想問題と密接する諸問題の思想史的意義を理解すること。

■学修上の留意点

- ① 各時代の歴史的背景について学修しておくこと。
- ② 各思想の時代的・現代的意義についてまとめること。
- ③ 巻末の主要人名・文献索引を利用すること。

■参考文献

教材巻末の文献目録を参照すること。

科目コード	科目名	単位数
P31000	哲学特殊講義	4単位

教材コード 000345

教材名 哲学特殊講義

著者名等 宮原 琢磨

■教材の概要

本教材はアルノー（1612 - 94）の『真なる観念と偽なる観念』（1683）の全訳（注釈付）と、解説として、拙著『アルノーにおける知のシステム』を収めたものである。本教材は、近代科学成立期の哲学論争を知るうえに必要不可欠なテキストである。なぜならば、本教材は、科学革命期の知識論争でもっとも重要な位置を占め、その後の哲学史の行方を決定したからである。本教材によって、読者はアルノー＝マルブランシュ論争の全容を知る機会を、そしてアルノーの知識論の特質とその意義を知る機会を得るだろう。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 108

『真なる観念と偽なる観念』はマルブランシュの『真理の探究』（1674 - 5）に対する論駁書である。したがってつねに「論争点は何か」に注意しながら教材を読解しなければならない。学修のポイントは以下のとおりである。

- ① アルノーの方法論を理解すること。
- ② アルノーのマルブランシュ批判の中心点は何か、を理解すること。
- ③ アルノーの知識論の特質を理解すること。
- ④ アルノーの知識論の意義について考えること。

ページ 109 ～ 286

『真なる観念と偽なる観念』の後半部は、マルブランシュの機会原因論の以下の論点で、論争の中心課題となるので、その点についての両者の主張のちがいをしっかり理解することが肝腎である。学修のポイントは以下のとおりである。

- ① マルブランシュのキーワード“叡智的延長”について。
- ② 神の認識について。
- ③ 自己の認識について。
- ④ 他者の認識について。
- ⑤ 知識の起源について。

■学修上の留意点

アルノーの知識論を理解しやすくするための拙著『アルノーにおける知のシステム』を参考資料としてつけ加えた。本教材を「学修計画のポイント」に即して学修する際、拙著を併読しながら読み薦めることが大切である。

■参考文献

『哲学基礎講読』（通信教育教材）

科目コード	科目名	単位数
P31300	科学哲学	4 単位

教材コード 000142

教材名 科学哲学

著者名等 大江 精三

■教材の概要

哲学を認識論と形而上学の二大部門に分けることは哲学における一般的傾向である。科学時代の現在にあっては、認識論を科学基礎論に、また形而上学を科学的世界に改めるべきであるという意見もあるが、あまり時流にとらわれすぎずに、あくまで人間の認識活動の全体を研究の対象とする立場からまとめられたものである。現代哲学の実存主義・マルクス主義・科学哲学がどのように生じて来たかを理解しながら、今どのように考えるべきかを平易な文章でまとめられている。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 102

1 ～ 45 ページ

哲学は自然科学との関連なくしては論じられないものである。ニュートンとカント、そしてゲーテとの関係は、近年の自然科学理論観を先取りした観がある。理論の背後で様々な解釈が成立し、科学基礎論が発展することになった。

47 ～ 102 ページ

自然科学との関係で最も緊密な関係を有していたのが、近代哲学の祖としてデカルトとカントである。しかし、両者の考え方は、デカルトが「我思う」という立場にとどまっていたのに対し、カントは理性律法化にまで進めるという違いである。

ページ 103 ～ 222

103 ～ 166 ページ

認識論を英国経験論と大陸合理論、また観念論と実在論というように対立的に考えがちであるが、両者を統一しようとしたカントの認識論は、我々が日常用いる「自然」とは異なった「物自体」という考えをもっている。

167 ～ 222 ページ

カントからヘーゲルに至るドイツ観念論においては理想主義哲学の発展過程でもあった。この認識を研究することは学問領域を考察する上で欠かせないものである。また、これと反対の立場をも理解する必要がある。

■学修上の留意点

各章を熟読してください。各章の結論は最終項目で述べられていますので、良く理解し、自分のことばで書くようにしてください。

■参考文献

※『プロレゴメナ』カント著（一穂社）

『純粹理性批判』（岩波文庫）カント著（岩波書店）

科目コード	科目名	単位数
Q20100	日本史入門	4 単位

教材コード 000484

教材名 『方法教養の日本史』

著者名等 竹内 誠・君島 和彦・佐藤 和彦・木村 茂光

出版社名 東京大学出版会

■教材の概要

歴史への興味は多くの人が持つものであるが、それを歴史への“研究”へと結びつけるのは容易な事ではない。本書は、様々な事例を挙げて、単なる歴史への興味から研究へと進むための方法を具体的に追求しようとした書である。

本書はまず、「身近な体験」の項で、歴史学の対象は歴史上有名な人物や事件のみではなく、ごく身近な事柄の中にも存在する事を示し、次に「歴史への接近」・「テーマの発見」の項で、興味を抱いた対象をいかに研究し、歴史叙述へと深めていくのかが語られている。

■学修計画のポイント

本書は、序章に続き、Ⅰ「ドラマ」の世界、Ⅱ都市空間、Ⅲ暮らしの経済、Ⅳ戦争と平和、Ⅴ生と死、参考文献一覧、の部分で構成されている。

Ⅰ～Ⅴは、各章ごとに2～4本の論文が収められており、それぞれ興味ある内容であるが、論文の構成は「教材の概要」で述べたように、「身近な体験」、「課題への接近」、「テーマの発見」という共通した3つの部分からなっている。

本書を読むにあたっては、個々の論文内容を学修すると共にそれらを通じて“興味から研究へ”いかに進むかという方法論も併せて学んで欲しい。なお、「序章」も、本書全体のねらいを述べた部分であるので必ず読んでおくように。

■学修上の留意点

本書に収められた各論文を読み進みつつ、自身の研究課題は何か、それをどのような視点で把握し、研究を進めていくのかを常に考えるようにしてほしい。

■参考文献

各論文の文末、又は欄外に記された文献、及び巻末の参考文献を参照のこと。

科目コード	科目名	単位数
Q20300	西洋史入門	4 単位

教材コード 000047
 教材名 『歴史とは何か』
 著者名等 E.H. カー
 出版社名 岩波書店

■教材の概要

歴史は暗記物と思ってきた人にじっくり読んでほしい教材です。本書は 30 年以上前に書かれながら、歴史を研究する者の基本的な姿勢を教えてくれる点で、今尚新鮮な名著です。歴史とはどういうものか、歴史書をどのように読み、どのように研究をしていくべきかを著者は語りかけます。著者の博識に面くらい、難しいと思ってしまうかもしれませんが、何度も読めば「歴史は現在と過去の対話である」という言葉に凝縮されるカーの歴史哲学には、教えられることが多いでしょう。

■学修計画のポイント

- ① 歴史的事実は不動の「真実」なのだろうか。そうではなく、歴史家の目を通した選択・解釈と深い関わりがある。その歴史家も社会の産物であり、時代の影響を免れられない。「歴史」と「歴史家」との関係の深さを理解しよう。
- ② 「主たる原因に変化がない限り、すべての出来事には変化はありえない」とする「決定論」的歴史観からみた、歴史上の原因の相対的重要性、および、歴史の「法則」（むしろ、「仮設」だとカーがいうもの）と偶然との関係を読みとろう。
- ③ 科学としての歴史学と自然科学との共通点と相違点を理解しよう（研究対象が人間であることに注意せよ）。また、原因を追求する学問である歴史学において、多様な原因をどの様に区別すべきなのか、因果関係への取り組み方を考えよう。
- ④ 歴史は「過去と現在の対話」、また、「進歩する歴史」の立場からは「過去と未来の対話」、とカーはいう。過去の省察が現在、未来への展望を開くだけでなく、「対話」であることに注意。なお、「歴史の進歩」は単なる進化、前進ではない。

■学修上の留意点

- ① 「歴史家が歴史を作る」とはどういうことか。
- ② 「科学としての歴史」の仮設、判断基準、教訓と予言。
- ③ 歴史的事件における究極原因。
- ④ 「進歩する科学」としての歴史における客観性。

■参考文献

- 『新しい史学概論（新版）』望田幸男・芝井敬司・末川清著（昭和堂）
 ※『歴史をみる眼』堀米庸三著（日本放送出版協会）
 『有斐閣シリーズ歴史学入門』浜林正夫・佐々木隆爾編著（有斐閣）
 『ヨーロッパとは何か』（岩波新書）増田四郎著（岩波書店）
 ※『歴史学概論』（講談社学術文庫）増田四郎著（講談社）
 『西洋近現代史研究入門（増補改訂版）』望田幸男他編著（名古屋大学出版会）
 ※『世界大百科事典』（平凡社）、『新編 西洋史事典（改訂増補）』（東京創元社）等の事典類

科目コード	科目名	単位数
Q20400	考古学入門	4 単位

教材コード 000509

教材名 『考古学入門』

(学修指導書別冊)

著者名等 鈴木 公雄

出版社名 東京大学出版会

■教材の概要

考古学は歴史学の一分野であることを理解させるとともに、自然科学系学問を取り入れていく必要のある学問であることが書かれている。考古学という学問で行われている研究方法や理論を体系的に解説し、資料を入手するための方法（発掘・調査）に触れ、資料からどのようなことがわかるのかについて具体的な事例を多数挙げながら述べられている。

考古学の研究方法として、型式学を取り上げ、相対年代と絶対年代の関連、分布と考古学的文化、機能の解明方法の紹介がなされ、考古学から歴史復元へのアプローチが説明される。また、考古資料が発掘調査によって採集されることから、その方法と種類、整理作業についても触れられている。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 88

考古学の目的が人類の出現から今日に至る歴史の再構成と位置づけ、対象とする時代、研究方法の発達史、型式学的研究方法が説明されている。特に型式学について、時間・空間（分布）・機能の項目に分けている。時間軸は地域編年の設定、交差年代による並行関係（「地域編年の共時化」）の把握、鍵層と自然科学的分析による絶対年代について、最新の方法も検討されたい。型式の分布圏については、日本の資料では具体的に語られていない。同時間における別地域の遺物の移動といった視点から、他の文献も検討する必要がある。機能については、型式の機能解明方法が詳細に説明されている。縄文土器の場合、その出土状態から、貯蔵や煮炊きに使用されたり、埋甕に使用されたり、炉に使用されたりすることがわかっている。ほかにどのような事例があるのか調べていく必要がある。

ページ 89 ～ 212

発掘調査の種類と方法、そして整理作業といった資料の収集・分析に欠かすことのできない作業について説明されている。発掘調査および整理作業のいずれも、ただ作業をしているのではなく、考古学研究に必要な情報をデータ化するためにおこなっているという視点を持ち、文献にあたられたい。編年研究に欠かすことのできない層位学的発掘調査、原位置論、分布論、同時代性の把握などに絶対必要な情報である出土位置の注記や接合、調査によって破壊された遺跡を知ることのできる唯一の手段である発掘調査報告書の作成など、手段だけでなく目的をしっかり認識して学ぶ必要がある。

■学修上の留意点

巻末に掲載されている参考文献を可能な限り読み、テキストの内容を覚えるだけでなく、自分で考古資料を分類することができるようになるよう、集成資料などを読んだり、博物館で実物を見たりするとよい。疑問に感じた内容や知らない単語は、必ず調べながら読むこと。考古学の学術用語が理解できるようにする。

■参考文献

テキスト巻末の文献を参照。

科目コード	科目名	単位数
Q30100	史学概論	4 単位

教材コード 000144

教材名 史学概論

著者名等 石田 幹之助・肥後 和男

■教材の概要

前半は、史学研究法とは何かについて、「これは歴史を歴史事実そのものの意に取り、それに対する正確な認識を作り上げて行く手続・方法をいふ」として、そのため必要な史料とその批判について解説したものである。

後半は、どちらかといえば哲学的に歴史学研究をのべたもので、歴史とは何か、歴史を知る方法・史料、問題の設定、歴史における時間、場所、歴史における人間、政治史と経済史と文化史、史観などについて説きおよんでいる。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 98

1 ～ 44 ページ

歴史研究の出発が史料の存在にあることと、その史料がどのように便宜的に分類されているのか、具体的に理解すること。

45 ～ 98 ページ

史料批判の必要性と、それが具体的にどのようにおこなわれるのか理解すること。

ページ 99 ～ 239

99 ～ 158 ページ

歴史とはどのような学問なのか、また研究をはじめるときの問題の設定はどのようにきめられていくかについて理解すること。

159 ～ 239 ページ

歴史を、時間、場所、人間、史観といった観点から理解すること。

■学修上の留意点

- ① 歴史研究上の史料の存在について十分な理解がのぞまれる。
- ② 史料批判はどのようにしておこなわれるのかについて理解すること。
- ③ 歴史という言葉には二つの意味があることと史料の分類。
- ④ 歴史のみかたには今までどんなものがあったのか、その限界は、どんなところに存在するのか。

■参考文献

- ※『歴史をみる眼』堀米庸三著（日本放送出版協会）
- ※『歴史と人間』堀米庸三著（日本放送出版協会）
- ※『史学概論（新版）』林健太郎著（有斐閣）
- ※『史学概論（第2版）』太田秀通著（学生社）
- 『歴史とは何か』（岩波新書）E.H. カー著（岩波書店）

科目コード	科目名	単位数
Q30500	考古学概説	4 単位

教材コード 000510

教材名 『初めて学ぶ考古学』

(学修指導書別冊)

著者名等 佐々木 憲一・小杉 康・菱田 哲郎・朽木 量・若狭 徹

出版社名 有斐閣

■教材の概要

前半は考古学の研究方法について、「機能論」「編年論」「分布論」といった項目ごとに、様々な時代の具体的事例を挙げながら説明している。また、日本人の研究者だけでなく、諸外国の先学を紹介し、モノの分析方法がどのように行われてきたのか、そして、最新の研究方法にはどのような方法があるのかを紹介している。

後半では、旧石器時代から近現代までの各時代ごとに概説されている。特に、奈良時代以降の考古学資料を用いた説明がなされており、考古学の研究対象とする範囲がどこからどこまでなのかを明確に知ることができる。また、日本列島の歴史で欠かすことのできない、北海道と南西諸島にも触れられている。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 151

研究方法の紹介を、様々な地域・時代の事例を取り上げて紹介している。

- ・弥生時代の青銅製品の形態変化について、型式学的研究に絡めて紹介されている。銅剣・銅矛・銅戈が細形→中細形→中広形→広形へと変化していくことが書かれているが、具体的にはどのような変化を指しているのか、また、どのような機能の変化が起きていると考えられているのかについて、文献などをもとに調べるとよい。
- ・弥生時代・古墳時代の埋葬事例を基に、当時の社会、特に階層性について書かれている。副葬品にはどのようなものがあるのか、社会的地位を示す副葬品とはどのようなものなのかについて調べてみよう。また、墳墓の規模・形態は時期によってどう変化するのか、そして、その変化から何が読み取れるのかという視点を持って検討するとよい。

ページ 153 ～ 336

旧石器時代から近現代までの各時代ごとに、それぞれの時代を特徴づける資料を用いて紹介している。

- ・旧石器時代は編年のキーポイントとなるナイフ形石器を軸として、前後に時期および同時期における石器の種類や感情ブロック群について説明されている。縄文時代は、世界各国で用いられている「新石器時代」との相違を、縄文文化の定義を検討することで説明している。縄文時代は、縄文土器をはじめとする縄文文化を象徴する様々な道具を用いて生活しているが、なぜ、このような生活スタイルを選択したのか、また、日本列島だけで語ることが正しいのかという視点で書かれている。旧石器時代から縄文時代への移り変わりに主眼を置きながら学ぼう心掛けたい。
- ・弥生時代から古墳時代にかけては、食糧生産に水稻耕作を導入し、社会の中に階層が生まれていく点について説明されている。青銅製品、鉄製品、環濠集落、墳墓の巨大化、前方後円墳の成立といった、国家成立の初期段階について各事例から学び取ろう。
- ・奈良時代以降は歴史考古学と呼ばれているが、この時代より前の考古学的手法を用いることに何の問題もないだけでなく、考古資料からしかわかりえない点が多くあることに注意されたい。

■学修上の留意点

本テキストだけでなく、各時代のことについて書かれた概説書や、地方自治体や博物館で運営されているホームページなどを参照されたい。そのさい、まずは時代区分と時期区分は実年代をふまえてしっかりと行えるようにしておきたい。そのためにも、旧石器時代は石器による編年、縄文時代から近世までは土器・陶磁器による編年がほぼ出来上がっているため、自分の住む地域だけでも確認しておくとうい。

■参考文献

『縄文の豊かさと限界』（日本史リブレット）今村啓爾（山川出版社） ￥800 + 税
そのほか、巻末の参考文献にあたること。

科目コード	科目名	単位数
Q30600	考古学特講Ⅰ	4単位

教材コード 000149

教材名 考古学特講Ⅰ

著者名等 竹石 健二・澤田 大多郎・野中 和夫

■教材の概要

前半には、縄文式時代初期集落の諸問題についての考察、縄文式時代の専門工人集団の出現と交易について考察、縄文式時代の貯蔵形態の一つであるフラスコ形土坑についての考察、さらに、縄文式時代の土坑の性格についての考察を収めている。

後半には、弥生式時代の稲作以外の生産活動についての考察、弥生式時代の南関東における方形周溝墓の成立についての考察、多摩川流域における古墳の成立についての考察、さらに、所謂変則的敵古墳の諸問題についての考察を収めている。

■学修計画のポイント

ページ1～176

- ① 縄文式時代熱糸文期集落の諸問題についての諸先学の見解の紹介と筆者の考察を内容としているが、資料を収集して（自分の出身地で）検討してみるとよい。
- ② 専門工人集団の出現と交易について峠遺跡の事例として考察しているが、他の事例によって検証してみるとよい。
- ③ 貯蔵形態は、フラスコ形土坑に限定されるわけではなく、他の貯蔵形態について各自資料収集の上、調査研究するとよい。
- ④ 土坑の機能はほぼ陥し穴と決定してよいが、その方法については今後の課題であり、各自検討してみるとよい。

ページ178～358

- ① 稲作以外の生産活動について石皿と磨石の検討から、南関東地域を事例として、その存在を明らかにしたものであるが、各自で他地域で資料を収集して検証してみるとよい。
- ② 方形周溝墓がどのようにして南関東に伝播し、古墳の成立にどのように関係していくのか。また、弥生式時代の墓制の中でどのように位置づけられるのか、解明することは多い。
- ③ 各地域の各河川ごとに前方後円墳の成立の時期を明らかにすることによって各地域と大和政権の関係を明確にする。
- ④ 変則的古墳については普通の古墳の中でどのような位置づけがなされるか等々、今後に残された課題は多い。

■学修上の留意点

『考古学特講Ⅰ』には総数8編（縄文式時代4編、弥生式時代2編、古墳時代2編）の研究論文が収載されている。これを読むことによって、研究方法がどのようなものかをよく把握し、自らも資料を収集して、各地のあり方を検証してみるとよい。

■参考文献

各論文の最後に記載してある註（注）がこれにあたるが『考古学入門』（通信教育教材）の巻末に一覧表にしてあるものも参照するとよい。また、各地で刊行されている発掘調査報告書は資料を収集するうえで必要である。

科目コード	科目名	単位数
Q30800	日本史特講Ⅰ	4単位

教材コード 000151

教材名 日本史特講Ⅰ

著者名等 中村 順昭・高村 隆・横山 則孝・楠家 重敏

■教材の概要

本テキストは、日本史の古代・中世・近世・近現代の各時代ごとに、4名の執筆者がそれぞれの専門研究分野についてまとめた論文12本を収録した、いわば「論文集」の形態となっている。これは、日本史特講（特殊講義）という講座が、概説科目等とは違い、多くの場合、その講座を担当する教員が日頃とり組んでいる研究テーマについて、より専門的な内容にふみ込んで行われていることにかんがみ、そうした特講科目の特徴をテキストに反映させようと考えたことによる。

■学修計画のポイント

学修計画のポイントについては、各編（前半は1・2編（3～187ページ）、後半は3・4編（191～358ページ））の最後に「学習指導書」が付されているので、その部分を参照されたい。ただし、本テキストは、上記「教材の概要」で述べておいたように、古代～近現代の各時代について、個別テーマを専門的に検討・分析している論文によって構成されているわけであるから、それらの内容を十分に理解するためには、あらかじめ日本史の概説書類（容易に入手できるものが数多く市販されているが、通信教育教材では、『歴史学』・『日本史概説』・『日本史特講Ⅱ』が参考となる）で、各時代に関する基礎的知識を学修し、得ておくことが必要となろう。

■学修上の留意点

各編末の「学習指導書」を参照。

本テキストは論文集であり、学修に際し、難解に感じる者も多いと思うが、卒業論文作成のためには、各自が選んだテーマに関する参考文献として、数多くの専門書・論文を読まなければならないわけであるから、その時にそなえて、専門論文を読み込む力を身に付けておくことが求められよう。また、本テキスト収録論文について、それらの内容・論旨の理解に努めるとともに、論文の形式（文体、史料引用、注記他）にも留意しつつ学修されたい。

■参考文献

各編末の「学習指導書」及び、各論文の「注記」を参照。

科目コード	科目名	単位数
Q30900	日本史特講Ⅱ	4 単位

教材コード 000152

教材名 『近世日本の展開』

著者名等 蔵並 省自

出版社名 八千代出版

※本書は絶版となったため平成30年度中に
教材が変更になります。

■教材の概要

本書は「概説」と「各説」の二つの部分より成っている。「概説」の部分は、第1・2単位に相当し、ここでは本書の対象である日本近世の成立期から終末期までの歴史的推移を総合的に叙述し、近世の時代像を全体的に把握できるように構成されている。残る第3・4単位が「各説」の部分であり、ここでは近世の政治・経済・文化の各分野にわたる問題をとらえ、より専門的な考察を加えた論稿がおさめられている。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 241

1 ～ 132 ページ

まず、「近世」という時代が日本史上の流れのなかでどのような位置付けがなされているかを把握すること。次に、織・豊政権から徳川幕府の歴史的推移をふまえ、近世幕藩制社会の特質とは何かを理解すればよい。

133 ～ 241 ページ

幕藩制社会を支えた諸制度や思想の内容とその特質を学ぶと共に、この社会の基礎となった農民について、その生活の実態や領主支配のあり方を知ること。また、確立した幕藩制社会がどのような過程を経て変質・解体していったかを学び取る。

ページ 242 ～ 381

243 ～ 293 ページ

戦国大名後北条氏の領国経営について、特にその家臣団の成立・編成過程と、農民支配の具体的施策に留意する。家光政権については、寛永期の幕・藩関係をふまえた上で、家光期幕政の特質－将軍権力、幕府職制の確立過程等－を把握する。

295 ～ 381 ページ

加賀藩前田氏や老中松平定信の改革政治、および海保青陵の思想についての具体的内容を学ぶことを通じて、幕藩領主や学者が封建社会の変貌・解体にいかに対処しようとしたかを知り、さらに社会の変化の中で台頭する町人の活躍を化政文化を通じ学び取る。

■学修上の留意点

各分冊に対応するレポート課題に真剣に取り組み、不明な語句や記述内容については必ず辞書等を利用して確認しておくこと。本文中に引用されている史料にも目を通し、その内容を理解しておくように（各分冊共通）。

■参考文献

※『岩波講座 日本歴史9～14巻・別巻1』（新・旧版）（岩波書店）

※『講座日本近世史1巻～9巻』（有斐閣）

『国史大辞典1～15巻』国史大辞典編集委員会（吉川弘文館）。

なお、本書本文中に「割り注」等のかたちで紹介されている文献にも出来るだけ目を通すこと（各分冊共通）。

科目コード	科目名	単位数
Q31000	東洋史特講Ⅰ	4単位

教材コード 000507

教材名 東洋史特講Ⅰ

著者名等 須江 隆・加藤 直人・松重 充浩・高綱 博文

■教材の概要

本書は、東洋史に関する専門的な研究論文から構成されたものである。本書の学修を通じて高度な内容の学術論文に直接ふれ、それを読解する力を養うことを目的とする。本書は、第一編「両宋変革」と宋代中国の社会像、第二編清朝史料の世界、第三編近代中国東北地域経済史の研究、第四編「租界都市」上海を内容とする。各編の解説は学修の手引であり、はじめに熟読すること。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 137

1 ～ 71 ページ（須江 隆）

中国史上における「唐宋変革」と「両宋変革」に関する所論の内容と問題点を整理すること。また、「両宋変革」論に鑑みつつ、宋代地域史料の種類や活用方法を理解した上で、それらを用いて検討した過渡期を生きた知識人の生涯の分析を通して、その知識人が生きた時代や社会の特色を把握すること。

73 ～ 137 ページ（加藤直人）

歴史学の基礎分野である「史料学」について学修する。中国・清朝の時代には、政府の主要刊行物には「国語」としての満洲語と大多数の使用言語たる漢語の2種類（これにモンゴル語が加わることもある）が基本的に用いられた。本編では、このような複数言語体制のもつ意味、そしてそこで産み出される文書史料の実態について、皇帝の日々の言・行記録である「起居注」と、中国東北部、大興安嶺地区よりもたらされた「直訴状」を例として検討を加えたものである。「解説」をよく理解したうえで、本文を熟読して欲しい。

ページ 139 ～ 296

139 ～ 221 ページ（松重充浩）

近代中国の発展にとって否定的な存在とされる「軍閥」の一つである張作霖奉天省地方政府の支配強化・発展策を検討し、それらが結果として現地の金融・財政的問題解決に向けての方向性を包含していたことが明らかにしており、従来の歴史像を如何に刷新していくかの事例研究としても学修してほしい。

223 ～ 296 ページ（高綱博文）

本書第四編は、はじめに近代中国における「租界都市」上海の歴史的な性格とその特徴を解説している。第1章「日中戦争期における『租界問題』」では、1937年8月13日の第二次上海事変の勃発から1941年12月8日のアジア太平洋戦争の発生後の日本軍の上海租界進駐までを扱い、第2章「日本占領下における『国際都市』上海—日本の上海外国人政策及び外国人居留民の状況—」は、日本軍の上海進駐に伴う上海外国人政策及び外国人居留民の状況を検討したものである。

■学修上の留意点

各論文を学修する際には、第一に解説を熟読して研究史上の位置をよく理解し、第二に論文の課題を明確に把握した上で、註記を参照しながら論証の展開課程を詳細にたどる。第三にその論文の明らかにした点を認識する。以上のことをノートに要点をまとめながら行うことが望ましい。

■参考文献

各論文の本文や註にあげられた研究文献を参照すること。

科目コード	科目名	単位数
Q31100	東洋史特講Ⅱ	4単位

教材コード 000508

教材名 東洋史特講Ⅱ

著者名等 高綱 博文

■教材の概要

本書は、孫文の「最後の獅子吼」として有名な「大アジア主義」講演（1924年11月28日）についてさまざまな側面から歴史的に検証を試みたものである。従来、同講演の意図は「反日本帝国主義」とするものと「日中提携・日中親善」とするものが主要な解釈であったが、本書では孫文の対外戦略論や帝国主義認識を再検討することにより、第三の解釈がありえることを論証している。本書は既存の学説を疑い、新たな仮説を提示してそれを史料に基づき明らかにするプロセスを学んでいただくことを学修目標としている。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 139

本書の序章は、孫文の「大アジア主義」を彼の対外戦略の一環として捉えるべきであることを問題提起するものである。第一章は孫文の対外戦略論の特徴とその限界性に論じている。第二章は孫文の対外戦略論の前提となる帝国主義観について再検討したものである。第三章は孫文の対外戦略論の重要な実践ケースである〈日中ソ提携論〉の起源と形成過程を明らかにしている。第四章は孫文の〈大アジア主義〉講演の本質は〈日中ソ提携論〉であると捉えて、それをワシントン体制との関係で考察している。

ページ 141 ～ 223

第五章は孫文の「大アジア主義」が戦前の日中関係の複雑な曲折とあいまって、それが本来的に有する曖昧性からさまざまな解釈がなされ政治的に利用されてきたことを検討している。この歴史を通して、錯綜した日中関係史の一端を明らかにすることを課題としている。第六章は1949年以後の中国において孫文の「大アジア主義」が無視されてきたこと、また戦後日本においてはそれが大きな関心を集めただけでなく、日中関係を考える原点としての位置を獲得するに至る歴史的背景を考察している。補論は『孫文講演「大アジア主義」資料集』を論評しながら同講演の解釈のあり方や問題点を指摘している。

■学修上の留意点

本書は既存の学説を疑い、新たな仮説を提示してそれを史料に基づき明らかにするプロセスを学ぶことを基本的な学修目標としており、そのため孫文の「大アジア主義」に関する主要な史料を掲載している。本書を学修する際には関係史料を熟読して論証のあり方を十分に吟味すること。

■参考文献

本書の各章における註にあげられている研究文献を参照すること。

科目コード	科目名	単位数
Q31200	西洋史特講Ⅰ	4単位

教材コード 000156

教材名 西洋史特講Ⅰ

著者名等 坂口 明・藤井 潤・土屋 好古・藤井 信行

■教材の概要

本書は、西洋史に関する専門的な研究論文から構成されたものである。本書の学修を通じて高度な内容の学術論文に直接ふれ、それを読解する力を養うことを目的とする。本書は、第一編ローマ帝政期の社会、第二編トーマス・ミュンツァーの思想、第三編帝政期ロシアの社会と労働者、第四編ミュンヘン協定（1938年）とイギリス外交政策を内容とする。各編の解説は学修の手引きであり、はじめに熟読すること。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 119

1 ～ 64 ページ（坂口 明）

ローマ帝政期の社会について、一方ではそれを根底において支えていた農民の状況を、他方では、都市における富裕者の社会生活への寄与を、具体的なイメージとして知ることがポイントである。同時に、西洋史の論文における問題の立て方、論証の進め方、テーマの展開のしかた等についても注意を払って学修してもらいたい。

65 ～ 119 ページ（藤井 潤）

宗教改革運動の多様な流れの中でミュンツァーがいかに位置づけられるのかを考える。それには、ミュンツァーの思想と実践を他の思想や実践（ルター、ツヴィングリ、市民、農民、再洗礼派等）との共通点、相違点、影響関係に留意しながら理解する必要がある。

ページ 121 ～ 236

121 ～ 177 ページ（土屋好古）

19世紀末～20世紀初頭のロシア社会のなかで、労働者とはいかなる存在であったのか、彼らはいかに生き、行動していたのかを考えることがポイントである。また、議論の内容が史料やこれまでの研究成果にひとつひとつ根拠づけられていることにも注意を払ってもらいたい。

179 ～ 236 ページ（藤井信行）

研究史の考察を通して、「ミュンヘン協定」が当時のイギリスの国民的政策（ナショナル・ポリシー）の現れであったことを理解することが、まずポイントです。次にチェンバレンの外交政策が、19世紀の伝統の延長線上にあることを理解することです。

■学修上の留意点

各論文を学修する際には、第一に解説を熟読し研究史上の位置をよく理解し、第二に論文の課題を明確に把握した上で、註記を参照しながら論証の展開課程を詳細にたどる。第三にその論文の明らかにした点を確認する。以上のことをノートに要点をまとめながら行うことが望ましい。

■参考文献

各論文の註にあげられた研究文献を参照すること。

科目コード	科目名	単位数
Q31700	古文書学	4単位

教材コード 000502

教材名 『新版 古文書学入門』

著者名等 佐藤 進一

出版社名 法政大学出版局

■教材の概要

本書は古文書学の入門書として定評がある名著で、版を重ね今日に至っている。

①古文書とは何か，②古文書の種類，③古文書の様式論など，その詳細が章ごとにきめ細かく整理されており，初学者にとって大いに役立つと確信する。

■学修計画のポイント

ページ1～118

- ① 古文書の意味を含め，その機能，相伝関係について整理。
- ② 古文書の材質やその種類についての概容。
- ③ 古文書の様式論について…特に公式様文書について整理。
- ④ 古文書の様式論について…特に公家様文書について整理①（宣旨，官宣旨，庁宣など）。
- ⑤ 古文書の様式論について…特に公家様文書について整理②（綸旨，御教書）。

ページ118～284

- ⑥ 古文書の様式論について…特に武家様文書について整理①（下文，下知状など）。
- ⑦ 古文書の様式論について…特に武家様文書について整理②（御教書，奉書，直状など）。
- ⑧ 起請文・荘園文書について。
- ⑨ 軍忠状について。
- ⑩ 譲状について。

■学修上の留意点

古文書の攻略法はともかく多くの実物（写真版）に当たって，文字の配列及びくずし字に慣れ親しむことである。さらに古文書固有の表現や慣用句についても，しっかり身につけることが望まれる。

■参考文献

『古文書入門ハンドブック』飯倉晴武著（吉川弘文館）

その他，教材にあげられた諸文献

科目コード	科目名	単位数
R20200	経済史総論	4 単位

教材コード 000161

教材名 経済史総論

著者名等 岡本 清造

■教材の概要

経済の流れを古代、中世、近代、現代の順序で学ぶ。原始時代から古代奴隷制社会、中世封建社会を経て近世資本制社会へ変化、発展する過程の具体的な事実を学び、農業、工業、商業、都市を軸に経済の発展過程をつかみとるべきである。つぎに工場制手工業から機械および動力の発明による産業革命に重点をおいて、その変化が経済活動全般にどのような影響を与えたかを考えていくべきである。つぎに、その延長としての経済恐慌について考え、独占、帝国主義を学ばよい。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 304

1 ～ 201 ページ

原始共産制社会の形成、発展、解体の特色をまとめ、つぎに古代奴隷社会と都市国家の特色を学び、最後に古代ローマ国家における奴隷制度の形成から崩壊にいたる過程を要約して、古代社会の理論的解釈を確かなものにしておくこと。

203 ～ 304 ページ

中世封建的農奴制社会の成立過程でとくに西ヨーロッパについてその特色をまとめ、つぎにこの中の手工業の発達、商品貨幣経済の発達、封建領主に対する都市の闘争が起きることをまとめる。さらに農奴制社会がどう変化するかを学ぶ。

ページ 305 ～ 495

305 ～ 391 ページ

近世資本制はどのようにして成立していくかを問題にして、中世社会の崩壊、原始的蓄積、賃金労働者階級の形成、工場制手工業の発達について事実を知るようにつとめる。さらに資本制生産をめぐる商人資本と産業資本の闘争について学ぶ。

393 ～ 495 ページ

産業革命の原因とその具体的な事実、つまりだれがどのような機械を発明したかということについて知識を深め、つぎにその結果がどうなったかについて、新興資本家階級と労働者階級の状態を中心にまとめる。さらに経済恐慌について学ぶ。

■学修上の留意点

- ① 原始共産制社会の形成、発展、古代奴隷制社会の成立、発展。
- ② 中世封建的農奴制社会の成立、発展、都市、手工業、商品貨幣経済の発達。
- ③ 近世資本制社会の成立、商業の発達、原始的蓄積、商人資本と産業資本。
- ④ 産業革命とその結果、影響、経済的自由主義、労働者階級、恐慌。

■参考文献

- ※『西洋経済史概論（新版）』増田四郎著（春秋社）
- ※『一般経済史』堀江保蔵著（青林書院新社）
- ※『経済史』渡辺国広著（慶応義塾大学出版会）
- ※『経済史入門』小林良彰著（実教出版社）

科目コード	科目名	単位数
R20300	経済学概論	4 単位

教材コード 000244

教材名 経済学概論

著者名等 水村 光一

■教材の概要

経済学をはじめて学ぶものを想定して全体を大きく三つの部分に分けてできるだけわかりやすく記述してある。

第1章から第5章までは、経済学がどういう学問かがわかるように、その誕生から始めて経済体制や経済循環、経済学の歴史などについて説明した。次に第6章から第9章までは、ミクロ経済学について需給の基礎理論を中心に、続いて第10章から第13章まではマクロ経済学について、均衡国民所得水準の決定を中心に解説してある。最後に第14章で市場の失敗を説明した。

■学修計画のポイント

ページ 3 ～ 157

第1章（経済学と経済生活）から第9章（市場と価格）までが前半となるが、それはさらに第1章から第5章（経済学の歴史）までと第6章（需要と供給の基礎理論）から第9章までの二つに分けられる。

まず第1章から第5章は、経済学を学ぶものにとって最も基本となる事項、例えば経済学がはじめてアダム・スミスによって学問として確立されたときが英国の産業革命の初期で、このことがその経済学の性格に大きな影響を与えていることを知ると自然と経済学に興味をもてるはずである。また、第6章から第9章のミクロ経済学も日常の経済行動との関連を考えると興味がわくはずである。

ページ 161 ～ 273

第14章（市場の失敗）を除いて、第10章（経済活動水準の測定）から第13章（IS-LM曲線分析と経済政策）まですべてマクロ経済分析に関するものである。

その中でも特に全体としての経済活動水準がなぜある水準に決まるのか、つまり均衡国民所得水準の決定についてのケインズ理論に基づく解説は、はじめて経済学を学ぶものにとって、簡単な代数を用いることもあって難しいかもしれないが、その理論がはじめて発表されてから60年以上経過するのに今なお新鮮で驚きである。その喜びを知るためには、根気強く学修を続け理解する努力をしなければならない。

■学修上の留意点

経済学は専門用語が多く、その内容を正確に理解せねばならないことを、学修を始めるとすぐ気付くはずである。そこで教材ではできるだけ小見出しを多くしてあるので有効に役立ててほしい。また、教材はただ読むだけでなく自分の文章で読んだ内容を要約する習慣をつけてほしい。

■参考文献

- 『ミクロ経済分析』中山靖夫著（八千代出版）
- 『マクロ経済分析』中山靖夫著（八千代出版）
- 『経済学入門（新版）』千種義人著（同文館）
- ※『経済原論』熊谷尚夫著（岩波書店）

科目コード	科目名	単位数
R30300	価格理論	4 単位

教材コード 000352

教材名 価格理論

著者名等 植木 恒幸

■教材の概要

この教材は、「経済学」や「経済学概論」を学び終わった通信教育部の学生諸君が、家計の行動や企業の行動、さらに市場メカニズムについてより詳しく知りたいと考えた時に学修の手助けになるようデザインされている。この教材のカバーする範囲は「経済学」や「経済学概論」とほぼ同じですが、異なる点は、より詳しく正確に説明するため数式を用いたりして、経済学への入門であった「経済学」や「経済学概論」の一步進んだ内容を解説している。この教材の特徴は、このように入門レベルと初級、中級レベルを結びつけるように、やさしい記述から厳密な記述に従ってステップアップできるように構成されていることです。さらに、そのために随所にワンポイントレッスンや練習問題が準備されており、自然にミクロ経済学の要点を理解することができるように工夫されている。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 125

① 消費者行動の理論

消費活動を担う家計の行動を理解する。家計は効用の最大化を目的に選択活動を行っている。家計の選択活動の背景に、予算制約と選好（無差別曲線）がある。家計の選択行動を理解した後、財価格の変化が家計の選択行動に与える影響を理解し、需要法則の意味を身につける。

② 生産者行動の理論

生産活動を担う企業の行動を理解する。企業は利潤の最大化を目的に選択活動を行っている。企業の選択活動の背景に技術的制約があり、技術的制約に基づいた企業活動を費用の観点でとらえる。企業の選択行動を理解した後、生産物価格の変化が企業の選択行動に与える影響を理解する。

ページ 129 ～ 174

① 完全競争市場の理論と不完全競争市場の理論

完全競争市場の意味と役割を理解すること。最適資源配分の意味を理解すること。独占市場、寡占市場、独占的競争市場の市場形態の特性と、それぞれの市場の完全競争市場との差異を理解すること。資源配分の効率性や社会的厚生の変化に注意すること。

② 市場と政府の役割

市場の失敗、公共財など市場メカニズムでは最適資源配分が達成されないケースを説明する。市場の失敗として、負の外部性の意味と外部性の市場への内部化を考える。また、排除不可能、非競合財である公共財が最適供給されるには特別のメカニズムが必要である。

さらに、政府が行う課税・補助金や規制などによる様々な市場への介入について、市場や経済主体へ与える影響を需要と供給の理論を用いて考える。

■学修上の留意点

経済学は、暗記するものではありません。論理を1つ1つ丁寧に積み重ねて理解してゆくことが肝要です。教材のワンポイントレッスンや練習問題などを行って、理解度をチェックしながら学修することを強く勧めます。また、専門用語や図等を正しく理解することに努めて下さい。実際に、様々な図を描いてみると理解が深まります。

■参考文献

教材の「参考文献」を参照してください。

科目コード	科目名	単位数
R30500	日本経済史	4 単位

教材コード 000416

教材名 『日本経済史 1600-2015 ―歴史に読む現代―』

著者名等 浜野 潔・中村 宗悦

出版社名 慶応義塾大学出版会

■教材の概要

本教材は、近年の日本経済史研究の研究成果をもとに執筆された大学生・一般向けの日本経済史の教材であり、江戸時代から現代までのおよそ 400 年にわたる日本経済の発展の歴史を、経済成長、経済政策、国際関係を中心に概説している。また、本教材の各章の区分は、一般的な歴史の時代区分とは異なっている。これは、近世の経済システムと近代の経済システムとの関係、あるいは、太平洋戦争をまたいだ戦前と戦後の関係を捉えることを目的としている。サブタイトルが示すように、本教材の学修を通じて、現代の経済問題を歴史的な視点を踏まえて考えられるようになることが本科目の目的となる。

■学修計画のポイント

ページ 13 ～ 149

第 1 章～3 章では、江戸幕府の成立から、明治時代末期（第一世界大戦前）までを取り扱う。主要なトピックは、①江戸時代の経済成長、②「鎖国」政策と徳川幕府の対外関係、③幕府の経済政策とその影響、④江戸時代の産業の発展、⑤幕府「開港」の与えた影響、⑥明治時代の経済政策、⑦近代産業の発展と「在来産業」の役割、⑧近代経済成長の開始とその要因、⑨日清・日露戦争と日本の対外関係、⑩日清・日露戦後経営などである。

ページ 151 ～ 303

第 4 章～6 章では、第一世界大戦から 20 世紀の終わり（2000 年ごろ）までを取り扱う。主要なトピックは、①第一世界大戦が日本経済に与えた影響、②第一次世界大戦後の国際経済関係、③1920 年代の日本経済と昭和金融恐慌、④世界恐慌と昭和恐慌、⑤高橋財政と 1930 年代の日本経済、⑥統制経済の進展と戦時期の日本経済、⑦戦後改革と戦前・戦後の「連続・非連続」、⑧高度経済成長のメカニズム、⑨高度経済成長の終焉と構造調整、⑩バブル経済とその崩壊、などである。

■学修上の留意点

「学修計画のポイント」で示したトピックを中心に、本教材の内容を整理し、理解を深めてほしい。教材を読んで、日本の歴史について分からない点が多い場合は、高等学校の日本史 B の教科書や用語集などを活用するとよい。

■参考文献

- 『日本経済の二千年（改訂版）』太田愛之・川口浩・藤井信幸著（勁草書房）
- 『概説日本経済史 近現代（第 2 版）』三和良一著（東京大学出版会）
- 『日本経済史（全 8 巻）』梅村又次他編（岩波書店）
- 『近現代日本経済史要覧』三和良一・原朗編（東京大学出版会）

科目コード	科 目 名	単位数
R30600	西洋経済史	4 単位

教材コード 000163

教 材 名 西洋経済史

著 者 名 等 小林 良彰

■教材の概要

古代から中世、近代をへて現代に至るまでの経済の歴史を学ぶ。そこには理論と事実が含まれているので、その2つを組み合わせ理解し、書かなければならない。事実だけの書きっぱなしでは不十分である。理論だけでもよくない。理論を事実で裏付けていくとよい。古代社会の国家、商工業からはじまり、中世封建社会の領地、農業、商業、工業を理解し、それを土台をしてマニュファクチュア、市民革命、産業革命を学び、経済恐慌など現代経済の諸問題を知るようにつとめる。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 154

1 ～ 82 ページ

原始共同体から古代国家に進む過程を理解し、古代の商工業をまとめておく。中世封建社会の内容としては、封建制度のあり方、領地の中の支配構造に注意し、農業については三圃制度とそれ以外の農業について具体的なことを学ばばよい。

83 ～ 154 ページ

中世の商業、工業の発展過程をまとめ、都市の特色を知る必要がある。マニュファクチュアの意義について事実をもとにした理解をすすめる、他方で商業資本の役割も論じられるようにしておく。商業革命を具体的な事実をもとに説明すること。

ページ 155 ～ 320

155 ～ 228 ページ

絶対主義が出現するための理由をつかみ、つぎに具体的事実、たとえばイギリス、フランスにおける絶対主義の成立を論じられるようにしておく。つぎに市民革命の経済的内容を知り、事実をもとにして説明できるようにしておく必要がある。

229 ～ 320 ページ

イギリス産業革命について、その原因、経過、結果をまとめておく必要がある。つぎに、その他の国の産業革命の特色を知っておくこと。さらに現代経済へのつながりとして、貿易、農業、労働の問題点を知り、経済恐慌と改革について学ぶ。

■学修上の留意点

- ① 古代国家、古代の商工業、封建制度、中世の農業、領地の構造。
- ② 中世の商業、中世の工業、中世の都市、マニュファクチュア、商業資本、商業革命。
- ③ 絶対主義の経済的内容、主要な絶対主義国、市民革命の経済的内容。
- ④ イギリス産業革命、主要諸国の工業化、経済恐慌と経済的改革。

■参考文献

- ※『一般経済史』堀江保蔵著（青林書院新社）
- ※『西洋経済史概論（新版）』増田四郎著（春秋社）
- ※『経済史』渡辺国広著（慶応義塾大学出版会）
- ※『西洋経済史の論争と成果』小林良彰著（三一書房）

科目コード	科目名	単位数
R30800	農業経済論	4 単位

教材コード 000486

教材名 『農業経済学（第4版）』

著者名等 荏開津 典生・鈴木 宣弘 共著

出版社名 岩波書店

■教材の概要

農業経済学は、食料・農業・農村について、経済学を用いて理解しようとするものである。本書の構成は、「経済学と農業的世界」、「経済発展と農業」、「食料の需要と供給」、「農業生産と土地」、「農業の経営組織」、「農産物の市場組織」、「農産物貿易と農業保護政策」、「世界の人口と食料」、「食生活の成熟とフードシステム」、「農業の近代化」、「資源・環境と農業」、「日本の農業と食料」と幅広い内容からなり、農業経済学に関して基礎から包括的に理解することができる。

■学修計画のポイント

（第1章～第6章）

第1章「経済学と農業的世界」では、農業の特質を知り、経済学における農業的世界を理解する。第2章「経済発展と農業」では経済発展に伴う農業という産業の特徴を、第3章「食料の需要と供給」では市場システムにおける食料の特徴をミクロ経済学で理解する。経済用語も多く出てくるので、わからない用語はミクロ経済学の参考文献などを読むと良い。第4章「農業生産と土地」では、生産の理論を用いて農業生産を理解する。第5章「農業の経営組織」では、農業経営の典型的な形態である家族農業について理解する。第6章「農産物の市場組織」では、不安定な農産物市場における対策として農業協同組合と政府の農産物価格政策について理解する。

（第7章～終章）

第7章「農産物貿易と農業保護政策」では、工業製品とは異なる農産物貿易の特徴と食料安全保障としての保護政策を理解する。第8章「世界の人口と食料」では、世界の食料問題を人口、生産、分配の視点から理解する。第9章「食生活の成熟とフードシステム」では、農場と消費者とを結ぶ食品産業にも視点を広げ、食生活を取り巻く状況を理解する。第10章「農業の近代化」では、緑の革命をはじめ慣習的農業の近代化について、その影響を理解する。第11章「資源・環境と農業」では、農業の持続可能性について、現状と課題を理解する。第12章「日本の農業と食料」では、日本の農業・食料の特質を理解し、日本農業の政策の変遷から、現代にいたる経緯を理解する。終章「農業政策と農業経済学」では、農業経済学の役割を理解する。

■学修上の留意点

本教材では、ごく初歩的なミクロ経済学の理論が用いられている。その多くは本文を読み進めていけば理解できる内容であるので、大筋が理解できれば、細かな点でわからない部分があっても読み進めてかまわない。まずは、本書を通読し、農業経済学の全体像を把握することが重要である。そのうえで、理論をなお学修したい場合は、ミクロ経済学の参考文献などを読むと良い。

■参考文献

- 『日本の農業 150 年 — 1850～2000 年』暉峻衆三編集（有斐閣ブックス）
- 『食料経済—フードシステムからみた食料問題』高橋正郎編著（理工学社）
- 『食料・農業・農村白書』農林水産省（各年）

科目コード	科目名	単位数
R30900	工業経済論	4 単位

教材コード 000166

教材名 『新版・現代工業経済論』

著者名等 金田 重喜

出版社名 創風社

■教材の概要

資本主義経済とは何か。資本主義経済の仕組み、その生成と発展が歴史的に展開してきたことを工業の成立と発展を通して原理的に理解すること、これがこの教材から学ぶことです。工業をになう企業が自由に競争しあう原始的な小企業であった時代の学修から工業の発展の基礎理論を学ぶ。工業をになう企業が市場支配力を持つ巨大企業として出現した時代（今日のこと）から独占資本主義時代の資本主義の仕組みとその動きの原理を理論的に（独占理論として）学ぶ。

■学修計画のポイント

ページ 8 ～ 123

まず、今日の工業が到達した状況を学びます（第1章）。その状況は工業が国民経済と国際貿易に占める位置、工業の種類、工業と他の産業の関係、工業が存立する地域、工業が資本主義社会で営まれていることの意味について知ることからわかります。続いて、工業が資本主義という独特の（資本家階級と労働者階級とに分かれてになわれる）社会の発生と共に発展することになったということを産業革命の学修によって理解します（第2章）。そして工業の発展、すなわち労働能力の開発と工業への利用、技術の発達とが、結局は資本の蓄積の目的のために集約されることを学びます（第3章）。

ページ 124 ～ 473

資本の蓄積は利潤の追求という企業の行動の結果生じるものであること。資本の蓄積は工業をになう企業の激しい競争を伴うものであることを学びます（第4章）。この競争のあり方は工業における生産と資本があるところまで集積した時点で別の種類の競争、つまり独占という新しい競争に変化することを学びます。独占はやがて、社会全体にまで影響を及ぼすことになることを学びます。続いて、今日の日本の工業の発展した状況を学び（第5章）、国境を超えて発展途上国の工業の開発にまで影響を与える時点にまで達していることを学びます（第6章）。

■学修上の留意点

教材で学ぶべきことは、大きく2つあること（学修計画のポイント）を忘れないでおくことです。教材には、理論的理解のために数多くの歴史的な事情や細かい事例が掲げられています。しかし、それは理論を理解するための証拠を掲げてあることですから、理解のポイントは、上記の（学修計画のポイント）を忘れない点にあるのだということです。

■参考文献

まず初歩的な古典の本として、①『賃労働と資本／賃金、価格および利潤』マルクス著（新日本出版社）と②『帝国主義論』レーニン著（新日本出版社）がよいでしょう。次に、もっと進んだ工業経済論の学修のためには、教材の各章の末尾に掲げられた参考文献を1つ1つ読むことが良いでしょう。③もちろん、現場を知ることは、基本の基本ですから、新聞記事や企業の現場の見学も大切。

科目コード	科 目 名	単位数
R31000	日本経済論	4 単位

教材コード 000499

教 材 名 『日本経済読本 第20版』

著 者 名 等 金森 久雄・大守 隆

出 版 社 名 東洋経済新報社

■教材の概要

教材の内容（章）構成は、「課題先進国になった日本」（第1章）, 「日本経済の歩み」（第2章）, 「日本の経済政策」（第3章）, 「財政赤字の拡大と再建への取組み」（第4章）, 「地方経済の課題と地域主導の活性化」（第5章）, 「デフレ下の金融政策」（第6章）, 「企業行動と競争力」（第7章）, 「雇用環境の変化と課題」（第8章）, 「国民生活の現状と格差問題」（第9章）, 「少子高齢化時代の社会保障」（第10章）, 「国際収支と円レート」（第11章）, 「資源エネルギー戦略の再構築」（第12章）, 「環境問題への取組み」（第13章）, 「世界経済の変化と日本」（第14章）, 「日本経済の再生に向けて」（第15章）と幅広い分野にわたり、それぞれ理論、歴史、現状、政策を含めた形でまとめられている。章のタイトルは第18版（旧版）に比べて具体化され、内容も一部改訂、あるいはほぼ全面的に改訂されている。

■学修計画のポイント

教材の章構成は上記の通りであるが、学修にあたっては、まず第2章「日本経済の歩み」と第3章「日本の経済政策」を精読して日本経済の歩みについての理解を深めてほしい。その上で、第1章と第4章以下の専門的・個別的問題、事項へと学修を進めてほしい。

■学修上の留意点

各章とも、それぞれ理論、歴史、現状、政策を含めてまとめているが、他章との関連がある記述もあるので留意する必要がある。また、第1章と第4章以下の専門的・個別的問題、事項については、自分の興味・関心のあるところから学修を進めてもかまわない。その場合、専門的・個別的問題、事項だけの理解にとどまるのではなく、常に日本経済全体との関連を視野に入れて理解することが大切である。さらに、基礎的な用語の簡単な説明も本文の上に付記されているのでそれも読んで確認してほしい。

■参考文献

『入門・日本経済（第4版）』浅子和美・篠原総一編（有斐閣）

『最新日本経済入門（第4版）』小峰隆夫・村田啓子著（日本評論社）

科目コード	科目名	単位数
R31100	国際経済論	4 単位

教材コード 000281

教材名 国際経済論

著者名等 加藤 義喜・南 雅一郎・陸 亦群

■教材の概要

国際経済論は現代では非常に幅広い分野を対象とするが、本テキストは次の4つの章で構成し、バランスのとれた内容とすることとした。つまり世界経済の歴史や現状を扱った第1章、国際貿易の基本理論として重要な比較優位の理論とその主要な展開をまとめ、続いて保護貿易論や貿易政策について説明した第2章、貿易を含むすべての国際取引を対象とする国際収支の概容とその国民経済との関係、および外国為替の分析を扱った第3章、そして国際通貨制度を扱った第4章である。

■学修計画のポイント

ページ1～171

第1章では現代の世界経済は第一次大戦から第二次大戦にかけての混乱・失敗などの様々な過去の経験の上にあるという観点からまとめている。その歴史的発展過程を歴史観も含めて把握することが現代世界経済を理解する上で大事である。

第2章では何よりも比較優位（比較生産費）の理論を中心とした国際経済論の中核部分をしっかりと頭に入れておく必要がある。次に国際経済の発展は自由貿易と保護貿易論の葛藤の歴史でもある。貿易政策は保護貿易論と絡み合って発展してきており、保護効果の分析とともに理解することを期待したい。

ページ173～291

第3章は一国の対外経済関係を全体的に捉えようとする際の考え方の基礎となる国際収支と外国為替相場について扱っている。大事なことは1) 国際収支の内容とその推移をどう理解するか、2) 経済政策の効果が為替相場制度の選択や資本移動の自由度によってどのように変化するか、3) 為替相場変化の経済に与える影響、という3点をきちんと理解して欲しい。

第4章では金本位制からブレトン・ウッズ体制を経て現代に至る国際通貨制度の歴史的変遷について学修した上で、現代の為替相場制と国際金融システムの特徴と問題点を位置づけることを期待する。

■学修上の留意点

一部に数式やグラフによる説明があるが、これらの理解を含めて経済学の基礎勉強ができていることが望ましい。数式なども機械的な理解でなく経済的な意味を考えて理解して欲しい。

■参考文献

テキストの参考文献を参照されたい。

科目コード	科目名	単位数
R31400	経済開発論	4単位

教材コード 000350

教材名 経済開発論

著者名等 加藤 義喜・辻 忠博・陸 亦群

■教材の概要

本教材は、歴史、理論、政策の3つの側面から体系的に経済開発論について学ぶことが出来るように構成されている。歴史的側面を扱っている第1章および第2章では、開発問題の起源をたどり、世界経済との関わりの中で途上国の開発問題がいかに取り扱われてきたかについて論じ、理論的側面を扱っている第3章から第5章は、経済発展のメカニズムについて説明すると同時に、その学説史についても触れている。第6章から第11章は政策的側面を取り扱い、途上国が抱える諸問題の解決のためにこれまで模索されてきた政策と今後の課題について論じている。

■学修計画のポイント

ページ1～135

第1章から第5章は経済開発論の歴史と理論的側面について学修する部分である。第1章では経済開発の歴史的展開について学修し、第2章では経済格差の生じた原因を風土論的に把握し理解を深めていく。第3章では、開発途上国経済の不平等と貧困問題を把握するための理論およびその方法について学修する。第4章では、経済開発のメカニズムに関する理論の部分を産業構造変化、人的資源、伝統農業の変貌そして工業化の4つのカテゴリーに分けてこれらの問題と経済開発との関わりについて学修する。第5章の理論へのアプローチでは、まず時系列的に戦後の主要な開発理論の系譜を把握し、そのなかの最も代表的な二重経済的發展と都市・農村間労働移動の理論について学修し、さらに貿易モデルを使った国際貿易と経済開発の分析手法についても理解を深めていく。

ページ137～240

第6章から第11章は経済開発論の政策的側面について学修する部分である。そのうちの第6章から第8章では、途上国経済の諸相を国内経済現象に注目して考察し、国内経済の各部門（例えば、農村・農業、都市・工業の各部門）は相互依存的な関係にあり、そのことが国内における様々な開発問題の解決のカギを握っていることを学修する。第9章から第11章では、途上国経済の対外的側面に注目し、国際貿易、世界的な資金の移動、開発援助のそれぞれについて理解すると共に、途上国経済に大きな影響を及ぼしてきたこれらの要素もまた互いに密接に関連してきたことについて学修する。

■学修上の留意点

理論的側面を読み進めるためには、経済学および国際経済論の基礎理論についてある程度理解しているのが良いであろう。歴史および政策の部分は、本文と図表を注意深く照らし合わせながら教材を読み進めるのはもちろんのこと、当時の世界経済の状況や国際政治の動向についても念頭においてもらいたい。

■参考文献

- ※『トダロとスミスの開発経済学』マイケル・P・トダロ、ステファン・C・スミス著（国際協力出版会）
- 『開発経済学入門（第2版）』渡辺利夫著（東洋経済新報社）
- 『テキストブック開発経済学（新版）』朽木昭文・野上裕生・山形辰史著（有斐閣）
- ※『開発の政治経済学』絵所秀紀著（日本評論社）
- 『アジア経済読本（第4版）』渡辺利夫著（東洋経済新報社）

科目コード	科 目 名	単位数
R31600	地方財政論	4 単位

教材コード 000525

教 材 名 『Basic 地方財政論』 (学修指導書別冊)

著 者 名 等 重森 暁・植田 和弘 編

出 版 社 名 有斐閣

■教材の概要

私たちの暮らしに身近な地方自治体（都道府県や市町村など）の財政について取り上げる。地方自治体の財政について、国家財政との関係からその特質を把握するとともに、自治体の経費、収入、予算制度と運営実態について学ぶ。

■学修計画のポイント

1～42 ページ

第1章では、国と地方の関係から、日本の地方自治の特質を把握し、地方財政の機能と役割について学ぶ。第2章では、明治期以降の日本の地方自治と地方財政の歩みについて学ぶ。

43～164 ページ

第3章～第8章では、地方自治体の財政について、経費（歳出）面から考察する。地方経費の特質について把握するとともに、自治体の歳出が地域経済に与える効果について考える。また、まちづくり、環境・エネルギー、災害、少子高齢化という視点から、自治体の役割を学び、それに要する経費について学ぶ。

165～240 ページ

第9章～第12章では、地方自治体の財政について、収入（歳入）面から考察する。歳入構造について把握するとともに、より具体的に、地方税、地方交付税・国庫支出金、地方債を取り上げ、その制度と特徴について学ぶ。

241～294 ページ

地方自治体が住民にサービスを提供する際に、地方公営企業、地方公社、第三セクターなどの組織により運営されるものがあるが、第13章では、その制度や沿革、特質について学ぶ。また第14章では、自治体が財政運営を行うにあたり、それを決定・執行・監査する予算制度について考える。

■学修上の留意点

テキストの内容を踏まえて、自分に身近な自治体の歳入・歳出の構成とその特徴について調べてみよう。そして、国の制度改革や財政運営が、自治体の財政にどのような影響をもたらしているのかを考えてみよう。

■参考文献

総務省（各年度）『地方財政白書』では、毎年、地方財政の状況を知ることができる。

また総務省ウェブサイト、全国都道府県・市町村の「決算カード」をダウンロードできるページがある。
(URL <http://www.soumu.go.jp/iken/zaisei/card.html>)

科目コード	科目名	単位数
R31700	租税論	4 単位

教材コード 000467
 教材名 『新版 租税論』
 著者名等 高木 勝一
 出版社名 八千代出版

■教材の概要

本教材は大別すると次の3つの部分に分けられる。(1)は租税の総論の部分。第1章租税の基礎理論と租税体系。(2)は租税の各論の部分。第2章所得税, 第3章法人税, 第6章住民税, 第7章事業税, 第9章消費課税, 第10章資産課税の分類と地価税・富裕税, 第11章相続税・贈与税, 第12章固定資産税。(3)は税に関する付随的記述の部分。第4章フリンジ・ベネフィット, 第5章キャピタル・ゲインとロスおよび納税者番号制度, 第8章国際課税制度, 第13章シャープ勧告。

■学修計画のポイント

まず(1)総論の部分である第1章を理解すること。第1章では租税の理念を明確にし, 租税に関する用語, 租税の分類, 課税の根拠, 租税原則と課税の公平性, 租税の転嫁, 租税の中立性と超過負担, 我が国の租税体系と徴税機構を把握する。

次に,(2)の各論の部分では, 種々な税の重要性と歴史, 仕組み, 長所・短所, 問題点とその是正策, また種々な税が説明されている本文の中には, 財源調達手段, 所得・資産の再分配, 経済安定化, 最も身近な政治参加の手段などの税の機能が記述されている。各論に記述されている税目は次のとおりである。第2章で「所得税」, 第3章で「法人税」, 第6章で「住民税」, 第7章で「事業税」, 第9章で「消費課税」, 第10章で「資産課税の分類と地価税・富裕税」, 第11章で「相続税・贈与税」, 第12章で「固定資産税」が詳細に説明されている。

最後に(3)の範疇の第4章「フリンジ・ベネフィット」と第5章「キャピタル・ゲインとロスおよび納税者番号制度」は, 主に所得税と法人税に関係があり, 付随的説明である。第8章「国際課税制度」はグローバル化した世界経済と膨張しつつある世界各国の財政赤字の現在において, 諸外国との間の税金摩擦がますます大きくなりつつある。第13章「シャープ勧告」は世界的にも有名な終戦直後の税制改革についてのレポートであり, 戦後の日本の税制の基盤となった。

■学修上の留意点

①租税の定義と目的, ②課税の根拠, ③租税原則, ④負担の公平, ⑤租税の転嫁, ⑥租税の分類, ⑦種々な租税の特徴, ⑧シャープ勧告, ⑨キャピタル・ゲインとロス, ⑩フリンジ・ベネフィット

■参考文献

『図説 日本の税制』毎年発行(財経詳報社)
 『租税論の展開と日本の税制』宮島洋(日本評論社)
 『現代の租税』根岸欣司(白桃書房)
 『要説:日本の財政・税制』井堀利宏(税務経理協会)
 『税制スケッチ帳』石弘光(時事通信社)
 『21世紀を支える税制の論理—租税構造, 所得税, 企業課税, 国際課税, 資産課税, 消費課税, 地方税の各税の理論と課題 全7巻』木下和夫・金子宏監修(税務経理協会)

科目コード	科目名	単位数
R31800	金融論	4 単位

教材コード 000540

教材名 金融論

著者名等 谷川 孝美

■教材の概要

金融とは、資金を必要としている経済主体（個人、企業、政府など）がその資金を調達することであり、資金に余裕がある経済主体がその資金を運用することである。教材は、この金融に関連する基本的な事柄や理論について平易な解説を試みたものである。その構成は、貨幣、資金の調達運用に関連する金利、金融取引において問題となる情報の非対称性、基本的な金融理論、中央銀行である日本銀行を中心とした日本の金融制度および日本の金融市場や金融機関からなっている。

■学修計画のポイント

第1章から第4章では、貨幣、金利の種類やその決定、情報の非対称性問題といった金融論における基礎的概念や用語、マクロ経済と金融政策に関する基礎理論について述べている。これらは、金融を学修する上での基礎となるだけでなく、現在おきている金融におけるさまざまな問題を考える上での基礎でもある。そのため、よく確認し理解することが大切である。

第5章から第10章では、中央銀行である日本銀行を中心とした金融制度について述べており、金融市場、各種金融機関、また日本の金融制度における変遷の概要を説明している。わが国の金融市場や金融市場で活躍する金融機関の役割や特徴などについて、その制度的変遷と共に確認をすると良いであろう。また、中央銀行が果たしている機能、役割への理解を通じて、近年の非伝統的金融政策など、現在の金融問題を考える基礎を培って欲しい。

■学修上の留意点

金融理論の基礎をより良く理解するためには、経済学とくにマクロ経済学の基礎が重要となる。不安がある場合には、それらについて自ら確認することが大切である。

また、金融制度やデータなどは変化しているので、学修の際には、参考文献等で最新のものを確認すると良いであろう。

■参考文献

『ベーシック+（プラス）金融論』家森信善（中央経済社）

『日本の金融制度』鹿野嘉昭（東洋経済新報社）

『日本銀行の機能と業務』日本銀行金融研究所編（有斐閣）

（日本銀行ホームページ <http://www.imes.boj.or.jp/japanese/pf.html> に同じものがあります）

科目コード	科 目 名	単位数
R31900	貨幣経済論	4 単位

教材コード 000440

教 材 名 貨幣経済論

著 者 名 等 藤本 訓利・関谷 喜三郎

■教材の概要

貨幣経済論は、貨幣が経済活動の中で果たす役割を考察する。そのために、まず貨幣とは何かを定義した上で、貨幣はどのようにして供給されるのかを明確にする。次に、ケインズ理論にしたがって国民所得決定のマクロ・モデルを展開し、それをもとにして貨幣経済論の主要なテーマである貨幣と経済活動との関係を分析していく。ここでは、マクロ・モデルを用いて、貨幣量の変化が所得、雇用、物価に与える影響を分析する。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 88

分冊 1 では、まず貨幣はどのようにして発生したのか、その本質的な機能とは何かを理解する。次に、現代における貨幣の範囲を確認し、そうした貨幣がどのようにして供給されるのかを、マネーサプライの決定式を通じて的確に把握する。それによって、金融政策によるマネーサプライのコントロールを理解することができる。さらに、ケインズの流動性選好理論にもとづいて、貨幣需要を決定する要因を整理し、貨幣供給と貨幣需要から利子率がどのように決定されるかを理解しておく。

ページ 89 ～ 182

分冊 2 では、まず貨幣が経済に与える影響について、古典派理論とケインズ理論の違いを認識する。次に、国民所得決定モデルにしたがって、貨幣量の変化が国民所得に及ぼす効果を正確に理解する。さらに、国民所得を決定する財市場と利子率を決定する貨幣市場との相互作用を分析する IS - LM 分析の内容を把握し、それをベースにして総需要・総供給分析によって、国民所得と物価の関係を理解しておく。これによって、インフレ・デフレについて説明することができる。また、ケインズ経済学を批判するマネタリズムの経済理論についても理解しておく。

■学修上の留意点

貨幣経済の問題を理解する場合には、現代の貨幣についての認識が必要となる。また、マクロ経済および金融政策との関連が重要になるので、マクロ経済学についての知識と理解も必要である。

■参考文献

特になし。

科目コード	科 目 名	単位数
R32000	経済統計学	4 単位

教材コード 000174

教 材 名 経済統計学

著 者 名 等 阿部 喜三

■教材の概要

経済統計学とは経済現象全般の統計的実証的分析および研究のための学問である。戦後のわが国経済は昭和35年の国民所得倍増計画以後、驚異的な高度成長をとげ、1人当たり国民所得は世界のトップクラスとなった。しかし、オイル・ショック以後の資源・エネルギー・環境の制約下で、現在のわが国経済は高齢化・国際化・情報化等の大きな変動期を迎えている。このため従来からの古典的経済理論や分析法では十分な対応ができにくく、統計学と経済学の総合化を目指した。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 200

1 ～ 90 ページ

- ① 消費者物価指数の作り方（ラスパイレス方式）と見方・使い方。
- ② 経済時系列分析の構成要素（傾向変動・季節変動等）の計測。
- ③ 物価統計や消費統計による国民生活の動向と生活水準分析。
- ④ 労働・賃金・生産性、週休2日制と定年制度等の動向分析。

91 ～ 200 ページ

- ① 国民総生産と国民所得の計算、金融取引表、国民貸借対照表。
- ② 日本経済の構造変化の分析。
- ③ 鉱工業生産と農林水産業の動向分析。
- ④ 資源・環境の制約下の産業構造の転換。

ページ 210 ～ 398

210 ～ 306 ページ

- ① 景気変動の分析と景気の予測。
- ② 需要予測の方法と経営計画。
- ③ 貿易と国際収支の動向分析。
- ④ 財政・金融・証券統計と今後の動向。

307 ～ 398 ページ

- ① 経済関数と確立変数の分布。
- ② 標本調査と全数調査との優劣点の比較。
- ③ 品質管理と在庫管理の手法。
- ④ 最適計画法の目標。

■学修上の留意点

- ① 経済時系列分析の手法：（例）最少自乗法、ロジスティック曲線、季節変動の調整など。
- ② 経済成長率（名目と実質値）の計算。
- ③ 景気観測の諸方法。
- ④ 標本調査と全数調査の比較検討。

■参考文献

統計学の基礎（入門書）：数多くの経済・経営を学ぶための統計学入門書が市販されている。
 経済学・経営学入門：マクロ・ミクロの経済学の入門書が数多く市販されている。

科目コード	科目名	単位数
R32200	労働経済論	4 単位

教材コード 000500

教材名 『よくわかる社会政策 雇用と社会保障 第2版』

著者名等 石畑 良太郎・牧野 富夫

出版社名 ミネルヴァ書房

■教材の概要

本書は、タイトルに「社会政策」という用語が使われているが、労働経済論を包含した広い概念で使われており、序論などの一部を除き、労働経済論のテキストとしても使えるようになっている。

とりわけ「Ⅰ. 賃金」～「Ⅲ. 雇用・失業」は、労働経済論の基礎的な研究領域であり、「Ⅴ. 高齢社会」と「Ⅶ. 男女平等」は、労働経済論の応用分野をなしている。そして、それぞれの章において、資本主義経済がもたらす構造的な問題が平易に解き明かされ、最新のデータと経済分析に基づく労働市場の実態が示される。

したがって、この科目の教材として使用する場合、本書をⅠ～Ⅲの賃金、労働時間、雇用の研究領域からなる前半部分と、ⅤとⅦの高齢社会と男女平等の後半部分とに大別し、それぞれの章のテーマがどのように分析され、論じられているかを学修してほしい。

■学修計画のポイント

本書は、概要にも示したように一部の章を抜き出す形で、労働経済論の重要な問題領域を学修するために選定されたものである。とはいえ、本書の全体は、それぞれ関連し、影響し合っていることを常に意識して読み進むことが肝要である。指定した各章のポイントとして、各章のテーマに関する仕組みや実態を理解しつつ、どのような問題・課題が発生し、解決が待たれているかを論理的に認識することが重要である。

以上を念頭に置いて、可能な限りの時間をかけて、各章各節に何が書いてあるかをメモしながら、読んでみることを勧める。ただし、本書だけでは、労働経済論の体系的な学修は困難である。本書を使用する狙いは、労働経済論の各論である最新のテーマや問題点に触れ、労働経済論に興味を持ってもらう点にある。したがって、労働経済論に興味を持ち、労働経済論の体系的または総論的な学修に意欲を持った諸君は、参考書などにも目を通してもらいたい。

とはいえ、単位修得に限って言えば、指定した各章を中心に一通り読んだ後は、報告課題に該当する章を中心に、レポートをどのようにまとめるかを考えながら、それぞれのテーマに沿ってキーワードを関連づけながら、課題テーマの重要性、背景となる制度と歴史、現状とその問題点を順序立てて述べるができるようにしておくこと。また、最新の変化も参考資料・統計などを使ってフォローしておくべきである。

■学修上の留意点

本書は、労働経済論の各論について論述しているだけなので、本書だけで労働経済論の全体像を理解できるものではないことは、上述した通りである。提示された参考文献はもちろん、他の関連書籍や雑誌論文、最新の統計などにも目を向けて、与えられた課題に対して自分が納得できる説明ができるまで、文章や資料を集め、最終的にそれらをまとめるようにすることが望ましい。

■参考文献

- ※『隅谷三喜男著作集 第3巻—労働経済論—』（岩波書店）
- 『労働経済』清家篤著（東洋経済新報社）
- 『日本の雇用と労働法』濱口桂一郎著（日経文庫）
- 『終身雇用と年功賃金の転換』小越洋之助著（ミネルヴァ書房）
- 『労働経済白書』厚生労働省（Web 各年版）

科目コード	科目名	単位数
R32300	情報概論	4 単位

教材コード 000453

教材名 情報概論

著者名等 寺沢 幹雄

■教材の概要

本教材では、コンピュータを専門としない学生でも理解できるように、IT化を支えるコンピュータとネットワークの基本を解説している。情報化についての一般的な基礎知識を始めとして、簡単なコンピュータの利用法、情報関連ビジネスの現状・トレンドなどについても述べている。ITパスポート試験や基本技術者試験などの練習問題も取り入れているので、情報関連の資格試験の概略的知識も得ることができる。

■学修計画のポイント

1 章～12 章

インターネットのビジネスにおける利用法、インターネットを支える技術の基礎、問題点と対策について述べる。日常生活で意識せずに利用している IT 機器についての正しい知識を得ると共に、ビジネスにおける重要性を学修する。2 章から 4 章については、実際にパソコンを操作して練習すると効果的である。

13 章～24 章

コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの動作原理の把握を目的としている。コンピュータの内部構造、動作の仕組み、基礎理論について学修する。細かい数字にとらわれるのではなく、大きな流れを論理的にとらえるように心がけるとよい。

■学修上の留意点

IT 技術の進歩は速いので、新聞、雑誌などで常に最新の情報を得ることが大切。技術の進歩は相互に関係しあっているため、細部にとらわれるのではなく、全体の中での位置づけを意識すること。

■参考文献

- IT パスポート試験教科書（出版社不問）
- 基本情報技術者試験教科書（出版社不問）

科目コード	科目名	単位数
R32600	経済地理学	4単位
S32200	経済地理	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード 000233

教材名 経済地理／経済地理学

著者名等 佐藤 俊雄

■教材の概要

経済地理学は、生活者、消費者、流通業者、および生産者らが時代や社会の変化のなかで、いかに地域的・空間的に行動し、またこうした変化に対応しているか、さらに、かれらがこうした変化に対して、どのように相互に作用し、適応し、また、計画的に、創造的に行動し、活動しているかを、経済活動および経済空間を通じて分析し、評価し、体系化することである。

本教材は、このことを、生活空間、流通空間、生産企業空間、および地域・空間構造の分野に分けて論説している。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 160

まず、経済地理学の主要な対象である経済活動とこれが展開される経済空間を把握し、経済空間の普遍性と固有性の存在を認識する。

つぎに、成熟社会における生活者の生活行動および生活空間の多様性、とくに前者の生活行動には、主として五つの行動パターンがあることを理解する。

さらに、サービス化・情報化社会における小売企業および卸売企業の活動範囲としての流通空間を捉え、その空間的变化を経営組織、経営技術、および経営地域環境の側面から捉え、そこに普遍性と固有性のあつてを認識する。

ページ 161 ～ 292

まず、ソフト化・ハイテク化社会における生産企業の経済活動を展開する範囲としての生産企業空間を把握するために、とくにハイテク企業の立地、立地適応、および立地戦略を学修する。

つぎに、もう一つの生産空間である農林生産空間が地方の時代、地域の時代、およびグローバルの時代において、こうした時代に適応するために固有化し、あるいは普遍化していることを認識する。

最後に、生活空間、流通空間、および生産企業空間が情報ネットワーク化され、経済的空間構造が究極的には多極連結情報ネットワーク型になることを理解する。

■学修上の留意点

- ① 「経済空間の普遍性と固有性」の存在をつねに念頭において、理論的把握から実践的把握へ、全体把握から部分把握へと学修を進めるとよい。
- ② 教材はできるだけ第1章からじっくり読みはじめ、読み返しながらか前進するとよい。
- ③ キーワードに注目し、教材末尾の索引を利用して、その意味をしっかりと理解し、類義語と混同しないこと。
- ④ 文中の引用文献や各章末尾の参考文献について、できるだけ原典にあたり併読するとよい。

■参考文献

※『ショッピング・センター』J. A. ドーソン著 佐藤俊雄訳（白桃書房）

※『マーケティング地理学』佐藤俊雄著（同文館出版）

『マネジメント—基本と原則—【エッセンシャル版】』P.F. ドラッカー著 上田惇生編訳（ダイヤモンド社）

※『地方からの変革』平松守彦著（角川書店）

科目コード	科目名	単位数
R32800	外国史概説	4単位
S33300	外国史	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード 000148

教材名 外国史／外国史概説

著者名等 長沼 宗昭・中村 英勝・林 義勝・松浦 義弘・岸田 達也・小島 淑男

■教材の概要

歴史の理解のためには、まず何よりも基本的事実や概念を正しく把握しなければならない。本教材の西洋の部分では、市民社会の成立以降のヨーロッパを中心とした歴史が扱われている。ここで扱われた時代は、ヨーロッパが内部に矛盾をはらみながら、その支配を世界のすみずみに拡大していった時代であり、また、アジア諸地域ではヨーロッパの侵略がすすみ、その一方で民族の解放がすすむ時代でもあった。それは現代社会の諸問題が形づくられた時代でもある。本教材で取り扱われた事項と現代との関連に常に注意を払いながら、歴史的思考を養わなければならない。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 160

ブルジョア革命がそれまでの社会をどのように変革したか、また工業化との進展がヨーロッパ社会の中にどのような問題をもたらしことになったか、などに注意しながら、諸事象の関連を考える。

ヨーロッパの世界支配が、何を背景に、どのように進化したか、それがヨーロッパ内部や被支配地域で何を生み出したか、などに注意を払い、複雑な国際関係の展開を理解する。

ページ 161 ～ 284

アジア諸地域は、17 世紀以降、ヨーロッパ諸国の侵略により、オスマン帝国はその勢力下におかれ、インド・東南アジアは植民地とされ、さらに中国は半植民地となった。ヨーロッパ諸国の勢力下、植民地、半植民地となったアジア諸地域において、抵抗運動、民族の独立や主権を回復させる運動が展開された。中国では義和団運動後、結ばれた辛丑和約によって半植民地化が決定的となった。こうした中国には立憲運動と革命運動という 2 つの潮流があったが、孫文等の革命運動が勢力を得、辛亥革命により清朝を倒して中華民国を成立させた。

■学修上の留意点

上記「学修計画のポイント」に同じ。

■参考文献

【西洋】各章末に付されている参考文献。

【東洋】巻末に付されている参考文献のほかに、以下のものがあります。

『現代中国の歴史』久保 亨等編（東京大学出版会）

『シリーズ中国近現代史 近代国家への模索』川島 真（岩波新書）

科目コード	科目名	単位数
S20100	商学総論	4 単位

教材コード 000356

教材名 商学総論

著者名等 佐藤 稔

■教材の概要

商学に関する諸問題は経済システムを生産、流通、消費の三段階に明確に分立し、商品の社会的移転現象としての流通、有機的連環に関するものとして成立するものである。

本書は、現代の複雑な市場経済組織の成立に重要不可欠な経済事情である商業を主として社会的立場から考究し、従前商業を他産業と比較して劣位においた蔑視感を払拭して研究上重要な地位を占めるに至った社会的意義、流通経済での打開すべき方向、商品流通のあり方について理解する。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 187

この単位では、過去および現代の商業学説を通覧して商業の概念規定のあり方、欧米ならびに我国の商学の発達を通して現代における商学の性格など基本的問題について理解する。さらに、市場経済の発生・成立によって招来した生産消費の経済的隔離の再統一機能として理解される流通の機能について、諸学者の流通機能分析の展開に史的に概観し現代における流通機能の意義と機能分類について理解する。

ページ 191 ～ 544

この単位では現代の経済社会における商品流通が生産者と消費者との間に様々な流通機関を介在させ、相互間に固定的・常駐的關係を持ち、生産・消費の統一が遂行されている仕組みを理解し、流通機構の社会経済的存在意義を理解する。さらに、生産消費の社会的分離の発生とその増大により必然的に随伴する諸隔離を統一する助成的機能すなわち金融、輸送、保管、保険などの役割を理解し、人格的統一機能の遂行に随伴する諸機能、諸機関の重要性について理解する。

■学修上の留意点

商学の具体的・専門的諸問題については各々の専門科目で学びますが、総論は専門科目への入口に相当します。商学の全体像を把握することに努めてください。

■参考文献

本書内の注及び参考文献などを利用してください。

科目コード	科目名	単位数
S20200	経営学	4 単位

教材コード 000497

教材名 経営学

著者名等 松本 芳男

■教材の概要

本書は、企業を経営したり、企業行動を理解するために不可欠な基礎的知識を提供することを意図して、企業経営に関わる諸原理・職能・問題をできる限り包括的に取り上げ考察している点に特徴がある。本書の学修を通じて、企業経営の個別的・断片的知識ではなく、企業の本質や指導原理・経営メカニズム、企業行動の問題点や改善策についてバランスのとれた洞察力を身につけることが肝要である。

■学修計画のポイント

第1部（1章～10章）

- ① 経営学の研究対象・学問的性格・歴史、企業・会社の本質と種類、企業集団や系列の意味・動向、企業における所有・支配・経営の関係、コーポレート・ガバナンスのあり方などについて学ぶ。
- ② 企業経営の目的・目標、経営戦略の意義・体系・論理、意思決定のメカニズム・タイプ、経営組織の諸形態と特徴、企業経営の主要職能とマネジメント機能などについて学ぶ。

第2部（11章～20章）

- ③ 企業経営の各主要職能について、マーケティングの基本的機能や情報技術との関わり、テイラリズム→フォーディズム→トヨタイズム→ポルビズムという生産システムの進化、雇用流動化と就業形態の多様化、動機づけとリーダーシップの理論、資本の調達・運用と財務分析などについて学ぶ。
- ④ 現代企業が直面する重要な経営課題・トピックスとして、日本型経営システムの特徴とその変容、中小企業やベンチャー企業の経営、企業経営のグローバリゼーションと異文化経営、労働者の経営参加、企業の社会的責任と企業倫理、企業評価モデルなどを学修する。

■学修上の留意点

企業は生きており時々刻々変化している。本書の学修を通じて企業経営に関する基礎的知識を習得するだけでなく、新聞や雑誌・参考文献などを通じて絶えず変化している企業社会の実態を知り、その意味を深く考察することが重要である。

■参考文献

- ※『ゼミナール現代企業入門』日本経済新聞社編（日本経済新聞社）
- ※『ビジネス・経営学辞典（新版）』二神恭一編著（中央経済社）

科目コード	科目名	単位数
S20300	簿記論Ⅰ	4 単位

教材コード 000454

教材名 簿記論Ⅰ

著者名等 村井 秀樹

■教材の概要

テキストは、12章から構成されています。第1編は、簿記の基礎理論を中心としてまとめられています。章のタイトルを見ますと、第1章 簿記の概要、第2章 複式簿記の構造、第3章 複式簿記一巡の手続き、第4章 商品です。第2編では、具体的な簿記上の会計処理についてであり、第5章 現金・預金、第6章 売掛金と買掛金、第7章 有価証券、第8章 受取手形・支払手形、第9章 固定資産、第10章 伝票、第11章 決算、第12章 財務諸表の作成です。各章のはじめに、「学修のねらい」を付けており、また本文中での重要用語は太字にしています。

■学修計画のポイント

まず第1編のポイントは、簿記理論の概要をしっかりと把握するということです。取引を借方・貸方に仕訳し、精算表を作成するという技術的なことも大切ですが、その根拠となった考え方を学ぶことがより重要です。したがって、簿記の種類、複式簿記の特徴、簿記上の取引、複式簿記の構造、決算の意味・内容等を十分理解することが大事です。

第2編でのポイントは、第1編の簿記理論の概要を踏まえた上で、具体的かつより複雑な取引についてその簿記上の処理方法を学修することです。ここでは、実際に数多くの仕訳問題を解く必要があります。具体的な取引としては、現金取引、当座 預金取引、未収金等のその他の債権・債務取引、有価証券取引、手形取引、固定資産取引、伝票制度等です。これらに関わる仕訳を正確に理解した上で、決算整理の必要性を認識し、精算表の作成へと進みます。

■学修上の留意点

簿記の習得には、問題を数多く解く必要があります。本テキストは、練習問題を適宜設けており、受講生がテキストに直接書き込めるようにしております。しかし、本テキストの練習問題だけでは、十分な力がつきません。必ず、市販の練習問題集を購入して、より多くの問題を解いていただきたいと思います。

■参考文献

さらに簿記を学び、日商簿記検定試験3級、2級、1級、税理士、公認会計士等の資格試験にチャレンジされたい方は、比較的大きな書店の簿記のコーナーを見てください。実際に手に取り、最も自分のレベルに合ったテキストを選んで頂き、学修して下さい。

科目コード	科目名	単位数
S30200	商法	4 単位

教材コード 000451

教材名 商法

著者名等 根田 正樹

■教材の概要

本書は、商法（会社法を含む）の全体を一冊に集約し、できるだけ図表や資料などを用いるなどして商法・会社法の全体像についてわかりやすく著わしたものである。もとより4単位という制約があるところから、細部にわたる議論はできないが、この1冊を用いた自学自習で商法のあらましを理解できるものといえる。

■学修計画のポイント

① 第一編

商法総論では、商法の体系や理念について記述する。商法全体の構成やその特徴を素描するもので、理解しておくことが大事である。商法総則では、個人企業（会社でない商人）についての組織規制を記述する。商業登記や商号、商業使用人などは会社とも共通した制度であり、その学修の重要度は高い。

② 第二編

第二編では、企業取引の法規制について解説する。具体的には、企業取引について締結から支払・決済（手形を含む）に至るプロセス、および企業取引の諸類型についてもその法規制を説明する。企業取引の多様化がすすんでいる現代では、その重要度は大変高い。

③ 第三編

第三編では、会社などの企業組織法の総論的解説、株式会社の設立・株式・新株予約権・会社の経営機構などについて解説する。コーポレートガバナンス、コンプライアンスなど「日本的経営」の常識が通用しなくなっている部分が少なくないところであり、タイムリーかつ必須の内容となっている。また、「代表訴訟」や「株主の権利行使に関する利益供与の罪」などは新聞紙上を賑わすことも多い。株式会社の計算、社債、組織変更などについて解説する。

■学修上の留意点

法律は制度であり、どのような制度であっても、設けられるについては必ず理由がある。いわゆる立法趣旨と呼ばれたり、制度趣旨といわれるものである。その視点から、本書の解説を読むと、商法・会社法がより理解しやすいといえる。当然のことであるが、他の法学関係科目と同様に、直接条文にあたりながら本書を読んでいただきたい。

■参考文献

新聞の経済欄等には毎日のように商法・会社法などに関する記事がのっている。これらの事例とともに勉強すると、商法・会社法はより身近なものになる。また、より深く勉強したい人は市販の判例解説・コンメンタール・解説書などを併用するとよい。

なお、インターネットのWikipediaやYahooの百科事典などの利用も有益といえる。

科目コード	科目名	単位数
S30300	商品学	4 単位

教材コード 000401

教材名 『現代商品論 第2版』

著者名等 見目 洋子・神原 理

出版社名 白桃書房

■教材の概要

今日の経済活動は商品中心に営まれている。その商品を研究する商品学は万人にとって必須の科学といえる。本教材は現代の市場活動の変化に着目し、そこにおける市場活動や商品の課題、また消費の問題を社会的課題と認識して、新たな商品研究のあり方を論じている「商品は生きもの」といわれる。商品は時代と共に質、量、種類に於いて日々更新されるため、これを新聞、雑誌などで補完して頂きたい。

■学修計画のポイント

ページ 7 ～ 97

7 ～ 39 ページ

商品研究を行う上で重要な商品の概念、商品の品質と価格、商品研究の史的変遷について述べている。

41 ～ 97 ページ

標準化、デザインとパッケージが商品価値をどう変えるか、経済のサービス化が進展していくなかでの商品としてのサービスについて説明しているか。

ページ 99 ～ 199

99 ～ 145 ページ

市場環境の変化のなかで商品と市場の安全性、ライフスタイルと消費行動がいかなる関係にあるか、商品の差別化を促すブランドについて述べている。

147 ～ 199 ページ

21 世紀は環境の世紀といわれ、商品と環境、少子高齢化における商品、商品と社会の関わりについて考察している。

■学修上の留意点

新聞の切り抜きは商品研究の一番の初歩的研究の一方法である。毎年発行されている「日本国勢図会」は商品の統計と現状について解説しているので一読に値する。学生とは「主体的に学ぶ者」であることを自覚すること。「教えるとは共に希望を語ること、学ぶとは真理（生きること）を胸に刻むこと」。

■参考文献

『商品学読本（第2版）』水野良象著（東洋経済新報社）

『商品学と商品戦略』（KGU 叢書）石持悦史著（白桃書房）

科目コード	科目名	単位数
S30400	貿易論	4 単位

教材コード 000439

教材名 貿易論

著者名等 松原 聖・飯野 文

■教材の概要

本書は2部構成であり、第1部は主に国際経済学の視観点から、第2部は主に国際経済法の視点から貿易論を捉えている。第1部では、日本の最近の貿易構造、貿易理論、保護主義、貿易実務、国際収支表、外国為替市場・為替レート、海外直接投資を扱っている。第2部では、世界貿易の動向と国際貿易体制(GATT・WTO体制)、WTOが規律する物品及びサービスに関わる貿易ルール、地域経済統合、貿易紛争処理、投資紛争処理を取り上げている。

■学修計画のポイント

ページ1～127

第1部では、日本の対外取引の現状やそれを説明する理論、そして貿易実務の基礎などを、(数値)例などと合わせて一つずつ理解することがポイントである。各章については以下の通り。第1章では日本の主な貿易相手国・地域や主に取引されるモノを理解してもらいたい。第2章・第3章で扱う貿易理論については、主な結果を(日本)経済の実例と合わせて理解してほしい。第4章の保護主義の議論についても同様である。第5章は貿易実務入門であり、図表5-1を中心に全体的な「流れ」を押さえてほしい。第6章は国際収支の個々の項目についての日本の現状と共に、経常収支に関する諸議論を日本経済・世界経済の課題と合わせて理解してほしい。第7章では前半の外国為替市場については数値例を、後半の為替レートの日本経済への影響については第4章の保護主義に関する議論との類似性を理解することに努めてほしい。第8章の海外直接投資の議論については、日本の製造業の現状と合わせて考えると理解しやすい。

ページ129～353

第2部では、現在の世界貿易がどのような貿易ルールに基づいて規律され、秩序づけられているのかを歴史的経緯も併せて理解することがポイントである。各章については次の通り。第1章では、世界貿易の動向とWTO(世界貿易機関)の成立経緯と現状、第2章では、WTOの仕組みと貿易政策の諸手段を理解してほしい。第3～6章で論じる貿易ルールについては、各章で解説する個別ルールについて学修を深めると同時に、個別ルールを全体像に位置付けて把握することが望ましい。すなわち、貿易ルールの基本原則とその例外、貿易自由化と貿易救済措置の関係、関税や数量制限などの水際規制と国内規制の相違、鉱工業品貿易と農業貿易の規律の相違とその背景、物品貿易とサービス貿易の規律の相違とその背景を横断的に理解することが重要である。第7章で扱う地域経済統合は近年、世界的関心が高い分野であり、特に経済統合の基本的概念、WTOの基本原則との関係をしっかりと把握してほしい。第8章では貿易・投資紛争の仕組みと両者の相違を理解することが求められる。

■学修上の留意点

第1部、第2部を通じて、貿易が(日本)国内の個人や企業とどのようにかかわっているのかという視点を持ちながら学修することが重要である。インターネットなどを活用しながら、各章の内容の具体例を知りながら学修することにより、個々の説明について理解を深めることができる。参考文献や日々の新聞記事等を参考にして、経済にとって貿易がいかに重要であるのかを学んでほしい。

■参考文献

- 『日経文庫ベーシック 貿易入門〈第3版〉』久保広正著(日本経済新聞社)
- 『入門 国際経済』中北徹著(ダイヤモンド社)
- 『WTO入門』UFJ 総合研究所新戦略部通商政策ユニット編(日本評論社)

科目コード	科目名	単位数
S30500	マーケティング	4単位

教材コード 000182

教材名 マーケティング

著者名等 長谷 政弘・佐藤 稔

■教材の概要

本書は、マーケティングが体系的に学べるように、総論と各論からなっている。総論（第1章～第4章）では、マーケティングの全体的な考え方・進め方・あり方について説明されている。

この理解を前提にして、各論（第6章～第16章）のマーケティング環境とマーケティング手段に進めるように構成されている。主としてメーカーの立場から論ぜられているが、流通業のマーケティングにも紙幅を割いている。本書では、各章ごとの最初に学修のポイントが書かれている。

■学修計画のポイント

ページ 7 ～ 182

7 ～ 67 ページ

今日いわれるところのマーケティングは、マネジリアル・マーケティング（経営者マーケティング）であり、その理解のもとに、非営利組織のマーケティングや社会志向的なマーケティングなどのニュー・マーケティングについて考察する。

69 ～ 182 ページ

マーケティングは、マーケティング環境とマーケティング・ミックスの相互関連のもとに、マーケティング意志決定を行うので、環境要因を検討し、かつミックスの構成要素である製品計画、仕入計画（流通業）をまず考える。その前提である、マーケティング情報も学ぶ。

ページ 183 ～ 347

183 ～ 271 ページ

マーケティング・ミックスの構成要素である価格決定、販売経路設定、店舗計画、広告について説明されている。この中の店舗計画は、流通業、特に小売業にとって重要な手段である。

273 ～ 347 ページ

マーケティング・ミックスの構成要素である販売員活動、販売促進、ディスプレイ（小売業）、物的流通について述べられている。販売員活動と販売促進は、第3単位にある広告とともに、プロモーション活動を構成している。

■学修上の留意点

- ① 細かい問題ではなく、大きな問題を出す。
- ② 重要事項をよく整理する。
- ③ 各章の初めにある学修のポイントに注意する。
- ④ 偏った勉強はしないようにする。

■参考文献

『マーケティング管理（新版）』久保村隆裕・阿部周造共著（千倉書房）

※『ソーシャル・マーケティング』三上富三郎著（同文館）

※『マーケティング・マネジメント』P.コトラー著・小坂他訳（プレジデント社）

科目コード	科目名	単位数
S30600	保険総論	4 単位

教材コード 000183

教材名 保険総論

著者名等 根立 昭治

■教材の概要

本書は、日本経済と各種保険制度の発達という観点から、現代社会の各種保険制度の本質・機能と各々の内容および問題点を容易に理解できるように解説し、実生活の便益に供しようとするものである。まず、人類社会と保険制度の発達との関係を見て、現代社会の保険制度の意義をとらえ、保険発達史を考察している。次に、受講生諸氏が現在または将来利用し、またはするであろう各種保険制度の内容と問題点および新保険業法による保険企業の経営問題を解説したものである。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 37

(第一編)

第1章の各々の社会発展段階における保険制度の役割を理解した上で、第2章の最も保険制度が発達している現代社会の保険制度の意義を理解してほしい。とくに保険企業における金融機能の意義については十分に理解してほしいものである。そして、第3章の現代社会における保険制度の異常な発達の意味を考えてほしいものである。

ページ 41 ～ 163

(第二編)

第1章は、私達が現在もっとも利用している火災・自動車・傷害・責任保険などの内容と問題点を理解するとともに損害保険の積立・総合保険代および生命保険分野への進出などの今月的問題なども考えてほしいものである。

第2章の生命保険の各種類の内容点を理解しつつ実生活に活用できるように努めてほしいことと、生保企業の金融機能についても第2章の内容とあわせて理解してほしいものである。次いで、第3章の社会保険は、受講生諸氏も殆ど利用するものであるから制度内容の理解はもちろんのこと、各々の問題点も自分の問題として考えてほしい。

保険企業の保障機能と金融きのを遂行するための経営問題を考察した第4章であるが、新保険業法によって生・損保企業とも種々の影響を受けるので、そうした新しい経営問題についても理解を深めてほしい。

■学修上の留意点

- ① とにかく本書をよく読んでほしいこと。
- ② この科目は実学そのものに近いので、新聞はじめ各種のマス・メディアの保険関連の情報に充分注意してほしい。
- ③ 保険特有の専門用語があるので「保険辞典」等で調べてほしい。

■参考文献

この点については、本書の各章の終りにある〈注〉欄にある参考文献・資料を受講生諸氏の必要に応じて利用してもらうのが最もよいと思われる。さらに、新しい保険事業の動向を加筆した拙著※「保険論（改訂第2版）」（桜門書房）を参考にしてほしいものである。

科目コード	科目名	単位数
S30700	交通論	4 単位

教材コード 000184

教材名 交通論

著者名等 山上 徹

■教材の概要

「交通論」の主要な研究領域とは、人・物・情報の場所的移動をいかにして経済的に克服するかにある。

本書では、交通の基礎的な理論をはじめ、歴史的な発達状況、さらに現代的な諸問題について論じるものである。とくに交通手段には、陸海空の多様な交通手段が存在しており、それぞれ機能上、長所・短所を論じ、またそれぞれ相互依存しながら「場所的距離の移転」という交通サービスに関する基本的な内容について論じるものである。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 134

本編では、各種の交通手段が基本的にどのような役割を担っているか、またどのようにして発達してきたのか、われわれに交通手段がどのような影響を与えているかなどについて論じるものである。具体的には、交通手段、陸海空の基本的な特徴、発達史、影響、水上交通の概要、とくに運賃、船積み手続き、保険などについて論じるものである。

ページ 137 ～ 253

場所的距離の移転の発達は、しだいに国境を越えた活動が一般化してきており、国際航空輸送、国際海上輸送という国際交通が重要であり、本編では、それらを中心に論じる。

人の移動に関しては、観光・旅行による場所的移動があるが、旅行業者の業務内容などを論じ、また物流については、国際複合輸送の特徴などについて考察するものである。

■学修上の留意点

- ① 場所的距離の移転という特殊な活動が交通手段によって実現されることを理解すること。
- ② 各種の交通手段の機能上の特質を理解すること。
- ③ 国際交通の役割について理解すること。
- ④ コンテナ輸送について理解すること。

■参考文献

- ※『国際物流のネットワークと港』山上徹著（白桃書房）
- ※『現代航空経済概論』山上徹監訳（成山堂書房）
- ※『交通経済学講義』岡野行秀編著（青林書院）
- ※『現代流通総論』山上徹著（白桃書房）

科目コード	科 目 名	単位数
S30800	証券市場論	4 単位

教材コード 000185

教 材 名 証券市場論

著 者 名 等 西條 信弘・安井 昭・高嶋 勝平・佐藤 猛

■教材の概要

本教材は証券市場に関わる全体像を容易に理解するために構成されている。第Ⅰ部は証券市場総論、第Ⅱ部は資金調達論、第Ⅲ部は証券投資論、第Ⅳ部は国際証券市場論となっており、各部ごとに完結された部であるため、どこから読んでもよいと思われる。ただし、第Ⅱ部、第Ⅲ部は自分の鉛筆で計算すると更に理解が容易となろう。なお、証券市場の特殊な用語については、証券用語事典を利用することをお勧める。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 117

証券市場の史的観点からのシステムの変遷が詳細に且つ体系的に述べられている。細部は無視して大きなシステムの流れを体系的に理解することが重要であろう。また、資金調達論については、特に数学的な知識は必要としないが、ファイナンスの基礎理論が体系的に述べられているので、一つ一つモデルを確認して、覚えるのではなく理解することに努めてほしい。

ページ 119 ～ 191

証券投資論として、主としてデリバティブ（派生取引）が中心に述べられている。ポートフォリオ、先物取引、オプション取引、スワップ取引の内容を正確に理解してほしい。国際証券市場論は、第Ⅰ部から第Ⅳ部までの知識に立脚して、日本市場が国際的な循環の中にあるという認識で読むと理解しやすいであろう。国際的な経済感覚を磨いてほしい。

■学修上の留意点

余り細部のテクニカルな用語については気にしないで体系的な視点で教材を読むと理解しやすいであろう。大学の証券市場の教材としては、標準的な水準である。

■参考文献

証券システム関係…『新・証券論 25 講（改訂版）』杉江，神木，坂下編著（晃洋書房）

資金調達・投資論…『入門証券市場論（第3版）』（有斐閣ブックス）釜江廣志編（有斐閣）

科目コード	科目名	単位数
S30900	広告論	4 単位

教材コード 000538

教材名 『ブランド・コミュニケーションと広告論』 (学修指導書別冊)

著者名等 雨宮 史卓

出版社名 八千代出版

■教材の概要

本教材は、「序にかえて」「第1章 ブランドの基本的概念と種類」「第2章 ブランドを軸としたマーケティング戦略の展開」「第3章 広告コミュニケーションと高価格製品のブランド化」「第4章 コモディティ製品のブランド化」「第5章 インタラクティブ・マーケティングにおける経験価値とブランド概念」「第6章 製品ライフサイクルとブランド・ライフサイクル」「第7章 サービスに対するブランドの役割」から成っている。

前半は、製品戦略の一領域を超え、独立した領域を築いている「ブランド」概念に焦点を当てる。後半は、マーケティング戦略の一要素である「広告」とその様々な広告戦略を事例と共に理解する。

■学修計画のポイント

まず「序にかえて」の部分を熟読し、広告がどれだけ我々の生活に浸透し、ブランド概念が企業にとってなぜ重要視されているかを理解する。

第1章～第2章

ブランドの基本概念と種類、及びブランドを軸としたマーケティング戦略の展開を理解する。とりわけ、なぜブランド・エクイティを考慮したマネジメントが企業にとって有効性をもたらすかという観点に注意し、ブランドと広告の関連性を理解する。

第3章～第5章

マーケティングの一要素であるプロモーション、プロモーションの中の一つの手段である広告の位置づけと役割を理解する。そして、高価格商品とコモディティ商品の特徴を明確にして、それぞれの広告戦略の理論と実践を学ぶ。

第6章～第7章

製品が計画され、ヒット商品へと導くための広告理論をライフサイクルの観点から学ぶ。

また、有形の製品ではなく無形のサービスに対する広告の役割も理解する。

■学修上の留意点

広告における様々な理論、戦略、概念等が出てくるので専門の辞書・時点等に目を通して、言葉の意味をしっかりと理解すること。また、教材全体を通して理解できるように心掛けて欲しい。

■参考文献

『わかりやすい広告論』石崎徹編（八千代出版、2013年）

『製品・ブランド戦略』青木幸弘・恩蔵直人編（有斐閣アルマ、2004年）

『電通広告辞典』電通広告辞典プロジェクトチーム編（電通、2008年）

科目コード	科目名	単位数
S31000	商業政策	4 単位

教材コード 000187

教材名 商業政策

著者名等 梅沢 昌太郎

■教材の概要

科目名は「商業政策」であるが、「流通政策」と読み替えて教材が作成されている。この教材では流通論をマクロのマーケティングつまり流通政策とし、事業経営からの戦略をミクロ・マーケティングと位置づけている。そのマクロとミクロのジレンマと統合から、戦略と政策のあり方を考察している。さらに流通政策固有の問題として、政策決定のプロセスを考察し、地域づくりとの関連を考察している。また、政策と戦略の計画を作成するためのデータの扱い方も学ぶ。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 115

- ① マーケティングにおける管理不能変数と管理可能変数。
- ② 消費者・生活者のニーズと流通政策。
- ③ 4 P という変数。
- ④ ミクロ・マーケティングにおける流通の位置づけ。
- ⑤ マクロのマーケティングとしての流通論。
- ⑥ 流通と環境問題。
- ⑦ 流通の機能とコンセプトの変化。
- ⑧ 小売業態の変化と流通政策。
- ⑨ サービスの役割の増大と流通の政策と戦略。
- ⑩ 流通変革と卸売業。

ページ 117 ～ 351

- ① 物流における規制緩和と物流コンセプトの変化。
- ② 消費者物流のもつ意味。
- ③ 情報流通の変革の意味と流通システムへの影響。
- ④ 情報システムと双方向コミュニケーション。
- ⑤ 電子商取引への展開。
- ⑥ ブランドの価値とコンフリクト。
- ⑦ サービスへの展開と地域づくりへの展開。
- ⑧ 流通政策の決定プロセスと政府の失敗。
- ⑨ 流通政策の今後の方向。
- ⑩ 計量的分析の方法。

■学修上の留意点

- ① マーケティング論との関連に留意してください。
- ② 流通を自分自身の問題としてとらえ、生活者の視点から政策と戦略を考えてください。
- ③ 好奇心を持って街をながめ、新聞をよく読んでください。
- ④ 自分なりの論を形成する努力をしてください。

■参考文献

- ※『マーケティングのしくみ』梅沢昌太郎 ビッグペン共著（ダイヤモンド社）
 ※『マーケティングの基本知識』片山又一郎著（PHP 出版）
 ※『流通サービス産業の経営論』梅沢昌太郎著（白桃書房）
 『消費者サービスと地元経済開発』コリン・ウィリアムズ著、梅沢昌太郎監訳（白桃書房）

科目コード	科目名	単位数
S31200	国際金融論	4 単位

教材コード 000432

教材名 国際金融論

著者名等 宅和 公志・山倉 和紀

■教材の概要

教材では、普段ひとりで学修をすすめるべきではない通信教育部生が国際金融に関する基礎知識を一通り習得できるように配慮しつつも、いま国際金融の世界で起きている新しい動きや変化についても学修できるよう一定の配慮をした。国際金融の世界で起きていることとは、内外の金融市場の一体化であり、金融現象の世界化である。それに伴い、もはや金融の世界では国境なるものは大きな意味をもたなくなっている。つまり金融の世界は、シームレス（国境なし）のグローバルな領域になりつつあり、インターナショナルな（国と国との狭間の）領域は失われつつある。教材はそうした現状認識のもとに書かれている。なお教材の構成は大きく分けて、第1編（1～4章）基礎的な概念や仕組み、第2編（5～6章）理論やモデル、第3編（7～9章）国際通貨制度の歴史、そして第4編（10～12章）国際金融市場とその他諸問題、からなっている。

■学修計画のポイント

ページ 1～142

第1～4章は、為替取引、為替レート、国際収支といった、国際金融論の基本的な概念や仕組みが解説されているが、これらは国際金融の諸問題をさらに深く学修するさいの基礎知識となるから、読み飛ばすことなく、たしかな理解をえておくことが必要である。第5～6章は国際金融の理論が中心だが、とくに為替レートの決定や国際収支調整の問題に焦点が置かれている。為替レートや国際収支をめぐる金融現象について、私たちがもつ直観のない常識的理解だけでなく理論的な視点を身につけることが大切である。また変動為替レート制への移行や資本取引の自由化といった歴史的な出来事が、国際金融理論の発展と深化にあたえた影響もあわせて考えていただきたい。

ページ 143～285

第7～9章は、国際通貨制度の発展を跡付けている。その変遷をふり返るだけでなく、時代固有のダイナミズムを理解することが必要であるし、各々の時代に国際通貨としての信認が何によって支えられてきたかも考えなければならない。国際金融市場を取り上げた第10章では、国際金融取引と国内金融取引の区別が難しくなった現実を理解し、グローバルな金融市場（とくにユーロ市場やオフショアセンター）の機能と特徴を把握することが必要である。第11～12章では、内外の金融市場の一体化が進むなかで、国際協調やBIS規制が登場した意味を考えること。また金融現象の世界化に伴い、通貨危機や金融危機も世界的に伝播するようになったが、それに対応する国際通貨制度はいかにあるべきかについて、著者とともに考えていただきたい。

■学修上の留意点

教材では現実の経済データや事例が豊富に盛り込まれているが、現実の経済は日々刻々と変化している。学修のさいには、参考文献・資料などを参考に最新のデータを確認すること。とくに国際収支統計については、発表形式（分類方法）そのものの大幅変更も予定されているので、今後の動向に注視する必要がある。

■参考文献

「国際収支統計季報」および「金融経済統計月報」（日本銀行）

BIS Quarterly Review (<http://www.bis.org/>)IMF International Financial Statistics (<http://www.imfstatistics.org/imf/>)

統計データについては上記が参考になるが、それ以外は教材の各章末に文献リストを掲げてあるので、それらを参照していただきたい。

科目コード	科 目 名	単位数
S31300	商業英語Ⅰ	2単位

教材コード 000190

教 材 名 商業英語Ⅰ

著 者 名 等 石川 英夫

■教材の概要

役に立つ英語とは、決してむずかしい英語ではない。しかも日本人の英語である。完璧を期す必要はない。まず日本語に強くなろう。それから英語になじもう。中学・高校で使った教科書を大切に、時々読みかえそう。やさしい表現が、英語学修では重要な働きをする。しかし、会話上手が全てではない。実直な、ドイツ弁も強味を発揮する。そして最も必要なことは、英語も人間が話し、聞き、読むものであり、その底には「良き人間関係」が必須であるということである。

■学修計画のポイント

英語をビジネスに役立てるとしたら、ビジネス相手と心と心のつながをしっかりと結ぶには、どうしたらよいか。そこには双方向きのコミュニケーションが要請される。お互いに「信号」を出しあおう。ひんぱんに交信しよう。この姿勢を確立すれば、「商談」も「交渉」も必ずうまく行く。これは、英語に限らず、日本語を含む全ての言語にあてはまるものである。だから、英語を出来るだけ面白く、肩の力を抜いて勉強したい。「ストーリー」が面白く、楽しければ、自然に英語と親しくなり、覚えかつ自分の目的、目標のために使いたくなる。本講には、面白いはずの「ストーリー」をもりこんだ。

■学修上の留意点

率直に、面白く読めるようにこの教材は書いてある。とにかく通読してください。そしてわからないところは赤ペンでマークする。自分なりに徹底的に使いこんでください。その結果、教材が汚れ、きたなくなつて大いに結構。むしろそれが各々の勤勉、努力の証である。新品同様の、きれいな教材にしておかないように。

■参考文献

- ※『英語でビジネス交渉！』石川英夫著（研究社）電子版もあり
- 『英語力を上げる辞書 120%活用術』住出勝則著（研究社）
- 『メジャーリーグで覚えた僕の英語勉強法』長谷川滋利著（幻冬舎）

科目コード	科 目 名	単位数
S31400	商業英語Ⅱ	2単位

教材コード 000191

教 材 名 商業英語Ⅱ

著 者 名 等 石川 英夫

■教材の概要

役に立つ英語とは、決してむずかしい英語ではない。しかも日本人の英語である。完璧を期す必要はない。まず日本語に強くなろう。それから英語になじもう。中学・高校で使った教科書を大切に、時々読みかえそう。やさしい表現が、英語学修では重要な働きをする。しかし、会話上手が全てではない。実直な、ドイツ弁も強味を発揮する。そして最も必要なことは、英語も人間が話し、聞き、読むものであり、その底には「良き人間関係」が必須であるということである。

■学修計画のポイント

英語に通じ、英語を身につけると、面白いこと、エキサイティングなことが数限りなく起こる。自分の長年にわたる国際経験から、そのような例をとりあげてみた。英語を身につけると人生さえ変わる。いい方向に変わる。友人の輪が広がる。そこには、充実感や充足感がある。英語を通じて、楽しみや興奮や満足覚え、新知識を吸収し、新体験を蓄積し、高度な人格形成を図れる。本講にもりこんだ例を精読して、いいところは大いに真似してもらいたい。自分ならもっとよく出来ると思ったら、どんどんやって欲しい。容易なことではないが、英語の学修の要語は「真似ること」である。

■学修上の留意点

率直に、面白く読めるようにこの教材は書いてある。とにかく通読してください。そしてわからないところは赤ペンでマークする。自分なりに徹底的に使いこんでください。その結果、教材が汚れ、きたなくなつて大いに結構。むしろそれが各々の勤勉、努力の証である。新品同様の、きれいな教材にしておかないように。

■参考文献

- ※『英語でビジネス交渉!』石川英夫著（研究社）電子版もあり
- 『英語力を上げる辞書 120%活用術』住出勝則著（研究社）
- 『メジャーリーグで覚えた僕の英語勉強法』長谷川滋利著（幻冬舎）

科目コード	科目名	単位数
S32000	観光事業論	4 単位

教材コード 000417

教材名 観光事業論

著者名等 佐藤 俊雄

■教材の概要

本書は、観光事業を新しい視点で学問的に体系づけようと試みたものである。どこが新しい視点かという点、一つは、観光という概念を、観光者が「何らかの光を観る・観たい行為」と観光関連事業者が観光者のこの欲求や期待に応えるために「何らかの光を魅せる活動」とを一体的に捉えた点である。もう一つは、したがって、従来の観光の概念にある観光者の脱生活場所、遠距離移動、脱日常性、非日常的事象との遭遇、そして元の場所に戻るという一連の行動やそれともなう観光関連事業者の諸活動はおのずと観光の付随的現象であるとする点である。こういう視点に立つことによって新しい観光事業の本質を捉えることができる。つまり本書は、観光事業を、観光者の限らない欲求や期待に応え魅力をもたせ、観光者に光を通じて充実感や満足感を与えることを目的とした、目立たない裏方的な支援・代行事業であると位置づけ、その活動の諸過程を明示したものである。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 108

観光事業の本質を知るために、まず、観光産業とのかかわりや位置づけを理解する。つぎに、観光事業が何のために必要か、その目的や役割について正確に把握する。

観光事業の実質的な活動プロセスの最初のスタートは、観光政策を立案することである。観光政策には大別して国際政策、国内政策、および地域政策があり、その主要な対象が、観光者、観光資源、観光（関連）施設、観光関連事業者、および地域住民を含む観光地の五つであることを認識する。

以上の基礎的知識を確認したうえで、観光事業の二つ目の活動プロセスとして、観光計画およびその立案方法を学ぶ。主要な観光計画の対象は観光地であり、計画の核心は、観光地の開発計画と保全計画とを同時に立案することである。その際、樹立した計画を具体的に事業化するために、資金計画も同時に立案することを学修する。

ページ 109 ～ 272

観光事業の活動プロセスの三つ目は、すでに樹立した観光政策や観光計画を実行するための組織づくりである。まず始めに、組織とは何かを学び、観光事業にかかわる組織には国家（政府）や地方自治体などの公的組織と民間企業や各種団体などの私的組織があることを確認し、それぞれに役割分担があることを学修する。つぎに、四つ目のプロセスとして観光地の開発と保全とは何かを正しく把握し、観光地開発・保全事業の実践的活動を学ぶ。

つぎに、観光事業組織を戦略的かつ持続的に運営するうえで重要な経営とマーケティングについて習得する。ここではとくに従来のマーケティング・ミックスの4Pとは異なる4Cで私的観光関連事業者のマーケティング活動のポイントをつかむ。五つ目は、いままで営んできた観光事業活動の効果を確認し評価することを試みる。そして最後に、観光事業に関する今後の主要な五つの課題について学修する。

■学修上の留意点

ここで学ぶ観光事業論は、一般的にいわれる「観光産業論」、「観光研究」、あるいは「観光学」という名のもとでの観光のための研究報告や理論とは異なり、限りなく処方的実践論である。実践的ではあるが、観光という分野はそれだけで総合的な意味をもち合わせているので、総合的な実践論である。したがって、本書を学修する際は、自らが広い視野に立つ観光事業者の一員である、あるいは将来観光事業に携わるつもりで、頭で知識だけを学ぶのではなく、からだで身になるもの的心得することを心掛けることが肝要である。

■参考文献

通信教育教材で十分。あとは、教材内の各章末の引用文献および参考文献のなかから関心のある図書を抽出するとよい。

科目コード	科目名	単位数
S32100	商業史	4 単位

教材コード 000555

教材名 『イギリス帝国の歴史—アジアから考える—』 (学修指導書別冊)

著者名等 秋田 茂

出版社名 中央公論新社

■教材の概要

本教材は、序章「現代アジアの経済的再興とイギリス帝国」、第1章「環大西洋世界と東インド—長期の18世紀」、第2章「自由貿易帝国とパクス・ブリタニカ」、第3章「脱植民地化とコモンウェルス」、終章「グローバルヒストリーとイギリス帝国」からなっている。本教材の前半では、現代インドの経済発展と現代イギリスの金融自由化を概観した上で、イギリスがアイルランドから大西洋世界へ進出した17世紀前半以降のイギリス帝国史を分析し、「長期の18世紀」を経て、19世紀中葉の自由貿易帝国主義時代に至るまでの過程を考察している。本教材の後半では、19世紀中葉以降のジェントルマン資本主義の発展と多角的決済機構の成立、そして19世紀第4・4半期以降のアフリカ分割とチェンバレン関税改革構想の敗北、さらには第一次・第二次世界大戦と並行して進展した脱植民地化の過程を考察している。

■学修計画のポイント

ページ1～130

- ① 大西洋三角貿易とイギリス産業革命の関連性を把握すること。その際、大西洋三角貿易がどのような貿易であるかを理解し、エリック・ウィリアムズの『資本主義と奴隷制』、ジョゼフ・イニコリの『アフリカ人とイングランドにおける産業革命』の内容をグローバルな文脈で理解しておくこと。
- ② アジアの三角貿易の内容を理解すること。カントリー・トレーダーがいかなる人々であり、彼らはどのような交易活動を行ったのかを説明できるようにしておくこと。
- ③ イギリス自由貿易帝国主義の内容を理解すること。自由貿易帝国主義が誰によって提唱された概念で、その内容はいかなるものであったのかを、時間的・空間的な面から把握すること。

ページ130～263

- ① ジェントルマン資本主義の内容を把握すること。誰がジェントルマン資本主義概念を提唱し、その新しさはどこにあったのかを理解すること。
- ② 多角的決済機構の内容を把握すること。また、多角的決済機構の要はどこであり、いかなる体制を前提として成立していたのかを理解すること。
- ③ チェンバレンの関税改革構想の敗北の原因を、ジェントルマン資本主義論と多角的決済機構との関連で説明できるようにしておくこと。アフリカ分割や、アジア間貿易の発展、そして脱植民地化の過程については、イギリス本国側からの視点だけでなく、帝国諸地域（とりわけアジア諸地域）から「イギリス帝国がいかに利用されていたのか」という観点から説明できるようにしておくこと。

■学修上の留意点

本教材を学習する手順としては、序章からノートを作成しながら読み進めるしかないが、世界史の知識がある程度必要となるので、世界史辞（事）典や百科事典を適宜活用すると良い。

■参考文献

本教材巻末に記載の「主要参考文献」を利用すると良い。特に、平田雅博『イギリス帝国と世界システム』（晃洋書房、2000年）、アンドリュー・ポーター（福井憲彦訳）『帝国主義』（岩波書店、2006年）、秋田茂・木村和男・佐々木雄太・北川勝彦・木畑洋一編『イギリス帝国と20世紀』（全5巻、ミネルヴァ書房、2004～2009年）の利用はすすめておきたい。また、古代から近世までの商業史については、谷澤毅『世界流通史』（昭和堂、2017年）が参考になる。

科目コード	科目名	単位数
S32700	中小企業論	4 単位

教材コード 000488

教材名 『現代中小企業の新機軸』 (学修指導書別冊)

著者名等 永山 利和

出版社名 同友館

■教材の概要

中小企業問題は、市場経済の発展に従って時代によって異なった課題を持ちながら、常に市場経済の中心に位置してきた。今日経済のグローバル化の流れの中では世界市場を相手にする多国籍企業が主体のように見なされがちである。だが、建設、製造、商業・流通、サービスの各分野で「隠れた主役」を演ずるのが中小企業である。この教材は現代日本の中小企業の状況を多角的に研究した共同作業の結果である。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 70

中小企業動向を概観とし、その個別経営および経営組織の役割ならびに行政との連携を理解する

- ① 現代中小企業のマクロ的役割と経営の基本的存在意義
- ② 中小企業経営の意義を自己主張する中小企業（家）組織と運動および行政との連携

ページ 73 ～ 248

中小企業は地域性をもった事業活動体であり、国・地方の行政と政策連携の必要性を理解する

- ① グローバル経済下の中小企業のリージョナリズムを複眼的に捉える
- ② 産業集積、都市型中小企業、共同化による技術進化、地域経済社会における商業や建設業の役割
- ③ 中小企業基本法の基本課題や世界的にも中小企業憲章制定が行われる根拠
- ④ 産業集積、地域振興では地域中小企業が強い厚みを持つことが重要

ページ 251 ～ 303

中小企業の存在は、労働者の雇用と地域の人々の暮らしに深くかかわる。

- ① 金融がコミュニティのレベルで機能することが世界的にクローズアップされる理由
- ② 中小企業労働者の福利厚生や、小規模事業者の経営・生活実態と社会保障制度

■学修上の留意点

中小企業にも光と影がある。影の部分が解決不能な事態と考えられがちであるが、世界の経済史を通じてみると分かるように、中小企業発展の条件を探求することが国民経済、地域経済発展に大きな役割を演じてきた。中小企業政策こそ経済政策の基礎であるという命題を理解してほしい。

■参考文献

- 『産業構造転換と中小企業』 吉田・森本・永山編（ミネルヴァ書房）
『現代中小企業の存立構造と動態』 福島久一（新評論）
『世界経済史』 中村勝己（講談社学術文庫）

科目コード	科目名	単位数
S32800	会計学	4 単位

教材コード 000482

教材名 会計学

著者名等 勝山 進・村井 秀樹・吉田 武史

■教材の概要

社会には営利を目的とした企業と営利を目的としない企業（組織）が存在するが、これら企業や組織の成果は、「財務諸表」という形で把握される。本講座（教材）は、前者の営利企業を対象として編集してある。

本教材は、全体を3部に分けてまとめている。第1部は、企業会計を学ぶに当たって理解しておかなければならない基礎やそれに係る必要事項を体系的にまとめている。第2部は、「財務諸表」の基本的な表である貸借対照表と損益計算書の作成方法やそこに含まれる具体的な項目についてまとめている。第3部は、「財務諸表」を作成する場合の具体的な個別の会計基準についてまとめている。要するに、第1部は第1章から第4章まで、第2部は第5章から第17章まで、第3部は第18章から第29章までである。

■学修計画のポイント

第1期

会計の基礎、会計の理論構造、企業会計制度、会計原則

第2期

貸借対照表の基礎および貸借対照表を構成する各項目

損益計算書の基礎および損益計算書を構成する各項目

第3期

連結会計、外貨換算会計、研究開発費会計、退職給付会計、キャッシュ・フロー会計、税効果会計、減損会計

第4期

国際会計、ストック・オプション会計、リース会計、資産除去債務会計、企業再編会計、包括利益会計

■学修上の留意点

財務会計を学修する際の最も重要なキーワードは、「適正な」期間損益計算であるが、近年は、この損益計算に加えて、利益観が「純資産の増加」という「資産負債アプローチ」が加味されていることに留意する必要がある。

■参考文献

『財務会計講義 [第13版]』桜井久勝（中央経済社）

『基礎財務会計 [第13版]』五十嵐邦正（森山書店）

科目コード	科目名	単位数
T10100	現代教職論	2 単位

教材コード 000541

教材名 『現代教職論』

(学修指導書別冊)

著者名等 羽田 積男・関川 悦雄 編

出版社名 弘文堂

■教材の概要

本書は1998（平成10）年の教育職員免許法改正により新設された「教職の意義等に関する科目」（本学では「現代教職論」）のテキストとして編集されている。この科目（授業）には、教師としての資質や必要とされる能力について考え、教職とはどのような仕事であるのかを理解し、また法制上の身分や責任を理解することで、教師（教育者）としての意識を高めることも期待されている。将来の職業として「教職」を選択する上で、自らにその資質があるのかを問いかけることも目指された科目である。その意味では、他の教職科目に比べて、教職課程の履修者が最初に学ぶべき科目、すなわち教職入門的な科目という性格をもっている。

■学修計画のポイント

ページ 5 ～ 108

「教員の資質と能力」について、どのようなものが求められてきたのかを歴史的に記述された部分と、教育現場で求められる学習指導・生徒指導という教員独特の資質・能力についての解説が展開されている。

- ① 教師に何が求められてきたのか、そして現在、何が求められているのかを理解するために、教員養成の歴史を学ぶ。
- ② 教員養成のシステムとしての大学での教職課程カリキュラムの構成を理解する。
- ③ 教師の仕事としての「学習指導」と「生徒指導」という大きな枠組みと、その意味を理解する。
- ④ 「生徒理解」の重要性と難しさを理解し、学校文化や学校教育の活動をイメージできて、それに慣れるために自身にできることは何かを考えていただきたい。

ページ 109 ～ 187

法令上の規定や、採用後にも求められる研修などの自己向上の仕組みと、教員になるための手順や具体的なイメージを解説することで、より「自分が目指すべき教師像」へと近づいていけるように構成されている。

- ⑤ 法令を中心として、教員の身分保障や、その任用、服務規程、懲戒や処分について学ぶ。
- ⑥ 採用後の教員生活の中で、さらに自分を向上させていくための研修という考えについて理解する。その制度的仕組みや意義について理解を深めていただきたい。
- ⑦ 教員になるための「自分がすべき努力や課題」をまとめることができるようになっていただきたい。

■学修上の留意点

現在の（教育現場における）子どもの実態や様々な教育問題（不登校、いじめ、非行、学力不足、意欲低下等）についての報道に接するとき、「学校とは何をするところなのか」「教員とはどのような役割なのか」と常に考える姿勢を身につけていただきたい。この教科（現代教職論）は、「教員としてどのような意識や行動が必要なのか」を考え、資質や能力を修得することが学習目標としてあげられている。そのため、つねに「教員とは何をするべきなのか」という視点をもってほしい。

■参考文献

本書（テキスト）に提示されている「参考文献」を参照されたい。

科目コード	科目名	単位数
T10200	教育原論	2単位

教材コード 000199

教材名 教育原論

著者名等 関川 悦雄・北野 秋男

■教材の概要

「教育とは何か」、「教育とはどうあるべきか」という教育の営みを根本的に再検討し、教育の本質的な理論や問題に迫る。現代の教育思想の中心的な理念や理論を構築した、12名の代表的な思想家を紹介しながら、現代にも通底する教育の基本的な考え方、もしくは新たな解決策を提示した優れた教育思想について論述している。

■学修計画のポイント

- ① 近代以降の教育思想の特色が人間の自律的な主体形成論であったことを理解する。
- ② 12名の教育思想家の中心的な理念や理論を理解する。
- ③ 12名の教育思想家が、それ以前の古い教育的な考え方の何を変革しようとしたかを理解する。
- ④ 現代の教育問題を具体的に提起し、教育思想的に考えてみる。

■学修上の留意点

現代の教育問題を考えながら、12名の教育思想家が述べている理念や理論を検討してみる。教育思想のルーツにせまることができる。各章の最後に掲載されている参考文献から入手可能なものを探し、必ず一読してみる。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
T10400	教育の歴史	2単位

教材コード 000419

教材名 教育の歴史

著者名等 小野 雅章・羽田 積男・関川 悦雄・永塚 史孝

■教材の概要

この教材は、前編に日本の教育の歴史を、後編に西洋の教育史を収めている。教育の歴史は、教育学の中核的な位置を占める学問分野であり、教育職員免許法においても重要な学修分野になっている。

日本の教育は、奈良時代から江戸末期まで中国の影響下にあったといっていよい。しかし、幕末明治維新期には、中国の伝統のなかでは日本は生き延びることができないとの認識がひろがった。それはなぜなのであろうか。

かくて、明治維新时期や第二次世界大戦後の日本の教育の再構築には、ヨーロッパとアメリカの影響が大きい。日本の現在の教育の淵源は、遠く古代のギリシャにまで遡ることができるかも知れない。そうした縦にも横にもひろがる教育の歴史を概観したものである。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 102

〈日本教育史〉

幕末から明治維新期の西洋に影響を受けた教育の構築を、教材によって詳細に学修すること。また、教育勅語の登場はなぜだったのか。天皇の教育に関する勅語は日本の教育をどのように規定したのであろうか、考えてみよう。

戦後日本の教育の再建も、アメリカの大きな影響下でおこなわれた。それは単に戦勝国の教育を模倣して受け入れたのかどのような経緯によってそのようなことになったのか。現在の学校を想起しながら考えてみよう。

ページ 103 ～ 230

〈西洋教育〉

現在の教育の比較的に近い源は、18世紀啓蒙時代の西洋の教育にありそうであるが、それは何故か。また、19世紀の公教育は、どのような経緯で先進諸国のなかに根付いていったのか。こどもを中心に教育を考えるとという思想は、現在でもいきているのか。これまた現実の教育、実際の学校を想起しながら考えてみよう。

■学修上の留意点

現在の教育の問題の淵源は、教育の歴史をどれほど辿ればたどり着くのか考えながら学修しよう。教育の歴史は、単にものごとを暗記し、年号を覚えればよいというものではない。自らの教育学のひろい教養となるように、あるいは教職教養の基礎となるように学修しよう。

■参考文献

教材の最後に掲げてあるので、参照のこと。

科目コード	科目名	単位数
T10500	発達と学習	2単位

教材コード 000420

教材名 『教職をめざす人のための教育心理学』

著者名等 藤田 主一・楠本 恭久

出版社名 福村出版

■教材の概要

本科目の教材は教職課程における勉学を念頭に執筆されたものである。タイトルには「教育心理学」とあるが、その内容は現教職科目である「発達と学習」に則しており、教員にとって必要とされる発達と学習に関する基礎知識が記されている。

■学修計画のポイント

ページ 23 ～ 62

2章～4章には発達に関する問題が記されている。特に2章は続く3,4章を体系的に理解するために欠かせない知見や理論があげられているので、その内容を全般的にしっかりと習得してほしい。教職科目であることを考えた場合、3章（乳幼児の発達）においてとりわけ重要な節が2節の認知機能の発達である。4章では青年期において抱える諸問題について、主に自我の発達という観点からとらえてほしい。

ページ 63 ～ 159

5章～11章は学習に関する問題が記されている。他の教職科目における内容との重複を考えた場合、本科目において特に重要な章は5,6,8,11章である。5章では古典的条件づけ, 道具的条件づけ, 試行錯誤説, また洞察説といった基本的な学習理論に関する知識を得てほしい。6章では学習の成果に大きな影響を及ぼす動機づけについて理解するとともに、具体的な指導法に関する知識を得ることも重要である。8章では3節, 4節を中心に学力と知能の関係を学んでほしい。11章で取り上げられる教育評価は近年議論されることが多い問題である。その議論を理解するために、まず評価方法の種類やその特性を知る必要があろう。

■学修上の留意点

本教材はあくまでも発達と学習に関わる問題を知る入門書に過ぎない。教育の現場では、より専門的かつ実践的な知識が求められることもある。本教材に掲載されている参考文献を足がかりにして自ら文献を探すということもしてほしい。

■参考文献

上記「学修上の留意点」の通り。

科目コード	科目名	単位数
T20100	教育の社会学	2単位

教材コード 000421

教材名 『教育社会学 教師教育テキストシリーズ5』

著者名等 久富 善之・長谷川 裕

出版社名 学文社

■教材の概要

本教材は、教育社会学の基本的な理論や概念、視点をコンパクトに伝える教科書であるが、同時に、各章は、現代の教育の特質や課題を、教育社会学の観点から分析・考察した論文集として読むことができるようになっている。

教材全体は難解なわけではないが、ところどころに難しい理論や概念が登場したり、込み入った論理展開の部分があったりする。だから、初学者が十分に理解するためには、線を引ながらの熟読や、くり返し読み返すことが必要である。

■学修計画のポイント

ページ 15 ～ 108

教育社会学はミクロな視点とマクロな視点とを併せ持った学問である。前半は、学校組織、カリキュラム、教師－生徒関係、教職、友人関係など、比較的小規模な視点から考察をスタートする議論が並んでいる。それぞれの著者の議論や主張を理解したうえで、身近な教育の経験や情報と照らし合わせてみれば、本教材はかなり有用な視点を提供してくれるであろう。

ページ 109 ～ 195

後半は、教育から仕事への移行、子育ての変化、階級・階層と教育、国民国家と教育改革など、比較的小規模な視点からの論考が並んでいる。そうしたマクロな視点からの議論をきちんと理解していけば、目の前の物事を違った角度からながめることができる。興味や関心に従って、関連する文献を読んでいくと、もっと理解が深まるはずである。

■学修上の留意点

- ① 教材をよく読み、理解する。線を引ながら読み、くり返し読んでみる。
- ② 教材を、現代社会におけるさまざまなニュースや、身近な経験と照らし合わせながら読んでみる。
- ③ 重要なことは、暗記ではなく、「なるほど」といレベルで理解することである。
- ④ 教材を読みながら考えること、思いつくことがあれば、欄外に書き付けておいて、読み返すとき、自分なりの考えをみせてください。

■参考文献

教材の章末に掲げてある文献のほか、次のようなものを挙げておきたい。

※『リーディングス 日本の教育と社会』（全10巻）（日本図書センター）

『教育には何ができないか』 広田照幸著（春秋社）

『教育不信と教育依存の時代』 広田照幸著（紀伊国屋書店）

『日本を滅ぼす教育論議』（講談社現代新書） 岡本薫著（講談社）

科目コード	科目名	単位数
T20200	教育制度論	2単位

教材コード 000285

教材名 教育制度論

著者名等 北野 秋男・金 泰勲・谷本 宗生・矢治 夕起

■教材の概要

本書は3部構成となっている。第1部は「学校と社会の教育制度」であり、現在の公立・私立の学校制度の組織と運営、社会教育や生涯学習のあり方や基本問題が検討されている。第2部は「日本と諸外国の教育制度」であり、戦後における我が国の教育制度、教育行政制度のあり方、ならびにアメリカやアジアの教育制度の実情を紹介している。第3部は、「人権と教育制度」であり、在日外国人の教育の在り方、我が国の女子教育制度の問題、そして、フリー・スクールや情報公開制度の問題が論じられている。

■学修計画のポイント

本書の課題は、主として私たちを取り巻く身近な教育制度のあり方や問題点を具体的に探りながら、教育の在り方を根本的に再検討することである。今や日本の教育の在り方は、たんなる制度的な改革だけでなく、私たちが長い間、信じて疑うことの無かった教育の基本的な理念が問われているのである。特に、臨教審以降の我が国の制度改革の基本動向を理解しながら、教育のあるべき姿を考えてみたい。

■学修上の留意点

- ① 教育の問題を制度的な視点でみることと、可能であれば、教育法規も確認すること。
- ② 臨教審以降の我が国の教育制度改革の基本動向を理解すること。
- ③ 我が国の教育制度の発展を歴史的な視点から理解すると同時に、海外の教育制度と比較する国際的な視点からも理解すること。
- ④ 在日外国人、ジェンダー、情報公開制度などにおける人権と教育制度の視点を理解すること。

■参考文献

『教育小六法』（学陽書房）

科目コード	科目名	単位数
T20300	国語科教育法Ⅰ	2単位

教材コード 000469

教材名 『新版 中学校・高等学校 国語科教育法』

著者名等 野地 潤家・湊 吉正

出版社名 おうふう

■教材の概要

本書は全十二章と教育実習に関する付章に加え、巻末の国語科関係法規資料とから構成されている。すなわち、第一章 新しい国語科教育、第二章 国語科教育の構造、第三章 国語科の指導課程、第四章 学習指導案の作成、第五章 ジャンル別教材研究と指導例（現代文）、第六章 同（古典）、第七章 言語教材研究と指導例（言語）、第八章 同（音声）、第九章 作文指導について、第十章 国語科における総合的な学習と指導例、第十一章 国語科指導の充実と活性化、第十二章 国語科教育の歴史、付章 教育実習の課題と留意点、付録 国語教育関係法規である。これらを①教育課程の意義、②その編成の方法について、③ジャンル別指導法、の三点に視点を捉えて読み解いて行く。そこから国語教育の基幹となる事柄を把握し、関連法規の求める時代や地域に根ざした国語教育像を追究して行くことである。

■学修計画のポイント

教育課程に占める国語科の位置づけについては、巻末の関連法規すなわち教育基本法、学校教育法、学習指導要領を念頭に置き、かつ照合しながら読み進めることが求められる。その編成については中学校、高等学校それぞれの特異性を考慮した配分に留意する必要がある。また、本書では指導法について多くの章を割いているが、これらをA話すこと・聞くこと、B書くこと、C読むことの各項に類別して、それぞれの指導法をジャンル別に捉えることもできる。

■学修上の留意点

読解に当たっては、座右に用語解説書を備え、不明な用語は検索し、ノートに取りながら読み進めることである。また、付章は第四章の延長上に位置づけられる。ここから、多様なジャンルの指導法を策定する際に、具体的な学習指導案を作成しながら取り組む方法が考えられる。また、目次とは別に注意される用語や項目についての語彙索引を作成することをお勧めする。

■参考文献

- 『国語科重要用語 300 の基礎知識』大槻和夫編（明治図書）
- 『国語教育を学ぶ人のために』糸井通浩、植山俊宏編（世界思想社）
- 『高等学校新教育課程の授業と評価』田中孝一編（学事出版）
- 『中学校学習指導要領』文部科学省
- 『高等学校学習指導要領』文部科学省

また、本書には8ページに亘って引用文献が明記されている。それら書目をリストアップして図書館などで当たることを心がけたい。

科目コード	科目名	単位数
T20400	国語科教育法Ⅱ	2単位

教材コード 000444

教材名 『新訂 国語科教育学の基礎』

著者名等 森田 信義・山元 隆春・山元 悦子・千々岩 弘一

出版社名 溪水社(広島)

■教材の概要

本教材の七章の構成は、第一章の国語科教育の意義・目標について、戦後の学習指導要領の変遷をもとに概観する。それら目標とする事柄が国語科における読む・書く・聞く・話すの4項目でどのように実践されるかを見るものである。第二章では「書く」ことの表現指導を明治期に遡って平成期までをたどる。第三章と第四章は「読む」ことの内容で、文学教材と論理的性格の文章とに分けられ、これらの基本となる書物について、第五章に読書教育が置かれている。第六章は話すことと聞くこと分野である。第七章は視点を変えて伝統的な言語文化と国語の特質に関して述べられる。これら各章の内容は、常に巻末にある最新の学習指導要領と照応しながら、学習指導における実践内容として捉えることが求められる。

■学修計画のポイント

ページ 74 ～ 277

三つの章を割いていることから分かるように「読む」教育の基本をしっかりと読み取りたい。三読法による基本的スタンスから、文学的文章の読解と論理的性格の文章の差異を捉えよう。文学的文章からは宮沢賢治『やまなし』に見られる擬声語・擬態語の事柄、新美南吉『ごんぎつね』からは、一文ごとの記述内容の余白にある動きに目を向けさせるなど具体的事柄が検証される。説明的文章では評価読みと確認読みの内容を把握したい。また、ブックトークの取り組みからは「話す・聞く」分野にもまたがる。発表を「聞く」ことに於ても受容的・創造的・批判的と、異なる角度からのアプローチがあることなど確認したい。

ページ 1 ～ 73・278 ～ 323

表現（書くこと）教育の研究は、指導要録の変遷が端的にたどれる分野で、改訂の度に重点項目とされる分野でもある。生活綴り方から始まる「すなおに書く・ありのままに書く」内容が、「自分の考えを持ち、論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力」と、より深化した形で提示され、それらは「伝え合う力を高める」態度の養成とも重なっている。これら「書く」ことについては、第七章「書写指導」の実際とも併せて捉えることができる。新時代に対応したリテラシーとも重ね合わせ、漢字使用の変化に関する現代の環境についても考えてみたい。

■学修上の留意点

指導要録の変遷をたどる中から、改訂の基本方針にみられる改善の具体的事項を当てはめてみたい。そこから各項目に求められる、新時代に対応した国語教育の指針が見えて来る筈である。その視点から国語科が求められている内容を考えてみよう。

■参考文献

- 『文章心理学』波多野完治著（三省堂）
- 『国語教育と現代児童文学の間』宮川健郎著（日本書籍）
- 『読書生活指導の実際』大村はま著（共文社）
- 『話しことばの科学』斎藤美津子著（サイマル出版）
- 『中学校学習指導要領』文部科学省
- 『高等学校学習指導要領』文部科学省

科目コード	科目名	単位数
T20500	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	2単位

教材コード 000221

教材名 社会科・地理歴史科教育法Ⅰ

著者名等 山本 哲生

■教材の概要

社会科教育に焦点を当てた教材であり、地理歴史科教育にとって前提ともなり、基礎ともなる教材として位置づけたものである。内容は大別して社会科の性格（第一・二・三章）とその教育実践にかかわる知識と技能（第四章）及び社会科教師の資質（第五章）に分かれる。まず性格面では、戦後教育に登場した社会科の役割、50余年間の変遷、そして目標と内容（主として地理的、歴史的分野）について叙べた。次に教育実践面では、原理と技能に関することを叙べ、教師の資質では、肝要点を指摘し叙述した。

■学修計画のポイント

第一章については、社会科成立の経緯と役割（とくに第5節）について学修する。第二章については、とくに問題解決的学習期と系統的学習期の確立について把握する。第三章については、平成10年版「中学校学習指導要領」に表記された社会科の目標と地理的、歴史的分野の目標と内容の概要を把握する。第四章では、主として「学習指導」と「授業と教師」の内容を学修する。第五章では、社会科教師と今日の課題について要点把握をする。

■学修上の留意点

- ① 第一章では、前提として、日本国憲法の三原則、教育基本法理念、目的について明確に理解しておくこと。
- ② 第三章は、社会科の公民的分野、それに地理歴史科の目標・内容にかかわりがあるので、その面にも着眼しておくこと。
- ③ 第四章では、授業において「学習指導案」を作成することが大事なので、展開例の要領を把握しておくこと。
- ④ 第五章では、教師として現代社会の特質に敏感な認識をもち、問題点を把握しておくこと。

■参考文献

- 『中学校学習指導要領解説 社会編（文部科学省）』（日本文教出版）
『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編（文部科学省）』（実教出版）
『中学校社会科授業のり・デザイン』長谷川浩・工藤文三監修（東洋館出版社）

科目コード	科目名	単位数
T20600	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	2単位

教材コード 000388

教材名 社会科・地理歴史科教育法Ⅱ

著者名等 永野 征男・関 幸彦

■教材の概要

この教科書では前半が「地理」、後半に「歴史」分野がまとめられている。“はしがき”の部分に記されているように、一つの教科教育法の視点を分かりやすく概観した教材である。高校地歴科として、実際の授業で講述するときに注意すべき事象が中心となっている。高校教科書では、地理・日本史・世界史が含まれ、さらにそれぞれはA／Bに区分される。地理分野は、地域を捉える際の地理学的な考え方と見方に重点を置き、他の社会科系の科目との相違点（地理の特徴）を意識して書かれている。一方、歴史分野では、教科書を土台として、そこから発展的な学修が可能のように、日本史・世界史相互の接点を軸にまとめている。さらに、両者は互いに密接な関係を保ちつつ成り立っていることを、整理できるような配慮がとられている。

■学修計画のポイント

〈地理分野〉

世界やわが国に生起する地域現象を理解するとき、地理的な洞察力を身につけることの大切さを学ばせたい。そのためには、まず教師側がどの部分に焦点を合わせて、教案を作成すれば良いだろうか。事前学習における総論的な知識の吸収と、具体的な事象の選択の重要性を会得したい。

〈歴史分野〉

単に歴史的な事象を暗記するのではなく、歴史から読み取れるものを考えてほしい。つまり、知識から知恵への転換を目標に置きたい。それと同時に、昨今話題となっている学際的にさまざまな分野を総合する見方にも注目し、基礎的な知識を押さえつつ、新たな方向性も見出したい。

■学修上の留意点

まず、教科書に記載された内容の理解に努めること。その上で、関連する隣接分野をも含めた学修に進んで欲しい。

■参考文献

各章の終わりの部分に代表的な数冊が示してある。

また、巻末に『高等学校学習指導要領』を掲載している。

科目コード	科目名	単位数
T20700	社会科・公民科教育法Ⅰ	2単位

教材コード 000290

教材名 社会科・公民科教育法Ⅰ

著者名等 山本 哲生

■教材の概要

社会科教育を主たる対象にして述べたが、叙述意識には、取り上げた社会科の目標、内容、そして方法等は、枠組み、程度に、基礎と専門という差はあるものの、公民科教育との関連性が強く、両者には共有部分が多々あるとする認識に立って叙述した。そのような観点から、第1章では両者が究極の目標として共有する公民（的）資質に関して理解しておくべき事柄を取り上げた。第2章、第3章では、その資質の育成に係る社会科教育の歴史と現在の指標について述べ、高校公民科の目標も併記した。第4章は、教育実践に係る原理や技術を述べ、公民科の内容も含めた。第5章は、社会科教師の資質であり、それは公民科教師にもあてはまる。

■学修計画のポイント

- ① 第1章では、公民に関する歴史的な概念（教育史上）と学習指導要領に見られる公民像や公民概念上のキー・ワードを押さえ、各自が公民的資質のイメージを造っておくこと。
- ② 第2章では、社会科発足以降50有余年、社会科の性格に関し歴史的変化を総括的に把握する、特に問題解決の学習、系統的学習、課題学習について理解する。
- ③ 第3章では、現行「中学校学習指導要領」に示されている社会科の目標、三分野の目標、（中でも特に公民的分野に重点をおく）を理解する。また、高校公民科の目標も知っておくこと。
- ④ 第4章では、1つは、社会科の三分野の内容について大項目、中項目を押さえること。そして特に公民的分野については概要を把握すること。高校公民科・三科目の内容についても概略を知っておくこと。もう1つは、学習指導に関する必要事項と学習指導案について知っておくこと。
- ⑤ 第5章では、社会科教師の資質及び今日の課題とするところを押さえておく。同様なことは、公民科教師にとってもいえる。

■学修上の留意点

- ① 本テキストの巻末にある各章の学習ポイントに沿って学修することも、やり方の一つである。
- ② 本テキストは基本的に社会科に関する知識、原理について叙述したものである。理解をさらに補充する意味で、社会科の内容に関する事例研究や授業の実践報告等を発表した図書を見ることをすすめる。

■参考文献

『中学校学習指導要領解説 社会編（文部科学省）』（日本文教出版）

『高等学校学習指導要領解説 公民編（文部科学省）』（実教出版）

その他、社会科に関する事例研究の図書は参考になる。書店で入手しやすい図書なら何でも可。

科目コード	科目名	単位数
T20800	社会科・公民科教育法Ⅱ	2単位

教材コード 000278

教材名 社会科・公民科教育法Ⅱ

著者名等 嘉吉 純夫・大塚 友美・武縄 卓雄・仲川 秀樹・松島 雪江

■教材の概要

新学習指導要領に基づき、高等学校学習指導要領解説（文部科学省）公民編を参照しながら、「現代社会」「倫理」「政治・経済」の各教科の教授法を提言した新しいテキスト。公民科各科目の共通の目標である「広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方や生き方についての自覚を育て、民主的、平和的な国家・社会の有意な形成者として必要な公民としての資質を養う」ために必要な心得を記した手引きの書。

■学修計画のポイント

学修者自身が公民科の教師として教壇に立った時を想定してテキストを読み進めること。その際、まずは文部科学省が期待している教育的効果をしっかり押さえることが肝要である。次には、本テキストの各執筆者が提言している諸々のアドバイスを自分自身の観点から吟味しつつ消化・吸収することが求められる。そして最後に、自分自身が理想とする授業を実現するためにはどうしたらいいのかを考え、それを「現代社会」「倫理」「政治・経済」の各教科毎にまとめる作業を行う。

■学修上の留意点

何よりも、自分が現場の教師になったつもりで、生徒を育てるにはどうすればいいかを常に念頭に置きながら考究することが大切である。

■参考文献

色々あり、あげると切りがないが、差しあたって、『高等学校学習指導要領』と実際に使用されている各社教科書を手に入れ、目を通しておくこと（高等学校「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」）。

科目コード	科目名	単位数
T20900	英語科教育法Ⅰ	2単位

教材コード 000257

教材名 英語科教育法Ⅰ

著者名等 田室 邦彦

■教材の概要

主として中等教育における、英語教育に関わる法的な枠組みを紹介し、その意味を検討している。ここで法的枠組みとしているのは、学校教育法、学校教育法施行規則、教育職員免許法、教育職員免許法施行規則、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、小学校学習指導要領、大学設置基準、中央教育審議会答申、教育課程審議会答申、教育職員養成審議会答申、などである。

■学修計画のポイント

特になし。

■学修上の留意点

「教材の概要」で言及した法的な枠組みの意味は、どのような部分に焦点を当てたか、そこで問題としている部分そのもの、それを含む文脈、その背後にある法的な枠組みや答申などをどう読むかによって、それぞれ異なるべきものである。本書の意味づけは、あくまで一つの意味づけに過ぎない。本書が教科書であるとするなら、それは読む方々が自分の意見を形成するためのたたき台としてである。本書の解釈は devil's advocate の言説として読んでいただいて結構である。もちろんここでの devil's advocate の意味は、ある英和辞書に記されている「故意に反対の立場をとる人、つむじ曲がり、あまのじゃく；悪口屋」という訳語から受け取られかねない、好んで異を立てる人の意味ではない。devil's advocate n. 1 a person who argues against a proposition, to test it or provoke discussion. [COD] の意味である。もちろん、そうはいつでも著者の意味づけの態度は、devil's advocate の英語の意味より訳語の意味に近いじゃないか、とするのも一つの見解である。いずれにしても、それを利して、自分の意見を形成していただくことを重要な点と考えている。

■参考文献

法的な枠組みに関わる資料として上に記したものは、いずれもインターネット上で入手できる。最大の入手先は文部科学省のサイト (<http://www.mext.go.jp/>) である。

『中学校学習指導要領』文部科学省

『高等学校学習指導要領』文部科学省 ほか

科目コード	科目名	単位数
T21000	英語科教育法Ⅱ	2単位

教材コード 000490

教材名 『新しい時代の英語科教育の基礎と実践』

著者名等 JACET 教育問題研究会

出版社名 三修社

■教材の概要

本書は3部構成で第1部論理編、第2部実践編Ⅰ、第3部実践編Ⅱ—授業計画と実践—から成る。第1部は日本の英語教育とその教育課程及び英語教師に必要な教師論等、実践背景の理論として必要な要領がまとめられている。

第2部では音声、文字、語彙や辞書指導及び4 skills 指導の実践論が扱われている。第3部では実践指導に入るための授業計画や環境等の取り巻きをどう設定するか、また模擬授業や教育実習に絡めた指導などにも触れている。本書は中等教育の英語教師を目指すものが、その基礎を確立し実践に臨むためのステップとしての範囲でまとめているが、資料編が掲載されている点必携書にも成り得るものである。更に専門を極める者は他と比較することが大事であるが、これと統合することでより良い英語教師像が見えてくるものと確信する。

■学修計画のポイント

理論をまず踏まえ、実践指導をどう捉えるかを考えることが大事である。具体的に実践指導を構築するために、それぞれの理論をどう関連付ければ良いのかを考え自分なりの授業を展開する布石となるよう学修計画を立てていくこと。

■学修上の留意点

日本の英語教育及び変遷・第2言語習得論・教授法・英語教育に関連する専門用語のそれぞれを理解すること。

■参考文献

本書中に挙げられている索引や引用文献等を適宜参照し必要なものを入手すること。また、学習指導要領等については文部科学省のガイドでも入手できる。

『中学校学習指導要領』文部科学省

『高等学校学習指導要領』文部科学省

科目コード	科目名	単位数
T21100	商業科教育法Ⅰ	2単位

教材コード 000470

教材名 『高等学校学習指導要領解説 商業編』

著者名等 文部科学省

出版社名 実教出版

■教材の概要

平成21年に改訂された高等学校学習指導要領は先行実施する一部を除き、平成25年度の入学生から学年進行により実施される。この学習指導要領の第3章第3節「商業」について、本教材は、その改善の趣旨並びに内容を解説したものである。

教材は改訂の趣旨、商業科の目標、商業科の科目編成、商業科の各科目（20科目の各科目の目標、内容とその取扱い）、教育課程の編成と指導計画の作成という構成になっている。

■学修計画のポイント

1. 総説の理解

- ① 学習指導要領の改訂の経緯や趣旨、要点などを簡潔にまとめ理解する。
- ② 商業の各科目相互の指導を通して商業科の目標の達成を目指していることなどを理解する。
- ③ 20科目の位置付けや各分野において育てる能力を理解する。

2. 商業科の各科目の目標及び内容とその取扱いの理解

商業の各分野に関する教育内容全般にわたっての基礎的な科目としての「ビジネス基礎」をはじめとして、総合的科目に属する3科目、マーケティング分野に属する3科目、ビジネス経済分野に属する3科目、会計分野に属する5科目、ビジネス情報分野に属する5科目の計20科目について、その目標、内容の構成及び取扱い、そしてその内容を十分に理解する。

3. 教育課程の編成と指導計画の作成の理解

- ① 教育課程を編成する上で十分な理解が必要となる教育課程編成の一般方針、各教科・科目及び単位数等、各教科・科目の履修等、各教科・科目等の授業時数等、教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項については、特に適正な理解を深めておくことが大切である。
- ② 指導計画の作成に当たっての配慮事項、各科目の指導に当たっての配慮事項、実験・実習の実施に当たっての配慮事項を理解する。

■学修上の留意点

各科目の指導法や教育課程の編成については、学修計画のポイントで示した事項を踏まえて考察し、実際の指導法や教育課程の編成例を自らが検討（作成）していただくことが大切である。この検討（各科目の指導法や教育課程の編成法）により、教師としての実践力が養われていく。その際、商業科教育法Ⅱの教材である『教職必修 最新商業科教育法 新訂版』の該当箇所なども参考にするとよい。

■参考文献

- 『高等学校学習指導要領』文部科学省（東山書房）
『最新商業科教育法』新訂版 日本商業教育学会（実教出版）
商業科目の教科書（ビジネス基礎、簿記、情報処理など）

科目コード	科目名	単位数
T21200	商業科教育法Ⅱ	2単位

教材コード 000472

教材名 『教職必修 最新商業科教育法 新訂版』

著者名等 日本商業教育学会

出版社名 実教出版

■教材の概要

商業教育の必要性や意義の理解の上に、わが国の商業教育の歩みや高等学校学習指導要領に基づく教科「商業」についての広範囲な知識などを学び、これらを基に指導計画の作成や授業展開についての知識・技術に関する学修へと、その学びが進められるように項目の配列がなされている。そして、その後、現在の学校運営上欠かすことのできない項目についての学修を深め、商業教育における課題と展望について考察するという内容などで構成されている。

■学修計画のポイント

ページ 7 ～ 147

高等学校学習指導要領に基づく教科「商業」についての広範囲な知識を習得する。

- ① 商業教育の必要性と意義及び高等学校学習指導要領の教科「商業」の変遷についての理解を深める。
- ② 平成 21 年改訂の高等学校学習指導要領の教科「商業」について、必要な内容の理解を深める。
- ③ 指導計画と授業展開に関する知識や技術の理解を深める。

ページ 148 ～ 204

現在の学校運営上に欠かすことのできない項目についての理解を深める。

- ① 商業教育を通じて育成したい生徒像、商業教育と特別活動・生徒指導・進路指導・キャリア教育などについての理解を深める。
 - ② 商業科教師への期待、商業教育の課題と展望について考察する。
- なお、ページ 182 ～ 204 までは資料集であり、学修の進度に応じ参考にすること。

■学修上の留意点

- ① 商業教育の必要性や意義を理解した上で学修を進める。
- ② 高等学校学習指導要領の教科「商業」についての変遷を理解する。特に、各改訂の背景を踏まえて各時代の学習指導要領の特徴の他、教材に記されている項目ごとの内容の理解を深める。
- ③ 学修計画ポイントを踏まえて、具体的な教科の指導法について十分に検討することが大切である。特に、学習指導案の作成や実際授業を行う上での知識や技術について、十分理解を深めておくことが重要である。
- ④ 学修計画のポイントの③などを踏まえて、教育課程の意義や編成などについても十分に理解を深めておくことが大切である。その際、商業科教育法Ⅰの教材である『高等学校学習指導要領解説 商業編』の該当箇所などを参考にするとよい。

■参考文献

『高等学校学習指導要領』文部科学省（東山書房）
『高等学校学習指導要領解説・商業編』文部科学省（実教出版）
商業科目の教科書（ビジネス基礎、簿記、情報処理など）

科目コード	科目名	単位数
T21300	道徳教育の理論と方法	2単位

教材コード 000543

教材名 『道徳教育の理論と方法』

(学修指導書別冊)

著者名等 羽田 積男・関川 悦雄 編

出版社名 弘文堂

■教材の概要

本教材の内容はおよそ次の4分野で構成される。第1の分野は、道徳とは何か、その道徳は教えられるか、徳目主義の授業の是非はどうか、次いで小・中学校から高等学校へ接続する道徳教育の中で、児童・生徒の道徳性が各段階でどう把握され得て、いかに育まれていくかである。第2の分野は、道徳教育の現状と課題を把握するために、日本における戦前の修身科と戦後の特設道徳などを通じての道徳教育の政策や実施などを概観する。第3の分野は、今日の学校における道徳教育の目標・内容・全体計画、その道徳教育の要となる道徳科の目標・内容・内容の取扱い、さらに道徳科と他の教育活動との関係を明らかにする。第4の分野は、道徳科の指導計画・指導方法・指導案の作成とその事例、道徳科における評価の問題、そして「私たちの道徳」教材の活用や新しい道徳科に見合った授業スタイルを扱う。

■学修計画のポイント

ページ1～104

ここで学修すべきポイントの一つは、「道徳とは何か」や「道徳教育の歴史をどうとらえるか」と、皆さんが予備的に考えるべき道徳の課題についてである。もう一つは、学校教育における学校種別の道徳性の発達の段階や、道徳教育の目標・内容・全体計画と道徳科のそれらとの関係についてである。

ページ105～182

ここで学修すべきポイントの一つは、道徳科という授業の目標・内容・内容の取扱い、道徳科の指導計画と実際の指導についてである。もう一つは、道徳科の新設に伴う新しい道徳授業の模索についてである。

■学修上の留意点

- ① 道徳の定義、道徳教育の歴史、道徳性の発達、今日の学校における道徳教育の目標・内容・全体計画を整理する。
- ② 道徳科と他の教育活動との関係や道徳科の目標・内容・内容の取扱い、道徳科の指導計画と実際の指導、新しい道徳授業スタイルをまとめる。

■参考文献

- 『道徳教育の可能性—徳は教えられるか』（小笠原道雄他共編・福村出版・2012年）
 『私たちの道徳—中学校』（文科省・廣済堂あかつき・2014年）
 『中学校学習指導要領』文部科学省

科目コード	科目名	単位数
T21500	特別活動論	2単位

教材コード 000443

教材名 『最新 特別活動の研究』

著者名等 関川 悦雄

出版社名 啓明出版

■教材の概要

本教材は、まず、今日学校の課外活動として行われている特別活動が教育課程の中でどのように位置づけられ、青年期の人間形成においていかなる意味をもつか、その特別活動が戦前どう取り扱われ、戦後いかなる過程を経て成立したか、について考察している。そして、現在の学校教育の中で展開されている特別活動がどのような目標をもっているか、個別の活動分野として、学級・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事がどういうものかを叙述している。

■学修計画のポイント

ページ 7 ～ 74

教育課程とは何を意味し、その領域がどこまで広がるか、その領域の中に課外活動を含めるべきか。この観点から、戦前の課外活動が、戦後どうしてその為の時間をもち得たか、その活動の指針として学習指導要領をいかに準備したかを見よう。

ページ 75 ～ 157

現行の学習指導要領とは何か、その中で特別活動の目標はどう規定されているか。その活動分野として、学級・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事のそれぞれの目標・内容・内容の取扱いはどうなっているかを考えよう。

■学修上の留意点

- ① 課外活動の教育課程化の意味とその条件は何か。
- ② 自由研究の新設、特別教育活動への移行、特別活動の成立。
- ③ 2008年改訂の中学校学習指導要領の改訂点と特別活動の目標、学級活動の目標と内容・その取扱い。
- ④ 中学校の生徒会活動・学校行事、高等学校のホームルーム活動の各目標と内容・その取扱い。

■参考文献

- 『中学校学習指導要領特別活動編』文部科学省（ぎょうせい）
『中学校教育課程講座特別活動』渡部邦雄編著（ぎょうせい）
『高等学校新学習指導要領の展開特別活動編』山口満編著（明治図書）

科目コード	科目名	単位数
T21700	教育の方法・技術論	2単位

教材コード 000341

教材名 教育の方法・技術論

著者名等 壽福 隆人

■教材の概要

この教材は現代教育の現状を考えるにあたって、その前提となる教育方法・教授論のあゆみについてまず整理している。さらに学習指導要領とカリキュラムについての基礎的概念を理解できるようにまとめている。これらをふまえて、後半では実際の授業づくりに必要な教育の技術をさまざまな角度から解説している。学習指導案を作成し、授業を行い、教育評価を行っていけるよう、教育実践を強く意識した構成となっている。

■学修計画のポイント

まず本教材の前半部分を熟読することが重要です。第1章から第3章で、教育方法学の歴史を追いながら、理論的発達の過程と、カリキュラムの概念をしっかりとらえるよう務める必要がある。この中で、わが国に紹介された教育方法や教授論上の課題も見出すことができる。

後半の第4章からは前半で学んだ理論を実践に生かすという観点が求められる。したがって前半で学んだ理論を実践に生かすという観点が求められる。したがって前半で学んだ理論と後半で示されている実践技術とのかかわりを意識しながら学修することが重要である。

■学修上の留意点

本教材の記述をそのままレポートとして書き写すようなことがあってはならない。教育方法学の歴史的発展や現状の学校教育に見られる諸問題にも加味しながら、自分の言葉でまとめるよう努力することが求められる。

■参考文献

『中学校学習指導要領 解説 社会編（文部科学省）』（日本文教出版）

『高等学校学習指導要領 解説 公民編（文部科学省）』（実教出版）

科目コード	科目名	単位数
T21800	地理学概論	4 単位

※この科目は文理学部哲学専攻・史学専攻のみ配当です。

教材コード 000529

教材名 『マッシュューズ&ハーバート 地理学のすすめ』 (学修指導書別冊)

著者名等 森島 済・赤坂 郁美・羽田 麻美・両角 政彦 共訳

出版社名 丸善出版

■教材の概要

本書は、地理学の本質とその意義に迫る重要な視点と論点を数多く提供し、自然地理学分野と人文地理学分野をバランスよくまとめながら、地理学全体の特徴と「統合地理学」に可能性を見出している。地理学には、地形、植生、土壌、気候変動など自然の実体としての地球表面を研究対象とする自然地理学と、地球表面に居住する人々やその移動、居住地、彼らの認知、土地利用、資源、空間のあり様などを研究対象とする人文地理学とがある。その強みはこの二元性から生み出されており、自然と社会を捉える架け橋として機能する点にある。本書はそれぞれの分野の専門家によって書き下ろされ、拡大する地理学の魅力が具体例を交えながらまとめられている。

■学修計画のポイント

本書の内容は、6つに分けることができる。学修計画を立てる際には、まず下記①を通読した上で、各自の関心にしたがって各章を読み進めると理解力が高まる。①「地理学—世界が舞台」は、地理学とは何か？という根本的な問いに対するひとつの回答である。②「自然的側面—我々の自然環境」は、自然環境科学としての自然地理学の見方について複数の空間スケール等から紹介するものである。③「人文的側面—場所の中の人間」は、人文地理学の研究方法とその劇的な変化の過程をまとめている。④「全体としての地理学—共通基盤」は、地理学としての共通基盤を探索し提示するものである。⑤「地理学者の研究法」は、地理学に必要な技能、道具、社会貢献の方向性を示したものである。⑥「地理学の現在と将来」は、統一的学問としての地理学の立脚点と多様化や継続的变化の下での意義について検討している。とくに、上記⑥は地理学の将来的展望について述べており重要度が高い。

■学修上の留意点

本書に掲載された「コラム」には、地理学の本質を理解する上で重要なキーワードの説明が詳しく行われている。巻末の文献や索引も参照しながら、本書の内容について事典等で調べるなど、学修を進めることが求められる。図・表・写真については略記されている箇所もあることから、原典にあたると一層理解を深めることができる。参考文献に挙げた上野ほか（2015）は人文地理学分野に関して、また水野（2015）は自然地理学分野に関する入門書であり、より深く地理学を学ぶ上で有用な文献となる。

■参考文献

『地理学概論（第2版）』上野和彦・椿真智子・中村康子編（朝倉書店、2015年）

『自然のしくみがわかる地理学入門』水野一晴（ベレ出版、2015年）

科目コード	科目名	単位数
T21900	地誌学	4単位
T22000	地誌学概論	4単位
T22100	地理学概論（地誌を含む）	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード 000557

教材名 地誌学／地誌学概論／地理学概論（地誌を含む）

著者名等 永野 征男・羽田 麻美

■教材の概要

本教材は、世界を「地誌的な視点」から捉えることを目標にしている。その際に、全世界を網羅すると概観的な内容に終始し、学術的な見方がぼやけてしまう。そこで世界における日本の立ち位置を知ingことを重点に、最も関係が深いアメリカ合衆国を事例として、日米関係をグローバルに考える構成となっている。“合衆国が見えると日本が見えてくる”ことを目指して、文化・社会・経済・政治・民族といった地誌学の主要な課題を、具体的な事象を軸に、多くの資料を駆使しながら解き明かしていく。

■学修計画のポイント

第1章～第3章

国／地域を知るとは、そこに居住し生活する国民をまず知ることである。日本のように単一民族からなる国と異なり、合衆国は世界を代表する“多民族国家”である。国家成立からの歴史が浅いこの国は、歴史的な視点からの分析が容易である。事例としての「地名」分析では、各地の地域事情が鮮明に読解でき、また先住民の歴史や日本人の移住の経緯は、地誌と歴史を合体させる好例となる。

第4章～第5章

今後の合衆国の動向を、人種・宗教・教育面から考える構成になっている。先進国である合衆国が抱える大きな問題は、非英語圏からの不法流入者の問題である。つまり急増するスペイン語系の人たち、また、反文明を掲げる特殊な白人もいる。大国で自らの文化を維持できる基礎は何であろうか。一方、この国の高等教育が、最近の日本に多大な影響を及ぼす実態を解説している。

第6章～第8章

日米両国の「産業」について比較している。主として“農・工業”を軸に、貿易上の主要な課題であるコメの輸出入の現状から農業全般を考える。工業面からは、巨大な製造業の航空機製造を取りあげ、日米の強い協業関係に注目する。さらに産業のコメとまで評される半導体生産の急速な動きに、両国の最先端技術力を比べている。

第9章

地誌学の範疇で文化を語ることは非常に難しい。しかし、その国の文化は地域社会の理解にとって最重要課題であると考え、あえて「メディア」を取りあげた。幸いに全世界が注目するエンターテインメント王国が各国に展開する経緯から、単一企業の分析を通して、文化を醸成するメディア部門の盛衰に地域特性を絡めながら解説している。

■学修上の留意点

- ① 日米関係を通じて、つねに背後に横たわる全世界の動向に注目すること。
- ② 国家間の比較・対比が、単なる類例の学習に終わることが無いように注意すること。
- ③ 地域諸相を創り出す根源が、人間社会にあることを全章から学ぶこと。
- ④ さまざまな地域事象を見る際に、他の学問領域と比べ地誌的視点の特異性は何か。

■参考文献

教材の各章の末尾には、入手しやすい文庫本から学術専門書まで、複数冊を呈示してある。日本国内の刊行本が主であるが、課題ごとの著名な海外刊行物も併せ掲載した。

科目コード	科目名	単位数
T22200	人文地理学概論	4単位

※この科目は法学部・文理学部史学専攻・経済学部のみ配当です。

教材コード 000422

教材名 人文地理学概論

(学修指導書別冊)

著者名等 永野 征男

■教材の概要

人文地理学の研究対象地域の中から都市地域を取り上げて、多くの学問領域が研究している都市社会を、地理学的な視点で分析している。したがって、各地域に生起する様々な人文現象を、地理的な手法を用いて分析調査する意義と特徴を学んで欲しい。

とくに本書の最大の特徴は、日常の都市生活の中で、市民として関わる多くの法的規制を、都市の急速な変容と併せて解説している点にある。つまり、都市社会の変容過程には多くの法律がこれまでも関与してきた。それらの内容の理解としては、具体的な多くの地域調査例をもつ地理学が、もっとも有効であると考えるところから出発している。

■学修計画のポイント

ページ 1～66

都市社会を地理的な視点から分析する概要が述べられている。とくに本文中にも記されているように、わが国の都市の最大の特徴はその歴史性にある。学術的な歴史的要素の理解の上に立って、いま伝統的な都市が置かれている状況を、保存・保全という立場から説明している点に特色がある。

ページ 67～150

都市化現象の地理的な分野からの分析に中心がある。なかでも、科学的にこの世界的な現象を調査した結果から、都市間の比較と特徴的な事象の解説に新記述がある。さらに、日本国内で問題となる地域開発の法理論的な解説が、具体的な事例とともに理解できるように構成されている。

■学修上の留意点

本書に付帯する「学習指導書」がすべてである。その内容を本文と併せて理解することが重要である。

■参考文献

各章の末尾に、単行本を中心として多くの学術論文を掲げてある。その部分を参考として欲しい。

科目コード	科 目 名	単位数
T22300	自然地理学概論	4 単位

※この科目は法学部・文理学部史学専攻・経済学部のみ配当です。

教材コード 000236

教 材 名 自然地理学概論

著 者 名 等 小元 久仁夫・前島 郁雄・松井 健・立石 友男

■教材の概要

自然地理学において、もっとも基本的な要素である地形・気候・土壌・植生について学ぶ。自然環境は人類の生活や生産の舞台である。したがって世界各地の自然環境の構成要素や、その特徴について学ぶことはきわめて意義のあることであり、重要である。本書は自然環境の構成要素である地形・気候・土壌・植生についてグローバルな視点からとらえるとともに、地域的な観点からも理解を深めるような内容となっている。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 164

1 ～ 81 ページ

地球内部から働く営力により形成される火山地形および変動地形と、地表に直接働きかける営力により形成される風化と流水による地形・海岸地形・氷河および氷床により形成される地形について、その特徴を学ぶ。

83 ～ 164 ページ

はじめに気候学の歴史と分野を学ぶ。次いで大気中のエネルギーと気候との関係を学修する。気候要素の中で重要な気温・風・降水について、分布の特徴や原因と、人間との関わり合いと気候区分について学ぶ。

ページ 165 ～ 349

165 ～ 260 ページ

土壌地理学の発達史と方法論（野外調査法を含む）について学び、次いで土壌の生成や分類方法を学ぶ。そして世界各国に分布する各種の特徴や気候および植生との関係を学修する。

261 ～ 349 ページ

植生のさまざまな区分法について学び、日本や世界の植生分布について学修する。また日本と世界の森林帯の特徴と人間の関わり合いについて学ぶ。

■学修上の留意点

- ① 地形形成営力と世界各地でみられる地形の特色。
- ② 気候要素と気候因子。世界の気候帯の分布と特色。
- ③ 世界の土壌の特徴。土壌の成因・区分・分布。
- ④ 植物帯の特徴・区分・分布。気候や土壌との関係。

■参考文献

- 『発達史地形学』貝塚爽平他著（東京大学出版会）
『一般気象学（第2版）』小倉義光著（東京大学出版会）
※『大学テキスト土壌地理学』浅海重夫著（古今書院）
※『景観の分析と保護のための地生態学入門』横山秀司編（古今書院）

科目コード	科目名	単位数
T22400	漢字書法	2単位

※この科目は文理学部文学専攻（国文学）のみ配当です。

教材コード 000237／000238 配本申請時セットコード200002

教材名 漢字書法手本／漢字書法教本（学修指導書） ※2冊組み

著者名等 津金 孝邦

■教材の概要

テキストは書写を指導する知識・技術を養い、とりわけ「漢字書法」の基礎を手本と教本の2冊によって学べるようにできている。この2冊をペアで使用するによって、実技学習も学習意義を理解できるように配慮されている。つまり教本の内容を確認しながら、手本の技法を身につけることで、知識と実技が同時に修得できる仕組みになっている。詳しくは、テキストの「学習のはじめに」および「学習方法」に記してあるので、参照の上学習効果を高めてほしいと思う。なお、本書では「漢字書法」を中国の書跡・作家を通じて学ぶが、日本の漢字作品やかなについても参考文献を通じて、補ってほしい。

■学修計画のポイント

〈手本〉 ページ1～3

手本の書の定義を理解し、臨書、書道の用具や用筆法など、書の基礎とされることをよく読んで、書写で必要となる「楷書」「行書」を丁寧にゆっくりと練習すること。文字の形だけではなく、文字の大きさや紙面の配置などにも注意して学ぶこと。

〈手本〉 ページ4～6, 15～18 〈教本〉 24～33

初唐の三大家の欧陽詢「九成宮醴泉銘」、及び虞世南「孔子廟堂碑」によって、楷書の基本を学ぶ。手本に記される概説や学び方を踏まえて学ぶことで理解を深める。また、教本では、三国時代の楷書の萌芽、および鍾繇の書美に注目したい。六朝時代は龍門に代表される力強い楷書が特徴的である。唐時代は初唐の三大家に続き、顔真卿など、楷書の名跡が紹介されるので、楷書の成り立ちとともに学習すること。

〈手本〉 ページ6～9, 19～30 〈教本〉 ページ19～23

書聖・王羲之の「蘭亭序」、及び「集字聖教序」によって、行書の基本を学ぶ。手本に記される概説や学び方を踏まえて実技を学ぶことで理解を深める。また、教本では六朝時代の王羲之を通して行書の特徴や成り立ちについても学習したい。

〈教本〉 ページ1～18

文字の発生、成り立ちについて、甲骨文字・金文・大篆・小篆について記される。漢時代は木簡・竹簡、石碑などに記された隸書（古隸・八分）について概観できる。これらの篆書・隸書の成立の過程を学ぶことで、漢字の成り立ちについて理解を深めることができる。

〈手本〉 ページ31～44 〈教本〉 ページ34～59

宋時代以降の書跡や書家を学ぶことによって、楷書や行書だけでなく、書を制作する技法や書を鑑賞する見方を養うことができる。

■学修上の留意点

書の定義、書の用具・用筆法を理解した上で、楷書・行書の成り立ちや特徴、技法を学ぶこと。テキストを通して中国書道史を概観し、かなの成り立ちについて調べることも重要である。

■参考文献

- 『書の古典と理論』全国書道学会編（光村図書、2013）
- 『書道講座』新装版 第1～7巻（二玄社、2009～2010）
- 『書道テキスト』（大東文化大学書道研究所、2006～2011）
- 『書の総合事典』（柏書房、2010）

科目コード	科目名	単位数
T22500	かな書法	2単位

※この科目は文理学部文学専攻（国文学）のみ配当です。

教材コード 000239／000240 配本申請時セットコード200003

教材名 かな書法手本／かな書法教本（学修指導書） ※2冊組み

著者名等 藤木 正次

■教材の概要

テキストは書写を指導する知識・技術を養い、とりわけ「かな書法」の基礎を手本と教本の2冊によって学べるようにできている。この2冊をペアで使用することによって、実技学習も学習意義を理解できるように配慮されている。つまり教本の内容を確認しながら、手本の技法を身につけることで、知識と実技が同時に修得できる仕組みになっている。詳しくは、テキストの「手本の学び方」および「まえがき」に記してあるので、参照の上学習効果を高めてほしいと思う。なお、本書では「かな書法」を日本の書跡・作家を通じて学ぶが、かなの源流となる漢字や中国の名跡についても参考文献を通じて補ってほしい。

■学修計画のポイント

〈教本〉 ページ 43 ～ 59 〈手本〉 ページ 2 ～ 5, 73 ～ 76

かなの美と技法に示される、主な用具・用材、姿勢・執筆法・腕法、運筆と用筆、かなの線、形をはじめ、伝統と人間性（臨書の意義と方法）などをよく読んで、手本の「いろは」単体を丁寧な筆運びで練習すること。線の太い細いや線の向きなどに注意して、特に回転線の動きに気をつけること。

〈手本〉 ページ 6 ～ 11 〈教本〉 ページ 2 ～ 10, 60 ～ 64

草がなは字母意識ながらよく練習して覚える。二字連綿は、上の文字と下の文字の終筆と起筆の形によって分類してあるので、その関係をよく理解した上で、実習してほしい。学習指導書の61ページの連綿についてよく読んで参考にすること。

〈手本〉 ページ 12 ～ 15 〈教本〉 ページ 64 ～ 72

3字以上の多字連綿は連綿をしている状態から例示してある。学習指導書の64～65ページと比較しながら、特色を理解した上で実習してほしい。手本17ページ以後の古筆からいろいろな連綿の箇所を探してみるのもよい。

〈手本〉 ページ 16 ～ 34 〈教本〉 ページ 11 ～ 42

高野切を中心とする11世紀中頃のかたと針切など11世紀後半から12世紀にかけてのかなは、いろいろな点で相違が見られる。これを字座のゆれや行の息づきという点で確かめる。さらにかな特有の散らし書きについて学習する。また、かなの変遷を理解するために日本書道史に沿ってかなの概観を押さえる。

■学修上の留意点

書の定義、書の用具・用筆法を理解した上で、かなの成り立ちや特徴、技法について学ぶこと。テキストを通してかなの特徴を理解した上で、漢字の成り立ちについて調べることも重要である。

■参考文献

- 『書の古典と理論』全国書道学会編（光村図書、2013）
- 『書道講座』新装版 第1～7巻（二玄社、2009～2010）
- 『書道テキスト』（大東文化大学書道研究所、2006～2011）
- 『書の総合事典』（柏書房、2010）

科目コード	科目名	単位数
T22600	法学通論	4 単位
T22700	法律学概論（国際法を含む）	4 単位
※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）		

教材コード 000241

教材名 『現代法学入門（第4版）』

（学修指導書別冊）

著者名等 伊藤 正己・加藤 一郎

出版社名 有斐閣

■教材の概要（学習指導書から抜粋）

- ① 本書は、6人によって分担執筆されています（執筆者と分担については、冒頭ii頁の「執筆者・執筆分担」の表を参照）。そして、“執筆者の個性的な考え方を、ある程度まで表に出して、読者の考える材料を提供するという心がけ”のもとに執筆・編集されたものです（冒頭iii頁の「初版はしがき」）。したがって、履修するには、各章や節（§）毎に、それぞれがその分担執筆者の講義（授業）なのだということを自覚しながら、読み進む－理解することが肝要です。
- ② 本書は、今日の日本の法ないし法学についての概説書です。類書は、「入門」ではなくて「通論」・「通説」・「概論」・「概説」とするものや、“現代法学”ではなくて“法律学”・“法学”とするものがあり、または単に『法学』というだけの書名のものもあります。そして、類書には、本書の2倍程度の字数をもつものが多いのです。つまり、本書は、極めて要約・圧縮されています。しかも、その記述（講義内容）は、一般学生にとっても理解しやすいものであり、決して難解ではありません。この故に、本書は、職業をもつ通信教育部の学生にとって、類書中で最適の教科書であると言えます。しかし、極めて要約・圧縮されているものですから、よく“読みこなす”ことが必要です。およそ、しっかりと3回読みかえせば、4回目は頁を繰るだけでその頁に書かれていることを理解し得るはずです。また、読む回数を重ねる毎に、理解の深度が増すこともあります。つまり、読回を重ねるにつれて、書かれていることの新たな意味内容を理解（発見）し得ることもあります。新発見への関心を高めて、読回を重ねて下さい。
- ③ 各章ないし節（§）末に「参考文献」が紹介されています。著者と書名だけは一読しておきましょう。時間があれば、図書館や書店などで手にとって一覧ないし熟読するとよいでしょう。
- ④ コモン・センスをもった教養人になろう
本書は、法学の教養をはぐくむのに好適なテキストです。そして、本書を法学のテキストとして学ぶことによって、必然的にコモン・センス（commonsense）が培養され得ると期待されます。学修する皆さんが、法学についても教養を具備した、コモン・センスあふれる良識人になっていただくことを祈念してやみません。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 93, 205 ～ 229

第1章（1～32ページ）・第2章（33～81ページ）と第3章中の§1（83～93ページ）および第4章（205～229ページ）は、いわば法学通論の講義（法学一般に関する講義）である。履修の手引を参考にして履修されたい。全体として、重点的に要約されているため、講義内容はすべて重要である。

ページ 94 ～ 204

主として、第3章§2（94～110ページ）は憲法、§3（111～127ページ）は刑法、§4（128～140ページ）は家族法－民法第4編親族法と第5編相続法－、§5（141～156ページ）は財産法－民法第1編総則・第2編物権法・第3編債権法－、§6（157～179ページ）は労働法、§7（180～204ページ）は国際法の講義である。それぞれ、極めて重点的に要約されているから、条文が示されている場合には必ず「六法」を開いてその条文をしっかりと読みながら、すべてについて十分に理解されたい。

■学修上の留意点

- ① 講義内容のすべてが重要であるから、すべてについて充分理解することが必要。
- ② 示されている条文は、必ず「六法」を開いてその条文を確実に読んだうえで本書を読み進むことが肝要。

■参考文献

本書の各章や節（§）の末尾に紹介されている。しかし、それらをすべて読むのは至極大変なことであるから、履修上ではそれらの書名や著者名を一読しておくだけでよいでしょう。そして、時間的余裕がある時に読めばよい。

科目コード	科目名	単位数
T22800	政治学概論	4単位

※この科目は文理学部哲学専攻・史学専攻のみ配当です。

教材コード 000243

教材名 政治学概論

著者名等 杉本 稔・山田 光矢

■教材の概要

本教科書は5章から構成されているが、第1, 2章は政治現象とはいかなる現象なのか、またその政治現象を研究する政治学とはいかなる学問なのか、という問題を検討する。そして第3章は、その政治現象から展開される場としての政治社会を歴史的に考察している。第4章は政治現象が展開される制度的枠組みを理論と現実の両面から解説し、最後に第5章は政治現象が展開されるプロセスを採りあげている。これら各章相互の連関性を念頭におきつつ、学んでほしい。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 148

1 ～ 67 ページ

何故に「科学的」政治学という言葉が使われねばならないかを考えること。また政治現象の中核にあるとされている権力を、関係概念を中心として十分に理解すること。これと関連して支配・操作・リーダーシップの相違を明確にすること。

69 ～ 148 ページ

市民社会が形成される過程を市民革命との関連で理解すること。さらに市民社会の限界性を踏まえて、市民社会が大衆社会に移行する必然性を考え、大衆社会の病理的側面を整理しておく必要がある。

ページ 149 ～ 289

149 ～ 227 ページ

ロックとモンテスキューの権利分立論の異同を十分に整理した後、議院内閣制と大統領制を具体的に検討すること。政治社会において議会の果たす役割を考察し、議会政治と民主主義の関係を把握すれば、選挙の意義も理解されるだろう。

229 ～ 289 ページ

政治システム論と関連づけて政治過程の全体像を把握することが肝要であり、これができれば選挙・政党・圧力団体等の問題も理解できよう。またこれらは、各国の具体的事例に即して検討した方が、理解が深まるであろう。

■学修上の留意点

- ① 教科書の熟読。
- ② 「学習の要点」を読み、ノートを取りつつ教科書を再読。
- ③ 教科書・ノートを参照して「研究課題」に解答。
- ④ 自己の弱点を確認し、教科書・参考文献で補強。

■参考文献

各章末にある簡単な解説を付した文献一覧を参照のこと。

科目コード	科 目 名	単位数
T22900	職業指導	4 単位

※この科目は経済学部・商学部のみ配当です。

教材コード 000455

教 材 名 職業指導

著 者 名 等 野々村 新

■教材の概要

本教材では、主として高等学校における本来の進路指導の意義・目的とそれを達成するために行われる指導の領域、指導方法、指導体制および進路指導の基礎理論等について概観している。また、平成16年度に導入されたキャリア教育の意義、目的、理念、それと進路指導との関係についても解説している。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 141

まず、学校における“出口指導”ではない“本来の進路指導”とはどのような意義・目的を持つ教育活動であるか、それは学校教育で何故必要であるかについて説明されているので、この点に関する明確な認識を持つことが肝要である。

さらに、その意義・目的を達成するために行われる指導の6領域（第4章～第9章）のそれぞれについて正しく理解する必要がある。

ページ 143 ～ 271

まず、学校において本来の進路指導が適正に実践されるためにはどのような指導体制と指導計画が必要であり、そこで各教師がどのような役割を遂行すべきであるかを理解する必要がある。また、平成25年度から実施される高等学校の新しい学習指導要領において進路指導の在り方にどのような変化が生じるのか、についても明確に認識すべきである。

さらに、教育の新しい理念と方向性を示すキャリア教育に関して、それは何をめざすのか、それは今後どのような方向へ向かおうとしているのか、について正しい理解を行うことが大切である。

■学修上の留意点

中央教育審議会答申、教育基本法と学校教育法の改正、および学習指導要領の改訂等に留意する必要がある。

■参考文献

- 『改訂 生徒指導・教育相談・進路指導』野々村新ほか（編著）（田研出版）
- 『最新 生徒指導・進路指導論』吉田辰雄（編著）（図書文化社）

科目コード	科目名	単位数
T23000	心理学概論	4 単位

※この科目は商学部のみ配当です。

教材コード 000247

教材名 心理学概論

著者名等 大村 政男

■教材の概要

この概論の最も大きな特徴は口語体の文章で書かれているということです。「である体」の文章だとどうしても難解になりがちです。「です・ます体」であるため内容はぐっとやさしくなっています。もう一つの大きな特徴は、やたらに学界の新しい知識を追わないで、基礎的で、しかも重要なものを講義するようにしたことです。大学の講義は難解であればあるほど魅力がある—といった時代は過去のもので、この本によって「心理学」に対する親密感を培ってください。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 136

1 ～ 66 ページ

発達・認知・学習・知能がここに入ります。発達・知能より認知・学習のほうが難しいと思います。人間はいかにして外界を認知し、その情報をどのように理解して利用に適応していくかを、自分の経験を通して考えることが大切です。

67 ～ 136 ページ

性格とその診断法がここに入ります。心理学の中で人びとの興味が集中するところです。心理学の研究対象は人間です。科学的なセンスで人間を見ていくことは大切なことですが、それだけですべてが解決しないことも知るべきです。

ページ 137 ～ 322

137 ～ 234 ページ

ここでは臨床心理学に関する問題を扱います。自分の動機づけられた行動を内観したり、自分の欲求不満や葛藤を分析することが大切です。「自分の」というところが大切なのです。そうすれば知識は自然に「自分のもの」になっていくでしょう。

235 ～ 322 ページ

この本では、犯罪心理学の中に知覚関係の知識を入れて理解しやすくしています。社会心理学の学修のためには日常マスキの動きに注意することが大切です。心理学史では心に関する研究の大きな流れをつかむこと、統計法では自分で問題を作って計算してみることに。

■学修上の留意点

- ① 発達の法則・情報処理・学習理論・知能の構造など。
- ② 内的実在論・状況理論・類型論・特性論・性格の把握など。
- ③ カウンセリング・精神分析・来談者中心療法・臨床心理学ブームについてどう考えるか。
- ④ ゲシュタルトの法則・図と地・少年犯罪・群衆の心理・流行など。

■参考文献

- ※『ベーシック心理学』 巖島・羽生共編（啓明出版）
 ※『ヒルガードの心理学』 アトキンソン他著 内田一成監訳（ブレーン出版）
 ※『「こころ」の出家—中高年の心の危機に—』（ちくま新書）立元幸治著（筑摩書房）

科目コード	科目名	単位数
T30100	国語科教育法Ⅲ	2単位

教材コード 000545

教材名 『中学校 高等学校 国語科指導法』 (学修指導書別冊)

著者名等 益地 憲一 編著

出版社名 建帛社

■教材の概要

本書は、「国語科教育の指導法を具体的実践に即してまとめる。時代や社会の要請に応えるものと不易の言葉の教育の実現に資する」のコンセプトの元に豊富な実践例を取り込み、具体的な指導案を例示して現場に即した展開例を示している。一方、メディアリテラシーを念頭に新時代に対応した国語力のあり方を探り、人間存在の根幹に通じる不易の事柄として言葉の教育の重要性を上げている。各章で述べられる事柄は、コラム欄とも相俟って相互に確認できる展開となっている。

■学修計画のポイント

ページ1～76

本書の一つの特色として、第4章にみられる国語科教師の資質と能力に言及している点が上げられる。これは106頁のコラムともリンクして、例えば音楽の教師が楽器を演奏できることが当然のように、国語教師も短歌や俳句、詩などをたしなむことによって国語教師としての専門性を高めることにもつながるとする。一方、生徒の側に立ってみれば中学、高校の多感な年代にあることから、教材はもとより作文指導の設題や読書指導に於ける作品の選定でも発達段階に応じたものに捉えられることの指摘がある。それは国語の授業づくりに関連して、生徒を良く知ることに関わる問題である。また、時代とともに変化する様々なリテラシーを身につけることで、教師としての自分を構築していくことが語られる。更に、総合的な学習の実践については32頁のコラムに示される、身近な地域にある古典教材を発掘することによって展開できることが指摘される。それはまた独自の教材を開発することにも繋がっている。かように本書は15人の執筆者による分担執筆ながら、首尾一貫した提言がなされ、各章とコラムが相補う形で展開している。

ページ77～212

ここでは「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の、いわゆる三領域一事項についての具体的指導例が述べられ、次いで高等学校における特徴ある指導、読書指導、授業研究、学習指導と評価、国語科教育の課題と発展が章を変えて述べられる。本書の特色として具体的な指導例が指導案と共に提示されている点が上げられる。作文指導では「意見文リレー」の試みが示され、読書指導では巻末に全文を掲載した鲁迅『故郷』を例に取り上げる。グループ学習では『山月記』を例に、読書指導ではフィクションとノンフィクションに二分した指導法が語られる。授業研究の実際にはヘッセの『少年の日の思い出』が、リーディングリテラシーでは『モアイは語る』を例にするなど単なる理論に止まらず、実際に応用した論述は現場を想定した具体例として有益である。学習指導と評価の問題にも留意したい。世界標準への展望ではリーディングリテラシーの実践が示されるなど国語教師の多岐にわたる活動が語られている。

■学修上の留意点

「はしがき」にもあるように、国語教育の根幹は言語教育にあり、人間形成に資するものとしての位置づけに留意したい。授業の三要素としての生徒、教師、教材に目を据え、授業構築力を構想、実践、反省の三つに捉え、従来の教師主導型による一斉授業方式の反省から学習者尊重という、一見生徒の側に寄り添った指導法が逆に無責任な、生徒の興味の赴くままの行方定めぬ授業に陥っていないか警鐘を鳴らす。これら総合的な視点に立った本教材から新時代の動向を探りプロフェッショナルとしての国語教師の果たすべき役割を学びたい。

■参考文献

- 『国語科授業論』野地潤家著（共文社）
- 『人を育てることばの力』遠藤瑛子著（溪水社）
- 『授業改造の技法』坂元昂著（明治図書）
- 『国語科教育論』浜本純逸著（溪水社）
- 『授業づくりの構造』安居聡子著（大修館書店）
- 『中学校学習指導要領』文部科学省
- 『高等学校学習指導要領』文部科学省

科目コード	科目名	単位数
T30200	国語科教育法Ⅳ	2単位

教材コード 000446

教材名 『国語科の教材・授業開発論』

著者名等 町田 守弘

出版社名 東洋館出版社

■教材の概要

Ⅲまでの内容から、本書では、更にイノベーション（戦略）を考察する。そこから新時代の国語教育に関する展望が拓けて来よう。いわゆる「国語嫌い」は、教師が教材を読んで分らせるという、トップダウン方式に問題がなかったか。これを可能な限り子供の側に立つ視点から、サブカルチャーに注目して新しい教材開発、授業開発を考えようとする。教師自らがアンテナを高く持し、「楽しく、力のつく」教材開発に取り組む姿勢が求められる。それら具体的な内容は、読む・書く・聞く・話すの各分野と、更に「見る」分野において多様な実践例が示されている。そこにあるコンセプトは生徒一人一人に対する配慮である。単なる知識の伝授でなしに、学修者主導の水平型へとパラダイム転換が求められている。著者自らの具体的事例から学び取る姿勢と、現代における国語教育の再検討が求められる。

■学修計画のポイント

ページ 8 ～ 119・258 ～ 281

筆者は、国語教育の戦略は常に更新されるという見地から、様々なイノベーションが可能であると説く。それには子供の文化に即したサブカルチャーに目を向ける必要がある。形骸化された学びのための学びから視点を変えて境界線上の教材に着目し、身近な場所にことばの学びを立ち上げる。古典の指導の場には源氏物語をアニメ化した作品、漢文では三国志のアニメなどに着目する。対話型発問、「見立て」の方法を用いた表現、また、話芸としての落語を音声言語活動として捉え、演劇にも着目するなど斬新な提言と実践例が取り上げられている。

ページ 122 ～ 255

Ⅲ章とⅣ章では、書くことと読むことの他に「見る」ことを取り上げる。携帯メールやホームページへの書き込み、ワードハンティングの活動、ワークシートを書く取り組み、更に絵の教材化からの作文へと展開する。また、パワーライティングの手法を取り入れた文書作成技術が語られ、交流作文の実際も報告される。読むことに於ては面白いこと、役に立つことに絞った選書が提言され、読書カードの実例が示される。また、従来、補助教材として用いられてきた、例えば軍記物語の甲冑を映像化して見せるものから、本教材として「見る」活動へ広げている。具体的には映画を教材化して、映像から言葉を引き出す言語化能力を育てる取り組みから、国語力の効果的養成法が生まれる。これらに通底する事柄は、多様な教材を開拓して魅力溢れる授業を構想することにある。様々な実践例から学ぶことは勿論、新時代に対応する魅力ある国語教室の実現を常に念頭に置くことが肝要である。

■学修上の留意点

いわゆる伝統的教材観を脱してサブカルチャーを取り込んだ新しい教材は、その検証が十分でないために、ともすれば安易に流れやすい側面を有する。「活動あって指導なし」という事態を避けるためにも更なる工夫と、積極的な授業公開による批判の場が求められる。一方、「定番教材」には長年月をかけた評価が定まっており、「教科書の名作」も存する。それら不易流行の真贋が問われている。以上の部分をしっかり読み取りたい。

■参考文献

- 『国語教科書の思想』石原千秋著（筑摩書房）
- 『サブカルチャー文学論』大塚英志著（朝日新聞社）
- 『声に出して読みたい日本語』斎藤孝著（草思社）
- 『メディア・リテラシーを学ぶ人のために』鈴木みどり著（世界思想社）
- 『国語科教育の未来へ』浜本純逸著（溪水社）
- 『中学校学習指導要領』文部科学省
- 『高等学校学習指導要領』文部科学省

科目コード	科目名	単位数
T30300	英語科教育法Ⅲ	2単位

教材コード 000225

教材名 『英語科教育法セミナー』

(学修指導書別冊)

著者名等 浪田 克之助・熊取谷 哲夫

出版社名 英宝社

■教材の概要

この教科書は、まず外国語教育全体を構成する諸要素を単離し、とりわけ重要な学習者の心理的要因を分析し、学習される言語知識の中核である文法の教授法を考え、この受動的知識を能動的知識に転換するための訓練法を論じ、学習目標に対して学習結果が占める座標と今後の方位の測定の方法について考え、最後に以上の総合としての教授法を論じるという章分けをその構造としている。その主旨に沿い各部を統合して、自らの有機的体系構築の資とされんことを望む。

■学修計画のポイント

ページ 7 ～ 57

外国語教育担当者の常にチェックすべき事項の確認、学習心理の分析、言語運用の背後にある言語知識の教育の方法について。

ページ 58 ～ 100

受動的言語知識を言語使用の場で能動的に運用できる知識に転じるための訓練の技術、知識の授受および訓練の成果を確認し、以後の方向模索のための学習者の知識・能力の測定法、外国語教育に関わる諸要素の選択結果を総合しての方法論。

■学修上の留意点

英語教育を論じるための technical term, 英語教育の理論と方法。

■参考文献

H. H. Stern, Fundamental Concepts of Language Teaching, O. U. P.

『中学校学習指導要領』文部科学省

『高等学校学習指導要領』文部科学省

科目コード	科 目 名	単位数
T30400	英語科教育法Ⅳ	2 単位

教材コード 000227

教 材 名 『Second Language Acquisition』 (学修指導書別冊)

著 者 名 等 Rod Ellis

出 版 社 名 三善 OXFORD UNIVERSITY PRESS

■教材の概要

教室における英語教育は様々の視点から見ることができる。例えば、これを規定する法的な枠組みとか、教授者の視点とか、教授者から半ば独立して教授者を補助する ALT とか CALL (Computer Assisted Language Learning) などの視点、あるいは学習あるいは学習者からの視点などである。本書は、最後に記した視点から、第2言語(英語)学習に関する過去の研究結果を要約したものである。取り上げられている問題は、第2言語学習と第1言語の知識・能力との関連、学習者の学習の動機あるいは方略、教育が学習に果たす役割、学習の進行過程、などである。

■学修計画のポイント

英語教育の方法を考えることは、自らの英語学習の方法を考えることと、ある程度までは表裏一体であるところがある。自らの体験を振り返りながら、あるいは今後の自らの方向付けをしながら、自らの問題として、本書に要約されている研究成果を批判的に検討することが、自らに益するだけでなく、教室において能力を発揮する源となるものと思われる。

■学修上の留意点

本書は、英語学習について、英語学習を論じるための英語で書かれている。本書が、上記のような英語学習の理論を瞥見するためばかりでなく、今後英語教育においてますます大きな役割を果たすことになると思われる ALT との打ち合わせなどに際して、十分な意志疎通を図るための言語を習得するために利用されることが望ましい。

■参考文献

本書は、概していえば、浩瀚な下記の書の要約である。不足するところがあると感じたときには、下記の書から十分な説明を得ることできよう。『The Study of Second Language Acquisition.』Rod Ellis.(Oxford University Press.)

その他

『中学校学習指導要領』文部科学省

『高等学校学習指導要領』文部科学省

科目コード	科 目 名	単位数
T30500	生徒指導・進路指導論	2 単位

教材コード 000397

教 材 名 生徒指導・進路指導論

著 者 名 等 野々村 新

■教材の概要

本教材の第1～第6章において「生活指導」、第7～第13章のいて「進路指導」に関する領域が取り上げられている。

前者においては、学校における生徒指導の意義・目的・指導方法、および新しい特別支援教育法等が示されている。後者においては、学校進路指導の意義・目的、指導内容の6領域と指導方法、進路指導の現状と課題、および2004年に導入されたキャリア教育等について示されている。

■学修計画のポイント

中・高等学校の学習指導要領に「ガイダンスの機能の充実」が示されている。それをふまえて、生徒指導の改善・充実を図ることが要請されている。また、従来の「出口の指導」と呼ばれる進路指導から、「本来の」「教育としての進路指導」へ立ち戻ることが強く求められ、それを中核とするキャリア教育がスタートしている。

これらについて正しい認識を持つことが大切であるが、そのためには本教材を熟読することに加えて、巻末の資料や関係省庁・諸機関のホームページを参照するなどの努力が望まれる。

■学修上の留意点

生徒指導や進路指導・キャリア教育に関連する新しい施策が講じられ、また実践されているので、種々のメディアに注目する必要がある。

■参考文献

- ※『生徒指導・教育相談・進路相談』野々村新 他編著（田研出版）
- ※『最新 生活指導・進路指導論』吉田辰雄編集（図書文化社）

科目コード	科目名	単位数
T30600	教育相談	2単位

教材コード 000498

教材名 教育相談

著者名等 植松 紀子

■教材の概要

教材の内容は、大別すると「カウンセリング」と「教育相談」「学校教育相談」に関する内容となっている。「カウンセリング」ではその歴史・定義・目的・必要性、カウンセリングの種類、およびその理論と方法、カウンセラーの資質（基本的態度）について取り上げた。

「教育相談」においては、その意義・目的・必要性について取り上げた。

「学校教育相談」では、学校現場での教育相談の特質と学校教育相談担当教師の役割などについて取り上げた。

■学修計画のポイント

① 「カウンセリング」の領域に関して

カウンセリングがどのような必要性から生まれ、それは現在、人間に対して何を行う事を目的として実践されるのかについて十分に理解する。また、カウンセリングの効果を高めるためにカウンセラーにはどのような資質が求められるのかについて、よく認識することが重要である。

② 「教育相談」の領域に関して

教育相談（教育カウンセリング）は、単に児童生徒の問題・悩みの解決のみを目的とするものではないこと。また、学校教育相談担当の教師は、どのような態度で児童生徒に接するべきかなどについて、よく理解する必要がある。

■学修上の留意点

特になし。

■参考文献

『改訂 生徒指導・教育相談・進路指導』野々村新他編著（田研出版）2012

科目コード	科 目 名	単位数
U20100	学校経営と学校図書館	2 単位

教材コード 000299

教 材 名 『学校経営と学校図書館』 (学修指導書別冊)

著 者 名 等 古賀 節子

出 版 社 名 樹村房

■教材の概要

まず、学校図書館というものがいかなるものであるか、そしてどのように生まれ、今日に至っているかを明らかにする。

そこで、学校図書館が学校教育において欠くことのできないサービス機関であることを理解し、学校図書館メディア、施設、設備の全体を把握し、それらの維持・管理のしくみを検証する。そのあと、全体的な学校図書館経営、学校図書館活動、そして、学校図書館の評価と改善を取り上げ、課題と展望で終わる。

■学修計画のポイント

学校図書館の機能や役割は、学校で行なわれる教育活動のすべてに関わるものである。言いかえると、学校経営全般に関わることである。まずこのことを理解して、学校教育全体に目を向け、今日の問題も含めて、学校を全面的にとらえられるようにする。

学校図書館の経営は、内容豊かである。業務も多様である。全体からすると、学校図書館の部分はサブシステムとなるものである。部分をしっかりとらえ、全体を機能させることができるよう、学修を組み立ててほしい。

■学修上の留意点

学修の部分をしっかりとらえ、全体である学校図書館が生きて働くよう部分をつなげる。学修領域は広い。時間かけて理解を深めることが肝要。

■参考文献

※『学校図書館を創る』山本みゆき著（長崎出版文庫）

※『子どもが生きる学校図書館』熱海則夫・長倉美恵子編著（ぎょうせい）

科目コード	科目名	単位数
U20200	学校図書館メディアの構成	2単位

教材コード 000389

教材名 『分類・目録法入門(新改訂第5版)―メディアの構成―』(学修指導書別冊)

著者名等 志保田 務・井上 祐子・向畑 久仁・中村 静子

出版社名 第一法規

■教材の概要

本書は学校図書館における資料の選択・収集，蔵書構成，資料組織法（分類・件名・目録）について解説している。学校図書館において資料を選択・収集する上での諸問題，教育方針と学習方法に即した蔵書コレクションの形成，主題による組織化として分類・件名，書誌による組織化として目録について解説している。

■学修計画のポイント

主に図書資料を中心に選択・収集，蔵書構成における問題を把握して，主題を分析して記号化する分類作業と，書誌情報を作成する目録作業について重点的に理解を図りたい。

■学修上の留意点

- ① 資料の選択・収集について。
- ② 蔵書構成について。
- ③ 分類・件名について。
- ④ 目録について。

■参考文献

- 『資料組織演習(新訂版)』吉田憲一・野口恒雄著(日本図書館協会)
『日本十進分類法(新訂9版)』(日本図書館協会)
※『日本目録規則1987年版(改訂3版)』(日本図書館協会)
『基本件名標目表』(日本図書館協会)
※『中学・高校件名標目表(第3版)』(全国学校図書館協議会)
※『小学校件名標目表(第2版)』(全国学校図書館協議会)

科目コード	科目名	単位数
U20300	学習指導と学校図書館	2単位

教材コード 000448

教材名 『学習指導と学校図書館 学校図書館実践テキストシリーズ4』

著者名等 朝比奈 大作

出版社名 樹村房

■教材の概要

全体は3章から成っており、第1章が総論、第2・3章は各論に相当する。第1章では、今なぜ「学習情報センター」としての学校図書館が必要とされているのか、という理念的、思想史的な解説がされており、次代を担う子どもたちを教育するにはどのようなメディア環境が求められるかという問題提起を行っている。2・3章ではそれぞれ「メディア活用能力の育成」「学校図書館における情報サービス」という見地から、「調べ学習」ないしは「情報検索」の具体的な方法とその指導のあり方について解説している。特に「教師を支援する」という学校図書館の機能についても留意しておきたい。

■学修計画のポイント

ページ9～64

上記のようにこの部分は全体の「総論」にあたる。なぜ学校には「学校図書館がなければならない」とされているのか、そしてなぜ学校図書館には資格を持った専門家としての「司書教諭を置かなければならない」と定められているのか、司書教諭の仕事のうち「資格の無い者には任せられない」仕事とはどのようなものなのか、しっかり考えてほしい。特に情報化社会と言われる現代において、子どもたちに何を教えていくべきなのか、という「見識」を持つよう努力していくべきである。

ページ65～170

前半（1章）の総論と後半（2・3章）の各論は何回か往復しながら学修を進めるべきである。後半部分は正に司書教諭として「実行」しなければならない具体的な仕事の内容である。1つ1つの具体的な解説について、「今の自分に実行できるだろうか」と問いかけながら読み進めてほしい。そして「今の自分には実行できそうもない」と思えたならば、「それではこのことを実行できるようになるためには、どんな学習・努力が必要だろうか」と考えてほしい。いわゆる「調べ学習」の指導者となることを目指しているのだから、自ら「調べ学習の達人」にならなければいけないはずだ。テキストに「書いてあること」を理解し、暗記するばかりでなく、常にその内容を「実行する」「指導する」ことを念頭に置いて学修を進めること。

■学修上の留意点

- ① 上記の繰り返しになるが、自らが「調べ学習・情報検索の達人」になるよう、「実際に調べてみる」ことを前提に学修を進めること。
- ② メディアの状況（特にインターネット関連）は変化が激しい。テキストに書かれていない「最新の情報」についても学修するよう心がけること。

■参考文献

- 『学習指導と学校図書館』堀川照代ほか（日本放送出版協会）（放送大学教材）
- 『インターネット時代の学校図書館—司書・司書教諭のための「情報」入門』根本彰監修（東京電機大学出版局）
- その他、テキストに掲載されている参考文献も活用されたい。

科目コード	科 目 名	単位数
U20400	読書と豊かな人間性	2単位

教材コード 000302

教 材 名 『心の扉をひらく本との出会い 子どもの豊かな読書環境をめざして』（学修指導書別冊）

著 者 名 等 笹倉 剛

出 版 社 名 北大路書房

■教材の概要

まず、「感動は心の扉をひらく」という信念に立って、子どもにとっての読書の意義を考察する。

その上で、感動する本との出会いの豊富な事例に即して、現代の子どもが置かれている状況の中での子どもの発達と読書の問題を論ずる。そして、子どもと質の高い本を結ぶ大人の役割と、その方法について述べる。

■学修計画のポイント

- ① 子どもにとって読書は何を意味するのか。すぐれた本との出会いは子どもに何をもたらし、子どもの読書離れは何をもたらすのかを、しっかり考える。
- ② すぐれた本のもつ力、豊かな人間性を育む本について考察する。
- ③ 映像文化、電子的ネットワークという時代状況の中で、子どもの発達と映像文化や読書はどう関わってくるのかを考察する。
- ④ 子どもが、よい本と出会い、読書を楽しむ習慣を身につけるための具体的な方策を考える。

■学修上の留意点

紙幅の限られた教科書の中では、十分に記されていないことを補うため、また自らの読書に対する考え方を確立するためにも、巻末に掲載されている参考文献にはなるべく多く目を通すこと。そして教科書で取り上げている子どもの本や、すぐれた子どもの本を紹介した本を参考に、何冊かの子どもの本を読んでみる。

■参考文献

※『橋をかける 子供時代の読書の思い出』（すえもりブックス）

『本が死ぬところ暴力が生まれる』バリー・サンダース著、松本卓訳（新曜社）

※『読書の発達心理学』秋田喜代美著（国土社）

科目コード	科目名	単位数
U20500	情報メディアの活用	2単位

教材コード 000473

教材名 『情報メディアの活用（シリーズ学校図書館学 5巻）』

著者名等 全国学校図書館協議会

出版社名 全国学校図書館協議会

■教材の概要

本書は学校教育と学校図書館における情報メディアの活用について解説している。情報とメディアの語源と定義、情報メディアの種類と特性、オンライン系の情報源としてのインターネットの活用、ディスク系の情報源としてのCD（CD-ROM、CD-R、CD-RW など）、DVD-ROMなどの原理と活用、著作権をめぐる今日的な課題、情報社会の光と影として、学校教育で情報メディアを活用する上での諸問題を論じている。

■学修計画のポイント

- ① 情報とメディアの定義について、教科書・教材・参考図書を参照して、熟考する。
- ② インターネットの活用について（サーチエンジンを使った Webpage の検索）、実際に試みる。
- ③ CD、DVD、ブルーレイディスク（CD-ROM、DVD-ROM も含む）の活用についても、実際に試みる。
- ④ 著作権について、事例を参照して、問題点を考える。
- ⑤ 情報社会におけるモラルについて、新聞や雑誌を活用して、最近の事例から問題点を考える。

■学修上の留意点

現在、学校図書館では紙に印刷された資料（印刷メディア）以外の情報メディアが急激に導入されている。学校図書館におけるオンライン系・ディスク系の情報源の特性を理解して、情報メディアに関する視点を持ち、児童生徒が学習の場で活用できる方法を考察することが目的である。著作権、情報モラルなどの今日的な問題についても考察したい。

■参考文献

- 『情報メディアの意義と活用』大串夏身編（樹村房）
『学校図書館と著作権 Q & A（第3版）』森田盛行著（全国学校図書館協議会）
※『現代社会と著作権』斎藤博他著（放送大学教育振興会）

科目コード	科 目 名	単位数
Y20100	生涯学習論	2 単位

教材コード 000436
 教 材 名 『生涯学習概論』
 著 者 名 等 佐藤 晴雄
 出 版 社 名 学陽書房

■教材の概要

生涯学習および社会教育に関する基礎基本をまとめた入門書であり、大学で生涯学習論を学ぶ各位を対象としたテキストである。

■学修計画のポイント

- ① 学習プログラムとは何かを整理し、学習プログラムのタイプ、学習プログラムの編成の視点、を本書から学修してゆく。実際に行われている学習プログラムを、博物館などを例に挙げて理解を深める（111～121 ページ）。
- ② 社会教育施設について学修を行う。公民館、図書館、博物館、その他社会教育施設についての理解を深める（169～185 ページ）。

■学修上の留意点

予習を必ず行ってくる。特に、博物館で行われている学習プログラムについて、リサーチを行うこと。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
Y20300	博物館概論	2単位

教材コード 000492

教材名 『新時代の博物館学』

著者名等 全国大学博物館学講座協議会西日本部会

出版社名 芙蓉書房出版

■教材の概要

本書は、平成23年「博物館法」改正に伴う新教材で、「博物館概論」のほか「博物館経営論」・「博物館資料論」・「博物館資料保存論」・「博物館展示論」・「博物館情報・メディア論」・「博物館教育論」が収められている。つまり、実習を除く全ての開講科目について、ねらいと内容が列挙されている。そのうち、「博物館概論」では、博物館学の定義・目的、博物館の定義・歴史・現状と課題等々の基礎的知識を理解することを目標としている。

■学修計画のポイント

博物館とは何か、「博物館法」の定義をはじめとして、国際的な代表的な会議での「博物館」の定義と目的について学ぶ。そのうえで「博物館学」の定義と目的について考える。博物館の機能では、調査・研究、資料の収集、資料の整理・保存、展示・普及活動の4つの柱とその関係を知り、学芸員の役割を学ぶ。また、博物館の種類では、資料・機能・博物館法・設置者等々による分類を理解し、博物館を支える国内・国際的な規則、諸制度を学ぶ。博物館の歴史では、博物館の語源である古代ギリシャやエジプトのプトレマイオス朝に始まり、欧米や日本の近代以前の博物館、18・19世紀以降の近・現代の博物館史を学ぶ。現代の博物館では、教育普及活動における学校との連携・融合、生涯学習機関としての役割、地域社会との関係について考える。そのうえで、博物館の現状と課題を考える。

■学修上の留意点

博物館に関する基礎的知識なので、教科書を熟読すること。そのうえで、参考書を利用して理解を深めること。

■参考文献

『新しい博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本支部会編（芙蓉書房出版）

『新編博物館概論』鷹野光行・西源二郎・山田英徳・米田耕司編（同成社）

『博物館の歴史』高橋雄造（法政大学出版局）

科目コード	科 目 名	単位数
Y20400	博物館経営論	2 単位

教材コード 000475

教 材 名 『新博物館学—これからの博物館経営—』

著 者 名 等 小林 克

出 版 社 名 同成社

■教材の概要

博物館を運営していくためには、形態面と活動面における適切な管理・運営が求められる。その上で、ミュージアム・マネージメントという概念の理解と実践内容が問われている。それらを学びあわせて、博物館との連携についても理解を深める。

■学修計画のポイント

博物館を運営していくためには、博物館資料とともに施設・設備、職員は不可欠である。今日、重要視されているミュージアム・マネージメント、ミュージアム・マーケティングという概念の理解と実践について学ぶ。博物館の自主的経営をはかるには、安定的な財源の確保、魅力ある展示をはじめとする来館者のニーズに促す事業展開などが求められている。また、博物館の連携も重要である。博物館を支える組織づくり、研究機関、地域社会など、博物館経営とはいかなるものか。実例をみながら課題を考える。

■学修上の留意点

本書のみにたよることなく、参考文献も参照して勉強すること。

■参考文献

『博物館経営論』大堀哲編（樹林房）

科目コード	科目名	単位数
Y20600	博物館資料論	2単位

教材コード 000493

教材名 『博物館資料論（改訂新版）』

著者名等 佐々木 利和・湯山 賢一

出版社名 放送大学教育振興会

■教材の概要

博物館における資料とは何か。

博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法について、各々の専門分野の研究者によって項目を定め、具体的に述べている。また、資料に関する調査・研究、資料保存に関する調査・研究の重要性を解き、あわせて調査・研究成果の還元や、収集した資料の公開についても理念を交えて紹介する。

■学修計画のポイント

博物館活動を持続するためには、資料収集が必要となる。その資料は、博物館の理念に基づく収集方針にそって持続的に収集することで、優れたコレクションとなる。人文系の場合、文献資料、考古資料、民俗資料、民族資料、絵画・彫刻などの美術資料、写真資料など様々であるが、資料収集にあたっては、フィールド調査を含む事前調査は不可欠である。資料によっては、現地保存を求められるものがあるので、その点は考慮しなければならない。また、資料の収集にあたっては、採集・発掘・購入・寄贈・交換・制作・繁殖・育成・寄託・借入などの方法がある。収集にあたってのモラルとして、法的な手続き・所有権・道義上のモラル・乱獲・謝礼・地元への還付なども怠ってはならない。収集した資料は、活躍するためには資料化が求められる。資料の分類、受入れ手続、登録は欠かすことができない。資料を細部まで観察することで、修復を要するものもある。必要に応じてレプリカ保存もある。博物館資料の取扱いにおいては、古文書・アーカイブス資料、考古・民族（民俗）系資料、美術系資料、自然系資料と犯意が広く、それぞれ留意点異なる。それぞれの特徴をよく理解しておく必要がある。資料の収集、整理・保管において、博物館資料に関する研究や資料保存に関する研究は重要である。資料公開とともに調査研究活動の還元も求められている。

■学修上の留意点

まずは、教科書を熟読すること。執筆者によって、視点が異なる場合もあるので、最新の参考書を交えて勉強すること。

■参考文献

『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本支部会編（芙蓉書房出版）

『博物館学講座』第5版新版博物館資料論 青木豊他（雄山閣）

『博物館資料保存論』（通信教育教材）

科目コード	科 目 名	単位数
Y20700	博物館資料保存論	2 単位

教材コード 000477

教 材 名 『文化財保存環境学（第2版）』

著 者 名 等 三浦 定俊・佐野 千絵・木川 りか

出 版 社 名 朝倉書店

■教材の概要

文化財を保存するための環境について、温度や湿度、光、空気汚染、振動・衝撃、火災・地震などの劣化要因を挙げ、劣化要因が起こす被害の大きさと事象発生確率から危険度を評価し、優先順位をつけて対策をたてる方法を解説。

■学修計画のポイント

- ① 博物館の資料が化学的、物理的、生物学的に劣化する要因のあげ、そのメカニズムと保存対策について学修できる。
- ② 自然災害や、火災などの人災、略奪や戦争などによる博物館資料の被害と応急的な対策について学修できる。

■学修上の留意点

博物館資料は、実物資料であり、展覧会などで活用すればするほど消耗していく、資料保存論を学ぶことによって博物館資料の消耗を防止する事が可能になるので、後世に資料を伝えていく責任がある学芸員を目指す人達は、その知識を博物館活動に即して学んでほしい。

■参考文献

『文化財虫害事典』東京文化財研究所編（クバプロ書籍）

科目コード	科目名	単位数
Y20800	博物館展示論	2単位

教材コード 000479

教材名 『博物館展示・教育論』 (学修指導書別冊)

著者名等 小原 巖・守井 典子・酒井 一光・塚原 正彦・降旗 千賀子・大堀 哲・佐々木 亨・廣瀬 隆人

出版社名 樹村房

■教材の概要

本書は、博物館における「展示」の意義を学び、その上で理論・実践に関わる知識や技術の理解・習得を目的としている。内容は、展示論・教育論の両部門を包含しているが、「博物館展示論」では、主に下記計画にもとづき、第1～4章を対象とする。

■学修計画のポイント

「博物館展示論」は展示の歴史や、メディア、展示を通じた教育、展示形態の種類、展示計画のたて方などの方法論・理論を学んでいく。本書では、単なる理論だけではなく、各館の具体例を通して学ぶように設定されている。また、人文系のみならず自然系博物館施設の事例もあるので、それぞれの特色を活かした資料の取り扱い方、調査実態、展示設計、行程、パネル作成、巡回展示、新しい展示技術の応用、さらに展示広報のあり方などを丁寧に読み取り、理解してもらいたい。

■学修上の留意点

博物館における展示は、博物館の経営理念や収集資料の特性に応じて検討することが必要である。博物館展示論は、経営論・資料論・教育論をはじめとした各論との密接な関連によって成立するのである。本科目の学修においては、本書だけに頼らず、コース必修科目で指定されている教材や、教材で提示されている参考文献を使い、さらには博物館を実際に見学して展示方法を学ぶことで理論・方法論を実感することができる。積極的にさまざまな博物館施設に足を運び、数多くの展示を体感して貰いたい。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
Y20900	博物館教育論	2単位

教材コード 000479

教材名 『博物館展示・教育論』

著者名等 小原 巖・守井 典子・酒井 一光・塚原 正彦・降旗 千賀子・大堀 哲・佐々木 亨・廣瀬 隆人

出版社名 樹村房

■教材の概要

本書は、博物館における「教育」の意義を学び、その上で理論・実践に関わる知識や技術の理解・習得を目的としている。内容は、展示論・教育論の両部門を包含しているが、「博物館教育論」では、主に下記計画にもとづき、第5～7章ならびに特論を対象とする。

■学修計画のポイント

「博物館教育論」は新たに設置された科目であり、博物館がもつ、資料収集、整理・保管、調査・研究、教育活動のなかで、特に「教育活動」に重点を置く。博物館における「教育」とは何か、その意味・意義を丁寧に読み取って貰いたい。また、生涯学習、地域学習、専門教育としての人材養成など、教育の場としての博物館のあり方を考え、利用者と博物館との関係もあわせて学修したい。さらには、教育普及活動の実態などについてもその理解を深めてもらいたい。

■学修上の留意点

博物館教育は、収集資料の特性、展示情報、展示方法、博物館経営など、さまざまな部門との関連で成り立っている。よって、本科目の学修は本書だけに頼らず、コース必修科目で指定されている教材や、教材で提示されている参考文献を使ったり、さらには複数の博物館を実際に見学したり、博物館主催のイベントなどに参加することで、一層の理解の深化が期待できる。

■参考文献

特になし。

科目コード	科 目 名	単位数
Y21000	博物館情報・メディア論	2単位

教材コード 000480

教 材 名 『博物館経営・情報論』

著 者 名 等 佐々木 亨・亀井 修・竹内 有理

出 版 社 名 放送大学教育振興会

■教材の概要

本書は、「博物館情報・メディア論」において、博物館における「情報」の意義・活用、ならびに「メディア」を通じた情報発信の課題などを理解することを目的とする。さらに、情報提供と活用に関する基礎的能力の学習・修得をめざしていく。

■学修計画のポイント

全編にわたり、経営・展示・教育・情報と多岐にわたる内容となっている。そのなかから、資料の情報化について、博物館が持つさまざまな機能のなかで、博物館としての情報の意味、情報化、展示と情報との関係性、さらに情報の管理と教育普及を重点的に学修する。博物館で扱う情報は、近年のICT（Information and Communication Technology）化の進展との関係性も深くなっており、博物館のなかでシステム化される情報の意味、などについての理解を深めてもらいたい。また、経営との関わりのなかで考えるべき、経営戦略のための情報、メディアとしての博物館のあり方などを学ことで、近年の博物館のあり方とは何かを考えて貰いたい。

■学修上の留意点

情報では「博物館資料論」、情報発信は「博物館経営論」「博物館展示論」「博物館教育論」と関連性が高い。そのような点をかんがみ、本書での学修のみに頼らず、学芸員としての資質を養うためにも、その他のコース必修科目教材とあわせながら学修することで、一層の理解の深化が期待できるだろう。また、実際にどのような発信をしているのかは、実際に博物館を見学してみるとよい。

■参考文献

『博物館情報論（新版・博物館学講座）』加藤有次他編（雄山閣出版）

科目コード	科目名	単位数
Y21200	民俗学	4 単位

教材コード 000491

教材名 『図説 日本民俗学』

著者名等 福田 アジオ・古家 信平・上野 和男・倉石 忠彦・高桑 守史

出版社名 吉川弘文館

■教材の概要

民俗学の研究成果を、写真等を示しつつ、コンパクトにまとめている。先行研究のリストが付されていないので、各自で検索し入手する必要がある。

■学修計画のポイント

この教材については、1分冊と2分冊とを範囲指定しない。2通のリポートは、民俗学全体のなかから研究テーマを設定してよい。

①教科書はページ順に読むのではなく、目次と索引を活用しながら、自分が関心をもったトピックから読解し、その主題の議論とキーワードを理解する。②リポートで論じたいキーワードについて、サイニイ (<http://ci.nii.ac.jp/>)、Google Scholar (<http://scholar.google.co.jp/>) などの学術情報検索システムと公立図書館・大学図書館を利用して先行研究を入手し、特定の研究テーマについて理解を深める。先行研究を読解することで論文の書き方（議論展開の形式）を理解する。ウェブサイト情報だけの利用では合格水準に達しない。③読者に伝えたい自分の発見を軸にして、リポート（論文）のアウトライン（論文の設計図）を構成する。アウトラインに基づいて、自分の発見を読者に説得力ある形で伝える。論じるテーマを小さく絞り具体化することが、論文成功の秘訣である。どこにでも書いてあるような常識的知識や蘊蓄を書き写しても学術的な論文にはならない。

■学修上の留意点

民俗学とは何かを理解するより、むしろ民俗学によって何が見えてくるのかを、各自の具体的な関心とすりあわせて考えていただきたい。地元図書館の地域資料コーナーを利用したり、博物館・資料館で知見を広めることが望ましい。自分の経験のなかで疑問を育て、独自の研究テーマを設定することが重要である。身近な高齢者に往時の生活体験についてインタビューを試みるような積極性を期待している。

科目コード	科目名	単位数
Y21300	文化人類学	4 単位

教材コード 000424

教材名 『文化人類学のレッスン[増補版]』 (学修指導書別冊)

著者名等 奥野 克巳・花淵 馨也

出版社名 学陽書房

■教材の概要

文化人類学は複雑化する現代社会において異文化および自文化を理解するための重要なカギとなる学問である。本書はこのような文化人類学を初めて学ぶ人のための教材である。内容は、はじめにフィールドワークの手法による方法論とこの文化人類学の形成について論述している。そして文化人類学が注目する民族や国家、家族や親族、ジェンダーなど、人間社会の各諸相や経済活動について考察する章が続く。後半では儀礼や宗教及び文化やアイデンティティのあり方や現代的問題であるグローバル化についても言及し、文化人類学が取り組んできた人間社会への多角的な分析とさまざまな問題へアプローチの方法について考えていくことができる。本書を教材として、文化人類学が捉えようとしている事象とその方法の一端を学んで欲しい。

■学修計画のポイント

ページ 1 ～ 130

まずは文化人類学の研究を振り返り、その成立の状況から、この学問がいかなる方法によって研究されて来たか考え、その重要なポイントであるフィールドワークの重要性を把握する。研究の対照となる人間を分類する概念である国家や民族について考察する。また、人間の基本的な社会構造としての家族や親族の様相についても考察し、社会的動物としての人間の「性」についても改めて考えていきたい。また、人間がおこなう経済活動に関しても、文化人類学的な視点で捉え直していきたい。

ページ 131 ～ 280

人間が行ってきた儀礼について考察し、その行為や目的などについて分析していく。儀礼とかかわりが深い宗教と呪術に関してもその諸相と意味するところを考えていく。人間社会において直面する「死」は宗教が必ず関わってくる、この「死」の文化についても考察を進めていく。また、現在の視点として、「文化」そのものの意味と、文化と深く関わるアイデンティティに関して考察し、グローバル化が進む現代世界での文化人類学が目指す方向やこの学問が問い続ける意味について考えていく。

■学修上の留意点

文化人類学がいかなる学問であるか、その輪郭を感じ取ってもらいたい。文化人類学はフィールドワークが唯一の研究手法であり、このフィールドワークによる文化人類学者の異文化経験を追体験しながら学修するように努めてほしい。また、この文化人類学が対象とする領域は文化のすべての面に及ぶので、それぞれの事項について整理しながら学修すること。不明な用語については教材巻末に索引があるのでそれを利用すること。

■参考文献

- 『文化人類学 15 の理論』（中公新書）綾部恒雄編（中央公論新社）
- 『文化人類学を学ぶ』（有斐閣選書）蒲生正男他編（有斐閣）
- 『文化人類学入門（増補改訂版）』（中公新書）祖父江孝男著（中央公論新社）
- 『フィールドワーク（増訂版）』佐藤郁哉著（新曜社）
- ※『文化人類学の名著 50』綾部恒雄編（平凡社）
- ※『文化人類学と人間』綾部恒雄他著（三五館）
- 『文化人類学 20 の理論』綾部恒雄編（弘文堂）
- ※『人類学的思考の歴史』竹沢尚一郎著（世界思想社）



DISTANCE LEARNING DIVISION, NIHON UNIVERSITY

編集兼発行人 関 正晴 〒102-8005 東京都千代田区九段南4-8-28 日本大学通信教育部